

浅川扇状地遺跡群

MAYUMIDA SITE
檀田遺跡(2)

長野市檀田土地区画整理事業
(仮称) 西友檀田店店舗建設工事
アクロスプラザ長野北建設工事
にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊(本文編)

2004年3月

長野市教育委員会

巻頭図版 1



調査地上空より飯綱方面を望む



C区遺構検出状況

巻頭図版 2



区画地点63区②次面1号住居跡土偶出土状況



区画地点48区2号円形周溝墓
出土の勾玉



区画地点48区1号円形周溝墓ガラス玉出土状況

序

激動の20世紀から21世紀へと移り、人々のものの見方や考え方には大きな変化が生じ、「物の豊かさ」より「心の豊かさ」がいっそう求められる世の中になつてまいりました。このような中で文化財とは、現代に生きる人々の癒しとして見つめ直されるべき、貴重な国民的財産であると考えます。とりわけ埋蔵文化財は、先人たちの文化を今に伝えるだけではなく、現代文化の在り方を問う、必要欠くべからざる資料なのです。

本書で報告しております浅川扇状地道路群・柵田遺跡は、飯綱山を水源とする浅川が形成した扇状地上に立地する、広大な面積を有する浅川扇状地遺跡群に属しており、長野市を代表する集落遺跡のひとつです。長野市柵田土地区画整理事業にともなう区画街路や街区の一部、また大規模店舗などの造成・建設工事に先立ち、記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。

ここに長野市の埋蔵文化財第105集として刊行いたします本書には、このたびの発掘調査によって得られた成果を詳しく掲載しております。連綿と織られてきた人々の歴史のはんの一部にすぎませんが、地域史解明の一助としてお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力、ならびに発掘調査に際して多大なご尽力を賜りました長野市柵田土地区画整理組合の理事長はじめ役員・地権者・事務局の皆様、株式会社エス・エス・ブイおよび大和ハウス工業株式会社長野支店の関係者、該当する工区の施工を請け負われた建設業関係者、発掘作業に携わっていただきました地元発掘作業員の皆様、また報告書刊行に至るまでご支援・ご指導賜りました関係機関・諸氏に厚く御礼申し上げ、本書の上梓をもってご挨拶にかえさせていただきます。

平成16年3月

長野市教育委員会
教育長 立岩 陸秀

例　言

1 本書は、長野県長野市若槻地区的権田地籍における開発事業「長野市権田土地区画整理事業」、およびその事業地内における関連開発事業である「(仮称) 西友権田店店舗建設工事」、「アクロスプラザ長野北建設工事」に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2 本来ならば起因事業ごとに報告書を刊行すべきであるが、遺構および遺構面の連続性を重視し、また、刊行に関わる経費節減を図る目的から、委託者の同意を得て合冊とした。本書の構成は以下のとおりである。

第1分冊（本文編）…本文　　第2分冊（図版編）…実測図図版・写真図版

3 発掘調査事業は、下記委託者と、受託者　長野市長塙田佐（～平成13年11月10日）・鷲澤正一（平成13年11月11日～）との埋蔵文化財発掘調査協定および埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、長野市教育委員会（埋蔵文化財センター担当）が実施した。

起因事業名	略称	委託者名
長野市権田土地区画整理事業	区画地点	長野市権田土地区画整理事業組合 理事長 永原政幸
(仮称) 西友権田店店舗建設工事	西友地点	株式会社エス・エス・ブイ 代表取締役 吉澤良一
アクロスプラザ長野北建設工事	アクロス地点	大和ハウス工業株式会社長野支店 支店長 北野秀男

4 発掘調査地籍は、長野県長野市大字権田181-1番地ほかであり、各開発事業の総面積、埋蔵文化財の保護対象面積は下記のとおりである。

略称	開発事業面積	保護対象面積
区画地点	約229,000m ²	60,297m ²
西友地点	約10,402m ²	全域
アクロス地点	約10,866m ²	全域

5 事業範囲内には「越後田」・「有無」・「櫻町」・「銀治田」などの小字名があるが、遺構の分布は権田地籍全域から確認されていることから、本書では周知の埋蔵文化財包蔵地として登録された「浅川扇状地遺跡群 権田遺跡（長野市 A-035）」として報告をおこなう。

6 本書の編集は矢口・飯島の指導のもと清水が行い、绳文時代中期に関連した部分は山下が担当した。また執筆は、第IV章第1節1項および第IV章第2節を山下・清水が行い、これ以外を清水が行った。

7 発掘調査の実施に際し、事業委託者におかれでは、埋蔵文化財に対して深いご理解をいただき絶大なご協力を賜った。また保護協議、現場および整理作業において多くの方々・関係機関より有益なご指導・ご助言をいただいた。深甚なる謝意を表し、第1分冊第I章第3節にて明記している。

8 本書では確認されたすべての遺構・遺物について資料化の義務を果たせなかつたが、できるかぎり追認できるよう、諸資料は長野市教育委員会埋蔵文化財センターにそのまま保管してある。なお、出土遺物の注記記号は、区画地点はカタカナで「マユミダ」、西友地点とアクロス地点はそれぞれアルファベットで「AMSM」、「AMAP」と表記してある。

凡 例

本書では、調査によって確認された遺構・遺物について、その基本的資料を提示することに主眼を置いた。資料掲載の要領は下記のとおりである。

- 1 地図等に記載した方位は真北、また実測図等に掲載した方位は、全て座標北を表している。調査地における座標北からの真北方向角は約 $0^{\circ} 9' 56''$ であり、また磁北は真北より西へ約 $6^{\circ} 40'$ の偏差がある。
- 2 基準点測量および遺構測量は、平面直角座標系（国家座標、旧日本測定系）の第Ⅶ区（東経 $138^{\circ} 30' 00''$ 、北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ ）の座標値と日本水準原点の標高を基準とし、株式会社写真測図研究所の開発した遺跡調査支援システム「ATS」のうち、光波測距儀を用いた「コーディック・システム」を援用するため同所に委託した。
- 3 検出した遺構の略記号については、下記のとおりとした。
SA…竪穴住居、SB…掘立柱建物、SH…槽・杭列、SK…土坑、SP…小穴、SC…環状溝
SJ…土器棺墓・土坑墓、SDZ…周溝墓、SR…埋甕、SN…環状列石、SD…溝・河川
SE…井戸、SU…地層の落ち込み、SX…性格不明遺構
- 4 遺構実測図は現場にて $1/20$ の縮尺で基本原図を作成し、種別ごとに下記の縮尺で掲載した。
SA・SB・SD・SDZ（全体）・SH・SX… $1/100$
SE… $1/50$
SK…任意
SDZ（主体部）・SJ（土器棺墓を除く）・SP… $1/30$
SJ（土器棺墓）・SR… $1/20$
- 5 遺物実測図は原寸で原図を作成し、種別ごとに下記の縮尺で掲載した。
土器　　土器… $1/4$ 、断面実測… $1/3$
石製品　　石鎚・石錐… $2/3$ 、刃器・石斧・石鎚・石庖丁・砥石… $1/3$ 、
石匙・石核・原石・紡錘車… $1/2$ 、截石・多孔石・四石・石皿・石棒… $1/6$ 、
土製品　　1/ 2
装身具　　玉・耳環… $1/1$ 、鋼・垂飾… $1/2$
- 6 写真図版の遺構・遺物の写真是、任意の縮尺である。
- 7 実測図において主に用いた網掛けはそれぞれ以下の意味を示す。またこれ以外のものについては適宜図中に明示した。

遺構実測図 …被熱（強）

…被熱（弱）・焼土

…炭

遺物実測図 …須恵器（断面）

…赤彩

…黒色処理

第1分冊（本文編）目次

本文目次

第Ⅰ章 調査の概要.....	1	第3節 植田遺跡の既往調査.....	11
第1節 調査に至る経過.....	1	第Ⅲ章 調査成果.....	13
第2節 調査の経過.....	3	第1節 遺構分布の概要.....	13
第3節 調査体制.....	7	第2節 遺構と遺物.....	14
第Ⅱ章 遺跡の概要.....	9	第Ⅳ章 まとめ.....	113
第1節 植田遺跡の位置と地形.....	9	第1節 集落の変遷.....	113
第2節 浅川扇状地上の周辺遺跡.....	9	第2節 純文時代中期前半の土器について.....	121

巻頭図版目次

巻頭図版 1

調査地上空より飯綱方面を望む、C区遺構検出状況

巻頭図版 2

区画地點63区②次面1号住居跡偶出土状況、区画地點48区2号円形周溝墓出土の勾玉、区画地點48区1号円形周溝墓ガラス玉出土状況

挿図目次

図1 調査地の位置.....	2	図14 1次面遺構配置図（部分④）.....	24
図2 区画整理事業の計画と試掘調査.....	2	図15 1次面遺構配置図（部分⑤）.....	27
図3 調査区の位置.....	4	図16 1次面遺構配置図（部分⑥）.....	30
図4 植田遺跡の位置.....	10	図17 1次面遺構配置図（部分⑦）.....	32
図5 植田遺跡周辺の地形と主要道路.....	10	図18 2次面遺構配置図（部分①）.....	34
図6 植田遺跡周辺の小字名.....	12	図19 2次面遺構配置図（部分②）.....	35
図7 植田遺跡第1次調査地点の遺構配置.....	12	図20 純文時代中期の主要遺構配置.....	113
図8 調査地周辺の旧地形と主要遺構分布.....	13	図21 弥生時代中期の主要遺構配置.....	114
図9 1次面遺構配置図（全体）.....	15	図22 弥生時代後期の主要遺構配置.....	116
図10 2次面遺構配置図（全体）.....	17	図23 古墳時代前期～中期の主要遺構配置.....	117
図11 1次面遺構配置図（部分①）.....	18	図24 古墳時代後期の主要遺構配置.....	118
図12 1次面遺構配置図（部分②）.....	20	図25 平安時代～中世の主要遺構配置.....	120
図13 1次面遺構配置図（部分③）.....	22		

写真目次

写真1 調査地周辺の航空写真.....

表目次

表1 調査の流れ.....	5	表6 土製品観察表.....	106
表2 作業内容と調査体制.....	7	表7 装飾品観察表.....	108
表3 遺構観察表.....	37	表8 石製品組成表.....	110
表4 土器観察表.....	61	表9 純文時代中期前半の土器分類.....	122
表5 石製品観察表.....	104	表10 編年表.....	123

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

1 区画地点

長野市役所都市開発部区画整理課は、長野市大字檀田に「長野市檀田土地区画整理事業」を計画した。この計画の総事業面積は約229,000m²におよぶ大規模なものであり、事業の一部には都市計画課に関連する「都市計画道路北部幹線建設事業」を含んでいる。事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である浅川扇状地遺跡群（遺跡番号：A-①）の範囲内に所在しており、長野市教育委員会では平成6年5月19・20日に周辺の踏査を行い遺物の散布状況を調査した。この結果、ほぼ全域から土器片等の遺物が採取され、事業予定地内の広範囲に埋蔵文化財の包蔵が予想された。さらに詳細な包蔵状況を把握するために翌年3月15・16日に試掘調査を行い（図2）、15ヶ所設定した試掘坑のうちの9ヶ所から遺物包含層を確認し、A～Dの埋蔵文化財包蔵地の存在を推定した。そして遺跡範囲Aと遺跡範囲Cについては、それぞれが近接する檀田遺跡第1次調査地点と神楽橋遺跡との関連性を考えた。以上の事前調査から、当該開発事業において工事に先立つ記録保存を目的とした発掘調査の必要性が確認されるに至り、埋蔵文化財発掘調査委託契約書を長野市檀田土地区画整理事業組合理事長 永原政幸と長野市長 塚田佐との間で締結して平成10年3月2日より発掘調査を開始した。

2 西友地点・アクロス地点

株式会社エス・エス・ブイ（以下、SSVと表記）が区画整理事業地内に「（仮称）西友檀田店店舗建設工事」を



写真1 調査地周辺の航空写真

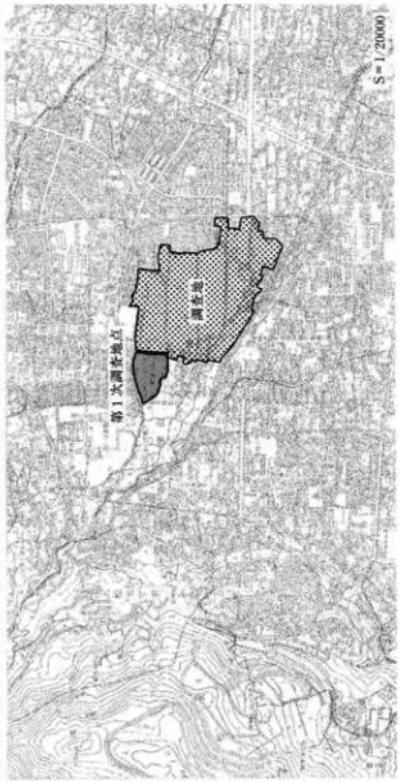


図1 調査地の位置
 $S=1/20000$



図2 区画整理事業の計画と試掘調査
 $S=1/5000$

計画し、当センターあてに遺跡の有無について照会したのは平成11年6月29日のことである。区画地点の調査所見から事業予定地が遺跡範囲に含まれることは確実であったため、発掘調査が必要である旨を同日回答した。翌年10月に示された最初の事業計画は、区画整理事業地南西部の26街区に西友店舗と駐車場、41街区に専門店3棟および駐車場を建設するものであった。しかし店舗建設予定地の一部で埋蔵文化財への影響が懸念されたことから、開発計画の変更を検討しつつ準備を進めることとなった。平成14年4月に示された新たな事業計画は、西友店舗部分は26街区から41街区の西側へ移動し、駐車場を41街区東側と43街区・44街区東側にそれぞれ造成することで、西友店舗の一部を除いて埋蔵文化財への影響を最小限に抑えたものに変更された。またこれに併せて26街区の開発事業者が大和ハウス工業株式会社（以下大和ハウスと表記）へ変更になり、複数の専門店が計画される「アクロスプラザ長野北建設工事」として別途協議することとなった。その後41街区および43街区を囲繞する区画街路が旧地表面よりも低く計画・施工されており、これと同じ高さで駐車場を造成した場合に埋蔵文化財への影響が懸念される事態が明るみとなった。したがって西友地点の発掘調査対象が41・43街区のほぼ全域に拡がることとなった。新たに大和ハウスが開発主体者となった26街区は、駐車場予定地における埋蔵文化財の包蔵面が囲繞する区画街路の道路面よりも低いことが予想されたため、発掘調査は影響がおよぶ専門店店舗部分に対して実施されることとなった。

発掘調査費用は各々の店舗部分を株式会社エス・エス・ケイ（SSVの開発部が独立、以下SSKと表記）と大和ハウスが100%、西友地点の駐車場部分を組合とSSKが50%ずつ負担し、開発事業を実施する組合がこれをとりまとめることとなった。また契約は組合に一本化せずに個々の開発事業者と行うこととなった。しかしながらこの内容について大和ハウスからは諸般の事情により同意が得られなかつたため、急きょ今回の保護協議からは除外され、西友地点について長野市檀土地区区画整理事業組合理事長永原政幸および株式会社エス・エス・ブイ代表取締役吉澤良一と長野市長鷲澤正一との間に埋蔵文化財発掘調査委託契約書が締結され、平成15年2月4日から発掘調査が開始された。別事業となった26街区のアクロスプラザについてはその後協議が続けられ、大和ハウス工業株式会社長野支店支店長北野秀男と長野市長鷲澤正一の間に埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、平成15年4月21日より発掘調査を開始した。

第2節 調査の経過

区画地点の調査は、工事工程との調整を図りつつ狭長な街路部分を便宜的に細分して行われた。着手順にアラビア数字を冠して平成9年度に1・2区、平成10年度に3～46区、平成11年度に47～61区、平成12年度に62～73区の調査を実施している。平成13年度以降は地権者側の事情によりこれまで継続的に実施してきた発掘調査も中断せざるを得ず、平成13年度に74・75区、平成14年度に76～79区と支障が解消された部分のみを個別に調査した。75区は本来調査対象外であった街区部分にあるが、一部切土造成の範囲において遺構面の露出を確認したため急遽発掘調査を実施したものである。膨大な工事発注面積に対して調査の遅れはしばしば生じたが、作業員の増員や遺構の有無を確認する事前調査の実施などの措置を講じて調査の効率化、迅速化に努めた。調査では貴重な遺構・遺物の発見が相次ぎ、特に48区における鉄剣・銅鏡が同時に装着された人物が葬られた円形周溝墓の検出や、63区における長野市内最大の土偶の出土のニュースは各メディアを通じて発信され、地元を含めた多くの市民の関心を呼んだ。

西友地点の調査は3ヶ所設定した調査区にアルファベットを冠して、41街区をA区・B区、43街区をC区とし、平成14年度にA・B区1次面、平成15年度に同2次面およびC区の調査を実施した。41街区は上記の事情からSSKが単独で費用負担するA区とSSKと組合が折半して費用負担するB区に分割されているが、実質的には同一の

調査区として調査を行っている。西友地点は区画整理事業にともなう周辺街路の調査から遺構密度の高い区域と推定されていたが、調査では予想を上回る多くの遺構が検出され、アクロス地点の調査開始も重なって作業員の不足が生じることとなった。平成15年度には作業員の増員を行ってこれに対処したが、その検出遺構の多さから当初の予定よりも若干調査期間を延長せざるを得ない状況が生じた。

アクロス地点は2ヶ所設定した調査区に、西友地点に続くアルファベットを冠して西側をD区、東側をE区として調査を実施した。発掘調査開始時期が当初予定よりも大幅にずれ込んだが、西友地点とあわせて作業員の増員を行い、ほぼ当初の予定通り調査を終了した。

表1には各調査区の調査実施期間を示した。表中の調査面数と第Ⅲ章の遺構配置図中の調査面数が異なる調査区は、2次面以下の調査で明瞭な遺構が検出されなかった場所である。・



図3 調査区の位置

表1 調査の流れ

— 1次面 ————— 2次面 ——— 3次面

	平成10年度											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1区	■											
2区	■	■										
3区		■	■									
4区		■	■									
5区				■								
6区			■	■								
7区				■								
8区					■							
9区						■						
10区						■						
11区							■					
12区							■	■				
13区								■	■	■		
14区								■	■	■		
15区								■				
16区							■	■				
17区							■	■				
18区							■	■	■			
19区							■	■	■			
20区							■	■	■			
21区								■	■			
22区									■			
23区									■	■		
24区									■	■		
25区									■	■		
26区									■	■		
27区									■	■	■	
28区									■	■		
29区									■	■		
30区									■	■		
31区									■	■		
32区									■	■		
33区									■	■	■	
34区									■	■	■	
35区									■	■		
36区									■	■		
37区									■	■		
38区									■	■		
39区									■	■		
40区									■	■		
41区										■	■	
42区										■	■	
43区										■	■	
44区										■		
45区											■	
46区											■	

	平成11年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
47区	■											
48区	■	■										
49区		■										
50区		■	■									
51区		■	■									
52区			■	■	■	■	■	■	■			
53区					■	■	■	■	■	■	■	■
54区						■	■	■				
55区						■	■	■	■			
56区							■	■	■	■	■	■
57区							■	■	■	■	■	■
58区								■	■	■	■	■
59区									■			
60区									■	■	■	■
61区									■	■	■	■
	平成12年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
62区	■											
63区	■	■										
64区		■	■									
65区		■	■									
66区				■	■							
67区				■	■							
68区				■								
69区				■	■							
70区				■	■							
71区					■	■						
72区						■						
73区							■					
	平成13年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
74区						■						
75区						■	■					
	平成14年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
76区		■										
77区		■										
78区		■										
79区				■								
AB区									■	■	■	■
	平成15年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
AB区												
C区				■	■							
D区		■	■									
E区		■	■									

第3節 調査体制

すべての調査は長野市教育委員会（長野市埋蔵文化財センター）の直轄事業として実施した。発掘調査は飯島が担当し、区画地点を山田・小野・荒木・小林（ま）、西友地点を清水・長瀬・山野井、アクロス地点を山下が補助した。整理調査は飯島・小野・清水・山下が担当し、各調査員・作業員が作業を分担した。各年度における事業内容および調査体制は表2のとおりである。

表2 作業内容と調査体制

	年度	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	
事業内容	区画地点	発掘	発掘	発掘	発掘	発掘	発掘・整理	整理	整理	
	西友地点						発掘	発掘・整理	整理	
	アクロス地点							発掘・整理	整理	
統括	教育長	滝沢忠男	久保 健	久保 健	久保 健	久保 健	立岩睦秀	立岩睦秀	立岩睦秀	
	所長	丸田修三	小林重夫	中島昌之	磯野久夫	磯野久夫	磯野久夫	磯野久夫	矢口忠良	
	所長補佐	小林重夫 矢口忠良	宮澤秀幸	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	
庶務係	係長	小林重夫	宮澤秀幸	北村実寛	北村実寛	北村実寛	山岸恒雄	山岸恒雄	山岸恒雄	
	職員	青木厚子	青木厚子	青木厚子	青木厚子	青木厚子	吉村久江	吉村久江	吉村久江	
	係長	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	矢口忠良	千野 浩	青木和明	青木和明	
	主査	千野 浩	飯島哲也	飯島哲也	飯島哲也					
	主事	飯島哲也 風間栄一 小林和子	飯島哲也 風間栄一 小林和子	飯島哲也 風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	風間栄一 小林和子	
	専門主事	清水 武	荒木 宏	荒木 宏	荒木 宏	荒木 宏				
調査係	専門員	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	中殿章子 山田美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 小林まゆ佳 清水竜太	西澤眞弓 北村美弥子 西澤眞弓 小野由美子 堀内健次 藤田隆之 宮川明美 清水竜太	小野由美子 堀内健次 宮川明美 清水竜太 内山 梓 山下大輔 遠藤恵実子 長瀬 出 山野井智子 藤原崇志	小野由美子 堀内健次 宮川明美 清水竜太 内山 梓 山下大輔 遠藤恵実子 長瀬 出 山野井智子 藤原崇志	堀内健次 清水竜太 遠藤恵実子 長瀬 出 山野井智子 石丸敦史 小出泰弘 森田利枝 宮沢浩司 山岸千晃

調査指導

元 信州大学医学部第2解剖学教室 西澤 寿見
長野県立歴史館考古資料課専門主事 締田 弘実
長野県埋蔵文化財センター調査部長 小林 秀夫
長野県埋蔵文化財センター調査課長 土屋 積
調査研究員 青木 一男・西山 克己・賛田 明・臼居 直之
寺内 隆夫・黒岩 隆・町田 勝則
飯山市立第一中学校教頭 宮下 健司

遺物保存処理

長野県立歴史館考古資料課保存処理班 白澤 勝彦

石材鑑定

長野市立茶臼山自然史館学芸員 畠山 幸司

調査補助員

井上一也、太田岳志、佐藤信孝、藤木潤、清地良太、妻方尚也、松田 刚（以上、専修大学生）、古田聰美（駒沢大学生）、保科高志（高知大学生）、大井麻子、小林園美、小林千恵、山上恵美（以上、長野商業高校郷土班）、秋山鐵絵、紫野愛華、染野幸治、竹内恵理、中村浩子（以上、長野商業高校考古学同好会）、近藤由美子、竹本友美（鶴見大学生）、向山純子、清水武

発掘作業員

青木正次、荒木保、池田賢二、市野川峰子、一色茂喜、今村辰造、岩崎利子、上野文子、内山弘子、内山善徳、大嶽静子、岡本輝江、小畠安市、笠井旭好、風間章雄、風間政道、金子宣夫、金子ユキ、柄澤みよ子、柄澤ヨリ子、北原京子、北村宣之、倉澤昭光、倉島邦子、古岩井雅彦、神頭昭夫、神頭和賀子、小林明、小林紀代美、小林三郎、小宮山武男、小宮山盛雄、坂本昇、佐藤ひで子、佐藤幸子、浜沢幸治、鈴木友江、田井中志保子、高木英子、武内祐之、多城恵子、玉井清子、寺沢良治、伝田忠志、富永亮、中川敏明、中澤秀子、中村恭子、中村忠彦、名取正秋、成田孜子、成田とよみ、橋爪孝次、畠山よしみ、林貞子、原厚二、原田いづみ、原田静子、原汪子、藤本寧子、保坂豊子、松本裕一、丸山武雄、丸山良子、丸山吉司、宮川忠、宮澤けさよ、宮下文一、宮島静美、村越宮子、村田定男、村田政子、村橋寿美男、安武京子、柳沢隆夫、山口悦子、山田茂雄、山本康子、雪入治隆、横田与志子、吉澤きよ江、若林次郎、和田五男、和田萬治

整理調査員

青木善子、池田寛子、小野由美子、多羅沢美恵子、鳥羽徳子、中殿章子、武藤信子、矢口栄子

整理作業員

池田賢二、倉島敬子、小泉ひろ美、清水さゆり、間崎文子、塙田容子、富田景子、西尾千枝、橋爪孝次、三好明子、村松正子

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 檜田遺跡の位置と地形

檜田遺跡が所在する長野市は県の北部に位置する県庁所在地で、長野県の一般的な地図区分では北信地域に属している。市域を地形的にみると、中央には長野盆地が広がり、東西には盆地を画する東部山地・西部山地の山並みが連なっている。長野盆地は長野県北部の千曲川下流域に広がる盆地で、通称「善光寺平」とも呼ばれる。長さ約30km、最大幅約10kmの南西～北東方向に主軸をもつ狭長な紡錘形を呈し、最も幅が広くなる中央部分を長野市が占めている。長野盆地は盆地中央を縱貫して北流する千曲川の氾濫原堆積物や、周囲の山地から流れ出て千曲川に合流する中小河川の扇状地堆積物によって形成された盆地で、大部分が後者により占められている。

檜田遺跡が位置するのは、市域の北西部を占める浅川扇状地の扇尖部左岸である。浅川扇状地は西部山地の北部にそびえる飯縄山（標高1917m）に源を発する浅川が形成した扇状地で、調査地北西の浅川東条付近を扇頂として扇状地面を南東方面に広げ、扇端は南で桜花川扇状地、東で千曲川氾濫原の後背湿地に接している。扇頂～扇尖には隆起した古い扇状地面が開析された谷地形が約2kmにわたってみられ、これを見下ろす檜田遺跡付近では河床との比高差は約5mにおよんでいる。浅川の土砂運搬作用は現在でも活発に行われており、扇端側では新たな扇状地面が発達しつつある。このため、浅川は扇端の吉田付近でJR信越線をまたぐ天井川となっている。檜田遺跡が立地するのは現況標高414～396mの緩傾斜地であり、一帯は果樹園や水田などに利用されていた。

引用・参考文献

長野市誌編さん委員会 1997 『長野市誌』第1巻 自然編

第2節 浅川扇状地上の周辺遺跡

檜田遺跡が立地する浅川扇状地は市内でも有数の遺跡密集地として知られ、その範囲は「浅川扇状地遺跡群」として把握されている。本節では、浅川扇状地遺跡群内の道路および扇状地を見下ろす山上の遺跡を、発掘調査が行われた遺跡を中心に時期を追って概観していきたい。

縄文時代 扇状地上に初めて人類の足跡が認められる時期である。該期は前期前葉（関山式）の牟礼バイパスA地点遺跡（4）、浅川端遺跡（23）を初現として、以後、前期後葉～後期の松ノ木田遺跡（11・12）、後期の吉田古屋敷遺跡（39）、吉田四ツ屋遺跡（40）と継続的に集落が営まれている。松ノ木田遺跡では、第1次調査地点（11）で前期後葉・中期後葉、第2次調査地点（12）で後期の遺構が検出された。前期後葉の竪穴住居からは垂飾品・勾玉などに転用された30点余りの块状耳飾が砥石、垂飾品・管玉の未製品などとともに検出され、本遺跡において块状耳飾を再加工した石製装身具類の生産が行われていたと推測されている。

弥生時代 扇状地上において本格的な開発が始まったと考えられ、縄文時代に比べて遺跡数は増加する。中期後半（栗林式）では本堀遺跡（16）、二ツ宮遺跡（17）、牟礼バイパスD地点遺跡（7）、本村東沖遺跡（27）、浅川端遺跡・徳間本堂原遺跡（18）、吉田古屋敷遺跡で集落が検出された。いずれの遺跡も検出住居数が10軒に満たない小規模集落であるが、徳間本堂原遺跡では竪穴住居とともに4基の礎床木棺墓が集中して検出され、当時の集落構造を良好に示している。後期前葉（吉田式）の遺跡は前後する時期に比べて少ないものの、長野吉田高校グランド遺跡（29）や二ツ宮遺跡で单一時期の集落が良好な状態で検出されている。吉田式土器の標識遺跡として著名な長野吉田高校グランド遺跡では、東北地方の天王山式土器や天王山式土器の要素を取り入れた吉田式土器

が出土したほか、天王山式土器と同じ分布域を持つアメリカ式石器が未製品も含めて5点出土した。該期における数少ない東北地方との交流を示す遺物として注目されよう。後期後半（箱清水式）の集落は神楽橋遺跡（13）・下宇木遺跡（31）・本村東沖遺跡で見つかっている。集落を構成する住居数は増加傾向にあり、本村東沖遺跡第1次調査地点（27）では41軒もの竪穴住居が検出された。本村東沖遺跡では在地土器とともに多くの北陸系土器が出土しており、北陸系土器の流入が本格化する弥生時代末から古墳時代初頭に先んじる共伴事例として評価され

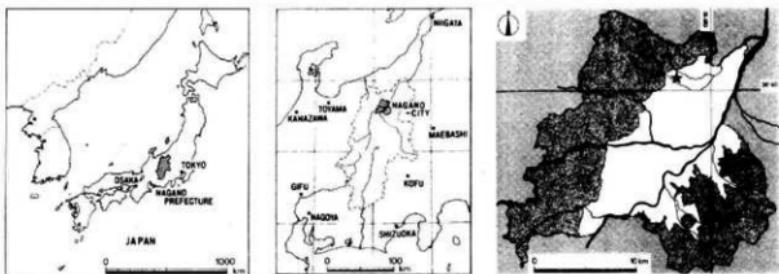
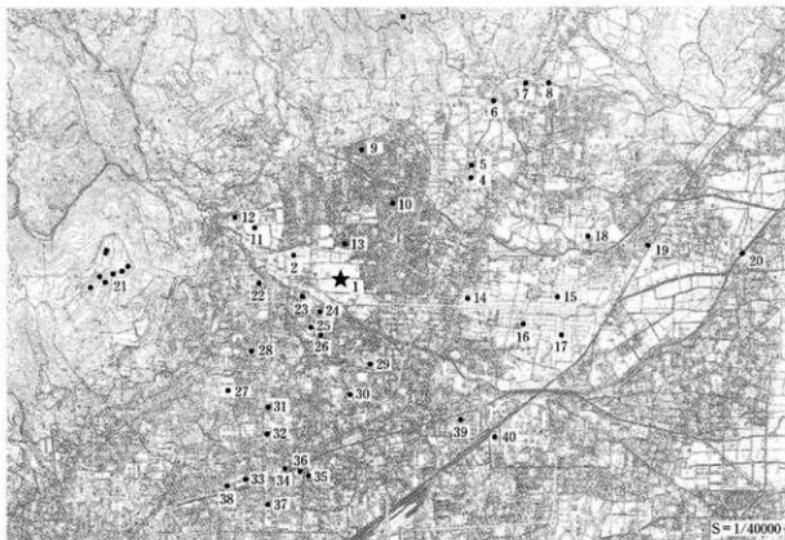


図4 植田遺跡の位置



- 1・2 植田遺跡（★は調査地）、3 若狭山城、4～8 车札バイパスA～E地点道路、9 浅川西条道路、10 若狭里城
 11・12 松ノ木田遺跡、13 神楽橋遺跡、14 稲添遺跡、15 柳田遺跡、16 本堀遺跡、17 二ツ宮遺跡
 18 慶間本堂原遺跡、19 駒沢新町遺跡、20 駒沢城、21 地附山古墳群、22 湯谷東古墳群、23・24 浅川船遺跡
 25 押篠遺跡、26 盛伝寺居館跡、27・28 本村東沖遺跡、29 長野吉田高校グランド遺跡、30 押城、31 下宇木遺跡
 32 相ノ木城、33～38、三輪遺跡、39 吉田古屋敷遺跡、40 吉田四ツ屋遺跡

図5 植田遺跡周辺の地形と主要遺跡

る。また第2次調査地点（28）では、第1次調査地点と同時期の円形周溝墓3基・木棺墓6基・土器棺墓1基から構成される墓域が検出された。副葬品には土器・銅鏡・鉄鏡・鐵錫・管玉・ガラス小玉などが見られる。

古墳時代 德間本堂原遺跡・牟礼バイパスD地点遺跡・本村東沖遺跡・柳田遺跡（15）・吉田四ツ屋遺跡で前期、本村東沖遺跡・ニツ宮遺跡・牟礼バイパスB地点遺跡（5）・浅川端遺跡（24）・三輪遺跡（33～38）で中期、ニツ宮遺跡・吉田古屋敷遺跡・三輪遺跡・牟礼バイパスB地点遺跡で後期の集落が検出されている。中期の本村東沖遺跡は該期の拠点集落であり、石製模造品の製作工房を含む56軒の竪穴住居が検出されたほか、出土遺物には多量の古式須恵器や子持勾玉・土鈴などの特殊な祭祀遺物が認められた。北西の山上に立地し、合掌形石室を内包する古墳群として著名な地附山古墳群（21）の造営期間と存続期間が重複することから、古墳群の築造に直接関わった人々の居住域と考えられている。前期と後期の集落規模はいずれも小さく、詳細な内容は明らかでない。墓は吉田四ツ屋遺跡で前期の前方後方形周溝墓、徳間本堂原遺跡で中期の円墳が検出された。徳間本堂原遺跡の円墳は墳丘が完全に削平された埋没古墳であり、山上に築造される同時期古墳とは明らかに異なる立地である点が注意される。後期に属するものは6世紀末頃構築された湯谷東古墳群（22）が知られる。元は7基の円墳で構成されたが、水田や宅地の造成により多くが煙滅し、現在に残るのは2号墳のみである。調査が行われた1号墳は直径11.5m 横穴式石室を内蔵する土石混合墳であった。前庭部より須恵器が出土したほか、石室内部より武具・馬具・装身具など多数の副葬品が出土している。崩端部に位置する駒沢新町遺跡（19）では中期の祭祀遺構が半径20mほどの範囲内に集中して5ヶ所検出された。中でも1号祭祀遺構は最大の規模をもち、総数500個体を超える多量の土器と共に、900点を数える白玉や石製模造品・鐵錫・ガラス小玉などが出土している。

奈良・平安時代 ニツ宮遺跡・浅川西条遺跡（9）・牟礼バイパスB地点遺跡・同C地点遺跡（6）・同D地点遺跡で集落が検出されている。当地は仏教を積極的に受容してきた地域であったことが窺われ、その痕跡が考古学的に認められる。古くは扇状地の北に位置する吉古墳群3号墳で横穴式石室の奥壁に合掌をする人物が線刻されているほか、遺構として確認されていないが植田・徳間地域では寺に関連した字名の存在や古瓦の出土事例から古代寺院の存在が指摘されている。遺物としても船添遺跡（14）の瓦塔、ニツ宮遺跡の鶴尾片・本堀遺跡・牟礼バイパスC地点遺跡・同D地点遺跡の軒瓦のように仏教関連の遺物が多く出土している。

中世 扇状地を見下ろす山上には三登山の若櫻山城（3）をはじめとして多くの山城が存在し、また、扇状地上には若櫻里城（10）・駒沢城（20）・盛伝寺居館跡（26）・押鐘城（30）・相ノ木城（32）などの城館跡が知られている。発掘調査が実施された駒沢城では、堀と考えられる溝状遺構や柵列・掘立柱建物などが検出されている。

第3節 植田遺跡の既往調査

植田遺跡は北長野ゴルフセンターの建設に先立って平成2年度に実施された試掘調査により発見された遺跡である。この調査では事業地の東半分において遺跡の展開が認められなかったことから、発掘調査は西半分のフェンス支柱埋設部分16ヶ所について行われた（図7）。なお、遺跡名には大字を冠した「浅川扇状地遺跡群 植田遺跡」として報告された。調査の結果、古墳時代中期？溝1条・古墳時代後期竪穴住居2軒・平安時代竪穴住居5軒・時期不明竪穴住居4軒の他に、遺構とともにない縄文時代・弥生時代の土器が検出され、植田遺跡が平安時代を中心として弥生時代から中世まで存続した集落遺跡であることが判明した。また、発掘調査に併せて実施された周辺の分布調査の成果も踏まえて、調査地西方の浅川変電所から若月神社付近を中心に現植田集落付近を東端として展開する遺跡範囲を予想した。

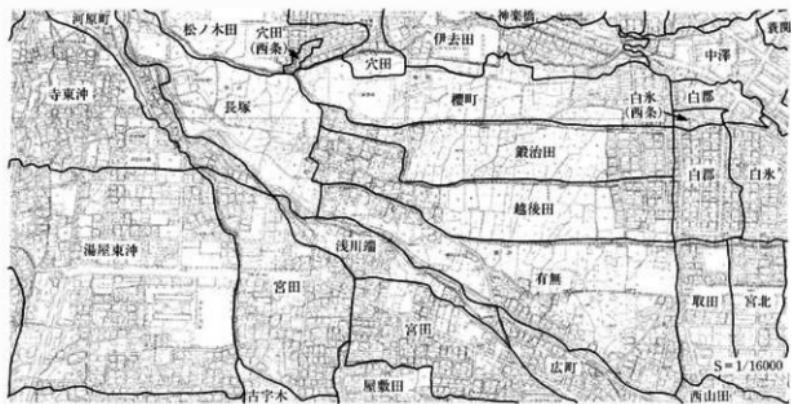


図6 権田遺跡周辺の小字名

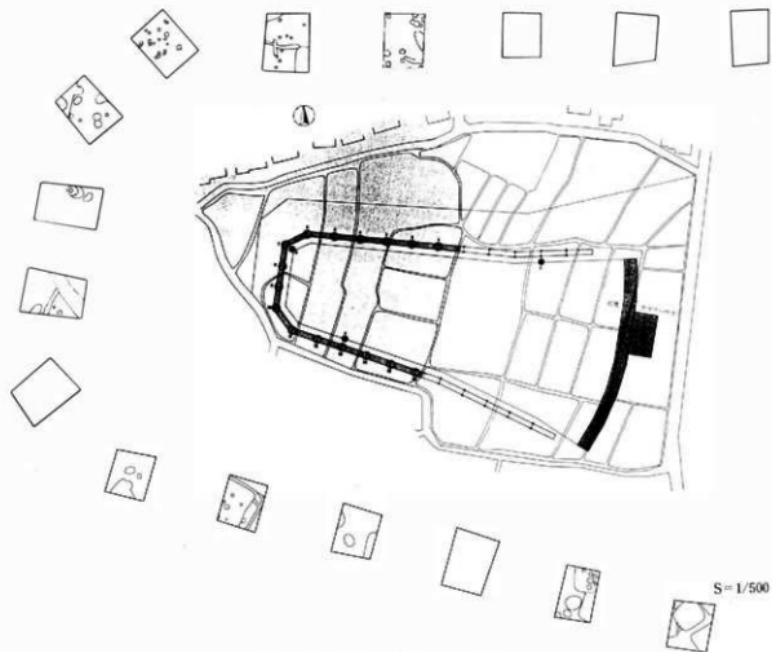


図7 権田遺跡第1次調査地点の構造配置

第Ⅲ章 調査成果

第1節 遺構分布の概要

調査区の配置は起因事情の性格から東西および南北に狭長なトレントを運らせたような状況を呈している。調査面積は、区画地点の調査にともなう6m幅の区画街路部分が主体を占める事業地北側に対して、幅22mの北部幹線部分やこれに面した広い街区内を調査対象とした西友地点・アクロス地点が位置する事業地南側が占める割合が高い。調査では縄文時代から中世までの多数の遺構が検出されたが、遺構遺存状況は上記のような事情から事業地南側の方が概ね良好といえる。

調査地には遺構分布が濃密な区域と希薄な区域が比較的明瞭に観察された。遺構が集中するのは事業地北西に位置する54区と南東に位置する48区を結ぶ線上の調査区と、同じく北西に位置する4区と南東に位置する67区を結ぶ線上の調査区である。一方遺構がほとんど検出されていないのは遺構が集中する区域の北東および南西に位置する調査区である。後者は旧河道流路の範囲と考えられ、調査地のいたるところで地形の落ち込みや土質の変化としてその痕跡が検出された。大正15年測図の周辺地形図にこの旧河道と主要遺構の位置を重ねたものが図8である。これをみると、扇頂部に近い図左上の浅川小学校付近にみられる谷地形と事業地中央の旧河道が連続する位置関係にあり、本来同一地形であったものが調査地付近では測量当時においても視認されないほどに土砂の堆積が進んでいたことが看取される。地形が現在に近い状態になったのは、早くとも旧河道埋土上に遺構が確認される平安時代以降のことと考えられる。それ以前については、中央の旧河道を境とする2ヶ所の遺構集中区域

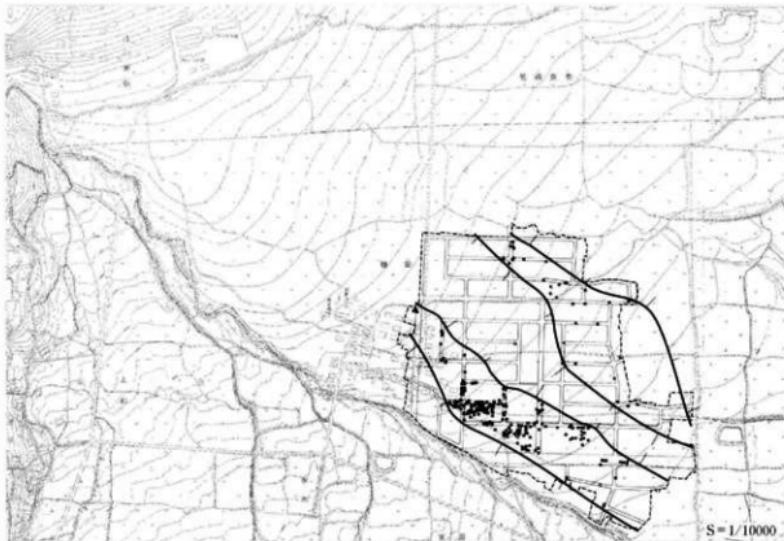


図8 調査地周辺の旧地形と主要遺構分布

において後述するように遺構の内容に差が認められ、窪地状を呈する地形が両者の土地利用を地形的に区画していたと推測される。本書では遺構が集中する区域を旧河道の窪地に対する微高地と認識し、それぞれ北東微高地・南西微高地と呼称することとする。

それぞれの微高地の特色を簡単にまとめると以下のようになる。

北東微高地（3～7・10・18～21・25～32・35～38・64～67・69・74・75区）

遺構の分布は南西微高地と比べて散在的であり、空閑地には上記した河道とは別的小規模な河道が存在していると考えられる。検出された堅穴住居は弥生時代中期・古墳時代中期に比定されるが、多数を占めるのは前者であり、後者は1軒のみの検出にとどまっている。弥生時代後期には円形周溝墓・土器棺墓、古墳時代前期には前方後方形周溝墓・方形周溝墓が構築され、墓域として選地されている。古墳時代後期には若干の遺物の存在が認められるものの、明確な遺構は検出されていない。

南西微高地（23・33・34・42～46・48～57・60～63・70～73・76～79・A～E区）

縄文時代中期から中世までの遺構が多数検出された。第1次調査で検出された集落も同一微高地上にのると考えられる。遺構分布は西寄りのC区を中心とした付近が極めて密で、D区付近の僅かな空閑地を挟んで東寄りでは粗になる。D区付近の空閑地は河道の可能性が考えられており、これを含めて一連の地形として認識することには問題もあるが、その詳細が明らかでないことから大きく一括して把握することとする。南西微高地では2面の検出面が設定された調査区が多く、D区以西では概ね1次面で古墳時代以降、2次面で弥生時代以前を検出し、またD区から東では1次面で弥生時代以降、2次面で縄文時代の遺構を検出した。検出面の比高差はB区東側では30cm、63区東側では60cmと徐々に大きくなるが、48区では下層遺構の存在が部分的なトレンチ調査では認識できないほど大きくなっている。縄文時代中期の埋甕（48●SR1）は1次面の調査終了後に工事業者によって発見されたほどである。南西微高地は各時代における居住域として継続的に選地されていたことが看取されるが、西よりの61区で検出された弥生時代中期の木棺墓群や、東寄りの48区で検出された弥生時代後期の円形周溝墓群のように、一部の時代では墓域としても利用されている。48区についてはD区付近の河道により居住域と地形的に区画されていた可能性が考えられ、北東微高地と同様の選地意識が働いていたといえる。

本遺跡と同様な遺構分布は榎田遺跡の上流側に位置する縄文時代集落である松ノ木田遺跡でも認められている。松ノ木田遺跡では、南西微高地に連続する微高地上に集落形成が行われており、中央の河道と連続する微高地北東側への展開は認められていない。

第2節 遺構と遺物

検出された遺構・遺物を縄文時代中期・弥生時代中期・同後期・古墳時代前期～中期・同後期・平安時代～中世の6時期に分け、遺物についてはさらに所属時期が不明なものも加えて報告を行う。本節では遺構配置図および各種観察表を掲載し、実測図および写真については第2分冊にまとめた。

本書では時期が特定できる出土遺物がある遺構を優先して報告を行うが、遺存状況によっては遺物実測図や遺構写真のみの掲載としたものもある。所属時期が明らかにできなかったピット・土坑・溝などについては全体図上で表現した。出土遺物は遺存状態の良いものを中心に図示したが、特殊な遺物や遺構の時期を示すために必要と判断した遺物については破片資料でも図化を行っている。遺構名は調査時に付されたものを原則的に用いたが、複数調査区にわたって検出された遺構や、整理の過程で性格の変更が必要と判断された遺構については遺構名の統廃合および新たな遺構名の付与を行った。いずれの場合もその変更内容については遺構観察表に記した。

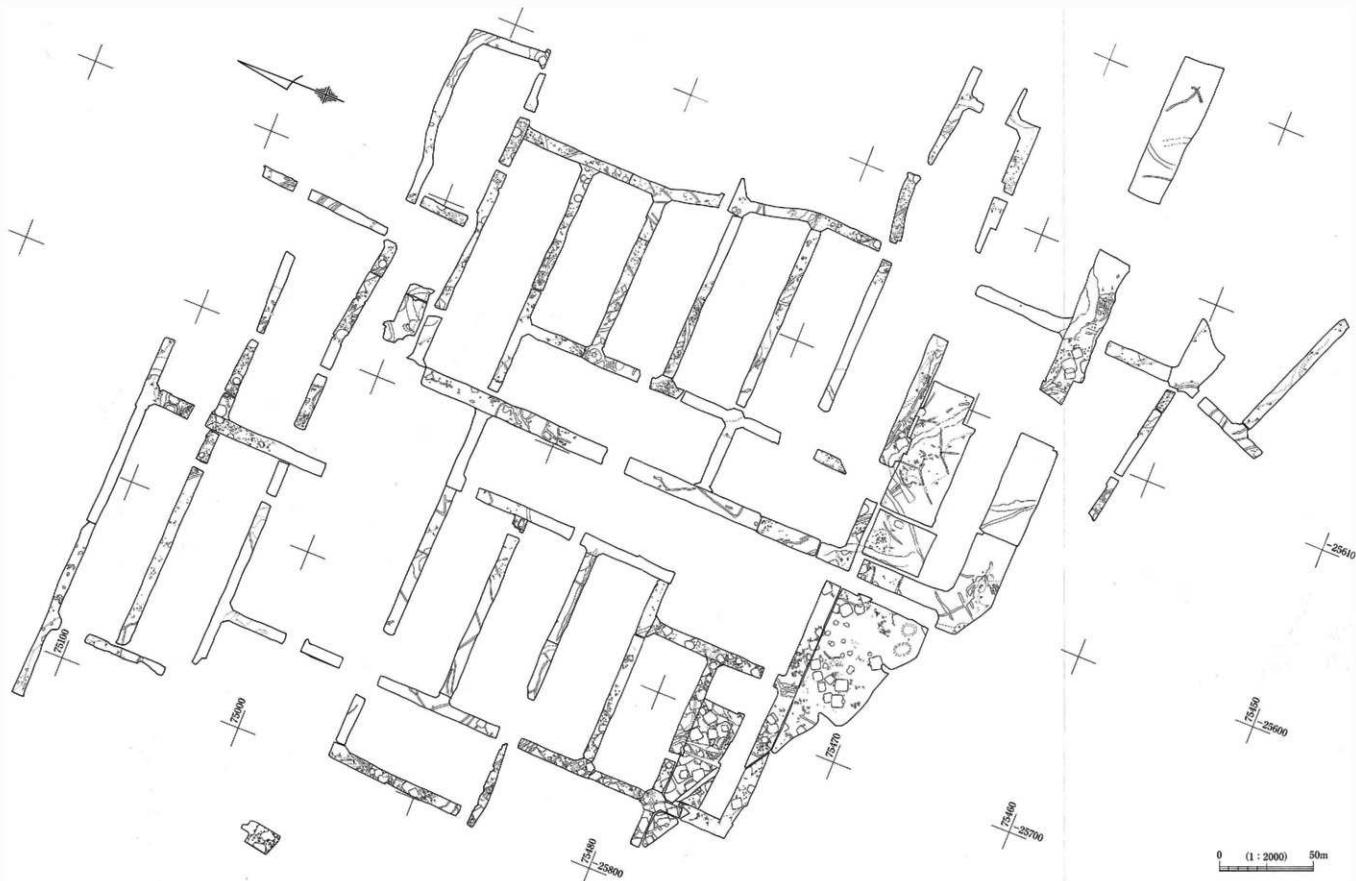


図9 1次面造構配図(全体)

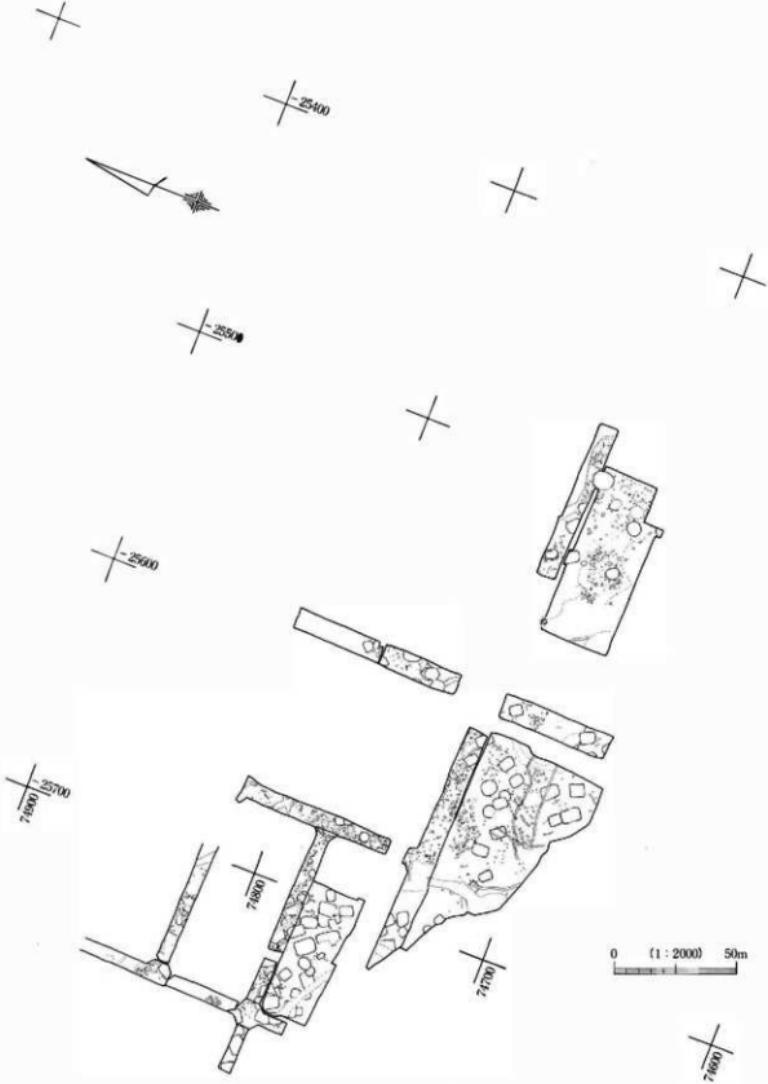


図10 2次面造構配図(全体)

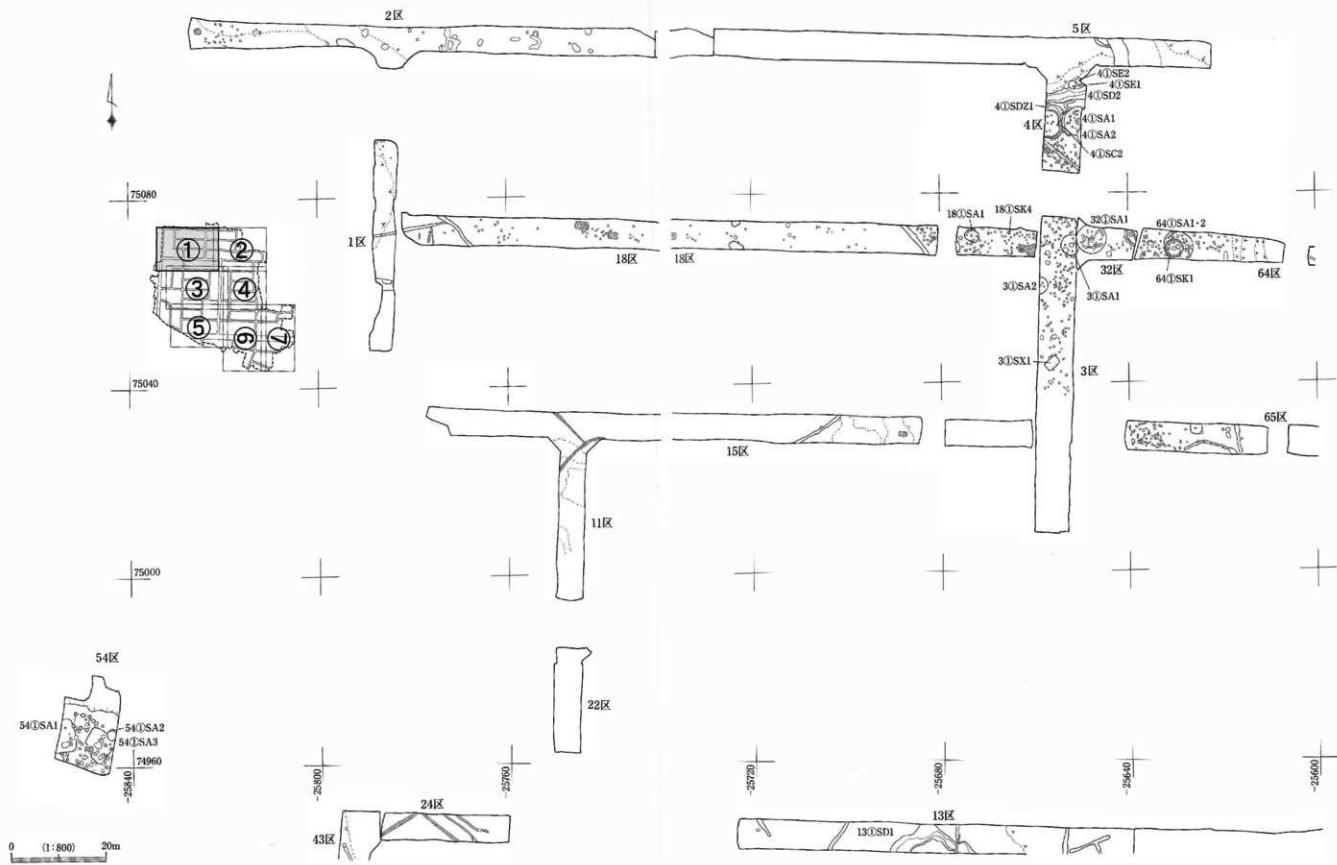


図11 1次面造構配置図(部分①)

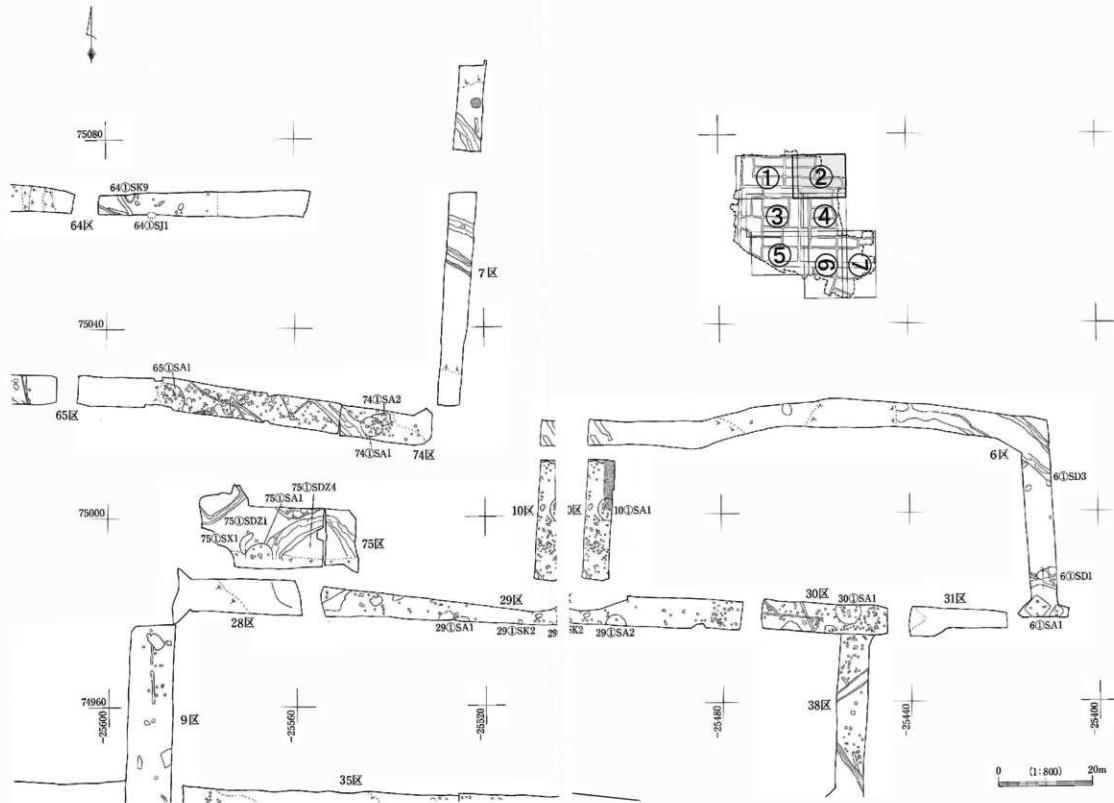


図 12 1 次面造構配置図(部分②)

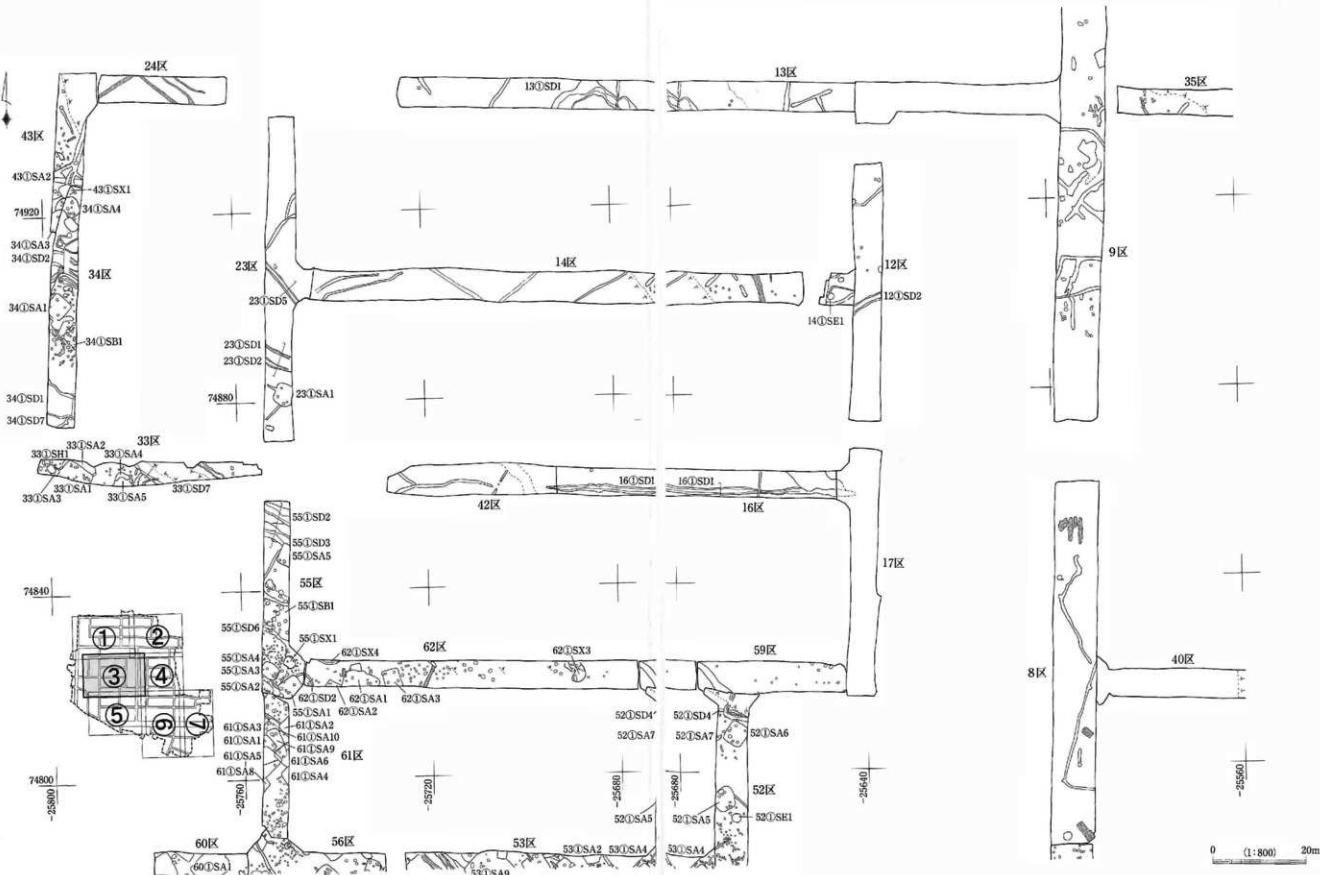


図 13 1 次面造構配置図（部分③）

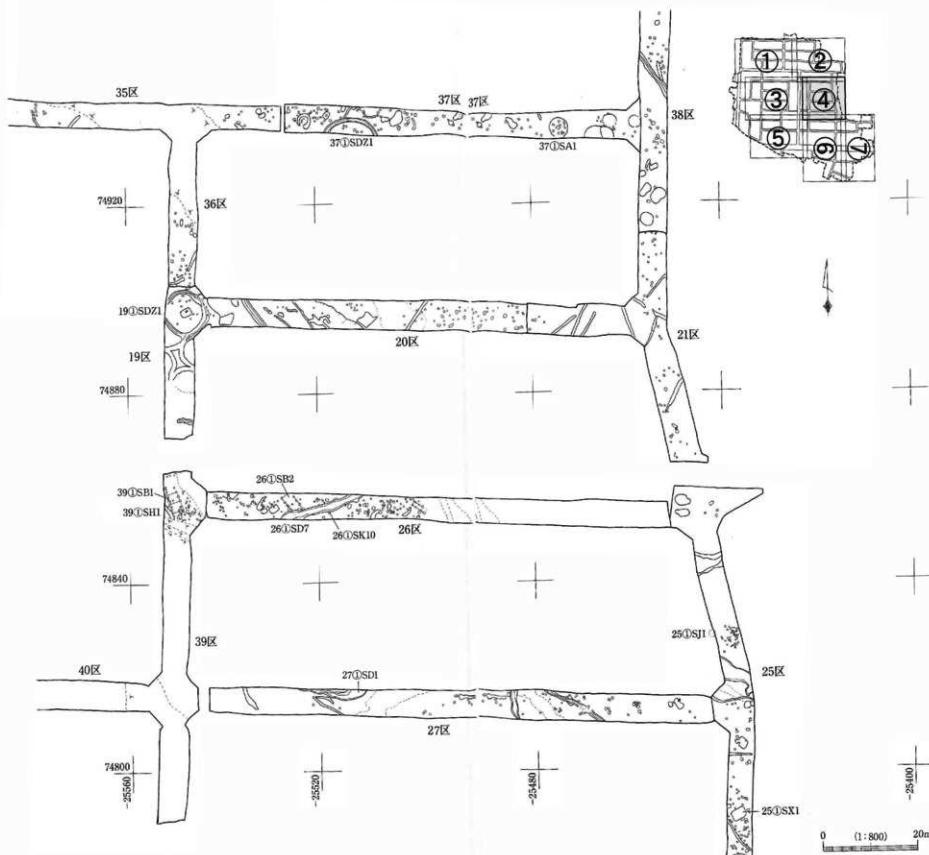


図14 1次面造構配図 (部分③)

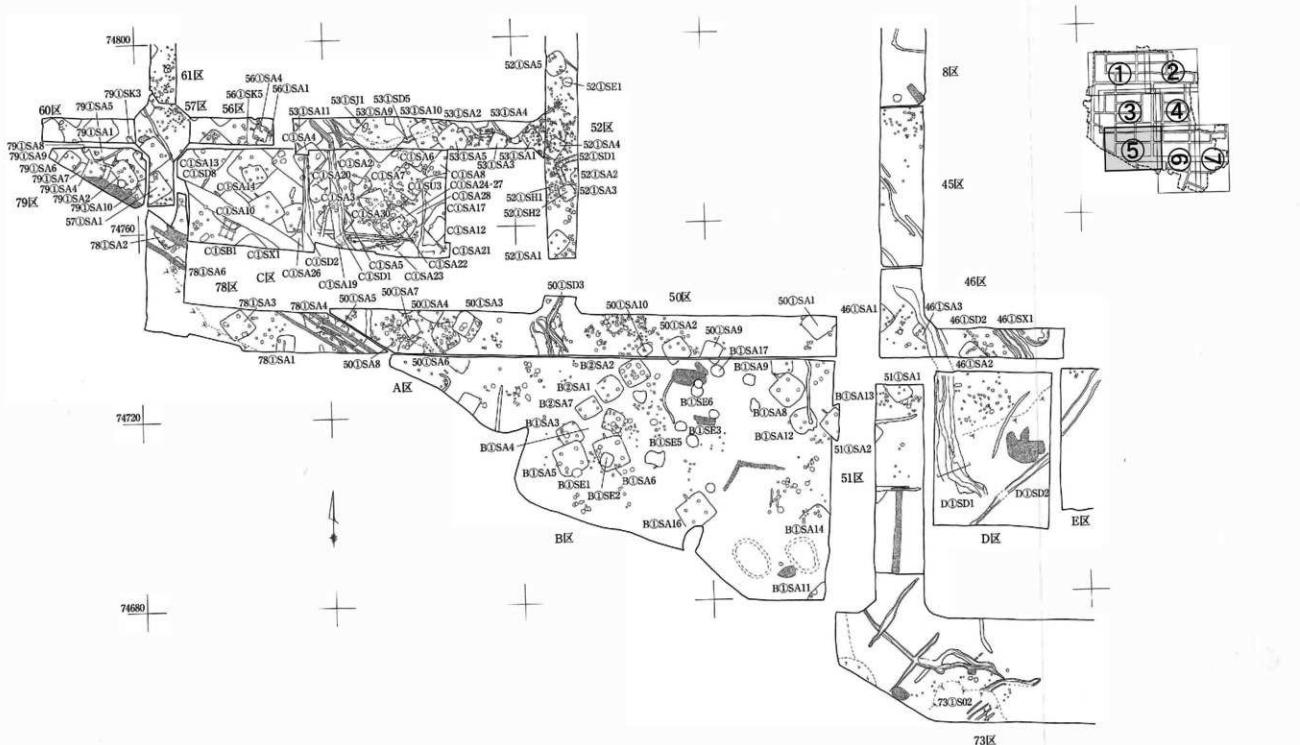


図 15 1 次面連携配置図（部分⑤）

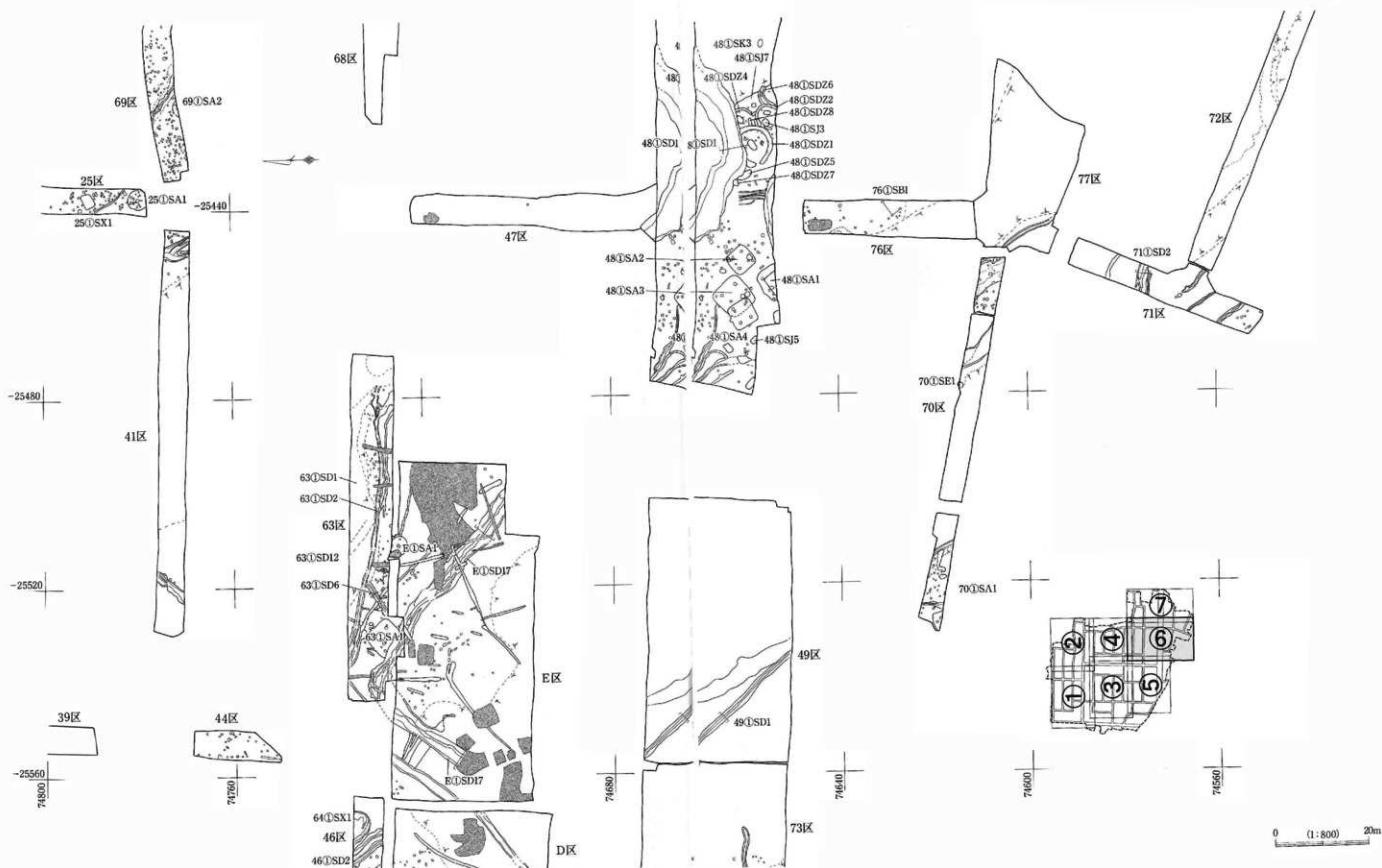


図 16 1 次面連構配図 (部分⑥)

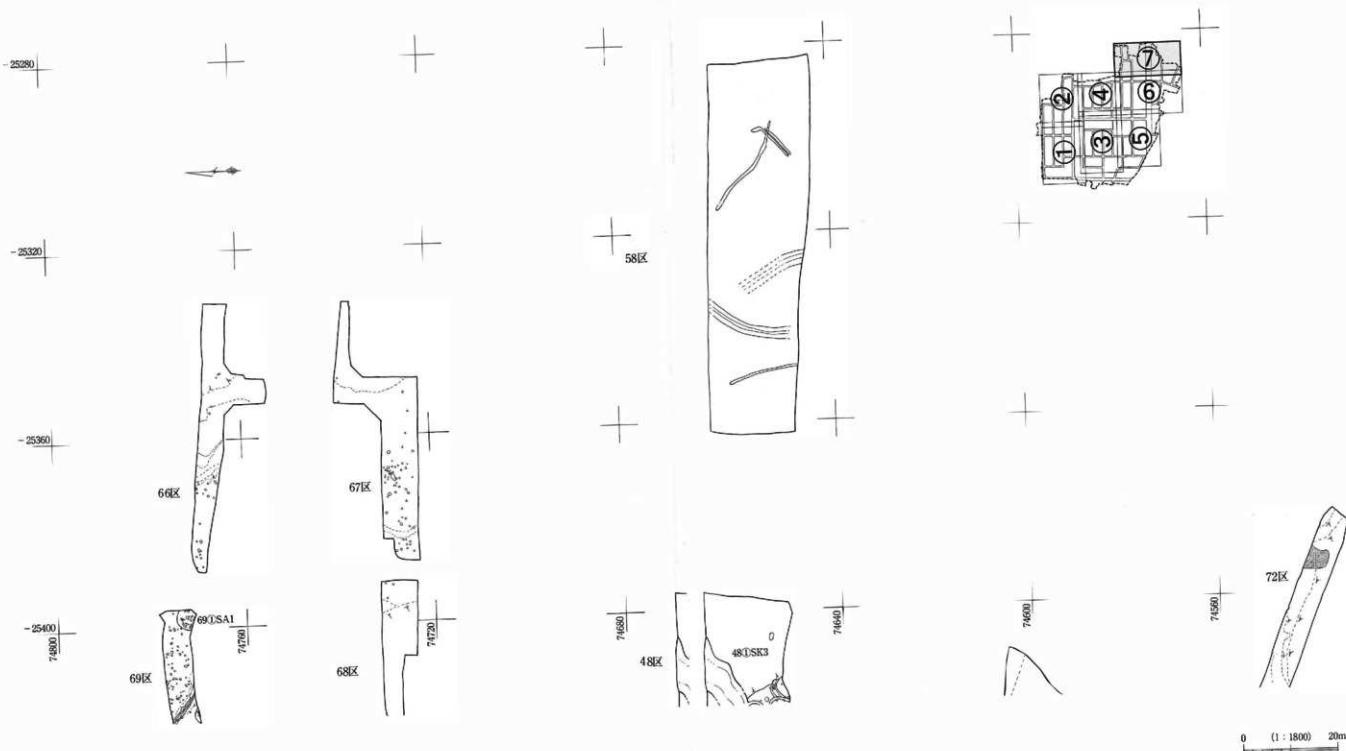
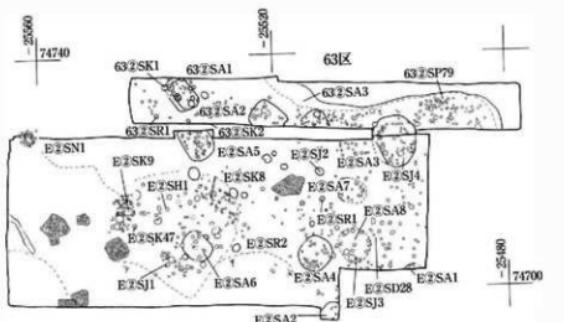


図17 1次面造構配置図(部分⑦)



0 (1 : 1800) 20m

図 18 2次面造構配図(部分①)

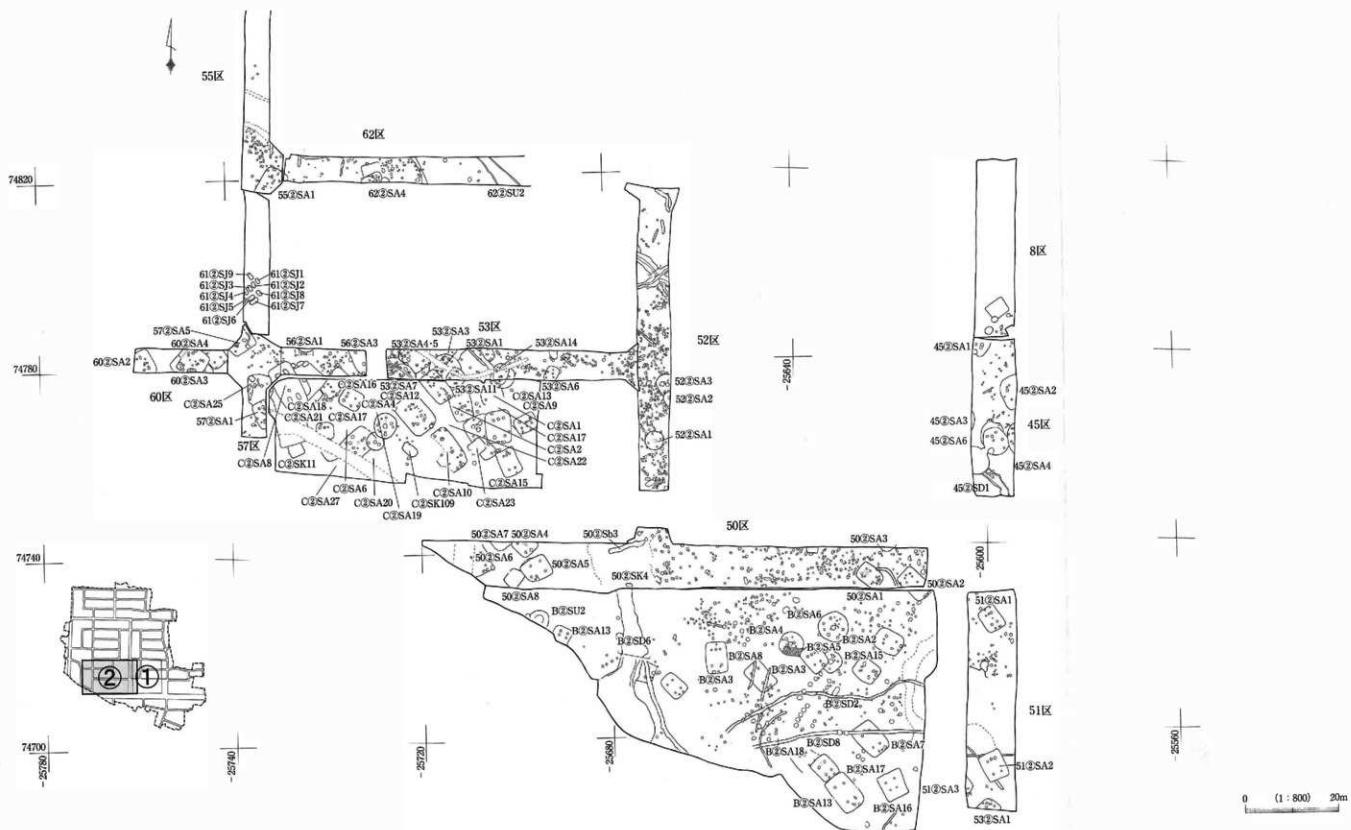


図19 2次面連携配置図(部分②)

表3 造構觀察表

造構名	結合・切り合い 造構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
45②SA1		繩中	?		造構1	造構1		
45②SA2		繩中	方形系	長さ6.70	造構1、土器89	造構1	主柱?(P1~4)	
45②SA3		繩中	?		造構1	造構1		
45②SA4		繩中	?		造構1	造構1		
45②SA5	45②SA4に切られる	繩中	不整梢円形	長径6.16 短径5.22	造構1、石製品117	造構1、石製品36	主柱?(P1~4) 地床炉?	
45②SA6	45②SA5に切られる 45②SB6 から名称変更	繩中	不整梢円形	長径5.25 短径4.98	造構1、土器89	造構1		
45②SA7		繩中	梢円形	長径6.02 短径(5.10)	造構1、土器89、 石製品113~120	造構1、石製品35~ 38	地床炉?	
63②SA1		繩中	隅丸方形	長軸6.20 短軸4.82	造構2、土器89、 石製品121、石製品113	造構1、土器32、土 製品38、石製品35	主柱6本?、地床炉×2 間仕切り溝?	床面より土偶(576)、K7より琥珀玉(未実測)が出土している。
63②SA2		繩中	隅丸方形	長軸5.76 短軸(4.96)	造構2、土器90、 石製品119	造構1、土器32、石 製品37	地床炉?	
63②SA3		繩中	隅丸方形		造構2、石製品 113	造構1、石製品35	地床炉?	
E②SA1		繩中	?		造構2、土器94	造構1		
E②SA2		繩中	円形系		造構2、土器94、 石製品113	造構1、石製品35		
E②SA3	63②SA4と統合	繩中	梢円形	長径8.80 短径7.46	造構3、土器94~98、土 製品121、石製品113~ 114~117	造構2、土器32~33、 土製品58、石製品 35~37	主柱(不明)、地床炉	壁沿いに巡る柱穴のいずれかが主柱穴になると考えられる。
E②SA4		繩中	不整円形	長径5.82 短径5.24	造構4、土器99~101、土 製品121、石製品114~ 115~119~120	造構2、土器33、土 製品38、石製品35~ 37~38、土製品121	主柱(不明)、地床炉、入 口(SK1)	壁沿いに巡る柱穴のいずれかが主柱穴になるとと考えられる。上層より土器が多数出土した。また、中層からは異形 凹石(573)、土偶(577)が集中した。
E②SA5		繩中	隅丸方形	長軸6.40 短軸4.86	造構5、土器101、 石製品113~115~ 117~120	造構2、土器34、石 製品35~37	柱穴、地床炉、貯蔵穴(P 16~26)	貯蔵穴からは多数の黒曜石チップが出土しており、石器製作の可能性がある。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
E ② SA6		縦中	不整格円形	長径5.45 短径4.36	遺構6、土器102、 土製品121、石製品113-115-118-119	遺構3、土器33、土製品38、石製品35~38	地床炉	
E ② SA7		縦中	不整格円形	長径5.08 短径4.00	遺構6、土器103	遺構3	主柱(不明)、埋焼炉	壁沿いに巡る柱穴のいずれかが主柱穴になると考えられる。
E ② SA8		縦中	不整円形	長径5.90 短径5.56	遺構6、土器103、 石製品11 3	遺構3、石製品35	主柱? (P2-3-5-6-8~11)、 土器敷炉	住居の掘り込みは確認できなかったが、柱穴配列より範囲を確認した。
63② SK1		縦中	円形	径0.95	石製品113	石製品35		
63② SK2		縦中	格円形	長径0.68 短径0.51	石製品113	石製品35		
E ② SK8		縦中	格円形	長径0.91 短径0.65	遺構7、石製品115	遺構3、石製品36		
E ② SK9		縦中	円形	径1.3	遺構7、土器103	遺構3、土器33		
E ② SK39		縦中	円形	径0.83	遺構7、石製品113	石製品35		
E ② SK47		縦中	円形	径0.76	遺構7、石製品119-120	石製品37		
63② SP79		縦中	格円形	長径0.51 短径0.39	遺構7、土器90	土器32		
E ② SP28		縦中	円形	径0.49	遺構7、土器103			
E ② SJ1	E ② SK13から名 称変更	縦中	円形	径1.0	遺構8、土器104	遺構3、土器34	壺被葬	浅鉢を遺像に向けて出土しており、その脇には人頭大の壺が二つ添えられていた。壺被で埋葬された土壙墓であると考えられる。
E ② SJ2	E ② SK24から名 称変更	縦中	格円形	長径1.46 短径1.21	遺構8、土器104	遺構3、土器34	壺被葬	浅鉢が出土した箇所が一段高く、被葬者の頸部をのせた可能性も考えられる。壺被葬である蓋然性が高い。
E ② SJ3	E ② SK5から名 称変更 E ② SA8に切ら れる	縦中	円形	径1.25	遺構8、土器105	遺構3、土器34	壺被葬	出土土器は一方の隅でまとまって検出されており、横たえられた遺体の頭部に被せられたものと推測される。
E ② SJ4	E ② SA3-K4から 名称変更 E ② SA3に切ら れる	縦中	不整円形	長径1.11 短径1.02	遺構8、土器105、 石製品116	遺構4、石製品36	壺被葬	一方の隅より浅鉢が人頭大の壺を作り出土しており。壺被葬で埋葬した土壙墓であると推測される。
E ② SN1		縦中			遺構9、土器107	遺構4		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
45② SD1		純中	NW-SE	幅2.1 検出長7.2	土器92			
48② SR1		純中			土器91	遺構4、土器32		調査終了後の工事に伴って検出されたため、2次面として扱う。正確な検出位置は不明である。
63② SR1	63② SK16から名 称変更	純中	円形	径0.49	遺構8、土器90	遺構4、土器32		有孔鶴付土器が正位で埋納される。埋壺内の埋土は一層のみであり、中から遺物の出土はなかった。
E ② SR1		純中			土器106	遺構4、土器34		
E ② SR2		純中	楕円形	長径0.48 短径0.39	遺構8、土器106	遺構4、土器34		深沢系深鉢土器が正位に埋納される。埋壺内の埋土は一層であり、遺物の出土はなかった。
E ② SX1	E ② SK35から名 称変更	純中		幅0.65	遺構7	遺構3		集石遺構になるか? 石の一部は被熱している。
30① SA1	32① SA2と統合 32① SA1に切ら れる	弥中	円形 (N43° E)	長径4.56 短径4.14	遺構10、土器122	遺構4	主柱3/4(P1~3)、掘込炉、入口施設?(P5)、周溝	
3① SA2		弥中	円形		遺構10、土器 122、石製品142	遺構4、土器39、石 製品42	主柱?(P1~3)、掘込炉、周溝	
4① SA1		弥中	円形	径6.0	遺構10、土器 123、石製品141- 142	遺構4、石製品41- 42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
4① SA2		弥中	円形系		遺構10、土器123			
10① SA1		弥中	円形	径4.56	遺構10、土器 123、石製品141	遺構4、石製品41	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
18① SA1		弥中	小判形 (N51° W)	長軸2.92 短軸2.47	遺構10、土器124	遺構4	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	
25① SA1		弥中	円形 (N22° E)	径4.11	遺構11、土器124	遺構4	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
29① SA1		弥中	円形系		遺構11、土器 124、石製品144	土製品43		
29① SA2		弥中	円形		遺構11、土器124	遺構4	主柱?(P1)、周溝	
30① SA1		弥中	円形		遺構11、土器 124、石製品142- 143	遺構4、石製品41- 42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
32①SA1		弥中	円形	長径6.39 短径6.14	遺構11、土器 124-125、土製品 144、石製品141- ~143、装身具 145	遺構5、土器39、土 製品43、石製品41- 42、装身具43	主柱(不明)、掘込炉、周 溝、床面被熱×3	原石・石核未製品を含む石製品が76点と、頁岩・流紋岩・ チャートを主体とする剥片が約450点出土した。小型打製 石器の製作址である可能性が高い。土製円板の出土も多 い。
33①SA3		弥中	円形系		遺構56		周溝	
34①SA4	43①SA3と統合 34①SA3に切ら れる	弥中	円形	径4.69	遺構11、土器 126、土製品144	遺構5、土製品43	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
37①SA1		弥中	円形	長径3.98 短径3.83	遺構12、土製品 14 4	遺構5、土製品43	主柱6/6(P1~3・5~7)、 掘込炉、周溝	
43①SA2	43①SX1に切ら れる	弥中			遺構12、土器126	遺構5		
50①SA10		弥中	長方形 (N36° E)	長軸2.96 短軸2.06	遺構12、土器 126、石製品142	遺構5、石製品42	掘込炉	
51①SA2		弥中	方形系		遺構12、土器126	遺構5		
52②SA1		弥中	円形 (N70° W)	長径3.90 短径3.71	遺構12、土器 126、石製品141	遺構5、石製品41- 42	主柱4/4(P1~4)、掘込 炉、周溝	
52②SA3	52②SA4と統合 52②SA2に切ら れる	弥中	円形系	径6.68	遺構12、土器 127、石製品141- 143	遺構5、石製品41- 42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
53②SA3	53②SA11、C② SA12、53①SD5に 切られる	弥中	円形系		遺構12、土器 127、石製品141	遺構5	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
53②SA7	53②SX1から名 称変更 C①SA11に切ら れる	弥中	円形系		遺構13、土器127	遺構5	主柱(不明)、周溝	
53②SA11	C②SA3と統合 53①SD5に切ら れる	弥中	円形	長径4.19 短径3.90	遺構13、土器128 ~131、石製品 141~143	遺構5、土器39、石 製品41-42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	焼失住居である。出土土器中に熱を受けて変形・変色を生 じた724を含む。
55①SA2		弥中	方形系		遺構13	遺構5		
55①SA4	55①SA3に切ら れる	弥中	楕円形		遺構13	遺構5	主柱?(P1)、周溝	
62②SA4		弥中	円形系				主柱、周溝	周辺の状況、形態から該期の住居址と判断される。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
64①SA1		弥中	円形	長径6.69 短径6.01	遺構13、土器 131、石製品142、 143、蓑身具145	遺構6、石製品41・ 42、蓑身具43	主柱6／6(P1～6)、掘込 炉、周溝	
64①SA2	64①SA1に切ら れる	弥中	円形	長径3.97 短径3.83	遺構13、石製品 141	遺構6、石製品41	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
65①SA1	65①SU1に切ら れる	弥中	円形		遺構14、石製品 141	遺構6、石製品41	主柱(不明)、掘込炉×2、 周溝	2軒の住居址が重複したのか?
69①SA1		弥中	円形		遺構14、土器 131、石製品141	遺構6、石製品41	主柱(不明)、掘込炉×2、 周溝	
69①SA2		弥中	円形系		遺構14、石製品 141	石製品41	主柱?(P2)、周溝	
74①SA1		弥中	円形	長径4.58 短径3.91	遺構14、土器 131、土製品144、 石製品143	遺構6、土製品43、 石製品42	主柱4／4(P1～4)、掘込 炉、周溝	
74①SA2	74①SA1に切ら れる	弥中	長方形	長軸2.61	遺構14、土器132	遺構6	地床炉?、周溝	
75①SA1		弥中	円形	径5.56	遺構14、土器 132、土製品144	遺構6、土器40、土 製品43	主柱?(P2～4・6)、掘込 炉、周溝	焼失住居で、炭化材が炉を中心に放射状に残存する。未実 測であるが被熱による著しい変形・変色を生じた壺・甕・鉢 各1個程度遺存していた。
B②SA4		弥中	円形	径5.14	遺構15、石製品 143	遺構6、石製品42	主柱(不明)、掘込炉、周 溝	
B②SA5	B②SA3に切ら れる	弥中	円形 (N90° W)	長径4.33 短径4.26	遺構15、土器 133、土製品144、 石製品141	遺構6、石製品41	主柱3／4(P2・3・7)、掘込 炉	
B②SA6		弥中	円形 (S81° E)	長径6.33 短径6.29	遺構15、土器 133、石製品141	遺構6、石製品41	主柱7／7(P1～7)、掘込 炉、周溝	未掲載資料に打製石鏃2点がある。
C②SA13	53②SA9と統合 C①SA14に切ら れる	弥中	円形	長径4.56 短径3.24	遺構15、土器 133、石製品142	遺構6、石製品42	主柱6／6?(P3・6・7・13 ～15)、掘込炉、周溝	
C②SA14	53②SA10と統合	弥中	楕円形	長径5.11 短径3.21	遺構15、土器134	遺構6		
C②SA19		弥中	円形	長径5.31 短径5.03	遺構16、土器 134、石製品141・ 142	遺構6、石製品41・ 42	主柱4／4(P1～4)、掘込 炉、周溝、床面被熱×3	

造構名	結合・切り合い、 造構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
C② SA20	C② SA5と統合 C② SA19に切られる	弥中	円形	長径3.78 短径3.69	造構16. 土器135 487. 一 製品 144. 石製品42. 装身具43	造構6. 土器40. 土 製品43. 石製品42. 装身具43	主柱4/4(P1~4)、掘込 炉	若干の炭化材が認められ、焼失住居の可能性もある。北側の床面より多量の土器が出土しており、この中に熱を受けて変形・変色を生じた土器も含まれる。
C② SA27		弥中	円形系		造構 16. 土 器 137. 土 製品144	土 製品43	周溝	プランは不明瞭である。
E① SA1		弥中	円形	径3.93	造構 16. 土 器 137. 土 製品144	造構6・7. 土器40. 土製品43	主柱4/4(P1~4)、掘込 炉	
18① SK4		弥中	円形	径0.35	土器138	造構7		
26① SK10	26① SD7に切られる	弥中	円形系		土器139	造構7		
29① SK2		弥中	円形系	幅0.54	土器139	造構7		
60① SK3		弥中	不整形円形	短径1.00	造構 17. 土 器 138. 石 製品42	造構7、石製品42		
64① SK1		弥中	円形	径0.34	土器139	造構7		土器片が折り重なるようにして検出された。一括投棄されたのか?
64① SK9		弥中	不整形	幅2.26	石製品143			
C② SK109		弥中	小判形	長軸3.39 短軸1.94	造構17. 土器140			
C② SK111		弥中	方形系	長さ3.06	造構17. 土器140	造構7		
48① SJ5		弥中	長方形	短軸1.12	造構18	造構7		土坑状の造構か?
61② SJ1		弥中	長方形 (N39° W)	長軸1.92 短軸0.87	造構19	造構7	小口穴、疊敷	南東付近から人歯が出土し、南東頭位と判断される。疊敷横断面は浅いU字形を呈する。
61② SJ2		弥中	長方形 (N30° W)	長軸2.05 短軸0.96	造構19	造構7	小口穴、疊敷	南東付近から人歯が出土し、南東頭位と判断される。
61② SJ3	61① SA8に切られる	弥中	長方形 (N34° W)	長軸2.10 短軸0.85	造構20	造構8	小口穴、疊敷	南東付近から人歯が出土し、南東頭位と判断される。61② SA8出土の半球状勾玉(1588)が伴った可能性がある。疊敷横断面は浅いU字形を呈する。
61② SJ4	61① SA8に切られる	弥中	長方形 (N43° W)	短軸0.73	造構20	造構8	小口穴	北東小口付近から人歯が出土し、北東頭位と判断される。弥生時代後期の61② SA8出土の半球状勾玉(1588)が伴った可能性がある。
61② SJ5		弥中	長方形 (N43° E)	短軸0.72	造構20. 装身具 145	造構8. 装身具43	小口穴	南東付近から碧玉製の太形管玉が5点出土している。着裝位置を示すとすれば北東頭位となる。検出面出土の管玉(2662)が伴った可能性が極めて高い。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
61② SJ6		弥中	長方形 (N63° E)	長軸1.86 短軸0.94	遺構21	遺構8	小口穴、礫敷	
61② SJ7		弥中	長方形 (N64° E)	長軸1.83 短軸0.75	遺構21、装身具 145	遺構8、装身具43	小口穴、礫敷	碧玉製の織形管玉が3点出土している。このうちの1点は墓坑のすぐ南側で検出したものである。
61② SJ8		弥中	長方形 (N41° W)	長軸2.02 短軸1.21	遺構22	遺構8	小口穴、礫敷	
61② SJ9	61① SA8に切られる	弥中	長方形 (N40° W)	長軸1.87	遺構22	遺構8	小口穴、礫敷	礫敷の両端は、小口穴埋土の沈下に伴い若干傾斜する。、
6① SD3		弥中	NW-SE	幅2.8 検出長18.0		遺構8		
27① SD1		弥中	W-E	幅1.6 検出長14.0	土器140、石製品 141-143	遺構9、石製品41-42		
73① SU2		弥中				遺構9		
3① SX1	3① SK4を統合	弥中	方形系 (N41° W)	長軸2.82 短軸1.75	遺構17、土器140	遺構9		
25① SX1		弥中	方形系 (N22° W)	長軸2.91 短軸2.22	遺構17、土器140			
43① SX1	34① SA2を統合	弥中	方形	長軸2.68 短軸2.50		遺構9		所属時期は不確定である。
55① SX1		弥中	不整形方形	長軸2.50 短軸2.36		遺構9		
33① SA2	33① SA1に切られる	弥後	縱長方形		遺構23、土器146	遺構9	主柱3/4(P1~3)、地床 炉、周溝	
46① SA1		弥後	方形系		遺構23、土器146	遺構9	主柱1/? (P7)、入口(P2 ~4、P6-9は添柱?)	P4より炭化材が出土する。
46① SA2	46① SD1に切られる	弥後	縱長方形 (N42° W)	短軸3.97	遺構23、土器146	遺構9	主柱2/? (P1-2)、地床 炉	
46① SA3	46① SD1に切られる	弥後	縱長方形		遺構23、土器146	遺構9	主柱1/? (P1)、地床炉	
50① SA7		弥後	方形 (N59° E)	長軸2.98 短軸3.37	遺構23、土器146	遺構9		覆土中から焼土検出される。住居にならない可能性もある。
50② SA1		弥後	縱長方形 (N49° W)	長軸5.44 短軸3.90	遺構24、土器146	遺構9	主柱4/4(P1~4)、入口 (P7~9、P10~12)、地床 炉×2	建て替え、もしくは補修を行っている可能性が高い。P5-6- 13~15は添え柱か?

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
50② SA2	B② SA1と統合	弥後	縦長方形 (N43° W)		遺構24、土器147	遺構9	主柱3／6 ? (P1~3)、棟持柱 ? (P8)、入口(P4~7)、地床炉	
50② SA3		弥後	縦長方形		遺構24、土器147	遺構9	主柱1／? (P1)、入口(P2~4)	焼失住居である。
50② SA4		弥後	方形 (N45° W)	長軸4.43 短軸4.21	遺構24、土器148	遺構10、土器44	主柱2／? (P1~2)、入口? (K1)、地床炉×2	
50② SA6		弥後	方形系		遺構25、土器148	遺構10	主柱3／4 (P1~3)、入口(P5~8)	
50① SK12と統合 50② SA4に切られる	50② SA7	弥後	方形系		遺構25、土器149~152、土製品188	遺構10、土器44、土製品49		焼失住居である。
50② SA8	50② SA5に切られる	弥後	縦長方形 (N51° W)	長軸3.71 短軸3.05	遺構25、土器153	遺構10	主柱(不明)、地床炉	
51① SA1		弥後	縦長方形 (N31° W)	長軸5.11 短軸4.26	遺構25、土器153	遺構10	主柱4／4 (P1~4)、棟持柱(P5)、入口(P6~8)、地床炉、周溝	1次面で一部を調査後、2次面で全体を検出した。全体図では2次面に掲載している。
51② SA1		弥後	縦長方形		遺構 25、土 器 153、土 製品188	遺構10、土製品49	主柱1／? (P4)	
51② SA2		弥後	縦長方形 (N24° W)	長軸6.06 短軸4.78	遺構 26、土 器 154、土 製品188	遺構10、土器44、土製品49	主柱4／4 (P1~4)、入口(P5)、地床炉、周溝	
51② SA3		弥後	方形系			遺構10		
52① SA5		弥後	方形 (N29° W)	長軸4.62 短軸4.42	遺構26、土器154	遺構10	主柱4／4 (P1~5)、入口(P6~8)、地床炉、被熱ビット(P9)、床面被熱×2	
52① SA7		弥後	方形系		遺構26、土器154	遺構10		
52② SA2		弥後	方形系		遺構 26、土 器 154、土 製品188、 石 製品187	遺構10、土製品49、 石製品49	主柱1／? (P1)	
53② SA1	53② SD1に切られる	弥後	縦長方形		遺構26、土器154	遺構10	主柱(不明)入口? (P11~12)、地床炉	
53② SA4	53② SA5に切られる	弥後			遺構27	遺構10		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
53②SA5		弥後	縦長方形 (N36° W)		遺構27、土器155	遺構10	主柱3/4(P1~3)、入口(P6~8)、地床炉	
55①SA3		弥後	楕円形 (N47° W)	長径4.05 短径3.16	遺構27、土器 155、土製品188	遺構10、土製品49	主柱?(P1~2)、入口?(P3~4、P5~7)、地床炉	述べ替えを行った可能性が考えられる。
55②SA1	62②SA5と統合 55①SA1取り上げ遺物を含む	弥後	縦長方形 (N32° E)		遺構27、土器155 ~156、土製品188	遺構11、土製品49	主柱3/4(P1~3)、棟持 柱(P4)、埋土器炉	壇(1083)を造位に埋め、炉体として使用している。
56②SA1		弥後			遺構27、土器156	遺構11		焼失住居である。
56②SA3		弥後	方形系		遺構27、土器156 157、土製品188	遺構11、土器44、 土製品49	主柱1/4(P1)	
57②SA1	C②SA26と統合	弥後	縦長方形	長軸5.85	遺構28、土器157	遺構11	主柱2/4(P1~2)、棟持柱 (P3)、地床炉(炉緑石)、 鍛熱ビット(P5)	
57②SA5		弥後	縦長方形		遺構28、土器 158~159、土製品 188	遺構11、土製品49	主柱2/4(P1~4)、入口 (P5)	
60②SA2	60①SA2取り上げ遺物を含む	弥後	縦長方形		遺構28、土器159	遺構11	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	
60②SA4		弥後	縦長方形	短軸4.1	遺構28、土器160	遺構11	主柱3/4(P1~3)、入口 (P4~6)、地床炉(炉緑 石)	焼失住居の可能性がある。
61①SA4		弥後	方形系		遺構29	遺構11		
61①SA6		弥後	方形系		遺構29、土器 159、装身具188	遺構11、装身具50	主柱2/4(P1~2)、地床炉	
61①SA8		弥後	方形系		遺構29、装身具 18~8	遺構11、装身具50		
62①SA1		弥後	縦長方形 (N73° W)	長軸7.48	遺構29、土器 160、石製品187	遺構11、石製品49	主柱2/4(P1~2)、棟持柱 (P4)、地床炉	
70①SA1		弥後	方形系		遺構29、土器160	遺構11	主柱?(P1)	
78①SA2		弥後	方形系		遺構29、土器161 ~45	遺構12、土器44~ 45		
78①SA6		弥後	縦長方形		遺構30、土器161	遺構12	主柱(P1)、地床炉(炉緑 石)	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
79①SA2		弥後	縱長方形 (N33° W)	長軸6.41 短軸3.73	遺構30、土器 162、石製品187、 装身具188	遺構12、石製品49、 装身具50	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	覆土内に拳～人頭大の川原石が投棄されていた。
79①SA10	79①SA6・10に切 られる	弥後			遺構30	遺構12		
B②SA2		弥後	縱長方形 (N56° W)	長軸6.09 短軸4.78	遺構31、土器 163・164、土製品 188、装身具188	遺構12、土器45、 土製品49、装身具 50	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~6)、地床炉	東隅から1193～1197・1199・1200がまとまって出土した。使 用時の状況が残されている可能性が高い。
B②SA3		弥後	縱長方形 (N36° W)	長軸5.62 短軸4.45	遺構31、土器 164・165、石製品 187	遺構12、土器45、 石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5)、地床炉	焼失住居で、中心から放射状に炭化材が残存する。柱穴に は炭化した柱材が原位置で残存していた。
B②SA7	B②SD6に切ら れる	弥後	縱長方形 (N40° W)	長軸7.41 短軸5.01	遺構32、土器 165・166、石製品 187	遺構12、土器46、 石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~7)、地床炉	覆土内に拳～人頭大の川原石が投棄されていた。
B②SA8		弥後	縱長方形 (N42° W)	長軸6.45 短軸4.08	遺構32、土器167	遺構12、土器46	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~6)	覆土内に拳～人頭大の川原石が投棄されていた。
B②SA9		弥後	縱長方形 (N2° E)	長軸6.60 短軸4.69	遺構33、土器 167・168	遺構12-13、土器 46・47	主柱4/4(P1~4)、棟持 柱(P5)、入口(P6~7)、地 床炉	焼失住居で中心から放射状に炭化材が残存し、壁面に強い 被熱痕がある。炭直上にベンガラの集積が認められた。
B②SA10		弥後	縱長方形 (N43° W)	長軸5.26 短軸3.90	遺構34、土器 169、石製品187	遺構13、石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~6)、地床炉	覆土内に拳～人頭大の川原石が投棄されていた。
B②SA11	B②SD1-6に切 られる	弥後	縱長方形 (N70° W)	短軸4.37	遺構34、土器170	遺構13	主柱2/2(?)P1・2)、入口 (P3~4)	
B②SA12		弥後	縱長方形 (N36° W)	長軸8.25 短軸5.34	遺構34、土器170	遺構13	主柱4/4(P1~4)、入 口? (P7)	覆土はレンズ状の堆積をなしており、1次面から住居内へ の落ち込みが確認された。
B②SA14		弥後	縱長方形 (N38° W)	長軸5.04 短軸4.35	遺構34、土器171、石製品187	遺構13、石製品49	主柱4/4(P1~4)、入口 (P5~6)、地床炉	
B②SA15		弥後	縱長方形 (N49° W)	長軸5.26 短軸4.46	遺構35、土器172	遺構13	主柱4/4(P1~4-8)、入 口(P5~7)、地床炉	建て替えを行っている。
B②SA16		弥後	縱長方形 (N26° W)	長軸5.66 短軸3.25	遺構35、土器172	遺構13	主柱4/4(P1~5)	1次面から住居内への落ち込みが落ち込みが確認された。
B②SA17		弥後	(N38° W)			遺構13	主柱4/4、地床炉	掘り込みは検出されていない。
B②SA18		弥後		短軸4.53	遺構35、土器172	遺構13、土器47	主柱4/4(P1~4)、地床 炉	ブランは不明瞭である。覆土中よりスタンプ文のある小型 の壺が出土している。

遺構名	結合・切り合 い遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
C ② SA1	C ① SA6・7に切 られる	弥後	縦長方形 (N12° W)	短軸4.57	遺構35、土器173	遺構13	主柱(P2)、入口?(K1)、 地床炉	
C ② SA2	53 ① SA9、C ② SA12に切られる	弥後	縦長方形 (N18° W)	長軸7.06 短軸4.57	遺構 36、土 器 173、石製品187	遺構14、石製品49	主柱4／4?(P1～4)、棟 持柱(P5)、入口(P6)、地 床炉	焼失住居で、床面・壁面に強い被熱痕跡がある。炭直上にベ ンガラの集積が認められた。
C ② SA4	C ① SD1・SA11に 切られる	弥後	縦長方形 (N40° W)	長軸8.45 短軸5.91	遺 構 36、土 器 173、石製品187、 装身具188	遺構14、石製品49、 装身具50	主柱4／4(P1～4)、入口 (P5～8)、地床炉(炉竈 石)、被 热 ピット(P18 ～20)、床面被熱×4、周 溝	覆土中より抜入柱状片刃石斧(1591)や、土製勾玉(1591)が 出土している。
C ② SA6		弥後	縦長方形 (N45° W)		遺 構 37、土 器 174、石製品187	遺構14、石製品49	主柱?(P1・2)、地床炉、 棟持柱?(P3)、床面被熱 ×1	プラン東半は土器が出土する範囲から判断している。
C ② SA7		弥後	縦長方形 (N53° W)	長軸4.74 短軸4.18	遺構37、土器175	遺構14	主柱4／4(P1～4)、入口 (P5～6)、地床炉	
C ② SA8	57② SA2と統合	弥後	縦長方形 (N28° W)	長軸10.24 短軸5.59	遺構 38、土 器 175・176	遺構14	主柱4／4(P1～4)、入口 (P5・6)、被熱ピット(P7・ 8)、地床炉、床面被熱× 1	一般的な住居址よりも柱穴が非常に大きく、土坑状を呈す る。
C ② SA9		弥後	縦長方形 (N63° E)	長軸4.80 短軸3.74	遺構38、土器176	遺構14	主柱4／4(P1～4)、地床 炉×4	
C ② SA10	C ① SA5・19・20・ 24に切られる	弥後	縦長方形 (N36° W)	長軸9.25 短軸5.66	遺構 39、土 器 177・178	遺構14・15	主柱6／6(P1～6)、棟持 柱(P7)、入口(P8～10)、 地床炉、被熱ピット(P 18)	東隅付近に土器の良好な遺存状況が認められた。
C ② SA11		弥後	縦長方形 (S75° W)	長軸(6.59) 短軸(5.00)	遺構40、土器178	遺構15、土器47	主柱?(P1)、地床炉	
C ② SA12	53② SA2と統合	弥後	縦長方形 (N38° W)	長軸7.17 短軸4.30	遺構39、土器179	遺構15、土器47・ 48	主柱4／4(P1～4)、棟持 柱(P5)、入口(P6・8)、地 床炉、被熱ピット(P21)	東隅付近に土器の良好な遺存状況が認められた。
C ② SA15	C ① SA17に切ら れる	弥後	縦長方形 (N22° W)	長軸5.72 短軸4.18	遺構40、土器180	遺構15	主柱4／4(P1～4)、入口 (P5)、地床炉	
C ② SA17	C ① S A7・24・28 に切られる	弥後	縦長方形 (N3° W)	長軸6.92 短軸5.64	遺 構 40、土 器 180、装身具188	遺構15、装身具50	主柱4／4(P1～4)、入口 (P5～8)、地床炉	
C ② SA18		弥後	方形系	短軸4.16	遺構41、土器180	遺構15		

造構名	結合・切り合い 造構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
C ② SA21		弥後	縦長方形 (N2° W)	短軸3.63 180、土製品188	遺構41、土器 遺構15、土製品49		主柱3/4(P1~3)、地床 炉	
C ② SA22	C ① SA17、C ② SA23に切られる	弥後	縦長方形 (N30° W)	長軸9.22	遺構41、土器181	遺構15	主柱(P1・2)、入口(P4 ~6・K2)、地床炉、被熱 ピット(P7)、床面被熱× 1	
C ② SA23		弥後	方形	長軸3.54 短軸2.91	遺構41、石製品 18 7	遺構15、石製品49		
C ② SA25	57②SA4と統合	弥後	方形	長軸(5.18) 短軸(4.82)	遺構41、土器181	遺構15	主柱?(P1・2)、地床炉、 周溝、床面被熱×1	
4① SC2	4① SDZ1に切ら れる	弥後			遺構43	遺構16		
50② SK4		弥後	不整形	幅1.15	遺構42、土器184	遺構15、土器48		B ② SD6内部から検出されている。
25① SJ1	横取り上げ	弥後	掘り方不明 (N21° W)		遺構42、土器182	土器48	竪棺墓	掘り方は不明である。
48① SJ3		弥後	長方形 (N55° E)	長軸1.41 短軸1.13		遺構15	土壤墓	
48① SJ7		弥後	不整形 (N81° E)	長径0.88 短径0.74	遺構42、土器182	遺構15、土器48	竪棺墓	
64① SJ1		弥後	掘り方不明 (N10° E)		遺構42、土器 183、石製品187、 装身具188	遺構16、土器48、 石製品49、装身具 50	合口竪棺墓	1515を1514に掉入する。1514の上部は棺支えとして利用さ れる。棺内から半块状勾玉が出土する。石棺(1567)との関 係は明確でなく、共伴しない可能性もある。
4① SDZ1	4① SC1から名 称変更 4① SU取り上げ 遺物を含める	弥後	円形	周溝径7.42	遺構43、土器184	遺構16、土器48	周溝	周溝東側より遺物が集中して出土した。
19① SDZ1	19① SC1から名 称変更	弥後	円形	周溝径9.41	遺構44、土器185	遺構16、土器48	周溝	図示した遺物は周溝内の南側の覆土中よりまとまって出 土した。内部の方形遺構は主体部にならない。
37① SDZ1	37① SC1から名 称変更	弥後	円形		遺構43	遺構16	周溝	推定周溝径が15m弱となり、円形周溝墓にならない可能 性がある。
48① SDZ1	48① SJ1を主体部 として統合 48① SD1に切ら れる	弥後	周溝…円形 主体部…長方 形 (N54° E)	周溝径8.78 主体部 長軸2.28 短軸1.36	遺構45、装身具 189-190	遺構16、装身具50	周溝(南西に開口部) 主体部木棺墓	主体部北東から人歯が出土し、北東頭位と判断される。主 体部中央では銅鏡の下位に鉄鏡が連なって出土した。また 主体部北東ではガラス小玉77個が系でつながれたよう な状況で出土した。副が腕 ガラス小玉が首への着装状態を 留めていた可能性が高い。これらの周囲にガラス玉が散在 しており、埋葬時に撒かれたものと思われる。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
48① SDZ2	48① SJ2を主体部として統合 48 ① SD1-SDZ1に切られる	弥後	周溝…円形 主体部…長方形 (N39° E)	周溝径5.29 主体部 長軸1.94 短軸1.20	遺構46、装身具 188-189	遺構17、装身具50	周溝(南西に開口部) 主体部木棺墓(長舞板痕跡、真込石)	主体部北東から人歯が出土し、北東頭位と判断される。主体部北東で勾玉とガラス小玉が出土しており、首への着装状態を留めている可能性が高い。
48① SDZ4	48① SJ4を主体部として統合	弥後	周溝…円形 主体部…長方形 (N50° E)	主体部 長軸1.64 短軸1.08	遺構46	遺構17	周溝(南東に開口部) 主体部構造不明	主体部北東から人歯が出土し、北東頭位と判断される。
48① SDZ5	48① SD1に切られる	弥後	円形?		遺構46、土器185	土器48	周溝	周溝の一部を検出したのみである。
48① SDZ6	48① SDZ2に切られる	弥後	円形?		遺構46、土器185	遺構17	周溝	断面形状から、周溝墓にならない可能性もある。
48① SDZ7	48① SD1に切られる	弥後	円形?		遺構46		周溝	周溝の一部を検出したのみである。
48① SDZ8	48① SJ8を主体部として統合	弥後	円形?	主体部 長軸1.68 短軸1.21	遺構46	遺構17	周溝	
4① SD2		弥後	(W-E)	幅2.4 棲出長8.4		遺構16-17		
26① SD7		弥後	(W-E)	幅2.0 棲出長16.0		遺構17		
48① SD1	63① SD12と同一遺構か?	弥後	(W-E)	幅5.2 棲出長36.0	遺構47、土器185	遺構17		出土土器から所属時期が古墳時代前期に下る可能性もある。
55① SD6		弥後	(NW-SE)	幅0.7 棲出長6.0	遺構47、装身具 188	装身具50		
B ② SD2		弥後	(W-E)	幅0.7 棲出長44.0	遺構47、土器185			
B ② SD6	50② SD2と統合	弥後	(N-S)	幅4.5 棲出長30.4	遺構47、土器185	遺構17		断面より2条の溝が重なっている状況が看取される。
B ② SD8		弥後	(W-E)	幅0.7 棲出長36.0	遺構47、土器185			
B ② SU2		弥後	円形			遺構17		
62① SX4		弥後			遺構47、土器186	遺構17、土器48		
6① SAI		古墳中	方形 (N43° E)	長軸4.09 短軸4.02	遺構48、土器191	遺構17、土器51	主柱4/4(P1~4)	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
34① SA3	43① SA1と統合	古墳中	方形系		遺構48、土器191	遺構18、土器51	主柱2／4(P1・2)、周溝	
48① SA1		古墳中	方形系 (N32° W)		遺構 49、土 器 191、土 製品203	遺構18	主柱2／4(P1・2)、地床炉 (炉様石)、周溝、ベッド 状遺構	
48① SA2		古墳中	方形 (N40° W)	長軸4.98 短軸4.90	遺構48、土器192	遺構18	主柱4／4(P1～4)、入口 (K2・3)、地床炉、周溝	
48① SA3	48① SA4に切ら れる	古墳中	方形 (N39° W)	長軸7.28 短軸6.97	遺構49、土器192	遺構18	主柱4／4(P1～4)、入口 (K1)、地床炉、周溝	
50① SA8		古墳中	方形系 (N29° E)	短軸4.92		遺構18	地床炉	所属時期は不確定である。
50② SA5	50① SA5、50② SA9	古墳中	方形 (N25° W)	長軸5.75 短軸4.87	遺構48、土器192	遺構18	主柱4／4(P1～4)、入口 (K1)	
54① SA1		古墳中	方形系		遺構50、土器193	遺構18	主柱？(P2)、周溝	
57① SA3	57② SA3から名 称変更	古墳中	方形 (N41° E)	長さ3.14	遺構 50、土 器 193、土 製品203	遺構18	カマド(痕跡)	
60② SA3	60① SA3	古墳中	縦長方形	短軸6.09	遺構 50、土 器 193、土 製品203、 装身具203	遺構18、装身具53	主柱？4／4(P2・6・7・K1)	P8付近に炉があった可能性が考えられる。
61① SA9	61① SA9に切ら れる	古墳中	方形系		遺構 50、土 器 193、装身具203	遺構18、土器51、 装身具53	主柱(不明)	
61① SA10	61① SA10に切ら れる	古墳中			遺構50	遺構18	主柱(不明)	
62① SA2		古墳中	方形系		遺構51	遺構18	周溝	
62① SA3		古墳中	方形 (S76° W)	長軸3.9	遺構51	遺構18	主柱4／4(P1～4)、周溝	
63① SA1	63① SD4に切ら れる	古墳中	方形 (N42° W)	長軸6.6	遺 構 51、土 器 193-194	遺構18、土器51	主柱3／4(P1～3)、入口 (P5～8)、入口(K1)、地床 炉、周溝	
79① SA5		古墳中	方形系		遺 構 51、土 器 194、土 製品203	遺構18、土器51		
79① SA8		古墳中	方形系		遺構51	遺構19		
B② SA13		古墳中	方形系 (N27° E)	短軸3.8	遺構52、土器194	遺構19	主柱4／4？(P1～4)	1次面から住居内への落ち込みが確認された。焼失住居で ある。破壊が本来のプランか？

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
C① SA30	C① SA24に切られる	古墳中	方形 (N33° W)	長軸4.77 短軸(4.37)	遺構52、土器 194-195	遺構19、土器51・ 52	主柱2/4(P1・2)、地床 炉、周溝	か周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。
C② SA16	56② SA2と統合	古墳中	楕長方形 (N45° E)	長軸6.37 短軸4.00	遺構52、土器 195、土製品203	遺構19、土器52・ 53		
34① SB1		古墳中	(N42° E?)		遺構52、土器196	遺構19	2間×2間残存	
48① SK3		古墳中	不整円形	長径0.83 短径0.67	遺構52、土器196	遺構19		
65① SDZ1	74① SDZ1、75① SDZ2と統合	古墳中	前方後方形 (N134° E)		遺構53、土器 196、装身具203	遺構19、土器52・ 53	周溝(前方部北西隅に開 口部)	65-74区で填土の前方部3/4と後方部1/4を検出し、65-74 区の南側に位置する75区で後方部周溝の南隅を検出した。 推定全長は30mを超える大型の周溝墓である。
75① SDZ1		古墳中	方形		遺構54	遺構19	周溝	二隅の検出にとどまるが検出規模から方形と予想される。
75① SDZ4		古墳中	方形	周溝長13.0	遺構54、土器196	遺構19、土器52	周溝	28区の東側および29区の西側で周溝覆土と同様の黄褐色 砂質土の広がりが検出されおり、これらが周溝の一部と なる可能性が考えられ、一辺が20mを越す規模が想定され る。
6① SD1		古墳中	(W-E)	幅3.3 検出長5.6	遺構55、土器 196-197	遺構20、土器52		
13① SD1		古墳中	(W-E)	幅3.2 検出長16.0		遺構20		
23① SD5		古墳中	(NW-SE)	幅0.9 検出長10.0	遺構55、土器198	遺構20		
33① SD7		古墳中	(NW-SE)	検出長7.6	遺構55、土器199	遺構20、土器52		
34① SD7		古墳中	(NE-SW)	幅3.6 検出長3.2	遺構55、土器198	遺構20、土器52・ 53		
50① SD2		古墳中	(N-S)	幅1.2 検出長13.2	土器198、土製品 203、装身具203	土製品53、装身具 53		位置・平面形態が調査記録に残されていないため、詳細は 不明である。1930の出土位置から考えると、50① SD3と重 複していたものと推測される。
50② SD3		古墳中	(W-E)	幅1.0 検出長7.6	土器198、土製品 20_3	土製品53		
52① SD1		古墳中	(N-S)	幅1.7 検出長8.8	遺構55、土器198	遺構20		
52① SD4		古墳中	(W-E)	幅0.5 検出長5.6	遺構55、土器198	遺構20		
62① SD2	55① SD7と統合 62① SC1と同一	古墳中	(NW-SE)	幅0.4 検出長2.2	遺構55、土器200			住居址の周溝か?

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主輪方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
63① SD1		古墳中	(W-E)	検出長40.0		遺構20		埋没した旧河道の流路である。
63① SD2		古墳中	(W-E)	幅0.9 検出長55.0	遺構55、土器 200、装身具203	遺構20、装身具53		
63① SD6		古墳中	(NE-SW)	幅1.1 検出長6.9	遺構55、土器200			
63① SD12		古墳中	(N-S)	幅0.7 検出長2.3	遺構55、土器200			
46① SX1		古墳中	不整円形		遺構55、土器200	遺構20		
75① SX1	75① SDZ3から名 称変更	古墳中			遺構55、土器201	遺構20、土器53	土坑2基、溝1条	溝は一方の土坑と重複し、また他方の土坑を囲む。土坑内には頭部以上を久く壺が、胸部上半を久く壺を蓋状に被せて正置して埋納されている。中央の土坑内は1889-1890、溝内の土坑は1887-1888が組み合う。それぞれ単独遺構の可能性も考えられる。
C ① SX1	C ① SU4 から名 称変更	古墳中	円形		遺構 55、土 器 202、土 製品203	遺構20、土器53、 土製品53		覆土上層～中層に古墳時代の遺物が集中して出土する。弥生後期の1904は床面から出土したものである。
23① SA1		古後	方形 (N62° W)	短軸4.44	遺構56、土器204	遺構21、土器54	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)、貯藏穴(K2)、周溝	焼失住居である。K2およびその周辺に土器が多く遺存する。K2内の1935~1937・1940と1932-1933は正面に重なった状態で出土している。
33① SA1		古後	方形 (N61° W)	長軸6.4	遺構 56、土 器 204、土 製品246	遺構21、土器54	主柱2/4(P3~6)、カマド (土袖)、貯藏穴(K1)	
33① SA4		古後	方形系		遺構57、土器205	遺構21		
33① SA5		古後	方形系		遺構57、土器204	遺構21	主柱1/4(P2)、カマド× 2(1…石組、2…痕跡、2→ 1と構築)	
34① SA1		古後	方形 (N45° W)	長軸4.30 短軸4.57	遺構57、土器205	遺構21、土器54	主柱4/4(P1~4)、カマド (痕跡)、周溝	焼失住居である。
48① SA4		古後	方形 (N28° W)	長軸5.19 短軸5.09	遺構57、土器206	遺構21	主柱4/4(P1~4)、カマド (土袖)	
50① SA1		古後	長方形	短軸5.41	遺構57、土器205	遺構21	周溝	
50① SA2	B ① SA10と統合	古後	方形 (N27° W)	長軸4.93 短軸4.91	遺 構 58、土 器 207、土 製品246	遺構21、土製品62	主柱3/4(P2~4)、カマド (石組)、貯藏穴(K1)	カマド石材が床面に散乱した状態で検出される。
50① SA3		古後	横長方形 (N60° W)	長軸4.88 短軸3.33	遺構58、土器207	遺構21	カマド(石組)	
50① SA4		古後	方形系	長軸4.48	遺構58、土器205	遺構21		

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載図版番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
50①SA6		古後	方形系		遺構58、土器208	遺構21、土器54	主柱?2/4(P1~2)、カマド(石組)	火床は小石を敷いたものか?
50①SA9		古後	方形系	長軸3.92	遺構58	遺構21	カマド(石組)	B①SA17と同一遺構になる可能性も考えられる。
52①SA1		古後	方形 (N48° W)	長軸4.42	遺構58	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	
52①SA2		古後	方形系		遺構59、土器208	遺構22	主柱1/4(P1)、カマド(土袖)	
52①SA3		古後	方形 (N32° W)	長軸3.00 短軸2.95	遺構59	遺構22		
52①SA4		古後	横長方形 (N52° W)	長軸4.32 短軸3.15	遺構59、土器209	遺構22	カマド(痕跡)	
52①SA6		古後	横長方形 (N58° W)	長軸4.71 短軸4.15	遺構59、土器208	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)、貯蔵穴?(P6)	
53①SA1		古後	方形 (N37° W)	長軸3.51 短軸3.26	遺構59、土器209	遺構22	カマド(痕跡)	
53①SA2		古後	方形系			遺構22		
53①SA3		古後	横長方形	短軸3.25	遺構59、土器210	遺構22、土器55	カマド(石組)	カマドは北東隅に寄る。カマド周辺より土器がまとまって出土する。
53①SA4		古後	方形系		遺構60、土器211	遺構22	主柱1/4(P1)、周溝	
53①SA5		古後	方形 (N45° W)	短軸5.32	遺構60、土器210	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(土袖)、周溝	
53①SA9	C①SA1と統合 53①SJ1・SD5に 切られる	古後	方形	長軸8.86 短軸8.33	遺構61、土器211	遺構22		プランは明瞭に認識されたが、カマド、柱穴共に検出され ていない。
53①SA10	53①SD5・SA5に 切られる	古後	縱長方形 (N33° W)	長軸5.90 短軸4.89	遺構61、土器211	遺構22	主柱4/4(P1~4)、カマド(土袖)、貯蔵穴(K1)	カマドに良好な土器の遺存状況が認められた。
53①SA11	C①SD1に切ら れる	古後	方形		遺構62、土器211	遺構22	カマド(痕跡)	
53②SA6		古後	方形 (N57° W)	長軸2.66	遺構52、土器211	遺構23	カマド(石組)	
54①SA2	54①SA3に切ら れる	古後	方形		遺構62、土器212	遺構23		
54①SA3		古後	長方形		遺構62	遺構23	カマド(石組?)	P5・P6間に土器・石が散乱して検出されており、この付近に 石組みカマドが存在していた可能性が考えられる。

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規模 (単位:m)	掲載回数番号		構造	特記事項
					実測図	写真		
55①SA1		古後	方形系		遺構63、土器212、装身具246	遺構23、装身具62	主柱2/4(P1-2)	
55①SA5	55①SD3に切られる	古後	方形系		遺構63、土器212	遺構23	カマド(石組)	カマドは北隅に寄る。
56①SA1		古後	方形系		遺構63、土器212、装身具246	遺構23、装身具62	カマド(土袖)	
56①SA4		古後	方形	長軸3.10 短軸2.96	遺構63、土器213	遺構23、土器55	主柱?4/4(K1~4)、カマド(石組)	K3は貯蔵穴の可能性がある。
57①SA1	79①SA3と統合	古後	方形(N33°W)	長軸5.34	遺構64、土器213	遺構23	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)、貯蔵穴(K1)	
57①SA2	79①SA1と統合	古後	方形	長軸5.19	遺構64、土器214、土製品246、装身具246	遺構23、装身具62	主柱3/4(P1~3)、カマド×3(1---石組、2-3---痕跡、2---3---)と構築か?	カマド2は煙道の天井部が残存する。
60①SA1	60②SA1から名稱変更	古後	縱長方形		遺構65、土器214	遺構23	カマド(石組)	
61①SA1		古後	方形系		遺構65、土器215	遺構23	カマド(石組)	カマドは東隅に寄る。
61①SA2		古後	方形系		遺構65、土器215	遺構23	カマド(土袖)	
61①SA3	61①SA1-2に切られる	古後	方形		遺構65、土器216	遺構23	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)	柱穴、土坑はP2を除き下層住居床面にて検出された。
61①SA5		古後	方形系		遺構65、土器216、石製品246	石製品61		
78①SA1		古後	方形系	短軸3.69	遺構66、土器216	遺構23		
78①SA3		古後	方形(N83°W)	長軸5.45 短軸5.43	遺構66、土器216	遺構24	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)、周溝	
78①SA4		古後	方形系			遺構24	主柱?	所属時期は不確定である。
78①SA5		古後	方形系		遺構66	遺構24	主柱2/4(P1-2)	
79①SA4		古後	方形系		遺構66、土器217	遺構24	主柱?2/4(P1-2)、カマド(石組)	
79①SA6		古後	方形系(N52°W)	長軸3.58	遺構67、土器217	遺構24、土器55	カマド(土袖)、貯蔵穴(K1)	
79①SA7	79①SA4に切られる	古後	方形系		遺構66	遺構24		
79①SA9		古後	方形系		遺構67、土器217	遺構24		

遺構名	結合・切り合ひ 遺構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載回版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
B①SA1		古後	方形 (N27° W)	長軸5.27 短軸4.56	遺構67	遺構24	主柱?4/4(P1~4)、周溝	
B①SA2		古後	方形		土器218			住居址にならないかもしれない。
B①SA3	B①SA5に切られる	古後	方形 (N32° W)	長軸4.66 短軸4.60	遺構67、土器218	遺構24	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)、貯藏穴(P5)	PSIには焼土・炭が多く堆積する。K1床面からは炭・被熱した石が検出され、住居廃絶後にカマドの石材を投棄した穴と考えられる。
B①SA4		古後	方形 (N65° W)	長軸4.38 短軸4.30	遺構67、土器218	遺構24	主柱(不明)、カマド(石組)	
B①SA5	B①SE1に切られる	古後	方形 (N22° W)	長軸6.42 短軸6.32	遺構68、土器219	遺構24、土器56	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	カマド周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。
B①SA6	B①SE2に切られる	古後	方形 (N18° W)	長軸6.62 短軸6.34	遺構69、土器220、石製品246	遺構24・25、石製品61	主柱3/4(P1~4)、入口?(P5-6)、カマド(土袖)、周溝	
B①SA7		古後	横長方形 (N31° W)	長軸4.63 短軸3.80	遺構69、土器220	遺構25	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	
B①SA8		古後	方形 (N44° W)	長軸6.69 短軸6.04	遺構68、土器220	遺構25	主柱4/4(P1~4)、カマド(痕跡)	火床は2面存在した可能性がある。
B①SA9		古後	方形系	短軸4.44	遺構69、土器221	遺構25	主柱?2/4(P1-2)	
B①SA11		古後	方形系		遺構70、土器221	遺構25、土器56	カマド(痕跡)	
B①SA12		古後	方形 (S24° E)	長軸5.39 短軸4.84	遺構70、土器221	遺構25	カマド(石組)	平面形態が不定形で明瞭な柱穴が検出されず、カマドが通常と異なる南方にあることから、住居とするには不確定な要素を多分に含む。プランについては下層にあるB②SA5の復土を1次面で住居址と認めた可能性がある。
B①SA13		古後	方形系 (N44° W)	短軸4.84	遺構70、土器221	遺構25	主柱3/4(P1~3)、カマド(石組)	
B①SA14		古後	方形系 (N45° W)		遺構70、土器221	遺構25	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	掘り込みはほとんど検出されていない。
B①SA16		古後	方形 (N36° W)	長軸6.88 短軸6.04	遺構71、土器221-222	遺構25、土器56	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)、貯藏穴P5	カマド周辺および床面に良好な土器の遺存状況が認められた。
B①SA17		古後	方形系			遺構25		50①SA9と同一遺構になるか?
C①SA2	53①SA12と統合	古後	方形 (N42° W)	長軸6.53 短軸6.39	遺構72、土器223	遺構25-26、土器56-57	主柱4/4(P1~4)、カマド(石組)	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。カマド廃棄後、内部に半大的円礫が投棄された状態で検出された。

遺構名	結合・切り合 い遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実(縦断)	写 真		
C ① SA3		古後	方形 (N24° W)	長軸5.22 短軸5.14	遺構 72、土 器 224、土製品62	遺構26、土製品62	主柱3/4(P1~3)・カマ ド×2(…石組、2…痕跡、 2→1と構築)	カマドは北辺から西辺へ移動している。匙(2625)は混入と思われる。
C ① SA4	C ① SD2に切ら れる	古後	方形 (N50° E)	長軸3.44 短軸3.12	遺構72、土器224	遺構26	カマド(痕跡)	
C ① SA5		古後	方形 (N37° W)	長軸6.10 短軸5.93	遺構73、土器225	遺構26	主 柱4/4(P1~4)・カマ ド×3(…石組、2-3…痕 跡、2-3→1と構築)・貯藏 穴(P5)	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。覆土中より獸齒が出土している。
C ① SA6		古後	横長方形 (S54° E)	長軸3.69 短軸2.33	遺構74、土器224	遺構26	カマド(石組)	カマドは東隅に寄る。
C ① SA7		古後	方形 (N36° E)	長軸6.23 短軸6.11	遺構 74、土 器 226、土製品246	遺構26	主 柱4/4(P1~4)・カマ ド×3(…石組、2-3…痕 跡、3→2→1と構築)	カマドは北西辺から北東辺へ移動している。
C ① SA8	C ① SU3に切ら れる	古後	方形系 (N48° W)		遺構 74、土 器 226-227	遺構26	主柱4/4(P1~4)・カマ ド(石組)、貯藏穴(K1)	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。覆土内に人頭の礫が出土する。
C ① SA9	53② SA6と統合 C ① SD2に切ら れる	古後	方形 (N38° W)	長軸5.83 短軸5.26	遺構 75、土 器 227-228、装身具 246	遺構26-27、土器 57、装身具62	主柱3/4(P1~3)・カマ ド(石組)	覆土内から礫・炭・焼土が多く出土している。カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。本調査で唯一の確実な石敷き火床である。
C ① SA10		古後	方形 (N46° W)	長軸6.74 短軸6.70	遺構 76、土 器 228、装身具246	遺構27、土器57、 装身具62	主柱2/4(P1~4)・カマ ド×2(…石組、2…痕跡)	カマド出土土器とC ① SA14出土土器が接合していることから、カマドは本来C ① SA14に伴っていたと考えられるため、本住居のカマドはカマド2の1基のみとなる。住居の切り合ひ関係としてはC ① SA14が上位にあることとなり、本住居出土遺物中には本来C ① SA14に伴う土器が混入している可能性が考えられる。
C ① SA11	53② SA8と統合 53① SA11、C ① SD2-SA9に切ら れる	古後	方形 (N52° W)	長軸9.40 短軸8.93	遺構 77、土 器 229-230、石製品 246、装身具246	遺構27、土器58、 石製品61、装身具 62	主柱4/4(P1~4)・カマ ド(石組)、貯藏穴(K1)	カマド周辺およびK1に良好な土器の遺存状況が認められた。K1内およびその周辺には炭・焼土が多く遺存していた。P5456① SA1の柱穴になる可能性が高い。
C ① SA12		古後	横長方形 (N49° W)	長軸4.49 短軸3.30	遺構78、土器231	遺構27	カマド(石組)	カマド石材の抜き取り痕が残る。
C ① SA13	56① SA2と統合	古後	方形 (N43° W)	長軸6.69 短軸6.62	遺構 78、土 器 231、装身具246	遺構27、土器58、 装身具62	主柱4/4(P1~4)・カマ ド×2(…石組、2…痕跡、 2→1と構築)・貯藏穴(K 1)、周溝	カマドおよびその周辺に良好な土器の遺存状況が認められた。

造構名	結合・切り合い 造構番号変更	時期	形 築 (主軸方向)	規 模 (単位: m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
C ① SA14		古後	方形系		造構76、土器231	造構27		C ① SA10カマド1出土土器と本住居の出土土器が接合していることから、C ① SA10カマド1は本住居に伴っていたと考えられる。
C ① SA15		古後	方形 (N17° W)	長軸4.48 短軸3.89	造構79、土器232	造構27・28	主柱4／4(P1～4)、カマド×2(痕跡)	カマドは同位置に構築し直される。
C ① SA16	C ① SA10に切られる	古後	方形 (N30° W)	長軸6.39	造構 79、土 器 232・233、石製品 246、装身具246	造構28、土器58・ 59、石製品61、装 身具62	主柱4／4(P1～4)、カマ ド×2(1…石組、2…痕跡、 2→1と構築)	2つのカマドとも本調査で唯一の土製支脚をもつ。
C ① SA17	C ① SA21・SU3に 切られる	古後	方形 (N42° W)		造構 80、土 器 233、石製品246	造構28、石製品61	主柱3／4(P1～3)、カマ ド(痕跡)	
C ① SA18		古後	横長方形 (N48° W)	長軸8.51 短軸7.70	造構 80、土 器 233・234	造構28	主柱4／4(P1～4)、カマ ド×3(火床は3ヶ所、うち 1ヶ所が石組)	3ヶ所の火床はカマドを作り替えた際の痕跡か?
C ① SA19	C ① SD1に切られる	古後	方形系 (N58° W)		造構81、土器234	造構28、土器59	主柱L／4(P1)、カマド (土袖)	
C ① SA20	C ① SD1・SA2に 切られる	古後	横長方形 (N43° W)	長軸7.69 短軸5.81	造構81、土器236	造構28	主柱4／4(P1～4)、カマ ド(痕跡)	火床が2ヶ所に認められた。2軒の住居が重なっていた可能性も考えられる。本掲載資料中にミニチュア土器がある。
C ① SA21		古後	方形系 (N54° W)		造構81、土器235	造構28、土器59・ 60	カマド×2(1…石組、2… 痕跡、2→1)	
C ① SA22		古後	方形 (N19° W)	長軸3.29 短軸3.19	造構81、土器236	造構28	カマド(石組)	
C ① SA23	C ① SA22に切られる	古後	方形 (N44° W)	長軸4.05 短軸3.56	造構82、土器236	造構29	カマド(土袖)	
C ① SA24	C ① SA22・23に 切られる	古後	方形 (N41° E)	長軸7.92 短軸7.53	造構 82、土 器 237、石製品246、 石製品246	造構29、石製品61	主柱4／4(P1～4)、カマ ド(石組)	内部のC ① SA27は本来同一住居であった可能性が高い。
C ① SA25	C ① SD2に切られる	古後	方形 (S17° W)	長軸5.54	造構 83、土 器 237、石製品246	造構29、土器60、 石製品61	主柱4／4(P1～4)、カマ ド(石組)	
C ① SA26	C ① SD2・SA26に 切られる	古後	方形系		造構 82、土 器 238、土製品246	造構29、土製品62	カマド(石組)	
C ① SA27		古後	方形	長軸5.18 短軸4.92	造構82、土器238	造構29	主柱4／4(P1～4)、カマ ド(痕跡)	C ① SA27床面の貼床部分を別住居と誤認した可能性が考えられる。火床はC ① SA24に伴うものと考えられる。
C ① SA28	C ① SA27・SU3に 切られる	古後	方形 (N40° W)	長軸5.81 短軸5.63	造構83、土器238	造構29	主柱4／4(P1～4)、カマ ド(土袖)、貯藏穴(K1)	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
C ① SA29	53① SA12と統合	古後	方形系 (N30° W)		遺構83、土器238	遺構29	カマド(石組)	
55① SB1	S K16／19／20／ 21／23／26／29／ 32を結合	古後	(N36° E)		遺構84、土器239	遺構29	1間×4間残存	
56① SK5		古後	円形系	幅0.79	土器239			
C ① SK76		古後	小判形 (N22° E)	長軸2.26 短軸0.73	遺構84、土器239	遺構29		
12① SD2		古後	(W-E)	幅1.4 検出長5.5		遺構29		
23① SD1		古後	(NW-SE)	幅3.4 検出長5.6	遺構 84、土 器 239、土製品246	遺構29		
23① SD2		古後	(NW-SE)	幅6.8 検出長5.0	遺構84、土器239	遺構29		
34① SD1		古後	(NW-SE)	幅4.8 検出長6.4	遺構84、土器240			
34① SD2		古後	(NW-SE)	幅3.8 検出長5.6	遺構84、土器240	遺構29、土器61		
46① SD2		古後	(NW-SE)	幅1.2 検出長8.0		遺構30		
49① SD1		古後	(NW-SE)	幅1.4 検出長31.6	遺構84、土器241	遺構30		
52② SD1		古後	(NW-SE)	幅2.5 検出長8.8	遺構84、土器241	遺構30		
53① SD5		古後	(W-E)	幅1.2 検出長24.0	石製品246	石製品61		
55① SD2		古後	(NW-SE)	幅2.4 検出長6.0	遺構84、土器241	遺構30		
55① SD3		古後	(NW-SE)	幅2.7 検出長6.0	遺構84、土器241	遺構30		
71① SD2		古後	(W-E)	幅2.5 検出長5.6	遺 構 84、土 器 241、土製品246			
C ① SD8		古後	(NE-SW)	幅0.4 検出長3.6	土器241			

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
D ① SD1	46① SD1と統合	古後	(N-S)	幅5.1 検出長28.0	遺構84、土器242	遺構30、土器61		
D ① SD2		古後	(NE-SW)	幅1.3 検出長22.0		遺構30		
E ① SD17	63① SD4と統合	古後	(W-E)	幅3.9 検出長53.2	遺構84、土器 243-244	遺構30		
62② SU2		古後			土器244、土製品 84	土製品62		溝状遺構
62① SX3		古後	不整形		土器244	遺構30		
26① SB2		平・中	(N39° W)		遺構85	遺構30	1間? × 4間?	
39① SB1		平・中	(N25° W)		遺構85	遺構30	1間? × 4間?	P10~13は別遺構か?
54① SB1		平・中	(N83° W)		遺構85	遺構30	1間? × 2間?	
56② SB1		平・中	(N78° W)		遺構85		1間? × 4間?	
76① SB1		平・中	(N50° E)		遺構85		1間? × 1間?	
C ① SB1		平・中	(N22° E?)		遺構85	遺構30	2間 × 2間の柱	
33① SH1	33① SB1	平・中	(N58° E)			遺構30		
39① SH1		平・中	(N27° W)		遺構85	遺構30		
52① SH1		平・中				遺構30		所属時期は不確定である。
52① SH2	52① SB1	平・中				遺構30		所属時期は不確定である。
53① SK1		平・中	隅丸方形	長軸1.84 短軸1.67	土器247	遺構30		
53① SJ1		平・中	長椿円形	長径1.91 短径0.66	遺構85	遺構31	伸展幕	
16① SD1	42① SD1と統合	平・中	(W-E)	幅1.4 検出長52.8	遺構85、土器247	遺構31、土器62		墨書き器2点(2642・2643)が出土している。2643の墨書きは「有」と判読され、現在も残る字名の「有無」の一部である可能性もある。
C ① SD1	53① SD2と統合	平・中	(N-S)	幅2.6 検出長20.8	土器247			
C ① SD2		平・中	(N-S)	幅2.4 検出長16.0	土器247			
4① SE1		平・中	円形	長径1.78 短径1.58	遺構86	遺構31	素掘り	

遺構名	結合・切り合い 遺構番号変更	時期	形 態 (主軸方向)	規 模 (単位:m)	掲載図版番号		構 造	特 記 事 項
					実測図	写 真		
4① SE2		平・中	円形	径1.56	遺構86	遺構31	素掘り	
14① SE1		平・中	円形	長径1.62 短径1.35	遺構86	遺構31	素掘り	
52② SE1	52② SE1 から 名 称変更	平・中	不整円形	径1.94	遺構86	遺構31	石組み	
70① SE1		平・中	円形	径1.16	遺構86	遺構31	素掘り	
B① SE1		平・中	不整円形	長径2.02 短径1.77	遺構86	遺構31	素掘り	
B① SE2		平・中	隅丸方形	長軸2.75 短軸2.64	遺構86	遺構31	素掘り	
B① SE3		平・中	不整円形	長径2.28 短径2.06	遺構87		素掘り	
B① SE4		平・中	円形	長径2.73 短径2.38	遺構87	遺構31	素掘り	
B① SE5		平・中	不整円形	長径2.55 短径2.46	遺構87	遺構31	石組み	
B① SE6		平・中	不整円形	長径3.63 短径2.47	遺構87	遺構31	素掘り	
C① SU3	C① SU1と統合	平・中	不整形		遺構88、土器247	遺構31		内部に鳥状の高まりや性格不明の石積みが検出された。人 為的な掘り込みの可能性もある。

表4 土器觀察表

・「遺存率」完形に対する遺存割合をA(80%以上)、B(50%以上80%未満)、C(20%以上50%未満)、D(20%未満)と記号化して表記した。

・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』の色名を表記した。

No	出土遺構	層位	種別	基盤	遺存	色調	找法・文様・特徴
1	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 平行沈線 連続刺突 三角彎去文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
2	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 平行沈線 滲状撫參文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
3	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 平行沈線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
4	45② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 半隆起線、内: 摩減、胎土: 白色砂粒・石英
5	45② SA6	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・赤褐	外: 半隆起線 格子目文、内: ナデ、胎土: 金雲母・石英
6	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: LR 繩文→竹管押印 半隆起線、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒・石英
7	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐色	外: RL 繩文→沈線、内: ナデ、胎土: 金雲母
8	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐色	外: 竹管押印 滲三文文、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
9	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	褐色	外: 羽状縄文、内: 横ナデ、胎土: 茶褐色砂粒・鐵錆
10	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 半隆起線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
11	45② SA7	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐色	外: 半隆起線 U字状文、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒
12	63② SA1	床直	縄文	深鉢	C	にふ・黄青	外: 連続刺突 A 指頭圧痕文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
13	63② SA1	床直	縄文	深鉢	A	明字規	外: 沈線 指頭圧痕文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
14	63② SA1	K2	縄文	深鉢	D	にふ・赤褐	外: 隆線 角押文、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
15	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 半隆起線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
16	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 羽状縄文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
17	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: RL 繩文 竹管押印、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒
18	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 隆線 半隆起線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
19	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 隆線、内: 摩減、胎土: 白色・茶褐色砂粒
20	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	赤褐	外: 梅円柱面文 平行沈線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・金雲母
21	63② SA1	床直	縄文	深鉢	D	にふ・赤褐	外: 半隆起線 梅円柱面文 平行沈線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・金雲母、備考: 20に同一
22	63② SA2	床直	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: 縱手文 A 交替刺突 A 隆線 半隆起線、内: 横ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
23	63② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	淡黃褐	外: 強り付け隆脊 沈線 連続刺突、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
24	63② SP79	覆土	縄文	突起	D	にふ・黄青	外: 四線(横巻文)、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 横巻文系
25	63② SP79	覆土	縄文	突起	D	にふ・黄青	外: 四線、内: 摩減、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 唐草文系
26	63② SRI	縄文	有孔踏行	A	にふ・黄青	外: 隆線(横巻文)、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒	
27	48② SRI	縄文	A	にふ・黄青	外: LR 繩文→直筋隆脊、内: 横ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒		
28	48② SRI	埋甕内	縄文	浅鉢	D	にふ・棕	外: 四線 沈線 ミガキ、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
29	48② SRI	埋甕内	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 縱手文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
30	48② SRI	埋甕内	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 四線、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
31	48② SRI	埋甕内	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 縱手文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
32	48② SRI	埋甕内	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 縱手文、内: ナデ?、胎土: 白色・茶褐色砂粒
33	48② SRI	埋甕内	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 縱手文、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
34	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 粘土板貼り付け、四線、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒
35	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: 隆線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
36	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: 粘土板貼り付け、四線、内: 横ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
37	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 四線 矢羽状文、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒
38	45② SD1	覆土	縄文	深鉢	D	黒	外: 縱手文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・鐵錆
39	遺構外	2①	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 隆筋貼り付け、内: 摩減、胎土: 白色砂粒
40	遺構外	2①	縄文	深鉢	D	にふ・黄青	外: 竹管押印、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒・鐵錆
41	遺構外	19①	縄文	有孔踏行	D	にふ・赤褐	外: 無文、内: 摩減、胎土: 白色砂粒・金雲母
42	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	橙	外: 如意状突起 平行沈線、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
43	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: 隆線 半隆起線、内: 摩減、胎土: 白色・茶褐色砂粒
44	遺構外	45①	縄文	深鉢	A	橙	外: 隆線、内: 摩減、胎土: 白色砂粒
45	遺構外	45①	縄文	深鉢	C	にふ・棕	外: 四線 矢羽状文、内: 摩減、胎土: 白色・茶褐色砂粒
46	遺構外	45①	縄文	突起	D	にふ・棕	外: 四線(横巻文)、内: 摩減、胎土: 白色・茶褐色砂粒
47	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	灰褐色	外: 隆線 四線 刺突、内: オサエ?、胎土: 白色砂粒・金雲母
48	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: LR 繩文→半隆起線 沈線、内: LR 繩文、胎土: 白色砂粒
49	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	にふ・棕	外: 隆線 四線、内: 摩減、胎土: 白色砂粒・金雲母
50	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	赤褐	外: 備稿手浮標 四線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・金雲母
51	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	褐	外: 四線、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒
52	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	明赤褐	外: 隆線 突起、内: ナデ、胎土: 黒色砂粒

No.	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
53	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：環状突起 沈線 矢羽状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母	
54	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：無文、内：オサエ、胎土：白色砂粒	
55	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：環状突起 内：摩減、胎土：白色・茶褐色砂粒	
56	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：凹線、内：摩減、胎土：白色砂粒	
57	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：半降起線 連続刺突、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母・石英	
58	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：RL 縄文→平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
59	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：半降起線 隆線→RL 縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
60	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	縄文 外：隆線 倒正痕文、内：ナデ、胎土：白色・黑色砂粒	
61	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：隆線 半降起線 U字状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
62	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	灰黄 外：沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
63	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：綴 RL 縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
64	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：綴 RL 縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
65	遺構外	45②	縄文	明示褐	D	明示褐 外：隆線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母	
66	遺構外	45②	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：隆線 沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
67	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：貼り付け隆蓋、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
68	遺構外	45①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：斜行沈線 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
69	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：綴 RL 縄文→隆蓋、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：加曾利E	
70	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：如意突起 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
71	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：抹状把手、内：摩減、胎土：白色砂粒	
72	遺構外	48①	縄文	浅黃褐	D	浅黃褐 外：隆面貼り付け 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
73	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：綴 RL 縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
74	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：LR 縄文→門線、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
75	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：貼り付け隆蓋、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
76	遺構外	48①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：RL 縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒	
77	遺構外	53①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：丸彫縄文(無筋)？、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
78	遺構外	53②	縄文	深鉢	D	縦 外：半降起線 連続刺突 顯眼状突起 張り付け隆蓋、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
79	遺構外	53②	縄文	把手	D	縦 外：綴 LR 縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
80	遺構外	53②	縄文	深鉢	D	明示褐 外：無文、内：横ナデ、胎土：白色・黑色砂粒・石英	
81	遺構外	63①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：四縞→充縞縄文(無筋)、内：横ナデ、胎土：白色砂粒、備考：加曾利E	
82	遺構外	67①	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：LR 縄文→浮織(刮目)、内：横ナデ、胎土：白色砂粒、備考：諸説も新	
83	遺構外	67①	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：貼り付け隆蓋→連続刺突、内：摩減、胎土：白色砂粒・角閃石	
84	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	縦 外：Y字彌文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
85	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	縦 外：張り付け隆蓋、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
86	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：綴 RL 縄文(筋跡あり)、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石	
87	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：張り付け隆蓋 浮狀沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石	
88	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：RL 縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・織維・角閃石、備考：前期中葉	
89	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：RL 縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒	
90	E ② SA1	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：RL 縄文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒	
91	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：透続刺突 半降起線、内：摩減、胎土：白色砂粒・石英	
92	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：透続刺突 半降起線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・石英	
93	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：透続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英、備考：92に同一	
94	E ② SA2	覆土	縄文	浅鉢	D	に赤い帶 外：半降起線、内：ナデ・ミガキ、胎土：白色砂粒・角閃石	
95	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：沈線 交互刺突a、内：摩減、胎土：白色砂粒	
96	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：隆線 半降起線 沈線、内：摩減、胎土：白色・茶褐色砂粒	
97	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：羽状沈線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・織維	
98	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐 外：摩減、内：摩減、胎土：白色砂粒・石英、備考：92に同一	
99	E ② SA2	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：摩減、内：ナデ、胎土：白色砂粒	
100	63② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	浅黃褐 外：綴 RL 縄文(筋跡あり)→四縞 交互刺突c、内：横ナデ、胎土：白色砂粒	
101	E ② SA3	床直	縄文	深鉢	D	縦 外：羽状縄文→綴ぎ手文、半降起線 交互刺突b、内：摩減、胎土：白色砂粒	
102	E ② SA3	覆土	縄文	深鉢	C	に赤い帶 外：綴 RL 縄文→綴ぎ手文 c 交互刺突c、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒	
103	E ② SA3	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：綴ぎ手文 半降起線 斜行沈線、内：摩減、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英	
104	63② SA4	床面	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：綴 LR 縄文→綴手文、内：ナデ・オサエ、胎土：白色砂粒	
105	63② SA3	床直	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：隆面貼り付け 連続刺突 矢羽状文 四縞 交互刺突c、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・金雲母	
106	E ② SA3	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い帶 外：隆面貼り付け 連続刺突 矢羽状文 四縞 交互刺突c、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英	

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
107	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	褐色	外：縦帶貼り付け 交互刺突c 矢羽状文・凹線 連続刺突、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
108	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	褐色	外：RL 繩文→櫛ぎ手文a 連続刺突 交互刺突c、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
109	E㉙SA3	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：LR 繩文→櫛ぎ手文c 半隆起線 交互刺突b、内：摩減、胎土：白色砂粒
110	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：RL 繩文 連線 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
111	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦帶貼り付け 櫛ぎ手文c 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
112	63㉙SA4	床直	縄文	突起	D	褐色	外：縦帶貼り付け 檻
113	63㉙SA4	縄文	把手	D	にい・黄青	外：縦縞貼り付け 内：ナデ、胎土：白色砂粒	
114	63㉙SA4	覆土	縄文	台付深鉢	C	にい・黄青	外：凹線(渦巻文) 矢羽状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
115	63㉙SA4	覆土	縄文	突起	D	にい・黄青	外：四線(渦巻文) 矢羽状文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
116	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
117	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文→半隆起線 連続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
118	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：摩減、内：横ナデ、胎土：金雲母
119	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・褐	外：縦 RL 繩文(結束あり)→隆線 平行沈線、内：摩減、胎土：白色砂粒・石英
120	E㉙SA3	覆土	縄文	深鉢	D	にい・褐	外：ミガキ、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：1081同一
121	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
122	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・褐	外：摩減、内：ナデ、胎土：白色砂粒
123	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：羽状繩文→Y字懸垂文 平隆起線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
124	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：羽状繩文→Y字懸垂文 平隆起線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：1231同一
125	E㉙SA3	床直	縄文	深鉢	D	褐色	外：半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
126	E㉙SA3	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
127	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文(結束あり)→隆線 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
128	E㉙SA3	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文(結束あり)→半隆起線、内：オサエ?、胎土：白色砂粒
129	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：羽状繩文→Y字 摩減 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母、備考：1231同一
130	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：縦 RL 繩文→隆線 櫛ぎ手文b 半隆起線、内：摩減、胎土：白色砂粒
131	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文→→櫛ぎ手文b 半隆起線 連続刺突、内：摩減、胎土：白色砂粒・角閃石
132	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
133	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	赤褐色	外：隆線 半隆起線 矢羽状文、内：摩減、胎土：白色砂粒
134	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起線、内：摩減、胎土：白色砂粒
135	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：縦 RL 繩文(結束あり) 連続刺突、内：摩減、胎土：白色砂粒
136	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：縦 RL 繩文(結束あり) 隆線、内：摩減、胎土：白色砂粒
137	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文(結束あり)、内：摩減、胎土：白色砂粒
138	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文(結束あり) 隆線、内：摩減、胎土：白色砂粒
139	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：羽状繩文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
140	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文→半隆起線 摻線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
141	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
142	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
143	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：ミガキ、胎土：金雲母
144	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：LR 繩文、内：摩減、胎土：白色砂粒
145	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	褐色	外：縦 RL 繩文、内：摩減、胎土：白色砂粒
146	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：摩減、胎土：白色砂粒
147	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：縦 RL 繩文、内：ミガキ、胎土：金雲母
148	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：半隆起線 斜行沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
149	E㉙SA3	K2	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：隆線(糊み目あり) 半隆起線 刺突 U字文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
150	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・褐	外：LR 繩文 亜輪 三角形文 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
151	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	浅黃褐	外：半隆起線 斜行沈線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
152	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：沈線 交互刺突c、内：ナデ、胎土：白色砂粒
153	63㉙SA4	床直	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：平行沈線 交互刺突c、内：ナデ、胎土：白色砂粒、備考：1231同一
154	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：平行沈線、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
155	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	黒褐	外：隆帶貼り付け 摻線、内：摩減、胎土：白色砂粒
156	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	にい・黄青	外：RL 繩文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
157	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線 交互刺突c 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
158	63㉙SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：RL 繩文 亜輪 半隆起線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：1571同一

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
159	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	明赤褐	外：RL 繩文 亂線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
160	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
161	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線 交互刺突c 沈線、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
162	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線 交互刺突c、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
163	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
164	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線 交互刺突c、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
165	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線 交互刺突c、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒、備考：157に同一
166	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：縦 RL 繩文(結束あり)、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：157に同一
167	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：縦 RL 繩文 コンバス文 半隆起線 交互刺突c、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：157に同一
168	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：縦 RL 繩文(結束あり)→隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：157に同一
169	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：縦 RL 繩文(結束あり)、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：157に同一
170	63②SA4	覆土	縄文	深鉢	D	赤褐	外：ナデ オサエ、内：ミガキ、胎土：白色紗粒、金雲母
171	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒
172	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
173	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
174	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：171に同一、炭化物付着
175	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
176	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
177	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
178	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：横ナデ、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
179	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
180	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色紗粒、備考：171に同一
181	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：捨田川画面 四線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色紗粒
182	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色紗粒
183	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	C	褐色	外：X状把手 隆線、側引文、内：横ナデ、胎土：金雲母
184	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：無文、内：横ナデ、胎土：白色紗粒・金雲母
185	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：無文?、内：摩滅、胎土：白色紗粒
186	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：ナデ、内：摩滅、胎土：白色紗粒、備考：澤尻系の成都?
187	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：隆線、内：ナデ、胎土：白色紗粒
188	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	橙	外：隆線 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色紗粒・石英
189	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐	外：羽状縄文(結束あり)→四線、内：摩滅、胎土：白色紗粒
190	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：四線、内：摩滅、胎土：白色紗粒・石英
191	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	黒點	外：隆線 平隆起線、内：ミガキ、胎土：白色紗粒
192	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：隆線 平隆起線、内：ミガキ、胎土：白色紗粒
193	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：捨子目文 半隆起線、内：ナデ、胎土：茶褐色紗粒・金雲母
194	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐	外：LR 繩文→擦ぎ手文c、内：ミガキ、胎土：白色紗粒・石英
195	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：角押文 摟線 三角彫去文(内面)、内：ミガキ、胎土：金雲母
196	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：交瓦刺突b 半隆起線、内：ミガキ、胎土：金雲母
197	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐	外：LR 繩文 半隆起線 隆線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色紗粒・石英
198	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：縦 LR 繩文→半隆起線 隆線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色紗粒・石英、備考：197に同一
199	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰褐	外：縦 LR 繩文→半隆起線 隆線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色紗粒
200	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：縦 RL 繩文→隆線、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色紗粒・金雲母
201	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：LR 繩文(結束あり)、内：ミガキ、胎土：金雲母
202	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：縦 RL 繩文、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色紗粒・角石
203	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	褐色	外：RL 繩文 隆線、内：摩滅、胎土：金雲母
204	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：羽状縄文、内：摩滅、胎土：白色紗粒
205	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：縦 RL 繩文 隆線、内：摩滅、胎土：金雲母・石英
206	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：RL 繩文 連続刺突 内：ミガキ、胎土：茶褐色紗粒・石英
207	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：RL 繩文、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色紗粒・石英
208	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：縦 RL 繩文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色紗粒
209	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い褐	外：LR 繩文、内：ナデ、胎土：白色紗粒・織維
210	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	灰黃褐	外：LR 繩文、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色紗粒・石英
211	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：RL 繩文、内：ミガキ、胎土：白色紗粒
212	E ② SA4	覆土	縄文	深鉢	D	に赤い黄青	外：縄文→Y字彌系文 平行沈線、内：ナデ、胎土：白色紗粒

No	出土遺物	場所	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
213	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 嶺山 R 繩文(結束あり)→ Y 字懸垂文、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・石英
214	E ② SA4	覆中	繩文	浅鉢	D	明赤褐色	外: 平行沈線 交互刺突 b、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・金雲母・石英
215	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・褐	外: 隆縫 交互刺突 c、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・石英
216	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 三角形去文、内: ナデ。胎土: 白色砂粒
217	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・褐	外: 交互刺突 c 平行沈線 連続刺突、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
218	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 平行沈線 西線、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
219	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	黒褐色	外: 平行沈線、内: 摩滅、胎土: 白色・茶褐色砂粒
220	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 突起(内部)、内: ナデ。胎土: 金雲母・角閃石
221	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: LR 繩文一縦縫、内: 摩滅、胎土: 白色・茶褐色砂粒
222	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 隆縫、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
223	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	黒褐色	外: 格子目文 平隆起線、内: ミガキ、胎土: 金雲母
224	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・褐	外: 交互刺突 c 平隆起線 連続刺突、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
225	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	明赤褐色	外: 平行沈線、内: ナデ、胎土: 金雲母
226	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	明赤褐色	外: し字状紋 四線、内: オサエーナデ、胎土: 白色砂粒・金雲母
227	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	明赤褐色	外: 矢羽状文、内: 摩滅、胎土: 金雲母
228	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 平行沈線 切状繩文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
229	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	赤褐色	外: 半隆起線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
230	E ② SA4	床直	繩文	深鉢	D	赤褐色	外: 隆縫 半隆起線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
231	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・褐	外: 四線、内: ミガキ、胎土: 金雲母
232	E ② SA4	覆中	繩文	浅鉢	D	浅赤褐色	外: 隆縫 半隆起線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・石英
233	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 半隆起線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
234	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: LR 繩文一縦縫 平隆起線、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒・石英
235	E ② SA4	覆中	繩文	深鉢	D	に赤・褐	外: 平隆起線 平行沈線、内: 摩滅、胎土: 白色・茶褐色砂粒・石英
236	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・赤褐色	外: 四線 格子目文 波状態垂文 交互刺突 c 溝渕三文義、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
237	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・赤褐色	外: RL 繩文 旋 RL 繩文(結束あり) 隆縫、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
238	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	C	に赤・赤褐色	外: 縱 RL 繩文(結束あり)、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 237に同一
239	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・赤褐色	外: 如意紋突起 平行沈線、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
240	E ② SA5	覆土	繩文	突起	D	に赤・赤褐色	外: ミガキ 円孔、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
241	E ② SA5	P12	繩文	深鉢	D	に赤・赤褐色	外: 縱 LR 繩文一隆縫 沈縫、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 241に同一
242	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・赤褐色	外: 縱 LR 繩文一隆縫 沈縫、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 241に同一
243	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 縱 LR 繩文一凹縫 列点文、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
244	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 猫形文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・纖維
245	E ② SA5	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 角押文、内: 摩滅、胎土: 金雲母
246	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 隆縫 平行沈線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
247	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 半隆起線、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒・石英
248	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 四縫 波状沈線、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
249	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	黒褐色	外: 四縫 波状沈線、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
250	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	赤褐色	外: 羽状繩文、内: ナデ、胎土: 白色砂粒
251	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 縱 RL 繩文一波状態垂文、内: ミガキ、胎土: 金雲母
252	E ② SA5	覆土	繩文	深鉢	D	赤褐色	外: 縱 RL 繩文一凹縫、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
253	E ② SA5	床直	繩文	深鉢	D	に赤・赤褐色	外: 四縫 波状沈線、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒、備考: 248に同一
254	E ② SA6	床直	繩文	深鉢	B	に赤・黄緑	外: 縱 LR 繩文(結束あり)→ Y 字懸垂文、内: オサエーナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
255	E ② SA6	床直	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 縱 RL 繩文(結束あり)→ Y 字懸垂文(側突あり) 連続刺突、内: 横ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
256	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	C	に赤・黄緑	外: 三角形去文 沈縫、内: 横ナデ、胎土: 白色砂粒・石英
257	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 隆縫 平隆起線 交互刺突 b、内: 隆縫、ナデ、胎土: 白色砂粒・金雲母
258	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 隆縫 指頭圧痕文、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
259	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 指頭圧痕文、内: 摩滅、胎土: 白色・茶褐色砂粒
260	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 隆縫 し字状文、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
261	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 無文、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
262	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: LR 繩文 旋縫 平隆起線 交互刺突 c、内: 横ナデ、胎土: 茶褐色砂粒・金雲母・角閃石
263	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	に赤・黄緑	外: 隆縫 沈縫 平隆起線、内: ナデ、胎土: 白色・茶褐色砂粒・角閃石
264	E ② SA6	覆土	繩文	深鉢	D	黒褐色	外: RL 繩文 平隆起線 平行沈線 交互刺突 c、内: ナデ、胎土: 白色砂粒・金雲母

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	柱法・文様・特徴
265	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	灰灰	外: LR 縦文 平隣起線 斜線、内: 横ナダ、胎土: 黒灰
266	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 隆線 平行沈線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
267	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外: 平隣起線 平行沈線、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
268	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 平隣起線(一部爪形文) 交互刺突b、内: 横ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
269	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: Y字彌文 文様、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
270	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: RL 縦文→平隣起線 連続刺突、内: 横ナダ、胎土: 茶褐色砂粒・石英
271	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: RL 縦文→平隣起線 連続刺突、内: 横ナダ、胎土: 茶褐色砂粒・石英
272	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 平隣起線 連続刺突、内: 横ナダ、胎土: 金雲母
273	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: RL 縦文→平隣起線 交互刺突c、内: 横ナダ、胎土: 茶褐色砂粒・石英
274	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: RL 縦文→平隣起線 連続刺突、内: 横ナダ、胎土: 茶褐色砂粒・石英
275	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い赤褐	外: 四線、内: ナダ、胎土: 金雲母
276	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 進撃文、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
277	E ② SA6	床面	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 斜線、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
278	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢?	D	に古い黄青	外: 爪状横文+ケズリ、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
279	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: RL 縦文、内: ケズリ+ナダ、胎土: 白色砂粒
280	E ② SA6	床面	縦文	深鉢	D	明赤褐	外: 隆線 四線、内: オサエ?、胎土: 白色砂粒・金雲母
281	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 平行沈線、内: ナダ、胎土: 白色砂粒
282	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 無筋横文、内: 摩滅、胎土: 白色砂粒
283	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 爪状横文、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒・金雲母
284	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 平隣起線 連続刺突、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
285	E ② SA6	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 斜線、内: 摩滅、胎土: 金雲母
286	E ② SA7	炉体	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: LR 縦文→継ぎ手文c、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
287	E ② SA7	炉体	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外: LR 縦文→継ぎ手文c、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒、備考: 286に同一
288	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
289	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
290	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 288に同一
291	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
292	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 288に同一
293	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 288に同一
294	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 288に同一
295	E ② SA8	炉	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 288に同一
296	E ② SK9	床面	縦文	浅鉢	B	浅黄褐	外: 隆線 コイル状突起 四線、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
297	E ② SP28	覆土	縦文	深鉢	D	浅黄褐	外: 緩 RL 縦文→隆線 平行沈線、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒
298	E ② SJ1	覆土	縦文	深鉢	A	相	外: 無文、内: 赤彩文 ミガキ、胎土: 白色砂粒、備考: 底部摩孔
299	E ② SJ2	覆土	縦文	浅鉢	A	相	外: 無文、内: 赤彩文 ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
300	E ② SJ3	縦文	浅鉢	A	相	外: 無	外: 無
301	E ② SJ4	覆土	縦文	深鉢	A	に古い黄青	外: オサエ+ナダ、内: 横ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒、備考: 一部煙付着
302	E ② SR1	縦文	深鉢	A	に古い黄青	外: 緩 RL 縦文 浅縫(鈎先文)、内: 横ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒	
303	E ② SR2	縦文	深鉢	B	に古い黄青	外: 爪状横文→隆線 半隣起線 継ぎ手文e、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒	
304	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 四線、矢羽状文、内: ケズリ+ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
305	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	A	規範	外: ナダ、内: ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
306	E ② SN1	覆土	縦文	突起	D	に古い黄青	外: 四線(鈎先文)、内: ナダ、胎土: 白色砂粒・黒灰
307	E ② SN1	覆土	縦文	突起	D	に古い黄青	外: 四線、内: 四線、胎土: 白色・茶褐色砂粒
308	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 隆線 矢羽状文、内: ケズリ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
309	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文→半隣起線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
310	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文→四線 隆線、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
311	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 隆線、内: ナダ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
312	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 隆線 平行沈線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
313	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	規範	外: RL 縦文→半隣起線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒
314	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 平行沈線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・角凹石
315	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外: 緩 RL 縦文、内: ナダ、胎土: 白色砂粒
316	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 斜線、内: 摩滅、胎土: 白色・茶褐色砂粒・石英
317	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	相	外: 緩 RL 縦文→半隣起線、内: ミガキ、胎土: 白色・茶褐色砂粒
318	E ② SN1	覆土	縦文	深鉢	D	に古い黄青	外: 斜線、内: ミガキ、胎土: 白色砂粒・石英
319	遺構外	E ②	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外: 継ぎ手文a 平行沈線 交互刺突a Y字彌文、内: 横ナダ、胎土: 白色砂粒・石英

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
320	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：隆線 半隆起縫 連続刺突。内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石 外：耳状突起 沈線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
321	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：耳状突起 沈線、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
322	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい橙	外：耳状突起 連続刺突。内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石
323	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	黒灰	外：耳状突起 連続刺突。内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：322に同一
324	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：耳状突起 連続刺突 半隆起縫。内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
325	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：耳状突起 連続刺突 半隆起縫。内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石、備考：320に同一
326	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：RL 縦文 隆線(姫み目あり) 矢羽状文 連続刺突 交互刺突、内：ミガキ、胎土：茶褐色砂粒・金雲母
327	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：RL 縦文 隆線(姫み目あり)、内：ミガキ。胎土：白色・茶褐色砂粒・金雲母、備考：326に同一
328	遺構外	E(2)	縦文	突起	D	にぶい褐	外：隆線 四面、内：ナデ、胎土：茶褐色砂粒
329	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい褐	外：隆線 四面(刺先文)、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
330	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：隆線 半隆起縫 イコイル状突起 内：摩滅、胎土：白色砂粒
331	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：橢状突起 半隆起縫 爪形文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
332	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい橙	外：LR 縦文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
333	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：平行沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
334	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：無文、内：ナデ・ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
335	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	浅黄橙	外：無文?、内：摩滅、胎土：白色・茶褐色砂粒
336	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	A	にぶい青	外：隆線 半隆起縫、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
337	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	褐	外：隆線 沈線 交互刺突 連続刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石
338	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起縫 交互刺突、内：ナデ、胎土：白色砂粒
339	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：隆線 四面、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
340	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：隆線 半隆起縫、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
341	遺構外	E(2)	縦文	浅鉢	D	にぶい青	外：隆線 四面、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒、備考：赤彩
342	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	黑褐	外：沈線 交互刺突 連続刺突 玉泡三文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
343	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：LR 縦文 隆線 半隆起縫、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
344	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	褐	外：隆線(刺先文)、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
345	遺構外	E(2)	縦文	浅鉢?	D	にぶい青	外：隆線 四面、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
346	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	灰褐	外：沈線、内：ナデ、胎土：白色砂粒・角閃石
347	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線、内：摩滅、胎土：白色砂粒・角閃石
348	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい橙	外：半隆起縫、内：摩滅、胎土：白色砂粒・石英
349	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外：半隆起縫 四面、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
350	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：縦 RL 縦文+沈線、内：摩滅、胎土：白色砂粒
351	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：隆線 沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母
352	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：隆線 半隆起縫 平行沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母、備考：351に同一
353	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	褐	外：隆線 沈線、内：摩滅、胎土：金雲母、備考：351に同一
354	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	褐	外：隆線 沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母、備考：351に同一
355	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：RL 縦文+隆線 平行沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母
356	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：RL 縦文?+平行沈線、内：ミガキ、胎土：金雲母
357	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	明赤褐	外：LR 縦文+沈線、内：横ナデ、胎土：金雲母・石英
358	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：熱系文+半隆起縫 連続刺突 内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
359	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：半隆起縫 玉泡三文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
360	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：突起(連続刺突) 交互刺突 b、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
361	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：半隆起縫 連続刺突 交互刺突 c、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母
362	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	橙	外：縦 RL 縦文、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒
363	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	灰褐	外：縦 RL 縦文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母
364	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	暗褐	外：縦 LR 縦文、内：横ナデ、胎土：金雲母
365	遺構外	E(2)	縦文	台付鉢	D	にぶい青	外：隆線 半隆起縫、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
366	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・織維
367	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・織維、備考：366に同一
368	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	にぶい青	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・織維、備考：366に同一
369	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・織維、備考：366に同一
370	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	灰黄褐	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・織維、備考：366に同一
371	遺構外	E(2)	縦文	深鉢	D	褐	外：羽状縄文、内：ナデ、胎土：白色砂粒・織維、備考：366に同一

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
372	遺構外	E ②	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：横ナデ、胎土：白色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
373	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
374	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
375	遺構外	E ②	繩文	漆鉢	D	灰黃色	外：羽状縞文。内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・鐵錫。
376	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：横ナデ、胎土：白色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
377	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：横ナデ、胎土：白色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
378	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：ナデ、胎土：白色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
379	遺構外	E ②	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：ナデ、胎土：白色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
380	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：横ナデ、胎土：白色砂粒・鐵錫。備考：366に同一
381	遺構外	E ②	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文(結束あり)、内：摩減、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石
382	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文(結束あり)・隆線・平行沈線。内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石。備考：388に同一
383	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
384	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・角閃石。備考：388に同一
385	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒。備考：388に同一
386	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文。内：オサエ、胎土：白色・茶褐色砂粒
387	遺構外	E ③	繩文	注口浅鉢	A	に赤い青帯	外：縦RL繩文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒。備考：包含層
388	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：意匠突起・平行沈線・四線。内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒。備考：包含層
389	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文・半隆起線・円形斜切・交互斜切。内：ミガキ、胎土：金雲母。備考：包含層
390	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線・半隆起線。内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒。備考：包含層
391	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	黒褐	外：白兆三文・沈線。内：ナデ、胎土：白色砂粒・金雲母・石英。備考：包含層
392	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文・隆線・半隆起線。内：横ナデ、胎土：白色砂粒・雲母。備考：包含層
393	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	飛	外：LR繩文・隆線。内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒。備考：包含層
394	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	明赤帯	外：平行沈線・四線・隆線。内：摩減、胎土：金雲母・石英。備考：包含層
395	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線(内側)。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
396	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線(内面)。内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒。備考：包含層
397	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	灰黃色	外：雀線(瓜形文)・沈線。内：ミガキ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
398	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：凹線、胎土：白色砂粒。備考：包含層
399	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	黒褐	外：隆線・半隆起線・矢羽状文。内：ナデ、胎土：金雲母。備考：包含層
400	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：半隆起線・斜行沈線。内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英。備考：包含層
401	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	飛	外：意匠突起紋文・平行沈線。内：ミガキ、胎土：金雲母・石英。備考：包含層
402	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：半隆起線。内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英。備考：包含層
403	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文・沈線。内：横ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
404	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：羽状縞文→半隆起線(瓜形文)・連續斜刺。内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英。備考：包含層
405	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線・半隆起線・雀文。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
406	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線・半隆起線・三文。内：ミガキ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
407	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	灰黃色	外：羽状縞文・隆線(瓜形文)。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
408	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	飛	外：LR繩文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
409	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線・半隆起線。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
410	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	灰黃色	外：沈線(斜先文)。内：ミガキ、胎土：白色砂粒・角閃石。備考：包含層
411	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	赤褐	外：隆線・平行沈線。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
412	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	飛	外：継ぎ手文・半隆起線。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
413	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線・半隆起線。内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母。備考：包含層
414	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	飛	外：隆線・凹線。内：ミガキ、胎土：白色砂粒・金雲母。備考：包含層
415	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：縦RL繩文・半隆起線。内：摩減、胎土：白色砂粒。備考：包含層
416	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	飛	外：凹線・交互斜切 ?, 内：摩減、胎土：白色砂粒。備考：包含層
417	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	明赤帯	外：凹線(渋巻文)・矢羽状文。内：ミガキ、胎土：茶褐色砂粒。備考：包含層
418	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	明赤帯	外：隆線・半隆起線。内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：包含層
419	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：横状把手・凹線。内：摩減、胎土：金雲母
420	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	灰褐	外：凹形斜切・瓜形文・平行沈線。内：ナデ、胎土：白色砂粒
421	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：U字状文・平行沈線。内：摩減、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
422	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：半隆起線(連續斜刺)・撲杀文・沈線。内：ミガキ、胎土：白色砂粒
423	遺構外	E ③	繩文	漆鉢	D	に赤い青帯	外：隆線、内：摩減、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英

No	出土遺構	層位	種別	部種	遺存	色調	技法・文様・特徴
424	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：羽状縞文、内：ナデ、胎土：白色砂粒。備考：油修孔あり
425	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	橙	外：縦 LR 繩文？、内：ケズリ、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
426	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	褐色	外：縦 LR 繩文→隆線(糸形文) 平行沈線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英
427	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：無筋縞文・門線、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
428	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	褐色	外：沈線、内：ケズリ、胎土：白色砂粒・雲母・鐵錆
429	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	褐色	外：糸形文、内：ケズリ、胎土：白色砂粒・雲母・鐵錆
430	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：羽状縞文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・鐵錆
431	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：羽状縞文、内：ケズリ、胎土：白色・茶褐色砂粒・鐵錆
432	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：無筋羽状縞文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒
433	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：羽状縞文、内：横ナデ、胎土：白色砂粒・石英
434	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：羽状縞文、内：横ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒・石英
435	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	灰褐色	外：縦 LR 繩文→凹線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
436	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：隆線・半隆起線 三爻文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒・石英
437	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：隆線・半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
438	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：隆線・半隆起線、内：ナデ、胎土：白色砂粒
439	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：半隆起線 三爻文、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
440	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：隆線・半隆起線 交互鉄突 b、内：摩減、胎土：白色砂粒
441	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：半隆起線 平行沈線 交互鉄突 b、内：ミガキ、胎土：白色・茶褐色砂粒・金雲母
442	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：隆線・半隆起線、内：ミガキ、胎土：白色砂粒
443	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：半隆起線 内：ミガキ、胎土：白色・黑色砂粒・雲母
444	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	灰黃褐色	外：縦 LR 繩文、内：ナデ、胎土：白色・茶褐色砂粒
445	遺構外	E ②	繩文	深鉢	D	に赤い褐色	外：半隆起線 三爻文、内：ナデ、胎土：白色砂粒
446	遺構外	E ②	繩文	空甌	D	灰褐色	外：隆線 三爻文 通鉄突穴、内：ナデ、胎土：白色砂粒・石英
586	3①SA1	床直	甌	灰	D	灰灰褐色	外：荒沈縞文内を利突文・LR 繩文で充填、内：右横ハケ→ナデ
587	3①SA1	覆土	甌	灰	D	黑褐色	外：荒沈縞文内を利突文・LR 繩文で充填、内：横ハケ→ナデ
588	3①SA1	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：口唇 LR 繩文 口縁 LR 繩文→荒工具利突文、内：ナデ
589	3①SA1	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：荒沈縞文内を利突文・LR 繩文で充填、内：調整不明
590	3①SA1	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：荒沈縞文内を利突文・LR 繩文で充填、内：調整不明
591	3①SA1	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：口唇 LR 繩文
592	3①SA1	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：横横羽状文、内：ハケ→横ミガキ
593	3①SA1	床直	甌	灰	D	灰灰褐色	外：横横羽状文、内：横ミガキ
594	3①SA1	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：横横羽状文→棒状工具利突文、内：横ミガキ？
595	3①SA1	床直	甌	灰	D	灰灰褐色	外：横横羽状文、内：横ミガキ
596	3①SA1	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：荒沈縞文・棒状工具利突文、内：調整不明
597	3①SA2	床直	甌	灰	A	に赤い褐色	外：彫部付窄孔2ヶ、剥上荒沈縞区画内を彫押引文で充填 剥下荒沈縞区画内を LR 繩文で充填 ミガキ、底：ケズリ？、内：調整不明
598	3①SA2	床直	甌	灰	D	橙	外：口唇部押捺彫 脊部横横羽状文？、内：調整不明 接合痕
599	3①SA2	覆土	甌	灰	C	に赤い褐色	外：拵三角文 ミガキ？、内：ケズリ→ミガキ？、内：ナデ？
600	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：口唇 LR 繩文・棒状工具押捺、内：横ハケ→横ミガキ
601	3①SA2	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：荒沈縞文、内：調整不明
602	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：荒沈縞文内を利突文・LR 繩文+荒淡状文で交互充填、内：ナデ？
603	3①SA2	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：荒沈縞区画内を利突文で充填、内：調整不明
604	3①SA2	覆土	甌	灰	D	橙	外：荒沈縞文内を利突文・LR 繩文で充填、内：ナデ
605	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：彫部縫区画内を利突文で充填、内：調整不明
606	3①SA2	卯	甌	灰	D	に赤い褐色	外：荒淡縞文、内：利突文で充填、内：ナデ
607	3①SA2	床直	甌	灰	D	に赤い褐色	外：荒淡縞文、円形浮文、内：ナデ
608	3①SA2	卯	甌	灰	D	に赤い褐色	外：荒淡縞文、横ハケ、内：ナデ
609	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：口唇 LR 繩文 利突彫横羽状文？、内：横ミガキ
610	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：口唇工具利突文、内：調整不明
611	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：口唇 LR 繩文・棒状工具押捺、内：横ミガキ
612	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：横横羽状文→棒状工具利突文、内：調整不明
613	3①SA2	覆土	甌	灰	D	に赤い褐色	外：横横羽状文→棒状工具利突文、内：横ミガキ？
614	3①SA2	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：横横羽状文→棒状工具利突文、内：横ミガキ
615	3①SA2	覆土	甌	灰	D	灰灰褐色	外：横横羽状文、内：横ハケ
616	3①SA2	覆土	甌	灰	D	橙	外：横横羽状文、内：横ミガキ
617	3①SA2	覆土	甌	灰	D	褐色	外：口唇 LR 繩文 口縁折り返し 剥部横ハケ→ミガキ、内：横ハケ→ミガキ

No	出土遺構	部位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
618	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文 頸部鹿沈縞区画内を LR 織文で充填。内：ナデ
619	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文 頸部鶴斜縞文+鹿工具柄交叉。内：横ミガキ
620	4①SA1	床直	弥生	鉢	D	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文 頸部鹿沈縞文/連続斜交文 頸部重連弧文内を連続斜交文+RL 織文で充填。内：ナデ
621	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：頸部貼付突帯+連続斜交文，内：ナデ
622	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：頸部貼付突帯+連続斜交文/連続斜交文，内：調整不明
623	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：鹿沈縞区画内を区画おきに RL 織文で充填+連続斜交文。内：調整不明
624	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：連続斜交文/鹿系縞文/円形浮文。内：調整不明
625	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：懸垂系/鶴斜縞文を鹿沈縞/連続斜交文で区画/鹿沈縞区画 橫ハケ。内：調整不明
626	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：鹿沈縞区画内を連続斜交文+LR 織文で充填。内：ナデ
627	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：鹿沈縞文内を連続斜交文+LR 織文で充填。内：ナデ
628	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：鹿沈縞文内を斜交文+LR 織文/鶴直縞文で充填。内：調整不明
629	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：口唇 LR 織文+梯状工具押捺、頸部鶴斜縞羽状文。内：調整不明
630	4①SA1	炉	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：口唇 LR 織文+梯状工具押捺、頸部鶴斜縞羽状文。内：調整不明
631	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：口唇 LR 織文+梯状工具押捺、頸部鶴斜縞羽状文。内：調整不明
632	4①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：梯状羽状文。内：調整不明
633	4①SA2	床直	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文 頸部鹿沈縞区画内を LR 織文で充填。内：調整不明
634	4①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：鹿沈縞区画内を梯引立文+LR 織文で交互充填。内：ナデ
635	4①SA2	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：鹿沈縞区画内を梯引立文+LR 織文で交互充填。内：ナデ
636	4①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：梯引立文/LR 織文/梯彌下文。内：ナデ
637	4①SA2	床直	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：懸垂系/鶴斜縞文を鹿沈縞/連続斜交文で区画の周囲を LR 織文で充填。内：調整不明
638	4①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：梯引立文/鹿沈縞区画内を連続斜交文+鶴直縞文で充填。内：ナデ
639	4①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：梯引立文/鹿沈縞区画内を連続斜交文+鶴直縞文で充填。内：ナデ
640	4①SA2	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：鶴斜縞羽状文?→鈎工具柄交叉。内：横ミガキ
641	4①SA2	床直	弥生	鉢	D	に赤い黄橙	外：口唇 鹿沈縞山形文?内を LR 織文で充填。内：ナデ
642	10①SA1	床面	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：頸部鹿沈縞区画内を梯工具柄交叉を施文 ミガキ?、内：調整不明
643	10①SA1	覆土	弥生	壺	D	浅黄褐色	外：頸部鹿沈縞区画内に鹿山形文を施文。内：調整不明
644	10①SA1	床面	弥生	壺	A	に赤い粉	外：頸部鶴斜縞羽状文 剥下ミガキ?、底：ナデ?ミガキ?、内：横工具ナデ?
645	10①SA1	P2	弥生	壺	B	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文 頸部鶴斜縞羽状文。内：調整不明
646	10①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：頸部鶴斜縞文 頸部鶴波状文。内：横ハケ+横ミガキ
647	10①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い粉	外：口唇 LR 織文 頸部鶴波状文。内：調整不明 接合痕
648	18①SA1	床直	弥生	壺	D	横	外：口唇 LR 織文→指揮押捺。内：ナデ
649	18①SA1	床直	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ。内：調整不明
650	25①SA1	炉	弥生	壺	D	浅黄褐色	外：口唇 LR 織文 頸部鹿沈縞区画 剥下鹿沈縞区画内を LR 織文で充填?、内：ナデ
651	29①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文 頸部鶴横羽状文。内：調整不明
652	29①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ?、内：調整不明
653	29①SA2	覆土	弥生	鉢	D	横	外：口唇山形突起ヶ残 彩影 横ミガキ。内：赤彩接ミガキ
654	29①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：剥離縞區内を LR 織文+LR 織文+鹿波状文で交互充填。内：ナデ
655	29①SA2	覆土	弥生	壺	C	に赤い黄橙	外：懸垂系/鶴斜縞文を連続斜交文で区画) 橫ハケ。内：調整不明
656	30①SA1	床面	弥生	壺	D	に赤い黄橙	外：鹿沈縞区画内を区画おきに LR 織文で充填。内：ナデ 接合痕
657	30①SA1	床面	弥生	壺	D	に赤い粉	外：鶴斜縞羽状文 橫ミガキ。内：ハケ→ミガキ?
658	30①SA1	覆土	弥生	?	A	に赤い黄橙	外：赤ミガキ。胸内：ケズリ
659	30①SA1	床面	弥生	有孔	C	に赤い黄橙	外：胸部調整不良 不底扣捺オサキ 底：調整不明 空孔1ヶ。内：調整不明
660	32①SA1	覆土	弥生	壺	C	灰黃褐色	外：調整不良。底：ケズリ→ナデ。内：ナデ
661	32①SA1	覆土	弥生	有孔	D	に赤い黄橙	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ 空孔1ヶ。内：調整不明
662	32①SA1	覆土	弥生	壺	B	横	外：口唇 LR 織文 (頸部鶴横羽状文?)→ハケ工具柄交叉/4ヶ残 頸部鶴波状文(↓)→鶴垂下文4ヶ(場所により本数異なる)/ハケ工具柄交叉 頸部鶴横羽状文。底：ケズリ→ナデ。内：横ミガキ
663	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い粉	外：口唇 LR 織文 (頸部鶴横羽状文?)。内：横ミガキ
664	32①SA1	覆土	弥生	壺	B	浅黄褐色	外：口唇 LR 織文 (頸部鶴横羽状文) 剥下縞ミガキ?。底：ケズリ→ナデ。内：調整不明
665	32①SA1	床面	弥生	壺	A	に赤い粉	外：口唇 LR 織文→指揮押捺 頸部鶴横羽状文→鉢工具柄交叉 剥下右縞ハケ+右縞ミガキ。底：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→横ミガキ
666	32①SA1	覆土	弥生	壺	B	に赤い黄橙	外：口唇 LR 織文→指揮押捺 頸部鶴横羽状文→頸部鶴直縞文。底：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→横ミガキ

No.	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
667	32①SA1	覆土	弥生	鉢	D	に赤い櫻	外：口唇 LR 織文 脊部荒込縦文両面内を LR 織文で充填／1対穿孔孔×残 脊部荒連弧文内を LR 織文で充填、内：横ミガキ
668	32①SA1	覆土	弥生	鉢	C	に赤い櫻	外：口唇 LR 織文・山形突起2/4ヶ残 脊部横ミガキ、内：横ミガキ
669	32①SA1	覆土	弥生	鉢	C	に赤い黄緑	外：口唇 LR 織文、口縁 LR 織文 脊部右傾ハケ→右傾ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：右傾ハケ→右傾ミガキ
670	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：泡沈縦区両面内を佛手縞文で充填／荒連弧文、内：ナデ
671	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：懸垂文(物語文)と波足文を泡沈縦+連續柄突文(区画)/LR 織文、内：ナデ
672	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：泡沈縦区両面内を連續柄突文・佛手縞文で充填。内：ナデ
673	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：変形工字文／内：連續柄突文で充填、内：調整不明
674	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黄緑	外：施直縦文区両面内を揚斜縞文で充填、内：調整不明
675	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：泡沈縦文内を佛手縞文・LR 織文で充填、内：ナデ
676	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：泡沈縦区両面内を佛手縞文・佛手縞文で充填、内：ナデ
677	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：荒廃山形文内を連續柄突文・佛手縞文で充填、内：ナデ
678	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：施直縦文を荒込縦文で区画、内：ナデ
679	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：泡沈縦文、注口、内：ナデ
680	32①SA1	床直	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：施直縦文(1)→垂草下文、内：調整不明
681	32①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：佛手縞文→ハケ工具柄突文、内：ナデ
682	34①SA4	覆土	弥生	鉢	B	に赤い黄緑	外：口唇 LR 織文 口縁荒込山形文 横ハケ→ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ
683	43①SA2	覆土	弥生	壺	D	黄緑	外：底ミガキ、底：ナデ?、内：左端ミガキ
684	43①SA2	覆土	弥生	鉢	D	に赤い黄緑	外：口唇1対穿孔孔×残 脊部荒連弧文・荒廃山形文内を LR 織文で充填、内：ナデ
685	50①SA10	覆土	弥生	壺	D	浅黄緑	外：口唇 LR 織文 解部貼付突帯+荒工具柄突文・佛手縞文で充填、内：調整不明
686	50①SA10	覆土	弥生	壺	D	浅黄緑	外：口唇荒連工具柄突文 口縁佛手縞工具による羽状柄突文、備考：北陸系
687	50①SA10	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：泡沈縦区両面内を連續柄突文・佛手縞文で充填、内：調整不明
688	50①SA10	覆土	弥生	壺	D	灰黄緑	外：泡沈縦文内を利尻文・LR 織文で充填、内：ナデ
689	50①SA10	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：口唇 LR 織文 脊部横羽状文、内：調整不明
690	50①SA10	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：口唇 LR 織文 脊部横羽状文、内：横ハケ→一部ミガキ
691	51①SA2	床面	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：口唇ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ
692	51①SA2	床面	弥生	壺	B	櫻	外：横ケズリ、底：ケズリ、内：ナデ
693	51①SA2	床面	弥生	鉢	D	櫻	外：頭部荒込縦区画・連續柄突文 脊部荒連弧文内を LR 織文で充填／円形柄突、内：調整不明
694	52②SA1	床直	弥生	壺	C	に赤い黄緑	外：口唇 LR 織文 脊部横羽状文→ハケ工具柄突文 脊下横ハケ→ミガキ、内：調整不明
695	52②SA1	床	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：右縁ハケ 接合痕、内：調整不明
696	52②SA3	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：泡沈縦区両面内を佛手縞文・佛手縞文で交瓦充填／連續柄突文、内：横ハケ→ナデ、備考：K1?
697	52②SA3	床	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：佛手縞文・佛直縦文 下縫ドハケ→ミガキ、内：横ハケ→ナデ 接合痕
698	52②SA3	床面	弥生	壺	C	に赤い黄緑	外：胸上荒沈縦区両面内を連續柄突文・LR 織文で交互充填 脊中荒連弧文内を連續柄突文・LR 織文・佛手縞文で充填、内：ナデ 接合痕
699	52②SA3	床面	弥生	壺	B	に赤い黄緑	外：口唇 LR 織文→指跡押印 脊部横羽状文→連續柄突文 下縫ハケ→ミガキ?
700	53②SA3	炉	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：頭部荒込縦区画 横ハケ、内：ナデ
701	53②SA3	炉	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：底ミガキ 施直縦文オサエ、底：ケズリ→ミガキ、内：ナデ
702	53②SA3	床直	弥生	壺	D	灰黄緑	外：佛手縞文・佛直縦文を泡沈縦で区画、内：調整不明
703	53②SA3	床面	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：佛手縞文、内：調整不明
704	53②SA3	床面	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：懸垂文(利突文)を泡沈縦で区画?、内：ナデ
705	53②SA3	床直	弥生	壺	D	櫻	外：泡沈縦区両面内を LR 織文で充填、内：ナデ 接合痕
706	53②SA3	床直	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：泡沈縦区両面内を佛手縞文・佛直縦文で充填、内：調整不明
707	53②SA3	炉	弥生	壺	D	に赤い黄緑	外：横横羽状文?、内：横ミガキ
708	53②SA3	床面	弥生	鉢	D	灰黄緑	外：泡沈縦区両面内を連續柄突文で充填 ハケ、内：調整不明
709	53②SA7	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：泡沈縦文内を LR 織文・佛直縦文で交互充填 ハケ、内：ナデ
710	53②SA11	床直	弥生	壺	C	に赤い黄緑	外：脇部横直縦文・佛山型文 脊部横羽状文を佛直縦文で区画、内：横ハケ→ナデ
711	53②SA11	床直	弥生	壺	C	櫻	外：泡沈縦区両面内を LR 織文で充填、内：調整不明
712	53②SA11	床直	弥生	壺	B	に赤い櫻	外：泡沈縦区両面内を佛手縞文・佛直縦文で交互充填 脊下右縁ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
713	53②SA11	床直	弥生	壺	B	に赤い櫻	外：胸上荒沈縦区画・連續柄突文 脊中荒三角文内を LR 織文で充填 脊下ミガキ、内：調整不明

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徵
714	53②SA11	床直	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：頭部貼付突帯+LR 繩文+連続柄突文・荒沈縦区画内を連続柄突文で充填 剥離状態で複数の縦縫合部を有する。内：調整不明、備考：剥離後復元
715	53②SA11	床直	弥生	壺	B	桜	外：口唇 LR 繩文+指頭押捺・頭部連続柄突文・荒沈縦区画内を LR 繩文で充填、内：調整不明、備考：剥離後復元
716	53②SA11	覆土	弥生	壺	B	浅黄褐色	外：頭部貼付突帯・頭部荒沈縦文・荒・通弧文の交互充填・剥離後ミガキ、底：ミガキ、内：調整不明
717	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い桜	外：口唇指頭押捺・頭部荒工具突文、内：調整不明
718	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い桜	外：口唇 LR 繩文、内：調整不明
719	53②SA11	床直	弥生	壺	C	に赤い黄褐色	外：荒沈縦区画内を場縦線+櫛縦斜縦線で交互充填・剥離後ハケ→横ミガキ、底：ミガキ、内：ナデ、備考：2次被熱
720	53②SA11	床直	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：右肩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明、備考：2次被熱
721	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：荒沈縦文・荒来通弧文内を LR 繩文で充填、内：横ハケ→ナデ
722	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：横ハケミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
723	53②SA11	床直	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：口唇ハケ工具突文・頭部剥離状況、内：横ハケ→横ミガキ
724	53②SA11	床直	弥生	壺	B	桜	外：口唇 LR 繩文・頭部剥離状況→荒工具突文・剥離後ハケ→ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明、備考：被熱によるゆがみが若干、復元失敗
725	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：右肩ハケミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：右肩ミガキ→一部ミガキ
726	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：櫛横羽状文→荒工具突文・剥離後ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
727	53②SA11	覆土	弥生	壺	D	黒褐色	外：櫛斜縦文→櫛縦線、ハケ工具突文、内：横ハケ
728	53②SA11	覆土	弥生	壺	C	に赤い黄褐色	外：口唇 LR 繩文+指頭押捺・頭部剥離状況→荒工具突文、内：横ハケ→横ミガキ
729	53②SA11	覆土	弥生	壺	C	に赤い黄褐色	外：口唇 LR 繩文+荒工具突文・頭部剥離羽状文→ハケ工具突文、内：調整不明
730	53②SA11	床直	弥生	壺	D	褐	外：口唇 LR 繩文・頭部剥離羽状文→ハケ工具突文、内：横ミガキ
731	53②SA11	覆土	弥生	鉢	A	浅黄褐色	外：ミガキ底、底：調整不明、内：調整不明
732	53②SA11	床直	弥生	鉢	A	に赤い黄褐色	外：ナデ 接合痕、底：ナデ、内：ナデ 接合痕
733	53②SA11	覆土	弥生	鉢	B	に赤い桜	外：口唇 LR 繩文+頭部荒沈縦文・頭部荒重連弧文内を LR 繩文で充填、底：調整不明、内：ミガキ
734	64①SA1	床直	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：頭部貼付突帯+LR 繩文 剥離後荒沈縦区画・連続柄突文、内：調整不明
735	64①SA1	床直	弥生	壺	D	に赤い桜	外：荒沈縦区画内を櫛縦斜縦線・櫛直縦文で交互充填、内：調整不明
736	64①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い桜	外：櫛曲文(頭面縦文を荒沈縦+連続柄突文で区画)の周囲を LR 繩文で充填、内：調整不明
737	64①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い桜	外：口唇 LR 繩文+櫛ハケミガキ、内：横ミガキ
738	64①SA1	床直	弥生	壺	D	灰	外：口唇 LR 繩文+棒状工具押捺、内：横ハケ→横ミガキ
739	64①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い桜	外：口唇 LR 繩文+頭部剥離羽状文、内：横ミガキ
740	64①SA1	床直	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：櫛横割状況、内：調整不明
741	64①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰	外：櫛横割状況→ハケ工具突文、内：横ハケ→横ミガキ
742	64①SA1	床直	弥生	壺	D	灰	外：櫛横割状況→垂下文、内：横ミガキ
743	64①SA1	床直	弥生	鉢	D	に赤い桜	外：口唇 LR 繩文 口縫跡重要部文内に LR 繩文・竹管文を充填、内：ハケ→ミガキ
744	64①SA1	覆土	弥生	鉢	D	に赤い黄褐色	外：頭部荒沈縦文・頭部荒重連弧文内を連続柄突文填・竹管文、内：横ハケ→ナデ
745	64①SA1	覆土	弥生	壺	D	灰黃褐色	外：口縫凹縦文→荒工具押捺、内：ナデ、備考：条痕文系中期前半?
746	69①SA1	覆土	弥生	壺	D	浅黄褐色	外：口唇 LR 繩文+頭部剥離直縦文、内：調整不明
747	69①SA1	覆土	弥生	鉢	D	灰白	外：頭部荒沈縦区画内を連続柄突文で充填・頭部荒重連弧文内を連続柄突文で充填・円形浮出文、内：調整不明
748	74①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：荒沈縦区画、内：ナデ
749	74①SA1	覆土	弥生	壺	D	桜	外：口唇 LR 繩文+頭部貼付突帯+LR 繩文間に連続柄突文を充填・荒沈縦区画内を LR 繩文+荒沈縦文を連続柄突文で充填・頭上懸垂文(櫛直縦文を荒沈縦区画)の周囲を LR 繩文で充填・頭上懸垂文(櫛直縦文を荒沈縦区画)の周囲を LR 繩文で充填、内：右肩ハケ→ナデ 接合痕
750	74①SA1	覆土	弥生	壺	D	桜	外：口唇 LR 繩文+頭部横ハケ→横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→横ミガキ、備考：剥離後復元
751	74①SA1	覆土	弥生	鉢	C	に赤い黄褐色	外：櫛横羽状文→棒状工具突文、内：横ミガキ
752	74①SA1	覆土	弥生	壺	D	桜	外：櫛横羽状文→棒状工具突文、内：横ミガキ
753	74①SA1	覆土	弥生	壺	B	に赤い黄褐色	外：口唇 LR 繩文+頭部横羽状文→荒工具突文・剥離後ミガキ
754	74①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：口唇 LR 繩文+頭部荒沈縦区画内を LR 繩文で充填 剥離後重連弧文内を LR 繩文・ハケ工具突文で充填、内：ナデ
755	74①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄褐色	外：剥離後荒沈縦区画内を RL 繩文で充填 剥離後重連弧文内を RL 繩文・ハケ工具突文で充填、内：調整不明

No.	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
756	74①SA2	覆土	弥生	鉢	D	に赤い縁	外：口唇 LR 織文 朝部横ハケミガキ？ 内：横ハケ→横ミガキ
757	75①SA1		弥生	壺	D	浅黄緑	外：口唇 LR 織文 朝部荒沈縞区両内を LR 織文充填 剥下荒重山形文を LR 織文で充填。内：ナデ、備考：75① SDZ3取り上げ
758	75①SA1		弥生	壺	D	に赤い縁青	外：荒沈縞区両内を飾短直線文・飾直線文で交互充填。内：調整不明、備考：75① SDZ3取り上げ
759	75①SA1		弥生	壺	D	に赤い縁青	外：剥下荒沈縞区両内を連続斜変文で充填 剥下荒重疊弧文内を連続斜変文・LR 織文で交互充填。ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明、備考：75① SDZ3取り上げ
760	75①SA1		弥生	壺	D	に赤い縁青	外：頸部貼付突穴+LR 織文 朝部荒沈縞区両内を連続斜変文・LR 織文で交互充填。内：ナデ、備考：75① SDZ3取り上げ
761	75①SA1	床直	弥生	壺	D	灰白	外：剥下荒沈縞区両内を LR 織文+下向き荒重疊弧文で充填 朝部荒沈縞区両内を LR 織文+荒沈縞区両内を充填。内：調整不明
762	75①SA1	床直	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：頸部荒沈縞区両内 横ハケミガキ、内：調整不明
763	75①SA1		弥生	有孔壺	D	橙	外：溝削不明、底：ケズリ→ナデ 焼成後？穿孔↓×、内：調整不明、備考：75① SDZ3取り上げ
764	75①SA1		弥生	壺	C	に赤い縁	外：口唇 LR 織文 朝部横羽状文→ハケ工具刺突文 剥下調整不明、内：調整不明、備考：75① SDZ3取り上げ
765	75①SA1		弥生	壺	C	橙	外：口唇 LR 織文+一面削押痕 朝部横羽状文→凹工具刺突文 剥下右端ハケ、内：調整不明、備考：75① SDZ3取り上げ
766	75①SA1		弥生	鉢	B	に赤い縁	外：口唇 LR 織文 朝部荒沈縞文 朝部荒重疊弧文内を LR 織文・連続斜変文で充填 剥下横ハケミガキ、底：ケズリ→ミガキ、備考：75① SDZ3取り上げ
767	75①SA1		弥生	鉢	C	橙	外：口唇 LR 織文 朝部荒沈縞文 朝部荒重疊弧文 調整不明、底：調整不明、内：調整不明、備考：75① SDZ3-4取り上げ
768	75①SA1	床直	弥生	有孔鉢	A	に赤い縁	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ 穿孔↓×、内：調整不明
769	B②SA5	床直	弥生	壺	D	褐灰	外：口唇 LR 織文 横ハケ(崩上端・崩下右端)、内：横ハケミガキ、備考：北傍系
770	B②SA5	覆土	弥生	鉢	D	に赤い縁	外：右端ハケ、内：口唇工具押痕 調整不明、備考：北傍系
771	B②SA5	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：荒疊弧文内を LR 織文・連続斜変文で充填。内：ナデ
772	B②SA5	柱穴	弥生	壺	D	褐灰	外：横ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：横ハケ→縦ミガキ
773	C②SA13	床面	弥生	壺	C	に赤い縁	外：剥下指削凹形文の周囲に LR 織文を充填 剥下荒沈縞文+連続斜変文区画内を飾短直線文・飾直線文で交互充填 剥下調整不明、内：ナデ？
774	C②SA13	覆土	弥生	壺	D	浅黄緑	外：飾短直線文、内：ナデ
775	C②SA13	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：荒沈縞区両内を飾短直線文・飾直線文で充填。内：調整不明
776	C②SA13	覆土	弥生	壺	D	黒褐色	外：梅短羽状文→ハケ工具刺突文、内：調整不明
777	C②SA14	床直	弥生	壺	D	に赤い縁	外：口唇 LR 織文 口唇工具刺突文 横ハケ→横ミガキ、内：調整不明
778	C②SA14	床直	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：荒沈縞区両内を区画ざきに斜削織文で充填？ 連続斜変文、内：調整不明
779	C②SA14	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：荒沈縞区両内を連続斜変文・LR 織文で充填。内：調整不明
780	C②SA14	床直	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：荒沈縞区両内を LR 織文で充填。内：調整不明
781	C②SA14	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：梅短直線文→飾波状文、内：横ハケ→横ミガキ
782	C②SA14	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：梅短羽状文→荒工具刺突文、内：横ハケ→横ミガキ
783	C②SA14	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：梅削状文？→荒工具刺突文、内：調整不明
784	C②SA14	覆土	弥生	鉢	D	に赤い縁青	外：口唇 LR 織文 口唇工具刺突文 横ハケ→横ミガキ、内：ナデ
785	C②SA14	床直	弥生	壺	D	に赤い縁	外：梅削羽状文、内：調整不明
786	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：口唇 LR 織文 朝部荒沈縞区画内を LR 織文で充填、内：ナデ
787	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：剥付斜突穴+荒工具刺突文 縦ハケ→ミガキ？ 内：ナデ
788	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	橙	外：口唇 LR 織文 朝部荒沈縞区画内を LR 織文で充填。内：ナデ
789	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：口唇 LR 織文 朝部荒沈縞区画内 調整不明
790	C②SA19	覆土	弥生	鉢	D	浅黄緑	外：口唇 LR 織文 剥下荒沈縞区両内を LR 織文で充填 剥下荒重山形文内に連続斜変文を充填。内：調整不明
791	C②SA19	覆土	弥生	片口鉢	B	褐灰	外：口唇 LR 織文→ハケ工具刺突文 朝部斜削縞文 ミガキ 片口。底：ナデ？、内：ハケ→横ミガキ
792	C②SA19	覆土	弥生	鉢	B	に赤い縁	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ、内：ナデ
793	C②SA19	覆土	弥生	壺	C	に赤い縁青	外：朝部荒重山形文→対穿孔↓×残。内：調整不明
794	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：口唇+口縫縞山形文、内：調整不明
795	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：贴付斜帶+荒工具刺突文 荒山形文内に斜突文を充填。内：ナデ
796	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：懸垂文(御短縞文を荒沈縞文+連続斜変文で区画)の周囲に RL 織文を充填 荒沈縞区画、内：調整不明
797	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：荒沈縞区両内を飾直線文・飾短斜縞文で交互充填。内：ナデ
798	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：荒沈縞区両内を剥削突文で充填、内：調整不明 接合痕
799	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：荒沈縞区両内を飾直線文・連続斜変文で充填。内：ナデ
800	C②SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁青	外：荒沈縞区両内を飾直線文で充填 荒重山形文内を斜突文で充填。内：調整不明

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徵
801	C ② SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：荒沈縄区画内を1区両おきにLR 繩文充填。内：調整不明
802	C ② SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：荒塗連弧文内をLR 繩文・連続刺突文で充填。内：ナデ
803	C ② SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：荒塗連弧文内をLR 繩文・鶴直線文・連続刺突文で充填。内：ナデ
804	C ② SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部鶴嘴羽状文？、内：横ハケ→横ミガキ
805	C ② SA19	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部鶴嘴羽状文？、内：調整不明
806	C ② SA19	床直	弥生	鉢	D	灰黄緑	外：荒変形工字文内に刺突文・LR 繩文で光消・耳状突起1ヶ残。内：ミガキ？
807	C ② SA20	床面	弥生	壺	A	に赤い櫻	外：崩上荒沈縄区画内を1区両おきにLR 繩文充填・脚下荒変形工字文内をLR 繩文で充填 崩下右頬ハケ→ミガキ、底：ナデ。内：ナデ
808	C ② SA20	床面	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 崩上荒沈縄区画内をLR 繩文・脚直線文で光消 崩下荒塗連弧文内にLR 繩文で充填。内：ナデ？
809	C ② SA20	床面	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：調整不明。内：調整不明
810	C ② SA20	床面	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部荒沈縄区画内を鶴直線文・鶴斜線文で交互充填・連続刺突文。内：口唇ミガキ 脚部右頬ハケ→ナデ
811	C ② SA20	床面	弥生	壺	A	に赤い櫻	外：脚部連続刺突文 脚部荒沈縄区画内を鶴直線文・鶴直線文で交互充填 崩下右頬ハケ。内：調査不明
812	C ② SA20	床面	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 + 口対穿孔2ヶ、脚部突帯・荒工具刺突文。内：ナデ
813	C ② SA20	床面	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：脚部荒沈縄区画内。内：口唇ミガキ 脚部ナデ
814	C ② SA20	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：崩上荒沈縄区画内を1区両おきにLR 繩文充填・崩下荒山形文内をLR 繩文で充填。内：調整不明
815	C ② SA20	床面	弥生	壺	B	に赤い櫻	外：崩上 LR 繩文 + 荒山形文を荒沈縄で区画・脚直線文 崩上向き V字懸垂文(脚直線文を荒沈縄区画の周囲に)にLR 繩文・荒円形文を光消。内：調整不明
816	C ② SA20	床面	弥生	壺	A	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部貼付欠壊+LR 繩文 崩上荒沈縄区画内を1区両おきにLR 繩文・荒波状文で光消。崩下左頬文内にLR 繩文+荒波文を光消。崩下右頬ハケ。底：焼成後保存。内：ナデ
817	C ② SA20	床面	弥生	壺	A	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部荒沈縄区画内を鶴斜線文・脚直線文で交互充填 沈縄内に赤彩残存。底：ナデ。内：崩下右頬ハケ→ナデ
818	C ② SA20	床面	弥生	壺	A	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文+脚部神話 脚部鶴嘴羽状文→荒工具刺突文 崩下。調査不明。内：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→横ミガキ、備考：鏡然によるゆかみが有り
819	C ② SA20	床面	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部鶴嘴羽状文・半月月刺突孔文 崩ドミガキ。内：横ハケ
820	C ② SA20	床面	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文+荒工具押捺 脚部鶴嘴羽状文→荒工具刺突文。内：横ハケ→横ミガキ
821	C ② SA20	覆土	弥生	鉢	D	に赤い櫻	外：口唇1対穿孔2ヶ、脚部荒沈縄区画・荒変形工字文内を荒工具刺突文で充填。内：ミガキ？
822	C ② SA20	覆土	弥生	鉢	A	に赤い櫻	外：ハケ→ミガキ。内：調整不明
823	C ② SA27	覆土	弥生	壺	C	に赤い櫻	外：崩上荒沈縄区画を鶴直線文で光消 崩下荒塗連弧文内を脚直線文-LR 繩文で充填 崩下ハケ→ミガキ。内：ナデ
824	E ① SA1	床面	弥生	有孔彌	A	に赤い櫻	外：口唇指跡押捺 脚部鶴嘴羽状文→脚工具刺突文 崩下縦ミガキ。底：ケズリ→ナデ 穿孔1ヶ
825	E ① SA1	床面	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：荒沈縄区画内にLR 繩文で充填。内：調整不明。備考：825と同一個体。
826	E ① SA1	床面	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：荒塗三角角文。内：調整不明。備考：825と同一個体。
827	E ① SA1	床面	弥生	鉢	A	に赤い櫻	外：左頬ハケ→赤彩。右頬ミガキ 耳状突起1ヶ残。底：ケズリ→ミガキ。内：ハケ→ミガキ
828	E ① SA1	床面	弥生	鉢	A	に赤い櫻	外：赤彩ミガキ 山型突起？ 1対穿孔1ヶ、底：ケズリ→ミガキ？ 内：赤彩ミガキ
829	E ① SA1	床面	弥生	鉢	A	に赤い櫻	外：赤彩ミガキ 1対耳状突起4ヶ、底：ケズリ→ミガキ。内：赤彩ミガキ
830	18① SK4	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文 脚部鶴嘴羽状文→ハケ工具刺突文。内：調整不明。備考：831と同一個体
831	18① SK4	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：調整不明。底：ケズリ→ナデ。内：調整不明。備考：830と同一個体
832	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	根	外：脚部貼付欠壊+LR 繩文 荒沈縄区画内を荒彫山形文で充填 脚直線文。内：調査不明 接合痕
833	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：脚部荒沈縄文。内：調整不明。備考：器面1件
834	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：崩上荒沈縄区画 崩下荒塗連弧文。内：調査不明
835	60① SK3	覆土	弥生	壺	B	根	外：荒沈縄区画内を1区両おきにLR 繩文で光消 調査不明。内：調査不明
836	60① SK3	覆土	弥生	壺	C	根	外：口唇 LR 繩文 脚部鶴嘴羽状文。内：調整不明 接合痕
837	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	根	外：口唇 LR 繩文 脚部鶴嘴羽状文。内：横ミガキ
838	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：口唇 LR 繩文+指跡押捺 脚部鶴嘴羽状文。内：横ミガキ
839	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：縦ミガキ。底：ケズリ。内：ハケ→ミガキ
840	60① SK3	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：脚部鶴嘴羽状文→脚直線文→荒工具刺突文 調査不明。内：調整不明
841	26① SK10	覆土	弥生	壺	B	に赤い櫻	外：調査不明
842	29① SK2	覆土	弥生	壺	D	に赤い櫻	外：荒沈縄文。底：ケズリ→ナデ。内：横ハケ→ナデ
843	29① SK2	覆土	弥生	壺	B	に赤い櫻	外：荒沈縄区画内を脚直線文で光消。内：調査不明
844	64① SK1	覆土	弥生	壺	D	根	外：荒沈縄文。内：ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	直存	色調	技法・文様・特徴
845	6①SK1	覆土	弥生	壺	D	橙	外：下向き重連弧文内を柳葉線文で充填。内：ナデ
846	6①SK1	覆土	弥生	壺	D	橙	外：口唇LR織文 柳葉線文内を柳葉線文で充填 全面赤彩？、内：横ハケ→ナデ
847	6①SK1	覆土	弥生	壺	D	橙	外：口唇LR織文？ 茜沈縫区画内を柳葉線文で充填。准続刺突文、内：ナデ、備考：図上復元
848	C ② SK109	覆土	弥生	壺	B	に赤い黄青	外：茜沈縫区画内を柳葉線文 柳葉線文で交互充填 剥下右肩ハケ→右肩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→胴上ナデ
849	C ② SK109	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄青	外：茜沈縫文内 LR織文・刺突文で充填 剥下横ハケ→継ミガキ、内：調整不明
850	C ② SK109	覆土	弥生	有孔甕	D	灰褐色	外：右肩ハケ、底：ミガキ？ 穿孔1ヶ、内：調整不明
851	C ② SK109	覆土	弥生	甕	D	褐	外：縦ミガキ、底：ナデ→ナデ、内：調整不明
852	C ② SK109	覆土	弥生	甕	D	灰褐色	外：頸部茜沈縫区画 頸部菱形変文字内を連續刺突文で充填、内：調整不明
853	C ② SK111	覆土	弥生	甕	C	に赤い黄青	外：抱赤山形文内を連續刺突文で充填、内：調整不明
854	C ② SK111	覆土	弥生	甕	D	浅黃橙	外：剥下 茜沈縫区画内を柳葉線文で充填 剥下准連弧文内をLR織文で充填、内：調整不明
855	27①SD1	覆土	弥生	壺	D	に赤い橙	外：抱変形重三角文内にLR織文・連續刺突文を充填 単位間に連續刺突文を充填、内：横ハケ→ナデ
856	27①SD1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄青	外：口唇LR織文 茜沈縫区画内柳葉線文充填、内：ナデ
857	27①SD1	覆土	弥生	甕	C	に赤い黄青	外：ミガキ？ 底：調整不明、内：調整不明
858	27①SD1	覆土	弥生	甕	D	に赤い黄青	外：口唇LR織文 刷毛削綾文一様状工具刺突文、内：横ハケ→横ミガキ
859	3①SX1	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄青	外：剥下 茜沈縫区画内を連續刺突文・LR織文・柳葉線文で充填 剥下准連弧文内を連續刺突文・柳葉線文で充填、内：ナデ
860	3①SX1	覆土	弥生	甕	D	橙	外：連續刺突文区画内を柳葉線文・腰垂下文・柳葉状文・柳葉線文で充填、内：調整不明
861	3①SX1	覆土	弥生	甕	D	に赤い橙	外：茜沈縫区画内を柳葉線文・柳葉線文で交互充填／連續刺突文、内：ナデ
862	3①SX1	覆土	弥生	甕	D	に赤い橙	外：柳葉線文状一様工具刺突文、内：横ハケ→ミガキ？
863	25①SX1	覆土	弥生	鉢	C	に赤い黄青	外：口唇LR織文 口縁置重山形文・刺突文・1対穿孔1ヶ残 剥下ミガキ、底：調整不明、内：調整不明、備考：器面擦耗
973	33①SA2	覆土	弥生	甕	D	明茶褐色	外：剥下字文1ヶ残 鐵衛文・赤彩ミガキ、内：横ハケ
974	46①SA1	床直	弥生	有孔甕	D	に赤い黄青	外：縦ミガキ、底：ナデ 穿孔1ヶ、内：調整不明
975	46①SA1	床面	弥生	甕	C	に赤い黄青	外：ケズリ→ナデ、内：ケズリ→ナデ
976	46①SA1	P4	弥生	甕	B	に赤い黄青	外：ナデ、内：ケズリ
977	46①SA1	床直	弥生	高杯	D	に赤い黄青	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ
978	46①SA2	床面	弥生	鉢	C	明黄色	外：横ミガキ、内：ハケ→ミガキ？
979	46①SA2	床面	弥生	甕	B	に赤い黄青	外：調整不明、内：調整不明
980	46①SA3	床面	弥生	有孔甕	D	に赤い黄青	外：ミガキ、底：ナデ 穿孔1ヶ、内：ナデ
981	50①SA7	床面	弥生	甕	D	に赤い黄青	外：剥下字文1ヶ残 赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ、備考：外器面擦耗
982	50①SA7	床面	弥生	高杯	D	に赤い黄青	外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
983	50①SA7	K1	弥生	鉢	A	白灰	手捺ね
984	50②SA1	床直	弥生	甕	D	に赤い黄青	外：剥下字文1ヶ残 縦ミガキ、内：横ミガキ
985	50②SA1	覆土	弥生	甕	D	に赤い黄青	外：ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ
986	50②SA1	覆土	弥生	甕	D	に赤い黄青	外：ケズリ？、底：ケズリ、内：ミガキ
987	50②SA1	P9	弥生	甕	D	灰黃	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
988	50②SA1	床直	弥生	甕	C	橙	外：剥下字文1ヶ残 ハケ→ミガキ、内：調整不明、備考：図上復元
989	50②SA2	覆土	弥生	甕	C	に赤い黄青	外：右側縫隙2道止巻状文→剥落状文(口縁↓)、内：横ミガキ
990	50②SA2	床面	弥生	甕	C	灰黃	外：縦ミガキ、底：ナデ、内：縦ミガキ
991	50②SA2	覆土	弥生	鉢	C	に赤い黄青	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ、底：ナデ
992	50②SA2	覆土	弥生	甕	D	に赤い黄青	外：柳葉線文→剥落状文、内：横ハケ
993	50②SA3	床直	弥生	甕	C	黄褐色	外：剥下字文1ヶ残 ハケ→ミガキ、内：調整不明、備考：図上復元
994	50②SA3	覆土	弥生	甕	D	黄褐色	外：縦ミガキ、内：横ミガキ
995	50②SA4	床面	弥生	甕	D	明黄色	外：調整不明、内：調整不明
996	50②SA4	床面	弥生	甕	C	に赤い黄青	外：剥下字文1ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 剥落ハケ
997	50②SA4		弥生	甕	B	浅黃橙	外：剥落状文↓、内：調整不明、備考：2次被熱 50①SA4取り上げ
998	50②SA4	床直	弥生	甕	B	明黄色	外：ハケ→剥落状文↓、内：ハケ→横ミガキ
999	50②SA4	床直	弥生	甕	D	明黄色	外：剥下字面3回2道止巻状文→剥落状文(口縁↓)、内：横ミガキ
1000	50②SA4		弥生	甕	D	に赤い黄青	外：調整不明、内：ケズリ、備考：北跡系
1001	50②SA4	K1	弥生	甕	D	黄褐色	外：右肩ハケ→粗いミガキ ハケ工具刺突文、内：ケズリ、備考：北跡系
1002	50②SA4	床直	弥生	甕	A	に赤い黄青	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩ミガキ、備考：被熱による器面剥落

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1003	50②SA4	床直	弥生	鉢	B	灰青褐色	外：ハケ、底：指ササ工 製台、内：ハケ
1004	50②SA4	床直	弥生	高杯	A	浅黄橙	外：ミガキ(杯縁・脚柱縁・脚部縁)、杯内：ミガキ、脚内：ハケ、備考：北跡系
1005	50②SA4	床面	弥生	脚部	D	褐	脚外：ケズリ→ミガキ 内孔1ヶ残、脚内：ハケ、備考：外米系
1006	50②SA4	床面	弥生	舟孔鉢	A	棕	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：調整不明
1007	50②SA6	床面	弥生	甌	D	に赤い黄褐色	外：報ミガキ、内：横ミガキ
1008	50②SA6	床直	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：頭部右側2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、内：調整不明、備考：内器側剖面
1009	50②SA6	覆土	弥生	甌	C	黒褐	外：頭部右側2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、内：横ミガキ
1010	50②SA6	床直	弥生	高杯	C	に赤い黄褐色	外：赤彩縦ミガキ、内：横ハケ
1011	50②SA6	床直	弥生	高杯	D	に赤い黄褐色	外：横ミガキ、内：横ミガキ
1012	50②SA6	床直	弥生	高杯	B	に赤い黄褐色	外：口唇山窓突起1ヶ残、赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1013	50②SA7	覆土	弥生	甌	A	灰白	外：頭部丁字文4ヶ 残赤彩ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部調整不明接合付、備考：図上復元
1014	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：頭部丁字文4ヶ 残赤彩ミガキ(口縁縦・脚) 剥離ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部調整不明接合付、備考：図上復元 器面剥離
1015	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	灰白	外：頭部丁字文4ヶ 残赤彩横ミガキ 剥離ミガキ、底：ナダ、内：調整不明、備考：内器側剖面
1016	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：頭部丁字文+円形浮文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部調整不明、備考：内器側剖面
1017	50②SA7	覆土	弥生	甌	C	浅黄橙	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・脚)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部調整不明
1018	50②SA7	覆土	弥生	甌	C	浅黄橙	外：頭部丁字文1ヶ 残赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ、備考：内器側剖面
1019	50②SA7	覆土	弥生	甌	C	に赤い黄褐色	外：頭部丁字文1ヶ 残赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ→ナダ
1020	50②SA7	覆土	弥生	甌	D	灰白	外：齊頭1対丁字文2ヶ 残赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ
1021	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	浅黄橙	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ
1022	50②SA7	覆土	弥生	甌	D	に赤い黄褐色	外：頭部丁字文1ヶ 残赤彩ミガキ(口縁縦・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ→ナダ
1023	50②SA7	覆土	弥生	甌	D	に赤い黄褐色	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：口縁横ミガキ 脚部横ハケ
1024	50②SA7	覆土	弥生	甌	D	脚灰	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明、備考：内器側剖面
1025	50②SA7	覆土	弥生	甌	D	に赤い黄褐色	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明
1026	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、底：ナダ、内：横ミガキ
1027	50②SA7	覆土	弥生	甌	C	浅黄橙	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、内：横ミガキ
1028	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	赤棕	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、内：調整不明
1029	50②SA7	覆土	弥生	甌	C	に赤い黄褐色	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、内：横ミガキ
1030	50②SA7	覆土	弥生	甌	D	に赤い黄褐色	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?)、内：ミガキ
1031	50②SA7	覆土	弥生	甌	C	に赤い黄褐色	外：ハケ、内：横ミガキ、備考：外米系
1032	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：報ハケ→脚上縦ケズリ、つまみ：穿孔1ヶ、内：横ハケ→ナダ?
1033	50②SA7	覆土	弥生	甌	B	灰白	外：頭部右回2連止巻状文、赤彩ミガキ、底：ケズリ→ナダ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ミガキ、備考：器面剥離
1034	50②SA7	覆土	弥生	高杯	C	に赤い黄褐色	外：縦ミガキ、杯内：横ミガキ
1035	50②SA7	覆土	弥生	高杯	D	に赤い黄褐色	脚外：赤彩縦ミガキ 突帯、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ケズリ
1036	50②SA7	覆土	弥生	鉢	D	に赤い黄褐色	外：縦ハケ→縦ミガキ、内：横ミガキ
1037	50②SA7	覆土	土師	高杯	B	黒褐	外：ミガキ?、内：縦ミガキ?、脚内：ケズリ
1038	50②SA7	覆土	土師	甌	D	脚灰	外：口縁貼付貼付3ヶ(瓶の移伏付文4ヶ) 赤彩→ミガキ、内：右瓶ハケ→ビ脱服縫跡による羽羽脱服文、備考：レレス底 遷入か?
1039	50②SA8	弥生	甌	C	に赤い黄褐色	外：頭部1対丁字文4ヶ 赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ	
1040	50②SA8	床面	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?) 剥離ミガキ、内：横ミガキ
1041	50②SA8	弥生	甌	B	に赤い黄褐色	外：頭部右回2連止巻状文→櫛波状文(口縁1?・脚部1?) 剥離ミガキ、底：ケズリ→ナダ、内：横ミガキ	
1042	50②SA8	弥生	甌	C	褐		外：櫛波状文(脚部ミ) 剥離ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：調整不明
1043	50②SA8	覆土	弥生	甌	D	灰白	横ナダ、外：擬四瓣文、備考：北跡系 始土赤在地
1044	50②SA8	弥生	甌	D	に赤い黄褐色	横ナダ、外：擬四瓣文、備考：北跡系	
1045	50②SA8	弥生	甌	C	に赤い黄褐色	外：調整不明 2升瓶の穿孔1ヶ、内：赤彩ミガキ	
1046	50②SA8	弥生	甌	A	に赤い黄褐色	外：赤彩縦ミガキ、内：横ミガキ	
1047	50②SA8	弥生	高杯	C	に赤い黄褐色	外：縦ミガキ、杯内：横ミガキ	
1048	50②SA8	床面	弥生	高杯	D	に赤い黄褐色	外：横ミガキ、杯内：横ミガキ、備考：北跡系

No	出土遺物	部位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徵
1049	50②SA8		龜壳	高杯	C	深黃橙	脚外：赤彩縞ミガキ、杯内：赤彩ミガキ。脚内：横ハケ
1050	50②SA8	覆土	龜壳	D	に赤い模	外：横ミガキ、内：横ミガキ	
1051	51①SA1	覆土	龜壳	B	に赤い模	外：赤彩縞ミガキ、内：横ミガキ	
1052	51③SA1	覆土	龜壳	D	に赤い模	脚外：赤彩縞ミガキ。脚内：調整不明	
1053	51③SA1	床面	龜壳	C	に赤い模	脚外：赤彩縞ミガキ。脚内：右頸ハケ→ナデ。接合痕	
1054	51③SA2	床面	龜壳	D	に赤い模	外：頭部右側M進止状紋→赤彩ミガキ(口縛縫・側部横)、内：口縛赤彩横ミガキ 脚下模ミガキ、備考：内部油脂跡	
1055	51③SA2	覆土	龜壳	D	に赤い模	外：石斑白ハケ、内：横ハケ→横ケズリ。備考：北條系	
1056	51③SA2	覆土	龜壳	D	に赤い模	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ。内：ミガキ？	
1057	51③SA2	覆土	龜壳	D	深黃橙	脚外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ。備考：外来系？	
1058	51③SA2	覆土	龜壳	C	褐白	外：赤彩横ミガキ。底：ミガキ。内：赤彩横ミガキ	
1059	51③SA2	覆土	龜壳	C	褐白	外：赤彩ミガキ。内：赤彩ミガキ。備考：背面剥離	
1060	51③SA2	覆土	龜壳	B	に赤い模	外：赤彩縞ミガキ。底：ケズリ。内：赤彩ミガキ	
1061	51③SA2	覆土	龜壳	A	に赤い模	外：縦ミガキ。口片、内：横ミガキ	
1062	52①SA5	床面	龜壳	C	深黃橙	外：赤彩縞ミガキ。内：赤彩横ミガキ	
1063	52①SA5	床面	龜壳	D	に赤い模	外：頭部丁字文↓ケ残。赤彩横ミガキ。内：右頸白ハケ	
1064	52①SA5	床面	龜壳	B	に赤い模	外：口縛山形突起↓ケ残。赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ	
1065	52①SA5	床面	龜壳	A	に赤い模	外：ハケ→調整不明。内：横ハケ	
1066	52①SA7	床面	龜壳	D	深黃橙	外：口縛山形突起↓ケ残。赤彩縞ミガキ。内：赤彩横ミガキ	
1067	52①SA7	覆土	龜壳	D	深黃橙	外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ	
1068	52②SA1	床面	龜壳	D	深黃橙	外：赤彩縞ミガキ。内：赤彩横ミガキ	
1069	53②SA1	覆土	龜壳	B	深黃	外：頭部右側等脚止状紋→捺波狀文(口縛↓・脚部↓)。脚下縞ミガキ。内：横ハケ→横ミガキ	
1070	53②SA1	覆土	龜壳	D	に赤い模	横ナゲ、備考：北條系	
1071	53②SA1	覆土	龜壳	D	に赤い模	脚外：赤彩縞ミガキ。脚内：右頸ハケ	
1072	53②SA1	床面	龜壳	C	に赤い模	に赤い模	
1073	53②SA1	覆土	龜壳	C	灰白	外：ハナリ→ケズリ。底：穿孔△。内：横ミガキ	
1074	53②SA1	覆土	龜壳	D	褐	外：ミガキ(口縛縫・側縫)。把手1ヶ残。内：口縛横ミガキ。脚ナデ。備考：外来系	
1075	53②SA5	床直	龜壳	D	に赤い模	脚外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ	
1076	53②SA5	床直	龜壳	C	に赤い模	脚外：縦ミガキ。円孔(1段目4ヶ・2段目2・4ヶ残)。突筋。脚内：ナデ。備考：外来系？	
1077	55①SA3	床直	龜壳	D	に赤い模	外：頭部右側M進止状紋→捺波狀文(口縛↓・脚部↓)。内：横ミガキ	
1078	55①SA3	床直	龜壳	D	に赤い模	外：頭部右側等脚止状紋→捺波狀文(脚部↓)。内：横ミガキ	
1079	55①SA3	床直	龜壳	B	に赤い模	外：頭部右側等脚止状紋→捺波狀文(脚部↓)。脚下縒ミガキ。台外：縦ミガキ。臺内：縦ミガキ。台内：ハケ→ナデ	
1080	55①SA3	覆土	龜壳	C	に赤い模	外：赤彩縞ミガキ。底：ケズリ→ミガキ。内：赤彩横ミガキ	
1081	55①SA3	柱穴	龜壳	C	に赤い模	脚外：赤彩縞ミガキ。杯内：赤彩ミガキ。脚内：ナデ	
1082	55①SA1	床直	龜壳	A	灰白	外：頭部右側丁字文△。縦ハケ→ミガキ(口縛縫・脚上縫・脚中縫・脚下縫)。内：口縛ハケ→横ミガキ。側縫ハケ	
1083	55①SA1	炉	龜壳	C	に赤い模	外：頭部右側ミガキ。内：口縛赤彩横ミガキ。脚部調整不明。備考：内部油脂跡	
1084	55①SA1		龜壳	C	に赤い模	外：頭部右側3進止状紋→捺波狀文(口縛↓・脚部↓)。内：横ミガキ。SA1取り上げ	
1085	55②SA1		龜壳	D	に赤い模	外：頭部右側3進止状紋→捺波狀文(口縛↓・脚部↓)。脚下縒ミガキ。内：横ミガキ。備考：55①SA1取り上げ	
1086	55②SA1	床直	龜壳	D	に赤い模	外：頭部縫狀文→口縛縫狀文↑。内：横ミガキ	
1087	55②SA1		龜壳	D	に赤い模	外：縦ミガキ。底：ケズリ→ミガキ。内：ミガキ。備考：55①SA1取り上げ	
1088	55②SA1	床直	台付壺	C	褐	台外：縦ミガキ。壺内：ナデ。台内：ケズリ→ナデ	
1089	55②SA1		台付壺	D	に赤い模	台外：調整不明。壺内：ケズリ。台内：ケズリ→ナデ。備考：55①SA1取り上げ	
1090	55②SA1		台付壺	B	に赤い模	台外：ナデ。台内：ナデ。備考：55①SA1取り上げ	
1091	55②SA1		有孔壺	D	褐	外：調整不明。底：ミガキ。穿孔△。内：ミガキ。穿孔△。備考：55①SA1取り上げ	
1092	55②SA1	床直	龜壳	B	深黃橙	脚外：口縛山形突起4ヶ。赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ	
1093	55②SA1		龜壳	C	に赤い模	外：赤彩ミガキ(杯上横・杯下縫)。杯内：赤彩横ミガキ。備考：55①SA1取り上げ	
1094	55②SA1	床直	龜壳	D	に赤い模	外：口縛山形突起4ヶ。赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ	
1095	55②SA1		龜壳	D	に赤い模	脚外：赤彩縞ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ。脚内：ナデ。備考：55①SA1取り上げ	
1096	55②SA1		龜壳	B	に赤い模	外：縦ケズリ→縦ミガキ。内：調整不明。備考：55①SA1取り上げ	
1097	55②SA1		龜壳	C	に赤い模	外：赤彩横ミガキ。底：赤彩ミガキ。内：赤彩横ミガキ。備考：55①SA1取り上げ	
1098	55②SA1	床直	龜壳	C	に赤い模	外：赤彩横ミガキ。底：ミガキ。内：赤彩縞ミガキ	

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1099	56㉙SA1	覆土	弥生	盞	C	に赤い痕	外：頭部丁字文2ヶ残 赤彩ミガキ。内：赤彩ミガキ。備考：内器面剥離
1100	56㉙SA1	覆土	弥生	高杯	D	に赤い痕	外：赤彩横ミガキ。内：赤彩横ミガキ。備考：北陸系
1101	56㉙SA1	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：頭部右側3箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+)、内：横ミガキ
1102	56㉙SA1	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：口唇山形突起1ヶ残 赤彩横ミガキ。内：赤彩横ミガキ。網調整不明
1103	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：頭部底面 文彰履ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1104	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：頭部底面 文彰履ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1105	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：頭部丁字文1ヶ残 縫ミガキ。内：横ミガキ
1106	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：頭部右側2箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+)。内：横ミガキ
1107	56㉙SA3	覆土	弥生	台付甕	C	に赤い痕	外：縫ミガキ。底：ケズリ。内：横ミガキ
1108	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	D	灰黄褐	外：調整不明。底：高台。内：調整不明。備考：外系？
1109	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	C	褐色	外：口唇山形突起2ヶ残 赤彩横ミガキ。内：口縁赤彩横ミガキ。胴部横ミガキ
1110	56㉙SA3	覆土	弥生	高杯	A	浅黄褐	外：口唇山形突起1ヶ 赤彩ミガキ(柄横・脚縱)。脚部三角孔4ヶ。内：赤彩横ミガキ。内：ナデ
1111	56㉙SA3	覆土	弥生	高杯	C	淡黄褐	脚外：赤彩縫ミガキ。内：横ミガキ→ナデ
1112	56㉙SA3	覆土	弥生	高杯	D	に赤い痕	外：赤彩縫ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1113	56㉙SA3	覆土	弥生	高杯	A	に赤い痕	外：赤彩ミガキ(柄上横・脚下縫・脚縱)。内：赤彩横ミガキ。内：ナデ
1114	56㉙SA3	覆土	弥生	高杯	D	浅黄褐	脚外：縫ミガキ 円孔4ヶ。内：調整不明。脚内：しばり目 ナデ。備考：北陸系？
1115	56㉙SA3	覆土	弥生	鉢	C	に赤い痕	外：赤彩縫ミガキ 1針穿孔1ヶ残。底：ケズリ→ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1116	56㉙SA3	覆土	弥生	高杯	C	に赤い痕	外：赤彩ミガキ(柄上横・脚下右縫)。内：横赤彩ミガキ。備考：北陸系 鉢の可能性有り
1117	56㉙SA3	覆土	弥生	脚部	D	縫	横ナデ。外：凹輪文 赤彩ミガキ。備考：北陸系 1795と接合 2349と併せて同一鉢体？
1118	56㉙SA3	覆土	弥生	盞	D	に赤い痕	外：頭部1針丁字文+円形浮文1ヶ残→鶴波状文。内：ナデ
1119	57㉚SA1	床直	弥生	甕	D	に赤い痕	外：頭部右側2箇止痕状文→鶴波状文(脚+)。内：横ミガキ
1120	57㉚SA1	柱穴	弥生	台付甕	A	に赤い痕	外：頭部底面直線文→鶴波状文。甕内：横ミガキ。台内：ケズリ
1121	57㉚SA1	床曲	弥生	台付甕	B	に赤い痕	外：頭部側面直線文→鶴波状文。甕内：横ミガキ
1122	57㉚SA1	床直	弥生	鉢	C	に赤い痕	外：赤彩縫ミガキ。底：ケズリ。内：赤彩横ミガキ
1123	57㉚SA5	床直	弥生	盞	A	浅黄褐	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縫・脚上横・脚下縫)。内：横ミガキ
1124	57㉚SA5	床直	弥生	亞	C	浅黄褐	外：縫ミガキ。底：ケズリ。内：ハケ→ナデ
1125	57㉚SA5	覆土	弥生	盞	D	灰白	外：頭部丁字文1ヶ残 縫ミガキ。内：ハケ？
1126	57㉚SA5	覆土	弥生	盞	A	に赤い痕	外：調整不明。つまみ 穿孔1ヶ。内：横ミガキ
1127	57㉚SA5	溝	弥生	盞	C	に赤い痕	外：つまみ周辺剥ケズリ横ミガキ。内：横ミガキ
1128	57㉚SA5	覆土	弥生	更	D	に赤い痕	外：鶴波状文(口縁+)。内：横ミガキ
1129	57㉚SA5	床直	弥生	甕	D	に赤い痕	外：頭部右側3箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+) 剥下縫ミガキ。内：横ミガキ
1130	57㉚SA5	覆土	弥生	甕	B	に赤い痕	外：鶴波状文(胴部+) 剥下縫ミガキ。底：ケズリ→ミガキ。内：横ミガキ
1131	57㉚SA5	覆土	弥生	甕	A	に赤い痕	外：頭部右側2箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+) 剥下縫ミガキ。底：ケズリ→ナデ。内：ハケ→横ミガキ
1132	57㉚SA5	SD1	弥生	台付甕	C	に赤い痕	外：頭部右側2箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+) 剥下縫ミガキ。内：横ミガキ
1133	57㉚SA5	覆土	弥生	台付甕	B	に赤い痕	外：調整不明。甕内：横ミガキ。台内：ケズリ→ナデ
1134	57㉚SA5	SD1	弥生	台付甕	B	に赤い痕	外：頭部右側3箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+) 剥下縫ミガキ。台外：調整不明。甕内：横ミガキ。台内：ケズリ→ナデ
1135	57㉚SA5	覆土	弥生	台付甕	C	に赤い痕	外：調整不明。台内：調整不明
1136	57㉚SA5	床曲	弥生	甕	D	浅黄褐	外：ミガキ。内：ミガキ。備考：北陸系
1137	57㉚SA5	覆土	弥生	高杯	D	に赤い痕	外：赤彩ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1138	57㉚SA5	床曲	弥生	高杯	D	に赤い痕	外：口唇山形突起1ヶ 柄縫ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1139	57㉚SA5	床曲	弥生	高杯	C	に赤い痕	外：赤彩ミガキ(柄縫・脚縫)。内：赤彩ミガキ。内：ナデ
1140	57㉚SA5	覆土	弥生	高杯	B	に赤い痕	外：調整不明。内：調整不明
1141	57㉚SA5	覆土	弥生	高杯	D	に赤い痕	外：口唇山形突起1ヶ 柄縫ミガキ。内：赤彩横ミガキ。備考：外系系
1142	57㉚SA5	P3	弥生	高杯	C	に赤い痕	外：水彩縫ミガキ 円孔3ヶ。内：ケズリ 赤彩付着
1143	60㉛SA2	覆土	弥生	甕	B	灰褐	外：鶴波状文。底：ケズリ→ミガキ。内：横工具ナデ
1144	60㉛SA2	覆土	弥生	甕	D	に赤い痕	外：頭部右側3箇止痕状文→鶴波状文(口縁+・胴部+) 剥下縫ミガキ。内：右傾ハケ→横ミガキ
1145	60㉛SA2	床直	弥生	甕	B	に赤い痕	外：頭部彫状文→鶴波状文(胴+)。底：ケズリ。内：赤彩横ミガキ
1146	60㉛SA2	床直	弥生	有孔甕	D	に赤い痕	外：横ケズリ。底：ケズリ 穿孔1ヶ。内：調整不明
1147	60㉛SA2	覆土	弥生	甕	C	に赤い痕	外：頭部底面直線文→赤彩縫ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1148	60㉛SA2	覆土	弥生	高杯	D	に赤い痕	外：右傾ハケ→赤彩縫ミガキ。内：ハケ→赤彩横ミガキ

No	出土遺構	測位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1149	60②SA2	床面	弥生	高杯	C	に赤い模様	脚外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1150	60③SA2	覆土	弥生	鉢	B	に赤い模様	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1151	61①SA6	床面	弥生	壺	D	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 内形浮文4枚、内：横ミガキ
1152	61①SA6	床面	弥生	鉢	C	に赤い模様	外：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：器皿調査
1153	61①SA6	床面	弥生	壺	D	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 内：赤彩横ミガキ
1154	60②SA4	P6	弥生	壺	B	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 脚下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1155	60③SA4	床直	弥生	壺	C	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 脚下縦ミガキ、内：横ミガキ
1156	60②SA4	床直	弥生	壺	D	に赤い模様	外：調整不明、底：ケズリ、内：調整不明
1157	60③SA4	床面	弥生	壺	C	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 内：横ミガキ
1158	60②SA4	床面	弥生	壺	C	横	外：頭部左斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 内：横ミガキ
1159	60②SA4	覆土	弥生	壺	D	に赤い模様	外：赤彩横ミガキ 1対穿孔1ヶ残りの和定通穿孔、内：赤彩横ミガキ 脚下工具ナデ
1160	60②SA4	床直	弥生	高杯	C	に赤い模様	脚外：赤彩縦ミガキ、内：横ハケ→工具ナデ
1161	60②SA4	床面	弥生	壺	D	横	外：縫ケズリ→ナデ、つまみ・穿孔1ヶ、内：調整不明
1162	62①SA1	覆土	弥生	壺	D	に赤い模様	外：赤彩縦ミガキ 頭部丁字文4ヶ残、内：赤彩横ミガキ
1163	62①SA1	覆土	弥生	壺	C	に赤い模様	外：縫ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1164	62①SA1	覆土	弥生	高杯	C	に赤い模様	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1165	62①SA1	覆土	弥生	鉢	A	浅黃褐色	外：ミガキ？ナデ、内：工具ナデ
1166	62①SA1	覆土	弥生	壺	C	に赤い模様	外：赤彩ミガキ(脚上横・脚下縦)、底：ケズリ→ミガキ ベンガラ付着、内：横ミガキ ベンガラ付着
1167	62①SA1	覆土	弥生	有孔鉢	B	に赤い模様	外：ミガキ、底：ケズリ 穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1168	70①SA1	床面	弥生	壺	C	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 脚下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1169	78①SA2	床直	弥生	壺	A	浅黃褐色	外：赤彩横ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 脚部横ハケ
1170	78①SA2	床直	弥生	壺	A	に赤い模様	外：頭部丁字文3ヶ ハケ→ミガキ(口縁縦・脚上横・脚下縦)、底：ケズリ→ナデ、内：口縁横ミガキ 脚ハケ→ナデ
1171	78①SA2	床直	弥生	壺	A	灰褐色	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(脚部？) 脚下縦ミガキ、内：横ミガキ
1172	78①SA2	床直	弥生	高杯	C	に赤い模様	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1173	78①SA2	床直	弥生	鉢	A	に赤い模様	外：ミガキ(脚上横・脚下縦) 1対穿孔2ヶ、底：ケズリ、内：赤彩横ミガキ
1174	78①SA6	覆土	弥生	高杯	D	に赤い模様	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1175	78①SA6	覆土	弥生	高杯	B	に赤い模様	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：工具ナデ
1176	79①SA2	床面	弥生	壺	D	に赤い模様	外：頭部丁字文4ヶ残 横ミガキ、内：横ハケ
1177	79①SA2	床面	弥生	壺	D	に赤い模様	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：横ハケ
1178	79①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い模様	外：縫ミガキ 赤彩横ミガキ、底：ケズリ、内：ナデ、備考：内器面剥離
1179	79①SA2	床面	弥生	壺	B	に赤い模様	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 脚下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1180	79①SA2	床直	弥生	壺	C	横	外：難波状 脚下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1181	79①SA2	覆土	弥生	壺	C	脚灰	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 脚下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1182	79①SA2	床直	弥生	壺	D	灰褐色	外：難波状 文章ミガキ、底：ミガキ、内：左縫ミガキ
1183	79①SA2	覆土	弥生	壺	D	に赤い模様	外：頭部右斜3連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 内：横ミガキ
1184	79①SA2	覆土	弥生	高杯	D	灰褐色	外：頭部右斜2連止歛状文→鰐波状文(口縁+・脚部？) 内：横ハケ→口縁横ミガキ
1185	79①SA2	覆土	弥生	壺	D	灰白	外：縫ハケ、備考：北隣系、船上在地
1186	79①SA2	床面	弥生	高杯	D	に赤い模様	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、備考：1187と同一個体？
1187	79①SA2	床面	弥生	高杯	D	に赤い模様	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ、備考：1186と同一個体？
1188	79①SA2	床面	弥生	高杯	D	に赤い模様	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1189	79①SA2	覆土	弥生	高杯	D	横	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ
1190	79①SA2	覆土	弥生	壺	A	に赤い模様	外：赤彩ミガキ、内：横ハケ→赤彩ミガキ
1191	79①SA2	覆土	弥生	有孔鉢	B	に赤い模様	外：ミガキ、底：穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1192	79①SA2	床面	弥生	片口鉢	A	に赤い模様	外：ナデ 片口、底：ケズリ、内：横ミガキ？
1193	B②SA2	床面	弥生	壺	A	横	外：頭部丁字文6ヶ 赤彩ミガキ(口縁+・脚上横) 脚下縦ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部ハケ→ナデ、備考：内器面剥離
1194	B②SA2	床面	弥生	壺	B	に赤い模様	外：頭部横直線文 赤彩横ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部ハケ→ナデ
1195	B②SA2	床面	弥生	壺	A	横	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁+・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部ハケ
1196	B②SA2	床面	弥生	壺	B	横	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁+・脚部横)、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部右縫ハケ
1197	B②SA2	床面	弥生	壺	B	横	外：頭部丁字文4ヶ 縫ミガキ、内：口縁横ミガキ 脚部右縫工具ナデ

No.	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	柱法・文様・特徴
1198	B③SA2	覆土	弥生	斐	B	褐灰	外：頭部右側3連止縫状文→鵞波状文(口縁↑・胴部↓)。内：横ミガキ
1199	B③SA2	床面	弥生	斐	B	褐	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文↑ 剣下縫ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1200	B③SA2	床面	弥生	鉢	B	灰褐	外：頭部2連止縫状文→鵞波状文↑ 剣下縫ミガキ、内：横ミガキ
1201	B②SA2	床面	弥生	高杯	B	黄褐色	杯外：調整不明、脚外：ナズリ、杯内：調整不明、脚内：ナデ
1202	B③SA2	床底	弥生	高杯	B	灰白	脚外：赤彩擬ミガキ、脚内：ナデ
1203	B③SA2	床底	弥生	高杯	C	に赤い模	脚外：赤彩擬ミガキ、内：赤彩擬ミガキ
1204	B③SA2	覆土	弥生	鉢	C	明灰灰	外：赤彩模ミガキ
1205	B②SA2	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	横ナデ、外：擬四線文、備考：北陸系
1206	B③SA2	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	横ナデ、外：擬四線文、備考：北陸系
1207	B②SA2	覆土	弥生	斐	D	明灰灰	横ナデ、外：擬四線文、備考：北陸系
1208	B②SA2	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	横ナデ、外：擬四線文、備考：北陸系
1209	B③SA2	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	横ナデ、外：擬四線文、備考：北陸系
1210	B③SA3	覆土	弥生	斐	B	浅黄褐色	外：頭部丁字文+円形浮文5ヶ 口縁ハケ→赤彩 脚部ハケ→赤彩ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 脚部ハケ→ナデ、備考：器面剥離
1211	B③SA3	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	外：頭部丁字文2ヶ+残=鵞波状文 赤彩擬ミガキ、内：ハケ→ナデ
1212	B③SA3	覆土	弥生	斐	D	浅黄褐色	外：頭部鶴嘴文→赤彩擬ミガキ、内：赤彩擬ミガキ
1213	B③SA3	覆土	弥生	斐	B	灰白	外：ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：ナデ 捜合痕
1214	B③SA3	覆土	弥生	斐	B	浅黄褐色	外：頭部右側3連止縫状文→鵞波状文(?)。内：調整不明、備考：器面剥離
1215	B②SA3	覆土	弥生	斐	B	灰褐	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文(口縁↑・胴部↓) 明ト縫ミガキ、内：横ミガキ
1216	B②SA3	覆土	弥生	斐	A	に赤い模	外：頭部鶴嘴文→脚下縫ミガキ、底：調整不明、備考：器面剥離
1217	B②SA3	覆土	弥生	台付甕	D	明灰灰	外：頭部3連止縫状文→鵞波状文(?)。内：調整不明、備考：器面剥離
1218	B②SA3	覆土	弥生	台付甕	B	灰白	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文(?)。台外：ミガキ、内：ミガキ、内：ナデ 捜合痕
1219	B②SA3	覆土	弥生	斐	B	に赤い模	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文 剣下縫ミガキ、内：口縁ナデ
1220	B②SA3	覆土	弥生	斐	D	明灰灰	外：口縁擬四線文 脚部撲毛刺突文 調整不明、備考：北陸系
1221	B②SA3	覆土	弥生	斐	B	に赤い模	外：口縁擬四線文 銅部撲毛刺突文 調整不明、内：ケズリ→ナデ、備考：北陸系
1222	B②SA3	覆土	弥生	鉢	C	褐灰	外：赤彩模ミガキ 1寸穿孔1ヶ残、内：横ミガキ
1223	B②SA3	覆土	弥生	鉢	B	に赤い模	外：ハケ→横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ→横ミガキ
1224	B②SA3	覆土	弥生	鉢	D	に赤い模	外：調整不明、内：調整不明、備考：北陸系
1225	B②SA3	覆土	弥生	蓋	D	褐灰	外：ナデ、内：ナデ
1226	B②SA3	覆土	弥生	内	C	灰黃色	外：赤彩模ミガキ、内：赤彩模ミガキ
1227	B②SA3	覆土	弥生	高杯	A	に赤い模	外：赤彩模ミガキ、杯内：赤彩模ミガキ、脚内：ナデ、備考：器面剥離
1228	B②SA3	覆土	弥生	高杯	D	に赤い模	外：赤彩模ミガキ、杯内：赤彩模ミガキ、備考：内胎面剥離
1229	B②SA3	覆土	弥生	高杯	C	灰黃色	外：赤彩擬ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1230	B②SA7	P2	弥生	斐	D	に赤い模	外：赤彩模ミガキ、内：赤彩模ミガキ
1231	B②SA7	床底	弥生	斐	D	灰褐	外：頭部丁字文2ヶ 口縁ミガキ(口縁側・胴部右側)→、内：赤彩模ミガキ、備考：1232と同一側体？
1232	B②SA7	床底	弥生	斐	D	灰褐	外：赤彩模ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：ハケ→ナデ、備考：1231と同一側体？
1233	B②SA7	覆土	弥生	斐	B	に赤い模	外：頭部丁字文2ヶ 口縁ミガキ、内：ハケ→ナデ
1234	B②SA7	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	外：1寸縫り落とし下方から折オニエ取り 口縫模波紋文、内：鵞波状文、備考：東海系、1236と同一側体？ 50% SAMI未勘査資料と検合
1235	B②SA7	覆土	弥生	斐	B	暗灰點	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文(口縁↑・胴部↓) 剑下縫ハケ→縫ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1236	B②SA7	覆土	弥生	斐	B	に赤い模	外：頭部鶴嘴文→鵞波状文(口縁↑・胴部↓) 剑下縫ハケ→縫ケズリ、内：横ミガキ
1237	B②SA7	覆土	弥生	斐	C	に赤い模	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文(口縁↑・胴部↓) 内：横ミガキ
1238	B②SA7	覆土	弥生	斐	B	に赤い模	外：頭部右側2連止縫状文→鵞波状文(口縁↑・胴部↓) 剑下縫ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1239	B②SA7	覆土	弥生	斐	C	に赤い模	外：頭部右側3連止縫状文→鵞波状文(胴部↓)、底：ミケズリ、内：口縁模ミガキ
1240	B②SA7	覆土	弥生	斐	B	暗灰點	外：右縫ハケ→1寸縫下縫ケズリ、底：ケズリ、内：ケズリ、備考：北陸系、筋脚非在地
1241	B②SA7	覆土	弥生	斐	D	褐灰	内：ケズリ、備考：北陸系
1242	B②SA7	覆土	弥生	斐	D	に赤い模	外：ケズリナデ？、底：ナデ、内：ハケ→工具ナデ、備考：北陸系？
1243	B②SA7	覆土	弥生	高杯	B	に赤い模	外：赤彩模ミガキ(脚横・脚縫)、杯内：赤彩模ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1244	B②SA7	覆土	弥生	高杯	C	に赤い模	脚外：縫ミガキ、杯内：ミガキ、脚内：ナデ
1245	B②SA7	覆土	弥生	鉢	B	に赤い模	外：赤彩模ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩模ミガキ
1246	B②SA7	覆土	弥生	明漆	C	に赤い模	外：赤彩模ミガキ(脚横・脚縫)、杯内：赤彩模ミガキ、脚内：ナデ→一部横ミガキ、備考：北陸系

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1247	B②SA7	覆土	弥生	器台	A	浅黄橙	外：赤彩ミガキ(杯底・脚柱部・脚部横)。杯内：赤彩横ミガキ。脚内：ナデ。備考：北系
1248	B②SA8	床底	弥生	壺	C	に赤い模	外：頸部丁字4ヶ赤彩ミガキ(口縁部・脚部横)。内：口縁赤彩横ミガキ。脚調整不明。備考：内：口縁赤彩横
1249	B②SA8	覆土	弥生	壺	C	に赤い模	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文(口縁部・脚部)。肩下横ミガキ。内：横ハケ一橋ミガキ
1250	B②SA8	床底	弥生	壺	D	に赤い模	外：頸部右側等四隅止巻状文→撫波状文(口縁部・脚部)。内：横ミガキ
1251	B②SA8	床面	弥生	高杯	D	模	杯外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ
1252	B②SA8	覆土	弥生	高杯	B	に赤い模	外：赤彩横ミガキ 突帯。杯内：赤彩横ミガキ。脚内：調整不明 ベンガラ付着
1253	B②SA8	床面	弥生	壺	D	に赤い模	外：頭部丁字4ヶ赤彩横ミガキ→撫波状文。内：横ミガキ。備考：1287と同一？
1254	B②SA9	床面	弥生	壺	D	に赤い模	外：口唇山形突起4ヶ赤彩横ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1255	B②SA9	床中	弥生	壺	D	に赤い模	外：頸部丁字4ヶ赤彩横ミガキ。内：横ハケ
1256	B②SA9	覆土	弥生	壺	C	浅黄橙	外：底周ケズリ→赤彩横ミガキ。内：横ハケ→ナデ
1257	B②SA9	床面	弥生	壺	A	に赤い模	外：頸部丁字4ヶ赤彩横ミガキ。内：横ハケ→口縁横ミガキ
1258	B②SA9	床面	弥生	壺	A	に赤い模	外：頭部直線文、ハケ口縁部・肩上部・脚下部)→赤彩ミガキ(口縁部・脚部横)。内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ
1259	B②SA9	床面	弥生	壺	A	灰褐	外：頸部右側2連止巻状文→擬ミガキ。内：横ミガキ ベンガラ付着
1260	B②SA9	床面	弥生	壺	D	に赤い模	外：頭部丁字4ヶ赤彩横ミガキ。内：横ハケ
1261	B②SA9	床中	弥生	壺	B	模	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文。内：横ミガキ。備考：器内剥離
1262	B②SA9	床面	弥生	壺	A	赤褐	外：擬ハケミガキ。底：輪台。ケズリ。内：横ケズリ。備考：北系
1263	B②SA9	床底	弥生	壺	D	に赤い模	外：撫波状文 底下横ハケ→擬ミガキ。内：横ミガキ。備考：北系系との折衷
1264	B②SA9	床面	弥生	高杯	B	に赤い模	外：口唇山形突起4ヶ赤彩横ミガキ。内：赤彩横ミガキ。杯内：ケズリ。ハケ
1265	B②SA9	床底	弥生	高杯	A	に赤い模	外：赤彩ミガキ(杯底・脚底)。杯内：赤彩横ミガキ。脚内：横ハケ
1266	B②SA9	床中	弥生	高杯	B	灰褐	杯外：赤彩ミガキ(口縁横・脚下部)。杯内：赤彩横ミガキ。脚：1270と同一個体？
1267	B②SA9	床中	弥生	高杯	B	灰褐	杯外：赤彩横ミガキ。杯内：赤彩横ミガキ。備考：1269と同一個体？
1268	B②SA9	覆土	弥生	高杯	D	灰褐	外：赤彩ミガキ(口縁・杯底・脚底)。杯内：赤彩横ミガキ。外系系との折衷
1269	B②SA9	床中	弥生	高杯	C	灰黄	脚外：赤彩横ミガキ。脚内：横ハケ→ナデ。備考：1267と同一個体？
1270	B②SA9	床面	弥生	高杯	B	灰褐	脚外：赤彩横ミガキ。脚内：ナデ。備考：1266と同一個体？ 外系系
1271	B②SA9	床面	弥生	鉢	A	浅黄	外：赤彩横ミガキ。底：ケズリ。内：赤彩横ミガキ
1272	B②SA9	床面	弥生	鉢	A	に赤い模	外：赤彩横ミガキ。底：ミガキ。内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ミガキ。備考：北系系との折衷
1273	B②SA9	覆土	弥生	壺	D	明陶灰	外：頭部右側2連止巻状文→撫波状文 赤彩文。内：横ミガキ
1274	B②SA9	弥生	壺	D	明陶灰	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文 赤彩文。内：調整不明。備考：SK47取り上げ	
1275	B②SA9	弥生	壺	D	明陶灰	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文 赤彩文。内：横ハケ→口縁赤彩横ミガキ 脚部横ミガキ。備考：重複取り上げ	
1276	B②SA9	覆土	弥生	壺	D	に赤い模	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文 赤彩文。内：横ハケ→横ミガキ
1277	B②SA10	覆土	弥生	壺	D	に赤い模	外：口唇山形突起4ヶ赤彩横ミガキ。内：赤彩横ミガキ
1278	B②SA10	覆土	弥生	壺	D	模	外：頭部横高級。赤彩ミガキ(口縁部・脚部横)。内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ。備考：内：口縁剥離
1279	B②SA10	P6	弥生	壺	D	灰褐	外：ハケ→擬ミガキ。内：右幅ハケ
1280	B②SA10	覆土	弥生	壺	C	暗褐	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文(口縁部・脚部)。肩下横ミガキ。内：横ミガキ
1281	B②SA10	床面	弥生	壺	A	暗褐	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文(口縁部・脚部)。肩下横ミガキ。内：横ミガキ
1282	B②SA10	覆土	弥生	壺	C	模	外：頸部右側2連止巻状文→撫波状文(口縁部・脚部)。肩下横ミガキ。内：横ミガキ
1283	B②SA10	床面	弥生	台付壺	A	に赤い模	外：頸部右側3連止巻状文→撫波状文(口縁部・脚部)。肩下横ミガキ。台外：ミガキ。台内：横ミガキ 接合部。台内：ナデ
1284	B②SA10	覆土	弥生	高杯	D	模	脚外：赤彩横ミガキ。脚内：ナデ。内：赤彩横ミガキ
1285	B②SA10	床面	弥生	鉢	A	模	外：赤彩横ミガキ。底：ナデ。内：赤彩横ミガキ
1286	B②SA10	覆土	弥生	鉢	B	模	外：赤彩横ミガキ。底：ナデ。内：赤彩横ミガキ
1287	B②SA10	覆土	弥生	壺	D	に赤い模	外：頭部丁字4ヶ赤彩ミガキ(口縁部・脚部)。撫波状文。内：ミガキ？。備考：1253と同一？
1288	B②SA11	床面	弥生	壺	D	に赤い模	外：赤彩横ミガキ。底：ケズリ。内：脚上横工具ナデ 脚下横ハケ
1289	B②SA11	床面	弥生	壺	B	黄褐色	外：赤ミガキ。底：ケズリ。内：脚上横工具ナデ 脚下横ハケ
1290	B②SA11	床底	弥生	壺	D	模	外：頭部右側3連止巻状文→撫波状文(口縁部)。内：口縁横ミガキ 脚工具ナデ
1291	B②SA11	床底	弥生	壺	D	に赤い模	外：頸部右側等四隅止巻状文→撫波状文(口縁部)。内：口縁赤彩横ミガキ。底：ケズリ。内：横ミガキ
1292	B②SA11	床底	弥生	台付壺	C	に赤い模	外：撫波状文(脚部)。肩下横ミガキ。台外：擬ミガキ。台内：横ミガキ。内：ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1293	B②SA11	柱穴	弥生	高杯	C	黄橙	外：赤彩ミガキ（杯上横・杯下縦・脚綫）、杯内：赤彩横ミガキ
1294	B②SA11	床直	弥生	高杯	B	暗褐	外：赤彩ミガキ（杯横・脚綫）、杯内：赤彩横ミガキ
1295	B②SA11	P4	弥生	鉢	A	にい・橙	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1296	B②SA12	床直	弥生	盞	D	にい・橙	外：赤彩ミガキ文字2ヶ列、内：横ミガキ
1297	B②SA12	床直	弥生	盞	D	明闇灰	外：ミガキ？、備考：外来系？
1298	B②SA12	床直	弥生	甕	D	明赤褐	外：額部右側3進止端状紋→揚波状文（口縁↑・脚部↓）、内：横ハケ→横ミガキ
1299	B②SA12	床直	弥生	甕	D	にい・橙	横ナデ、外：口縁擬円線文、備考：北陸系
1300	B②SA12	覆土	弥生	盞	D	橙	脚部直文→揚波状文、内：横ハケ、備考：同一と思われる個体あり
1301	B②SA14	覆土	弥生	盞	D	にい・黄青	外：額部右側2進止端状紋→揚波状文（口縁↑・脚部↓）、内：横ミガキ
1302	B②SA14	覆土	弥生	盞	C	にい・黄青	外：額部直線文、赤彩ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ、脚部ナデ
1303	B②SA14	床直	弥生	盞	D	橙	外：赤彩横ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1304	B②SA14	覆土	弥生	盞	C	にい・橙	外：脚上部赤彩横ミガキ、脚下縦ミガキ、内：ハケ→ナデ
1305	B②SA14	床面	弥生	盞	C	にい・橙	外：脚上部赤彩横ミガキ、脚下縦ミガキ、底：調整不明、内：調整不明、備考：内器面剥離
1306	B②SA14	覆土	弥生	甕	B	にい・黄青	外：額部右側等間隔止端状紋→揚波状文（口縁↑・脚部↓）、脚下縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1307	B②SA14	覆土	弥生	甕	D	にい・橙	外：額部右側3進止端状紋→揚波状文（口縁↑・脚部↓）、内：横ミガキ
1308	B②SA14	床直	弥生	甕	D	にい・黄青	外：ミガキ、底：ナデ、内：調整不明
1309	B②SA14	覆土	弥生	台付甕	B	橙	外：額部2進止端状紋→揚波状文、甕内：横ミガキ
1310	B②SA14	覆土	弥生	甕	D	にい・黄青	外：口縫擬四稜文、脚部鋸工具突文、調整不明、内：横ハケ→横ケズリ、備考：北陸系
1311	B②SA14	床直	弥生	盞	D	にい・黄青	外：工具ナデ、内：ケズリ→工具ナデ
1312	B②SA14	床面	弥生	高杯	A	にい・黄青	外：赤彩ミガキ（杯横・脚綫）、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ、しばり目
1313	B②SA14	床面	弥生	高杯	C	にい・黄青	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1314	B②SA14	覆土	弥生	高杯	C	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：ナデ
1315	B②SA14	覆土	弥生	高杯	B	にい・黄青	脚外：ナデ。脚内：捨テ？
1316	B②SA14	覆土	弥生	鉢	B	にい・黄青	外：縦ミガキ、底：ケズリ、内：縦ミガキ
1317	B②SA14	覆土	弥生	鉢	D	橙	外：調整不明、口縁孔×残、内：調整不明
1318	B②SA14	覆土	弥生	甕	D	にい・黄青	横ナデ、外：口縫擬四稜文、甕工具刺突文、備考：北陸系
1319	B②SA14	床直	弥生	甕	D	にい・橙	外：調整不明、横ナデ、外：擬西暦文、脚部ハケ、備考：北陸系
1320	B②SA14	覆土	弥生	甕	D	にい・黄青	外：口縫擬四稜文、内：横ミガキ
1321	B②SA14	床直	弥生	盞	D	にい・橙	外：口縫擬波状文、内：横ミガキ
1322	B②SA15	覆土	弥生	盞	C	浅黄褐	外：額部T字文4ヶ列、縦ミガキ、内：横ミガキ、備考：1323と同一個体
1323	B②SA15	床直	弥生	盞	C	浅黄褐	外：ハケミガキ（脚上横・脚下縦）、内：工具ナデ、備考：1322と同一個体
1324	B②SA15	床直	弥生	甕	C	にい・橙	外：額部右2進止端状紋→揚波状文（口縁↑・脚部↓）、脚下縦ミガキ、内：横ミガキ
1325	B②SA15	覆土	弥生	甕	D	にい・黄青	外：縦ミガキ、底：ナデ、内：調整不明 白色の物質が付着
1326	B②SA15	P7	弥生	高杯	C	にい・黄青	外：赤彩ミガキ（杯上横・杯下縦）、杯内：赤彩横ミガキ
1327	B②SA15	床直	弥生	高杯	C	にい・橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：横ケズリ
1328	B②SA15	床直	弥生	盞	D	浅黄褐	横ナデ、備考：外来系？
1329	B②SA16	床面	弥生	甕	A	にい・橙	外：額部右2進止端状紋→揚波状文（口縁↑・脚部↓）、脚下縦ミガキ、底：ナデ、内：横ミガキ
1330	B②SA16	床面	弥生	甕	C	暗褐	外：調整不明、内：横工具ナデ、備考：北陸系
1331	B②SA16	覆土	弥生	甕	D	にい・橙	横ナデ、備考：北陸系
1332	B②SA16	床面	弥生	蓋	B	にい・橙	外：縦ミガキ、内：ハケ→ナデ
1333	B②SA16	覆土	弥生	鉢	C	にい・黄青	外：赤彩横ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1334	B②SA16	覆土	弥生	甕	C	にい・橙	外：額部T字文4ヶ列、ミガキ（口縫横・脚綫）、内：口縫横ミガキ、脚
1335	B②SA16	覆土	弥生	甕	D	にい・橙	外：横ミガキ、内：ミガキ
1336	B②SA18	覆土	弥生	盞	D	褐灰	外：口縫折り返して下方から指オサエ、面取り、口縫揚波状文、内：揚波状文、備考：東海州 1336と同一個体？ 50②SA1に同一個体と思われる鏡片有り
1337	B②SA18	覆土	弥生	高杯	B	にい・橙	杯外：赤彩ミガキ（杯上横・杯下縦）、杯内：赤彩横ミガキ
1338	B②SA18	覆土	弥生	鉢	A	橙	外：口縫スクランブル、脚部透彫クサン父、ナデ？、底：粘土を附加して平底化ケズリナデ、内：ナデ、備考：北陸系？ 脚非化地
1339	C②SA1	覆土	弥生	盞	D	浅黄褐	外：赤彩横ミガキ 口縫擬波状文？、内：赤彩横ミガキ
1340	C②SA1	覆土	弥生	甕	D	灰黑	外：口縫擬波状文 口縫揚波状文、内：ミガキ？
1341	C②SA2	覆土	弥生	甕	C	にい・橙	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩ミガキ
1342	C②SA2	床面	弥生	甕	A	灰黄褐	外：調整不明 わざかに赤彩が残るが全体におよぶのか不明、内：ハケ→横ミガキ、備考：北陸系？ 折抜？

No	出土遺構	部位	種別	器種	遺存	色調	技術・文様・特徵
1343	C ② SA2	床面	弥生	甕	A	に赤・褐	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部↓) 脚下綻ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1344	C ② SA2	覆土	弥生	甕	D	に赤・褐	外：ハケ→赤彩ミガキ(口縁横・脚側)、内：口縁赤彩横ミガキ 頭部右縫ハケ
1345	C ② SA2	床面	弥生	台付甕	A	に赤・褐	甕外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部↓) 脚下綻ミガキ、台外：横ミガキ、甕内：横ミガキ、台内：ハケ→ナデ
1346	C ② SA2	覆土	弥生	甕	D	淡褐	横ナデ、備考：北陸系
1347	C ② SA2	覆土	弥生	甕	C	に赤・褐	外：ハケ→ミガキ、内：横ハケ
1348	C ② SA2	床面	弥生	甕	A	灰白	外：横ミガキ、つまみ：穿孔1ヶ、内：横工具ナデ
1349	C ② SA2	覆土	弥生	高杯	D	褐	杯外：赤彩ミガキ、杯内：調整不明、備考：内器面剥離
1350	C ② SA2	覆土	弥生	高杯	C	明赤褐色	杯外：赤彩ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1351	C ② SA2	覆土	弥生	甕	D	淡褐	横ナデ、備考：北陸系
1352	C ② SA2	覆土	弥生	甕	D	淡褐	横ナデ、備考：北陸系
1353	C ② SA2	覆土	弥生	甕	D	に赤・褐	横ナデ、備考：北陸系
1354	C ② SA4	床面	弥生	甕	C	淡褐	外：頭部T字文4ヶ 赤彩報ミガキ、内：赤彩横ミガキ、備考：器面剥離
1355	C ② SA4	覆土	弥生	甕	D	橙	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑)、内：横ハケ→横ミガキ
1356	C ② SA4	覆土	弥生	甕	D	に赤・褐	甕外：横ハケ、底：ケズリ、備考：北陸系
1357	C ② SA4	床直	弥生	台付甕	B	に赤・褐	甕外：頭部右縫等間隔止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部?) 脚下綻ミガキ、台外：縫ミガキ、甕内：横ミガキ、台内：ナデ
1358	C ② SA4	床面	弥生	甕	A	褐斑	外：ケズリ→ナデ、内：ケズリ→ナデ
1359	C ② SA4	覆土	弥生	甕	C	に赤・褐	外：縫ミガキ、つまみ：穿孔1ヶ、内：調整不明
1360	C ② SA4	床直	弥生	高杯	C	に赤・褐	外：赤彩報ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：調整不明
1361	C ② SA4	覆土	弥生	鉢	C	褐斑	外：赤彩報ミガキ、底：ケズリ、内：赤彩報ミガキ
1362	C ② SA4	覆土	弥生	有孔鉢	C	に赤・褐	外：縫ミガキ?、底：ナデ、穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1363	C ② SA6	床直	弥生	甕	D	に赤・褐	外：口縁山形突起1ヶ残 赤彩報ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1364	C ② SA6	床直	弥生	甕	B	明褐色	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部?) 脚下綻ミガキ、底：ミガキ、内：ミガキ(口縁横・脚側)、備考：出土復元
1365	C ② SA6	床直	弥生	甕	A	暗褐	外：頭部鶴直線文、底：ミガキ、内：ハケ→横ミガキ、備考：外器面剥離
1366	C ② SA6	覆土	弥生	甕	C	明褐色	外：鰐波状文(↓)、内：横ミガキ
1367	C ② SA6	床面	弥生	甕	A	暗褐	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部?)、脚下綻ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1368	C ② SA6		弥生	甕	C	に赤・褐	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑)、内：ミガキ、備考：C ① SA16取り上げ 1369と同一個体
1369	C ② SA6		弥生	甕	C	に赤・褐	外：ハケ→縫ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：右傾ハケ→工具ナデ、備考：C ① SA16取り上げ 1368と同一個体
1370	C ② SA6	覆土	弥生	甕	B	淡褐	外：鰐波状文(脚部↑) 脚下ケズリ→ミガキ 実：ケズリ、内：ハケ→ミガキ
1371	C ② SA6	床面	弥生	甕	B	暗褐	外：鰐波状文(脚部↑) 脚下ハケ→縫ミガキ、底：ケズリ、内：ハケ→横ミガキ
1372	C ② SA6	覆土	弥生	甕	B	に赤・褐	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(脚部↑)、底：ミガキ、内：左傾ミガキ
1373	C ② SA6	床直	弥生	台付甕	C	橙	台外：縫ミガキ、台内：横ハケ
1374	C ② SA6	覆土	弥生	台付甕	C	橙	台外：縫ミガキ、台内：横ハケ
1375	C ② SA6	床直	弥生	甕	D	暗褐	外：横ナデ、内：口縁横ミガキ 頭部ナデ、備考：北陸系
1376	C ② SA6	覆土	弥生	甕	C	浅黃褐	横ナデ、備考：北陸系 C ① SA16取り上げ
1377	C ② SA6	覆土	弥生	高杯	D	に赤・褐	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1378	C ② SA6	覆土	弥生	高杯	C	橙	脚外：赤彩報ミガキ、脚内：横ハケ→工具ナデ
1379	C ② SA6	覆土	弥生	片口鉢	C	に赤・褐	外：横ミガキ 片口、底：ミガキ、内：横ミガキ
1380	C ② SA6	覆土	弥生	鉢	A	に赤・褐	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1381	C ② SA6	床直	弥生	有孔鉢	D	明赤灰	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ、穿孔1ヶ、内：調整不明
1382	C ② SA6	覆土	弥生	甕	B	に赤・褐	外：赤彩報ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1383	C ② SA6		弥生	高杯	D	浅黃褐	外：赤彩横ミガキ、内：調整不明、備考：北陸系 C ① SA16取り上げ
1384	C ② SA6	覆土	弥生	甕	D	淡褐	外：口縁横凹線文、調整不明、内：調整不明、備考：北陸系
1385	C ② SA6	覆土	弥生	脚部	D	に赤・褐	脚外：赤彩ミガキ 内孔1ヶ残、脚内：ケズリ?、備考：北陸系
1386	C ② SA6	覆土	弥生	甕	D	に赤・褐	横ナデ、外：擬四線文、備考：北陸系
1387	C ② SA6	床直	弥生	甕	D	に赤・褐	横ナデ、備考：北陸系
1388	C ② SA7	床面	弥生	甕	D	に赤・褐	外：赤彩横ミガキ、内：横ハケ→横工具ナデ
1389	C ② SA7	覆土	弥生	甕	D	浅黃褐	外：貼合突筋・脚側 素彩ミガキ、内：ハケ→ナデ、備考：北陸系
1390	C ② SA7	床面	弥生	甕	A	に赤・褐	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部↑) 脚下横ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→横ミガキ
1391	C ② SA7	床直	弥生	甕	C	に赤・褐	外：頭部右回3連止端状文→鰐波状文(口縁↑・胴部↑) 脚下綻ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1392	C ② SA7	覆土	弥生	更	A	に赤い青黄	外：頸部等開口部止端状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 脚下左端ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→口縁横ミガキ 剥一郎ナデ
1393	C ② SA7	覆土	弥生	高杯	D	に赤い青黄	脚外：赤彩縦ミガキ、胸内：右端ハケ
1394	C ② SA7	床面	弥生	高杯	A	に赤い青黄	外：赤彩縦ミガキ(横模・脚部)、内内：赤彩横ミガキ、脚内：横ハケ
1395	C ② SA7	床面	弥生	鉢	A	に赤い青黄	外：赤彩縦ミガキ [1対穿孔]↑、底：赤彩ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1396	C ② SA7	床面	弥生	鉢	A	に赤い青黄	外：赤彩縦ミガキ [1対穿孔]↑、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1397	C ② SA7	覆土	弥生	更	D	橙	横ナデ、備考：北陸系
1398	C ② SA8	覆土	弥生	更	C	に赤い青黄	外：頸部丁字文↓×残 縦ミガキ、底：ケズリ、内：脚下横ハケ 脚下横ケズリ
1399	C ② SA8	覆土	弥生	更	D	に赤い青黄	外：頭部丁字文↓×残 赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：器面剥離
1400	C ② SA8	覆土	弥生	更	B	に赤い青黄	外：鶴波状文、内：横ミガキ、備考：北陸系との折衷
1401	C ② SA8	覆土	弥生	台付鉢	C	に赤い青黄	外：脚外：開口部止端状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 脚下縦ミガキ、外：横ミガキ、内：横ミガキ、内内：ナデ
1402	C ② SA8	覆土	弥生	台付鉢	B	に赤い青黄	外：横ナデ、外：縦ハケ、備考：北陸系
1403	C ② SA8	覆土	弥生	更	D	に赤い青黄	外：横ナデ、外：縦ハケ、備考：北陸系
1404	C ② SA8	床面	弥生	高杯	D	に赤い青黄	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1405	C ② SA8	覆土	弥生	高杯	D	に赤い青黄	杯外：脚下山形突起↓×残 赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1406	C ② SA8	覆土	弥生	高杯	D	に赤い青黄	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、備考：北陸系 鉢の可能性有り
1407	C ② SA8	覆土	弥生	高杯	C	に赤い青黄	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：ナデ
1408	C ② SA8	床面	弥生	高杯	B	橙	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ
1409	C ② SA8	覆土	弥生	鉢	C	橙	外：赤彩ミガキ [1対]穿孔↓×残 内：赤彩ミガキ、備考：器面剥離
1410	C ② SA8	覆土	弥生	鉢	B	に赤い青黄	外：赤彩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：赤彩ミガキ、備考：器面剥離
1411	C ② SA8	覆土	弥生	鉢	B	に赤い青黄	外：赤彩ミガキ、底：ナデ、内：赤彩ミガキ、備考：器面剥離
1412	C ② SA8	P6	弥生	更	D	暗	横ナデ、外：右端ハケ、備考：北陸系
1413	C ② SA8	覆土	土師	更	A	橙	外：ハケ→右端ケズリ、内：工具ナデ
1414	C ② SA8	覆土	土師	更	A	に赤い青黄	外：右端ハケ→底固ケズリ、内：横ハケ→ナデ
1415	C ② SA8	覆土	土師	更	B	暗赤褐	外：ハケ→横ケズリ、内：横ケズリ
1416	C ② SA8	覆土	土師	高杯	C	橙	脚外：ミガキ(脚止端・脚断端)、脚内：ケズリ ナデ
1417	C ② SA8	覆土	土師	高杯	D	に赤い青黄	杯外：ケズリ→横ミガキ、杯内：横ミガキ
1418	C ② SA8	覆土	土師	高杯	D	に赤い青黄	脚外：横ミガキ、脚内：横ケズリ 橫合板(巻き上げ)
1419	C ② SA9	覆土	弥生	更	C	淡黄	外：頸部丁字文↓×赤彩横ミガキ、内：口輪赤彩横ミガキ 脚部横ハケ、備考：器面剥離
1420	C ② SA9	覆土	弥生	更	B	褐	外：頸部右回2連止端状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)→脚下縦ミガキ、底：ミガキ、内：ミガキ(脚止端・脚断端)、施号：器面剥離
1421	C ② SA9	床面	弥生	台付鉢	B	褐	施号：頸部右回2連止端状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、兜内：横ミガキ、備考：器面剥離
1422	C ② SA9	覆土	弥生	高杯	C	黄灰	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1423	C ② SA9	覆土	弥生	鉢	A	淡黃褐	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→赤彩横ミガキ
1424	C ② SA9	床面	弥生	鉢	B	に赤い青黄	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：赤彩横ミガキ
1425	C ② SA9	床面	弥生	有孔鉢	A	に赤い青黄	外：縦ミガキ、底：ケズリ 穿孔↓↑、内：横ミガキ
1426	C ② SA9	床面	弥生	有孔鉢	B	淡黃褐	外：横ミガキ、底：ケズリ 穿孔↓↑、内：横ミガキ
1427	C ② SA10	床面	弥生	更	D	に赤い青黄	外：頸部丁字文↓×4ヶ残 赤彩横ミガキ、内：調整不明、備考：器面剥離
1428	C ② SA10	P2	弥生	更	D	に赤い青黄	外：頸部丁字文↓×4ヶ残 赤彩横ミガキ、内：ハケ→ナデ
1429	C ② SA10	床面	弥生	更	B	に赤い青黄	外：鶴波状文(脚部↑)、底：調整不明、内：横ミガキ
1430	C ② SA10	床面	弥生	更	B	に赤い青黄	外：頸部右回4連止端状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 脚下ハケ→ミガキ、内：横ハケ→口縁横ミガキ、備考：C① SA5取り上げ 1432と同一？
1432	C ② SA10	覆土	弥生	更	D	に赤い青黄	外：横ハケ→ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ、備考：C① SA5取り上げ 1431と同一？
1433	C ② SA10	床面	弥生	更	A	明茶褐色	外：頸部右回2連止端状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、底：ナデ、内：調整不明
1434	C ② SA10	覆土	弥生	更	D	に赤い青黄	外：頸部右回2連止端状文→鶴波状文(口縁↑)、内：横ミガキ
1435	C ② SA10	床面	弥生	更	A	に赤い青黄	外：頸部右回3連止端状文→鶴波状文、底：調整不明、内：調整不明、備考：器面剥離
1436	C ② SA10	覆土	弥生	更	D	暗褐	横ナデ、備考：北陸系
1437	C ② SA10	覆土	弥生	有孔鉢	C	明灰褐	外：ナデ、底：ケズリ→ナデ 穿孔↓↑、内：右端ハケ
1438	C ② SA10	覆土	弥生	更	D	赤褐	外：調整不明、内：調整不明
1439	C ② SA10	覆土	弥生	更	C	橙	外：調整不明、つまみ：穿孔↓↑、内：調整不明
1440	C ② SA10	床面	弥生	更	D	橙	外：ハケ、つまみ：穿孔↓↑、内：工具ナデ
1441	C ② SA10	床面	弥生	更	A	茶褐	外：ミガキ、底：指ナデ、内：ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徵
1442	C ② SA10	床直	弥生	高杯	D	に赤い橙	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1443	C ② SA10	覆土	弥生	鉢	B	に赤い橙	外：縦ミガキ、底：ミガキ、内：調整不明
1444	C ② SA10	覆土	弥生	鉢	B	に赤い橙	外：赤彩縦ミガキ、1対穿孔2ヶ、底：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ
1445	C ② SA11	床面	弥生	壺	C	に赤い橙	外：黒部彌直縦文、縦ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1446	C ② SA11	覆土	弥生	壺	C	に赤い黄	外：縦部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↓・胴部↑)、内：横ミガキ
1447	C ② SA11	床面	弥生	台付壺	B	に赤い黄	外：縦部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↓・胴部↑)、内：横ミガキ
1448	C ② SA11	床面	弥生	壺	C	に赤い黄	外：右幅ハケ、内：右幅ハケ、備考：北陸系
1449	C ② SA11	床面	弥生	有孔壺	D	褐色	外：ナデ、底：ケズリ→ナデ、穿孔1ヶ、内：ナデ
1450	C ② SA11	覆土	弥生	鉢	D	浅黄	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：ナデ
1451	C ② SA11	覆土	弥生	高杯	B	に赤い橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右幅ハケ
1452	C ② SA11	覆土	弥生	高杯	D	に赤い橙	脚外：赤彩ミガキ、脚内：調整不明
1453	C ② SA11	床面	弥生	脚部	D	に赤い橙	脚外：擬斗縫、赤彩横ミガキ、脚内：ナデ、備考：北陸系
1454	C ② SA11	覆土	弥生	壺	C	に赤い黄	外：調整不明、片口、内：口縁横ハケ→ナデ
1455	C ② SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄	横ナデ、外：ハケ？、内：ケズリ、備考：北陸系
1456	C ② SA11	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄	横ナデ、備考：北陸系
1457	C ② SA12	床面	弥生	壺	C	に赤い橙	外：黒部丁字縦文→赤彩ミガキ(口縁縦・胴部横)、内：口縁赤彩横ミガキ、脚部調整不明
1458	C ② SA12	覆土	弥生	壺	C	に赤い黄	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ(肩上横・脚下縦)→ナデ
1459	C ② SA12	覆土	弥生	壺	B	褐色	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、肩下縦ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1460	C ② SA12	床直	弥生	台付壺	A	橙	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、肩下縦ミガキ、台外：横ミガキ、奥内：横ミガキ、内：横ハケ
1461	C ② SA12	床面	弥生	壺	B	褐色	外：右幅ハケ→胴部ハケ工具突変、内：ケズリ、備考：北陸系
1462	C ② SA12	床面	弥生	壺	B	に赤い黄	外：口縁擬斗縫、胴部右縫ハケ、内：横ハケ、接合痕、備考：北陸系
1463	C ② SA12	覆土	弥生	壺	B	に赤い黄	外：ケズリ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：ケズリ、備考：北陸系？
1464	C ② SA12	床面	弥生	壺	D	に赤い黄	外：縦ミガキ？、底：ケズリ、内：ナデ
1465	C ② SA12	床直	弥生	壺	C	に赤い橙	外：ハケ→ミガキ、つまみ：穿孔1ヶ、内：横工具ナデ
1466	C ② SA12	床直	弥生	壺	A	に赤い橙	外：ミガキ、つまみ：穿孔1ヶ、内：ナデ
1467	C ② SA12	床面	弥生	壺	A	に赤い橙	外：赤彩ミガキ、1対穿孔2ヶ、底：ケズリ、内：赤彩ミガキ？
1468	C ② SA12	床直	弥生	壺	A	に赤い橙	外：赤彩ミガキ、1対穿孔2ヶ、底：ケズリ→ナデ、内：口縁赤彩ミガキ？、胴部横ミガキ
1469	C ② SA12	覆土	弥生	高杯	C	橙	脚外：赤彩縦ミガキ、脚内：右幅ハケ
1470	C ② SA12	床直	弥生	鉢	A	に赤い橙	外：赤彩縦ミガキ、底：ナデ、内：赤彩横ミガキ
1471	C ② SA12	床面	弥生	有孔壺	A	浅黄	外：縦ミガキ、底：ナデ、穿孔1ヶ、内：横ミガキ
1472	C ② SA12	弥生	鉢	C	に赤い橙	外：ケズリ→赤彩横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ→横ミガキ、備考：北陸系との折衷、C①SA29取り上げ	
1473	C ② SA12	床面	弥生	片口鉢	A	に赤い橙	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ、備考：C①SA29取り上げ
1474	C ② SA12	弥生	鉢	B	に赤い橙	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ、備考：C①SA29取り上げ	
1475	C ② SA12	覆土	弥生	壺	C	橙	外：黒部丁字縦文↓残→鶴波状文、内：右幅ハケ
1476	C ② SA15	床面	弥生	壺	A	暗褐	外：鶴波状文、底：ミガキ、内：横ミガキ、備考：器面剥離
1477	C ② SA15	床面	弥生	壺	D	暗褐	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、内：右幅ハケ→横ミガキ
1478	C ② SA15	床面	弥生	壺	A	に赤い橙	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、肩下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ
1479	C ② SA15	覆土	弥生	壺	D	暗褐	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑)、内：横ミガキ
1480	C ② SA15	床面	弥生	壺	C	暗褐	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、肩下右幅ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ
1481	C ② SA15	覆土	弥生	壺	C	暗褐	外：ケズリ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：ケズリ、備考：北陸系？
1482	C ② SA15	床面	弥生	壺	A	に赤い橙	外：赤彩ミガキ(側上横・側下縦)、底：ケズリ→ナデ、内：口縁赤彩横ミガキ、胴部横ミガキ
1483	C ② SA15	覆土	弥生	壺	C	明褐色	外：指オサエ、つまみ：穿孔1ヶ、内：ナデ
1484	C ② SA15	覆土	土師	器台	D	に赤い橙	外：赤彩ミガキ、内孔1ヶ残、内：ケズリ
1485	C ② SA15	覆土	弥生	壺	D	に赤い橙	外：縦ハケ→ナデ、内：口縁ナデ、胴部ケズリ→ナデ、備考：北陸系？
1486	C ② SA17	覆土	弥生	壺	D	に赤い黄	外：右幅ハケ、内：横ハケ→横ナデ
1487	C ② SA17	覆土	弥生	台付壺	C	明赤	台外：縦ミガキ、台内：横ケズリ→ナデ
1488	C ② SA18	覆土	弥生	壺	C	に赤い橙	外：黒部右斜2連止巻状文→赤彩ミガキ(口縁横・胴部縦)／1対穿孔1ヶ残、内：口縁赤彩横ミガキ、胴部ハケ→縦ミガキ(赤彩付着)
1489	C ② SA21	床直	弥生	壺	C	に赤い橙	外：黒部丁字縦文↓4ヶ残→縦ハケ→縦ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1490	C ② SA21	覆土	弥生	壺	D	橙	外：黒部右斜2連止巻状文→鶴波状文(口縁↑)、内：横ミガキ
1491	C ② SA21	床直	弥生	台付壺	D	橙	外：縦ミガキ、奥内：横ミガキ、台内：横工具ナデ

No.	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	找法・文様・特徵
1492	C ② SA21	床面	弥生	台付壺	A	に赤い縁	変外：頭部右回3止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 前下縦ミガキ、台外：横ハケ→縦ミガキ、變内：横ミガキ、台内：横ミガキ
1493	C ② SA21	覆土	土師	甕	D	に赤い縁	横ナデ、外：ハケ、備考：S字型、亂入
1494	C ② SA21	覆土	弥生	脚部	D	に赤い縁	脚外：擬四瓣文、赤彩ミガキ、備考：北陸系
1495	C ② SA22	覆土	弥生	壺	D	に赤い縁	外：右縁ハケ、内：横ハケ
1496	C ② SA22	Pt	弥生	壺	D	に赤い縁	外：胸上赤彩横ミガキ 前下縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
1497	C ② SA22	覆土	弥生	甕	D	暗褐色	外：頭部右回4止止め状文→鶴波状文(口縁↑)、内：横ミガキ
1498	C ② SA22	覆土	弥生	甕	D	暗褐色	外：頭部右回2連止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、内：調整不明、備考：内器面剥離
1499	C ② SA22	覆土	弥生	甕	A	黒褐色	外：頭部右回等間隔止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、内：横ミガキ
1500	C ② SA22	覆土	弥生	台付壺	C	暗褐色	台外：ミガキ、台内：具丹ナデ
1501	C ② SA22	覆土	弥生	甕	D	暗褐色	外：頭部右回等間隔止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓)、内：右縁ハケ
1502	C ② SA22	覆土	弥生	甕	D	に赤い縁	外：頭部右回2連止止め状文→鶴波状文(口縁↑)、内：横ミガキ
1503	C ② SA22	覆土	弥生	壺	C	に赤い縁	外：脚直線文、赤彩ミガキ(つまみ縫・脚横)、つまみ：穿孔1ヶ、内：横ミガキ 外：頭部右回3止止め状文→赤彩横ミガキ、底：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ミガキ、備考：火にかけて使用した痕跡
1504	C ② SA22	床面	弥生	壺	D	暗褐色	外：頭部右回3止止め状文→赤彩横ミガキ、底：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ミガキ、備考：火にかけて使用した痕跡
1505	C ② SA22	覆土	弥生	高杯	C	に赤い縁	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ハケ→ナデ
1506	C ② SA22	覆土	弥生	鉢	C	に赤い縁	外：赤彩横ミガキ、底：ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1507	C ② SA22	覆土	弥生	甕	D	に赤い縁	外：鶴波状文
1508	C ② SA25	覆土	弥生	壺	C	に赤い縁	外：頭部丁字文+円形浮文3/4ヶ残 鶴波状文 横ミガキ、内：調整不明、備考：内器面剥離
1509	C ② SA25	覆土	弥生	台付壺	C	に赤い縁	変外：頭部2連止止め状文、變内：横ミガキ
1510	C ② SA25	覆土	弥生	高杯	C	に赤い縁	杯外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩ミガキ
1511	C ② SA25	覆土	弥生	高杯	C	に赤い縁	脚外：赤彩横ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1512	25① SJ1		弥生	甕	C	に赤い縁	外：頭部直線文→鶴波状文(口縁↑) 脚部斜線文、底：ケズリ、内：ミガキ？
1513	48① SJ7		弥生	甕	B	に赤い縁	外：頭部右回2連止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 前下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ
1514	64① SJ1		弥生	壺	A	に赤い縁	外：頭部丁字文ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縫・脚上横) 前下縦ミガキ、底：ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ→ナデ、備考：指の外側 頭上復元
1515	64① SJ1		弥生	壺	B	に赤い縁	外：胸上赤彩横ミガキ 前下縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ、備考：指の内側剥離
1516	50② SK4		弥生	壺	A	浅黃褐色	外：頭部丁字文+円形浮文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縫・脚横) 前下縦ミガキ、底：ケズリ、内：口縁赤彩浮文4ヶ 赤彩ミガキ(口縁縫・脚横) 脚部調整不明、備考：内器面剥離
1517	4① SDZ1	周溝	弥生	壺	B	に赤い縁	外：頭部丁字文4ヶ 赤彩ミガキ、内：口縁赤彩ミガキ 脚部横ハケ→ナデ、備考：4① SU取り上げ
1518	4① SDZ1	周溝	弥生	甕	A	に赤い縁	外：頭部右回3止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 前下縦ミガキ、底：ケズリ、内：ミガキ(口縁縫・脚部縫)
1519	4① SDZ1	周溝	弥生	甕	B	帶	外：頭部右回2連止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 前下縦ミガキ、底：ケズリ、内：調整不明、備考：器面剥離
1520	4① SDZ1	周溝	弥生	壺	B	灰黃褐色	外：赤彩ミガキ 1穿孔2ヶ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ→横ミガキ、備考：4① SU取り上げ
1521	4① SDZ1	周溝	弥生	高杯	C	灰黃褐色	外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ、備考：4① SU取り上げ
1522	19① SDZ1	周溝	弥生	甕	A	に赤い縁	外：頭部右回2連止止め状文→鶴波状文(口縁↑・胴部↓) 前下縦ミガキ、底：ケズリ、内：横ハケ→脚横ミガキ、備考：盆底取り上げ
1523	19① SDZ1	周溝	弥生	高杯	B	に赤い縁	外：赤彩ミガキ、杯内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ハケ→横ミガキ(わずかに赤彩が付着)、脚内：ナデ、備考：火にかけて使用した痕跡 器面剥離
1524	19① SDZ1	周溝	土師	甕	A	に赤い縁	外：ハケ→ケズリ→ナデ、内：口縁横ハケ 脚部横ハケ→脚上ナデ、備考：盆底取り上げ
1525	48① SDZ5	周溝	弥生	壺	C	に赤い縁	外：口唇山突起3/4ヶ残 頭部右回11止止め状文 赤彩横ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部横ミガキ
1526	48① SDZ5	周溝	土師	壺	B	に赤い縁	外：赤彩横ミガキ、底：ケズリ、内：ケズリ→ナデ
1527	48① SDZ6	周溝	弥生	高杯	C	に赤い縁	脚外：赤彩横ミガキ、脚内：横ハケ
1528	48① SDZ6	周溝	弥生	高杯	C	に赤い縁	脚外：赤彩横ミガキ、脚内：ナデ
1529	48① SD1	覆土	弥生	脚部	D	に赤い縁	脚外：赤彩横ミガキ 内丸2ヶ残、脚内：ナデ、備考：北陸系？
1530	B ② SD2	覆土	弥生	高杯	B	に赤い縁	外：頭部直線文+円形浮文2/4ヶ残 調整不明、内：調整不明
1531	B ② SD8	覆土	弥生	高杯	B	に赤い縁	外：鶴波状文(口縫) 前下縦ミガキ、内：横ミガキ
1532	B ② SD6	覆土	弥生	甕	D	に赤い縁	外：鶴波状文(口縫) 前下縦ミガキ、内：横ミガキ
1533	B ② SD6	覆土	弥生	甕	C	に赤い縁	外：頭部右回2連止止め状文→鶴波状文(口縫↑)、内：横ミガキ
1534	B ② SD6	覆土	弥生	甕	C	に赤い縁	外：頭部右回2連止止め状文 横ミガキ、内：横ミガキ
1535	B ② SD6	覆土	弥生	台付壺	D	に赤い縁	外：縦ケズリ、變内：ミガキ、台内：ケズリ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1536	B ② SD6	覆土	鉢	鉢	B	に古い黄青	外：口輪山形突起4ヶ 赤彩ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：赤彩横ミガキ
1537	B ② SD6	覆土	鉢	鉢	D	に古い黄青	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩ミガキ
1538	B ② SD6	覆土	土師	器台	C	に古い黄青	外：ハケ→横ミガキ 円孔3ヶ、内：横工具ナデ
1539	62① SN4	覆土	鉢	鉢	D	浅黄褐	外：赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1540	62① SN4	覆土	鉢	鉢	C	に古い黄青	外：頭部2列文字2/4ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・胸上横・胸下縦)、底：ケズリ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部3種ハケ→底彩ミガキ、備考：北陸系との折衷
1541	遺構外	5①	鉢	鉢	B	に古い黄青	外：頭部2列文字2/4ヶ残 赤彩ミガキ(口縁縦・胸上横・胸下縦)、底：ケズリ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部3種ハケ→底彩ミガキ、備考：北陸系との折衷
1542	遺構外	5①	鉢	鉢	B	に古い橙	外：頭部直線文 赤彩ミガキ(口縁縦・胸上横・胸下縦)、底：ケズリ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部ナデ→接合痕
1543	遺構外	14①	鉢	鉢	A	に古い黄青	外：頭部右回2列止巻文状? 小斜ミガキ(口縁縦・脚部縦?)、底：ケズリ→ナデ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部ハケ→ナデ?、備考：器面剥離
1544	遺構外	48①	鉢	鉢	C	に古い黄青	外：赤彩ミガキ、内：調整不明、備考：器面剥離
1545	遺構外	C ①	鉢	鉢	D	に古い黄青	外：脚部横ケズリ、内：ケズリ、備考：北陸系
1546	遺構外	C ①	鉢	鉢	D	に古い黄青	外：縦ハケ→ケズリ→底ミガキ、内：横ミガキ、備考：北陸系
1547	遺構外	73①	鉢	鉢	D	に古い黄青	外：口縁横或状文 頭部脚直線文→脚部脚横羽状文または脚部線文、内：横ハケ→ミガキ
1548	遺構外	B ①	鉢	鉢	A	に古い黄青	外：ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ
1549	遺構外	B ①	鉢	高杯	B	灰黄	外：赤彩縦ミガキ、杯内：赤彩ミガキ、脚内：ナデ
1550	遺構外	48①	鉢	高杯	C	浅黄褐	外：赤彩ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1551	遺構外	B ①	鉢	脚部	D	に古い黄青	脚外：赤彩ミガキ、脚内：脚柱横ケズリ→脚部ハケ、備考：北陸系
1552	遺構外	B ①	鉢	脚部	D	橙	外：調整不明、内：調整不明 しはり目 接合痕(巻き上げ)、備考：外来系? 始土非在地
1553	遺構外	C ①	鉢	器台	C	橙	外：赤彩ミガキ 円孔2/4ヶ残、脚外：縦ハケ→赤彩ミガキ、内：ハケ→ミガキ?、脚内：調整不明、備考：北陸系
1554	遺構外	C ①	鉢	鉢	D	に古い橙	外：赤彩横ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：北陸系
1555	遺構外	C ①	鉢	鉢	D	に古い橙	外：赤彩ミガキ、内：赤彩ミガキ、備考：北陸系
1689	6① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	D	に古い橙	外：脚上ハケ→ナデ、内：口縁ハケ 脚部ハケ→ナデ
1690	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	C	に古い褐	外：右脚ハケ→脚下ケズリ→脚部ナデ 底部ケズリ残る、内：口縁右脚ハケ 脚部ナデ
1691	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	A	に古い褐	外：右脚ハケ→脚下ケズリ→脚部ナデ 底部ケズリ残る、内：口縁右脚ハケ 脚部ナデ
1692	6① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	D	に古い褐	外：調整不明、内：調整不明 しはり目
1693	6① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	B	に古い黄青	外：脚ケズリ→脚部ナデ 底部ケズリ残る、内：脚部工具ナデ
1694	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	A	橙	外：ハケ→脚下ケズリ→脚部ナデ 底部ケズリ残る、内：脚部工具ナデ
1695	6① SA1	床直	土師	小型丸底壺	C	に古い黄青	外：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
1696	6① SA1	床直	土師	高杯	C	橙	脚外：縦ミガキ、脚内：接合痕
1697	6① SA1	覆土	土師	高杯	C	に古い褐	脚外：ミガキ(脚上縦・脚附)、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ)
1698	6① SA1	覆土	土師	高杯	D	に古い褐	脚外：右脚ハケ→脚下ミガキ、脚内：ミガキ、備考：内器面剥離
1699	6① SA1	床直	土師	高杯	B	に古い褐	脚外：右脚ハケ→ナデ、脚外：縦ミガキ、脚内：ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ) しはり目
1700	6① SA1	床直	土師	高杯	C	に古い褐	脚外：縦ミガキ、脚内：ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕(巻き上げ) しはり目
1701	6① SA1	床直	土師	高杯	C	に古い黄青	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ 接合痕
1702	6① SA1	床直	土師	高杯	C	に古い黄青	脚外：縦ミガキ、脚内：接合痕(巻き上げ) しはり目
1703	6① SA1	床直	土師	高杯	C	に古い黄青	脚外：調整不明、脚内：調整不明、脚内：横ケズリ
1704	34④ SA3	床直	土師	壺	C	に古い黄青	外：赤彩縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→ナデ
1705	34④ SA3	床直	土師	器台	B	橙	外：脚ハケ→縦ミガキ、脚外：縦ミガキ 円孔1ヶ残、脚内：ミガキ、脚内：ナデ しはり目
1706	34④ SA3	床直	土師	小型丸底壺	B	に古い黄青	外：口縁縦ハケ→縦ミガキ 脚部ケズリ、内：口縁横ミガキ 脚部ナデ
1707	48① SA1	覆土	土師	壺	D	に古い黄青	外：縦ハケ→赤彩縦ミガキ、内：口縁赤彩横ミガキ 脚部ケズリ
1708	48① SA1	覆土	土師	壺	D	に古い黄青	外：縦ハケ→概土上→赤彩縦ミガキ、内：赤彩横ミガキ
1709	48① SA1	覆土	土師	壺	D	に古い黄青	外：調整不良、内：ケズリ
1710	48① SA1	覆土	土師	壺	D	明赤褐	外：ハケ、内：ハケ 接合痕
1711	48① SA1	覆土	土師	壺	D	明赤褐	外：右脚ハケ→ナデ、内：ハケ→ナデ?
1712	48① SA1	覆土	土師	壺	D	橙	外：左脚ハケ、底：ケズリ、内：横ハケ
1713	48① SA1	覆土	土師	壺	C	に古い黄青	外：縦ハケ→縦ミガキ、底：ケズリ、内：ミガキ
1714	48① SA1	覆土	土師	高杯	C	に古い褐	脚外：縦ミガキ、脚内：ナデ
1715	48① SA1	覆土	土師	高杯	C	に古い黄青	脚外：縦ミガキ、脚内：ナデ
1716	48① SA1	覆土	土師	小型丸底壺	D	に古い褐	外：ハケ(口縁右脚・脚部横)→ナデ?、底：ケズリ、内：工具ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1717	48①SA1	覆土	土師	鉢	D	に赤い黄褐色	外：ミガキまたは丁寧なナデ、底：丸底に柄土をはって平底化→ケズリ、内：ミガキまたは丁寧なナデ
1718	48①SA1	覆土	土師	鉢	C	根	外：口縁折り返し 右傾ハケ→縦ケズリ、内：ナデ
1719	48①SA2	覆土	土師	壺	C	に赤い黄褐色	外：胴上部腹面ミガキ 壱下縦ミガキ。底：ケズリ、内：横工具ナデ
1720	48①SA2	覆土	土師	壺	B	に赤い褐	外：右傾ハケ→口縁ケズリ 胸部縦ミガキ、内：口縁横ハケ 胸部左傾ケズリ→胸上横ミガキ
1721	48①SA2	覆土	土師	壺	C	に赤い褐	外：右傾ハケ、内：横工具ナデ
1722	48①SA2	覆土	土師	壺	D	に赤い褐	外：右傾ハケ、内：横工具ナデ
1723	48①SA2	覆土	土師	壺	D	に赤い褐	外：右傾ハケ、内：工具ナデ
1724	48①SA2	覆土	土師	壺	D	に赤い褐	外：右傾ハケ→調整不明、内：工具ナデ
1725	48①SA2	覆土	土師	高杯	C	に赤い橙	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ
1726	48①SA3	床面	土師	器台	B	に赤い褐	脚外：縦ハケ 円孔3ヶ、脚内：ナデ
1727	50②SA5	P3	土師	壺	C	褐灰	外：縦ケズリ、壺内：工具ナデ、台内：ナデ
1728	50②SA5	床直	強生	壺	C	に赤い黄褐色	外：口縁側流状文、頭部右側に溝止撇状文→側波状文(側1) 円形浮文(側中5/6ヶ残・口唇2ヶ残)、内：横ミガキ
1729	50②SA5	覆土	強生	壺	D	褐灰	外：側波状文(口縁1ヶ)、内：横ミガキ
1730	50②SA5	覆土	強生	台付壺	D	に赤い黄褐色	外：頭部右側に溝止撇状文→側波状文(口縁1ヶ・脚部1ヶ) 脚下縦ハケ→ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1731	50②SA5	床面	強生	高杯	D	褐灰	脚外：赤彩横ミガキ、杯内：赤彩横ミガキ
1732	50②SA5	覆土	強生	高杯	D	橙	脚外：赤彩横ミガキ、脚内：右傾ハケ→ナデ
1733	50②SA5	覆土	強生	高杯	D	橙	脚外、調整不明、脚内：ケズリ→ナデ
1734	50②SA5	覆土	強生	鉢	B	に赤い黄褐色	外：調整不明、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明
1735	50②SA5	K1	強生	有孔鉢	B	に赤い黄褐色	外：ケズリ(脚部縮・底縮横)、底：ケズリ→ナデ 空孔1ヶ、内：横ハケ→ナデ
1736	54①SA1	覆土	土師	壺	D	に赤い褐	外：ナデ、内：口縁ハケ 脚部横ミガキ、内：口縫横ナデなし
1737	54①SA1	覆土	土師	壺	D	に赤い黄褐色	外：ハケ、内：口縁ハケ 脚部ケズリ→ナデ、備考：圓上復元
1738	54①SA1	覆土	土師	壺	D	に赤い黄褐色	外：ナデ、内：ケズリ→ナデ
1739	57①SA3	覆土	土師	壺	D	に赤い黄褐色	外：右傾ハケ→一部右傾ミガキ、内：口縁横ハケ→横ミガキ、脚部横ハケ→脚上横工具ナデ→横ケズリ
1740	57①SA3	覆土	土師	壺	B	根	外：口縁縦ハケ→縦ミガキ 脚部横ハケ→ナデ→部ミガキ、内：口縁縦ミガキ 脚部横ハケ→横工具ナデ
1741	57①SA3	覆土	土師	小菅丸底甌	B	根	外：ナデ→脚下ケズリ→脚部ナデ 口縁一部ミガキ、内：ナデ
1742	57①SA3	覆土	土師	器台	B	に赤い黄褐色	受外：ナデ→一部ミガキ 円孔3ヶ、脚外：縦ミガキ、受内：横ミガキ、脚内：横ケズリ→ナデ
1743	57①SA3	覆土	土師	脚部	C	に赤い黄褐色	脚外：赤彩横ミガキ 円孔4ヶ、脚内：ケズリ
1744	60②SA3	覆土	土師	壺	D	に赤い黄褐色	外：口縁縦工具突文 脚部ハケ、内：横ケズリ、備考：北跡系
1745	60②SA3	覆土	土師	壺	D	褐灰	外：口縁粘土脂付 四縁文 赤彩、内：横ハケ→兜状工具による羽状突文、備考：ペレス症
1746	61①SA9	覆土	土師	壺	D	に赤い黄褐色	横ナゲ、内：ケズリ、備考：S字型
1747	61①SA9	P7	土師	壺	A	に赤い黄褐色	外：縦ハケ→脚下右付加 ケズリ、底：ケズリ 底粘土を付加して平底化、内：横ハケ→脚下ナデ
1748	63①SA1	床直	土師	壺	C	に赤い橙	外：脚上ミガキ 脚下縦ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ→工具ナデ、備考：器面剥離
1749	63①SA1	床直	土師	壺	C	に赤い黄褐色	外：脚上ミガキ ケズリ(脚中横・脚下縦・底横)→一部ミガキ、底：粘土付加により平底化、内：横ハケ→ナデ
1750	63①SA1	床直	土師	壺	C	に赤い黄褐色	外：脚上ミガキ ケズリ(脚中横・脚下縦)→一部ミガキ、内：横ハケ→一部ナデ 接合部
1751	63①SA1	床直	土師	壺	D	根	外：縦ハケ→ナデ、内：口縁横ハケ 脚部工具ナデ
1752	63①SA1	床直	土師	壺	D	根	外：横ミガキ?、内：口縁横ミガキ 脚部横ケズリ
1753	63①SA1	床直	土師	器台	C	に赤い黄褐色	外：ナデ→ミガキ 円孔2ヶ+3ヶ残、受外内：ミガキ、脚内：ナデ
1754	63①SA1	床直	土師	器台	C	に赤い根	脚外：縦ハケ→横ミガキ、内：ナデ
1755	63①SA1	床直	土師	台付壺	B	根	柱外：ミガキ、内：ミガキ(口縁縦・脚部横)
1756	63①SA1	床直	高杯	C	に赤い黄褐色	脚外：調整不明、内：横工具ナデ	
1757	63①SA1	床直	高杯	A	に赤い黄褐色	外：脚下粘土付加 ケズリ→ミガキ、底：四底、内：縦ミガキ→黒色	
1758	79①SA5	覆土	土師	壺	C	に赤い根	外：ハケ→一部ミガキ 脚部1ヶ状突起2ヶ+吸盤状突起1ヶ、内：ナデ?
1759	79①SA5	床面	土師	壺	B	淡黃根	外：ハケ→工具ナデ 突突3ヶ、内：ケズリ
1760	79①SA5	覆土	土師	壺	C	に赤い黄褐色	外：工具ナデ、内：工具ナデ
1761	B②SA13	床面	土師	壺	D	に赤い根	外：脚下右縫ケズリ→脚部工具ナデ?、内：横工具ナデ
1762	B②SA13	覆土	土師	台付壺	D	に赤い根	外：脚縫ハケ→ナデ、台内：工具ナデ
1763	B②SA13	覆土	土師	台付壺	D	に赤い根	外：脚縫ハケ、台内：指ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1765	B②SA13	覆土	土師	甕	D	浅黄褐	外:工具ナデ、底:ケズリ→ナデ、内:横ケズリ
1764	B②SA13	覆土	土師	高杯	C	浅黄褐	外:右縁ミガキ、杯内:右縁ミガキ
1766	C①SA30	床面	土師	甕	B	灰褐色	外:ケズリ→右縁ハケ 截面窓ケズリ、底:ケズリ、内:ハケ→工具ナデ
1767	C①SA30	床面	土師	甕	B	灰褐色	外:ケズリ→ナデ、内:工具ナデ
1768	C①SA30	床面	土師	甕	D	灰白	外:口縁部ハケ 制造調整不明、内:調整不明
1769	C①SA30	床面	土師	甕	D	灰褐色	外:右縁ケズリ、内:右縫ケズリ、備考: C①SA24取り上げ
1770	C①SA30	床面	土師	甕	D	灰褐色	外:横ハケ、内:ナデ
1771	C①SA30	床面	土師	甕	B	灰褐色	外:横ハケ。底:ケズリ→ナデ、内:横ハケ→工具ナデ
1772	C①SA30	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外:左縫ハケ、内:工具ナデ、備考: S字型
1773	C①SA30	床面	土師	甕	D	赤褐色	外:横ハケ、内:ナデ ケズリ、備考: S字型 1778と同一個体
1774	C①SA30	土師	台付甕	D	褐	台外: 灰褐色→横ハケ、台内: 横工具ナデ、備考: C①SA24取り上げ	
1775	C①SA30	床面	土師	台付甕	D	赤褐色	外: 右縫ハケ→ナデ、台内: 指ナデ、備考: 1773と同一個体
1776	C①SA30	土師	台付甕	D	灰	台外: ケズリ、台内: ケズリ。備考: C①SA24取り上げ	
1777	C①SA30	土師	釜	C	浅黄	外: 赤褐色ミガキ、内: ナデ、備考: C①SA24取り上げ	
1778	C①SA30	土師	釜	B	灰白	外: 赤褐色ミガキ、底: ナデ、備考: C①SA24取り上げ	
1779	C①SA30	土師	釜	D	灰褐色	外: 口縁部ミガキ→脇部ハケ→横ミガキ 突筋、内: 口縁部ミガキ 脇部ハケ→横ミガキ、備考: C①SA24取り上げ	
1780	C①SA30	土師	器台	B	灰褐色	外: ケズリ→ミガキ(杯柄・脚部) 円孔4ヶ、受内: 横ミガキ、脚内: ケズリ、備考: 土上復元 C①SA24取り上げ	
1781	C①SA30	床面	土師	高杯	A	灰褐色	杯外: 赤褐色右縫ミガキ、脚外: 右縫ハケ→赤褐色右縫ミガキ、杯内: 赤褐色ミガキ、脚内: ケズリ
1782	C①SA30	床面	土師	高杯	B	灰褐色	杯外: 赤褐色ミガキ、脚外: 横ハケ→赤褐色ミガキ 円孔4ヶ、杯内: 赤褐色ミガキ、脚内: ケズリ→ナデ
1783	C①SA30	覆土	土師	高杯	C	灰褐色	杯外: 横ハケケズリ→一部横ミガキ、杯内: 左縫ミガキ、備考: 1784と同一個体
1784	C①SA30	覆土	土師	高杯	D	灰褐色	脚外: 横ミガキ 円孔1段目3ヶ・2段目3ヶ、脚内: 横ハケ→ナデ、備考: 1783と同一個体
1785	C①SA30	土師	器台	B	灰褐色	受外: 赤褐色ミガキ、受内: 赤褐色ミガキ、備考: 北陸系 C①SA24取り上げ	
1786	C①SA30	土師	脚部	D	黄褐色	脚外: 赤褐色ミガキ、脚内: ハケ→ミガキ、備考: 北陸系 C①SA24取り上げ	
1787	C②SA16	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: ハケ→ミガキ、内: ハケ→ミガキ
1788	C②SA16	覆土	先生	高杯	D	褐	杯外: 横ミガキ、杯内: 横ミガキ、備考: 北陸系 鉢の可能性有り
1789	C②SA16	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: 右縫ケズリ、内: ナデ
1790	C②SA16	覆土	先生	脚部	D	褐	脚外: 赤褐色ミガキ 円孔1ヶ残。脚内: 調整不明、備考: 北陸系
1791	C②SA16	覆土	先生	高杯	D	灰褐色	外: 赤褐色ミガキ、杯内: 赤褐色ミガキ、脚内: ハケ
1792	C②SA16	覆土	土師	瓶	D	浅黄褐	外: ケズリ。内: 横ハケ
1793	C②SA16	覆土	土師	手垢?	D	灰褐色	外: 薄泥陶輪文、内: ミガキ
1794	C②SA16	覆土	先生	甕	D	灰褐色	横ナメ、外: 口縁部陶輪文、内: 口縁ミガキ 脇部ケズリ、備考: 北陸系
1795	C②SA16	覆土	先生	脚部	D	浅黄褐	脚外: 四線文 赤褐色ミガキ、備考: 北陸系 1117と接合 2349と併せて同一個体?
1796	C②SA16	覆土	先生	甕	D	灰褐色	横ナメ、外: 口縁状文
1797	34①SB1	土師	甕	D	灰褐色	外: 左縫ハケ、内: 横ケズリ、備考: S字型	
1798	34①SB1	土師	器台	C	灰褐色	脚外: 調整不明 円孔1段目4ヶ・2段目4ヶ、内: ケズリ→ナデ	
1799	48①SK3	覆土	土師	甕	B	灰褐色	外: ケズリ→右縫ミガキ、底: ケズリ、内: 工具ナデ、備考: 上下別作り 下足はハケ後に接合合板間に粘土補充
1800	69①SDZ1	周溝	土師	甕	A	浅黄褐	外: 右縫ハケ→一部縫削り、底: 削り、内: 右縫ハケ
1801	75①SDZ4	周溝	土師	甕	C	浅黄褐	外: 右縫ハケ、内: ナデ 接合痕
1802	75①SDZ4	周溝	先生	甕	D	灰褐色	外: 調整不明、底: ケズリ→ナデ、内: 調整不明、備考: 先生中間か?
1803	6①SD1	覆土	土師	甕	C	灰褐色	外: 右縫ハケ→一部右縫ミガキ、内: 横ハケナデ 接合痕
1804	6①SD1	覆土	土師	甕	C	褐	外: 縫ミガキ?、内: 口縁横ミガキ 脇部ケズリ→ナデ?
1805	6①SD1	覆土	土師	甕	C	褐	外: 右縫ハケ→一部ミガキ、底: ケズリ→ミガキ、内: 横ハケ→工具ナデ 接合痕
1806	6①SD1	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: 右縫ハケ→一部右縫ミガキ、内: 右縫ハケ→ナデ、備考: 1807と同一個体?
1807	6①SD1	土師	甕	D	灰褐色	外: 縫ケズリ→ナデ、底: ケズリ→ナデ、内: 工具ナデ、備考: 6①SA1取り上げ 1806と同一個体?	
1808	6①SD1	覆土	土師	甕	C	灰褐色	外: 右縫ハケ→ナデ、内: ナデ 接合痕
1809	6①SD1	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: 右縫ハケ、内: 口縁右縫ハケ 脇部工具ナデ
1810	6①SD1	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: 右縫ハケ、内: 口縁横ハケ 脇部右縫ケズリまたは工具ナデ
1811	6①SD1	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: 右縫ハケ→ナデ、内: 口縁右縫ハケ→工具ナデ 剥下横ケズリ
1812	6①SD1	覆土	土師	甕	D	灰褐色	外: 右縫ハケ→ケズリ、内: 横工具ナデ
1813	6①SD1	覆土	土師	甕	D	褐	外: 右縫ハケ→ナデ、内: 口縁横ハケ 脇部横工具ナデ 接合痕
1814	6①SD1	覆土	土師	高杯	D	灰褐色	外: 右縫ハケ→一部縫削りミガキ、内: 横ハケ→一部左縫ミガキ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1815	6①SD1	覆土	土師	小型丸底壺	B	に赤い模	外：ハケ（口縁右傾・胴部左傾）→胴下ケズリ→胴部横ミガキ？、底：ケズリ、内：工具ナダ
1816	6①SD1	覆土	土師	小型丸底壺	A	に赤い模	外：右傾ハケ→胴下ケズリ→胴部ナダ、底：ケズリ、内：ナダ
1817	23①SD5	覆土	赤生	壺	D	に赤い模	外：腹部右側2連立脚状文・拂波状文口縁（？）、内：横ミガキ
1818	23①SD5	覆土	土師	壺	D	に赤い模	横ナダ、外：拂狀付文×1机1残、貝殻復縫による羽状刻文、備考：バレス壺
1819	23①SD5	覆土	土師	杯	C	模	外：横ケズリ、内：ミガキ+黒色
1820	33①SD7	覆土	土師	壺	A	模	外：口縁右傾・脚部ハケ？、内：横ハケ→胴ナダ
1821	33①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：ハケ（口縁横・胴右傾）、内：ナダ 接合痕
1822	33①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：拂波状文・ハケ、内：口縁横ハケ+ナダ？ 胸部ナダ
1823	33①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：腹部横ハケ→前部縫ハケ→脚部横ハケ。内：横ハケ→横ケズリ、備考：S字彫
1824	33①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：脚部横ハケ→前部縫ハケ→脚部右傾ハケ。内：横ハケ→横ケズリ、備考：S字彫
1825	33①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：赤斜縫ミガキ 1穿孔1残、内：赤斜横ミガキ
1826	33①SD7	覆土	土師	壺	D	浅黄模	外：赤斜ミガキ、内：ナダ
1827	33①SD7	覆土	土師	高杯	C	模	外杯：縦ミガキ、杯内：縦ミガキ
1828	33①SD7	覆土	土師	台付壺	D	模	裏外：ハケ、台外：ハケ+ナダ？、裏内：ハケ→ナダ、台内：ハケ→ナダ
1829	33①SD7	覆土	土師	器台	B	に赤い模	脚部：調整不明 円孔2ヶ、脚内：横ケズリ
1830	33①SD7	覆土	土師	高杯	B	模	受外：ミガキ？、脚外：ミガキ？、受内ミガキ、脚内：横ケズリ 横ハケ
1831	50②SD2	覆土	土師	高杯	C	に赤い模	杯外：赤斜ミガキ、杯内：調整不明、備考：外来系？
1832	50②SD8	覆土	土師	高杯	A	明褐色	外：ケズリ→ナデ、杯内：ナデ、脚内：ハケ
1833	50②SD8	覆土	土師	器台	B	に赤い模	外：調整不明 円孔1ヶ 受部：淡紅色穿孔1ヶ、内：調整不明、備考：2次焼成
1834	50②SD8	覆土	土師	器台	C	に赤い模	受外：ミガキ、受内：ミガキ
1835	50②SD8	覆土	土師	器台	C	に赤い模	脚外：円孔1ヶ（目打2ヶ・段目1ヶ残）、脚内：調整不明
1836	52①SD4	覆土	土師	壺	D	模	外：腹部横ハケ→前部横ケズリ？、内：調整不明、備考：S字彫
1837	52①SD4	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：口縁削オサエ 脚部右傾ハケ、内：口縁横ハケ 脚部ナダ 接合痕
1838	52①SD4	覆土	土師	壺	B	灰黒模	外：ハケ（脚上部斜傾・脚下部）、内：横ハケ→脚部横工具ナダ
1839	34①SD7	覆土	土師	壺	D	模	外：右傾ミガキ、内：横ミガキ 接合痕
1840	34①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：口縁横ミガキ 口縁横ハケ→縦ミガキ、内：横ハケ→横ミガキ
1841	34①SD7	覆土	土師	壺	D	赤褐色	外：縦ミガキ 赤彩？、内：縦ミガキ
1842	34①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：縦ミガキ、底：ミガキ、内：ハケ→ミガキ？ 接合痕
1843	34①SD7	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：調整不明、内：調整不明、備考：器面剥離
1844	34①SD7	覆土	土師	壺	C	に赤い模	外：左傾ハケ、内：ナダ
1845	34①SD7	覆土	土師	高杯	D	に赤い模	脚外：杯下ミガキ、杯内：一部ミガキ
1846	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	に赤い模	脚外：左傾ハケ→横ナダ、杯内：左傾ハケ→横ナダ
1847	34①SD7	覆土	土師	高杯	C	に赤い模	脚外：横ナダ→縦ミガキ、杯内：横ナダ→暗文状縫ミガキ
1848	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	に赤い模	脚外：ハケ+脚上横ナダ+杯下ミガキ？、脚外：縦ミガキ、脚内：ハケ→ナデ？、脚内：工具ナダ しばり目 接合痕
1849	34①SD7	覆土	土師	高杯	A	に赤い模	脚外：左傾ハケ→横ナダ、脚外：脚柱ミガキ 脚軸横ナダ、杯内：横工具ナダ、脚内：横工具ナダ しばり目 接合痕
1850	34①SD7	覆土	土師	高杯	C	に赤い模	脚外：横ナダ→縦ミガキ、杯内：横ナダ→暗文状縫ミガキ
1851	34①SD7	覆土	土師	高杯	C	に赤い模	脚外：横ナダ→縦ミガキ、杯内：横ナダ→暗文状縫ミガキ
1852	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	に赤い模	脚外：縦ハケ→縦ミガキ、脚外：縦ハケ→暗文状縫ミガキ、杯内：右傾ハケ→暗文状縫ミガキ 脚外：右傾ハケ
1853	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	模	脚外：ミガキ（脚上縫・脚下縫）、脚内：横工具ナダ 接合痕
1854	34①SD7	覆土	土師	高杯	B	に赤い模	脚外：赤斜ミガキ、脚内：横工具ナダ 接合痕
1855	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	D	に赤い模	内：右傾ハケ
1856	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	C	に赤い模	外：ケズリ→一部ミガキ、内：工具ナダ
1857	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	C	模	外：ハケ（口縁横・脚部右傾）→胴下ケズリ 脚部ナダ、内：口縁：横ハケ 横工具ナダ 接合痕
1858	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	B	に赤い模	外：口縁横ハケ 脚下ケズリ→脚部ナダ、内：口縁：横ハケ 横工具ナダ 接合痕
1859	34①SD7	覆土	土師	小型丸底壺	B	に赤い模	外：口縁右傾ハケ 脚部ハケ状工具によるケズリ、内：横ハケ→横工具ナダ
1860	34①SD7	覆土	土師	器台	C	に赤い模	外：赤斜ミガキ、受け内：赤斜ミガキ、脚内：横ハケ→ナデ
1861	34①SD7	覆土	土師	鉢	B	に赤い模	外：縦ハケ→ナデ？、底：ケズリ、内：工具ナダ
1862	34①SD7	覆土	土師	鉢	B	明褐色	外：調整不明、内：ミガキ+黒色
1863	34①SD7	覆土	土師	鉢	B	に赤い模	外：ケズリ→ミガキ？、内：ミガキ→黒色
1864	34①SD7	覆土	土師	鉢	B	模	外：横ミガキ、内：横ミガキ+黒色、肩外：火にかけて使った痕跡
1865	34①SD7	覆土	土師	壺	D	尾	外：ハケ状工具による直線文・貝殻復縫または脚部状工具またはハケ状工具による山形文、内：ナデ、備考：バレス壺
1866	62①SD2	覆土	土師	壺	D	に赤い模	外：右傾ハケ→一部ケズリ、内：ハケ→ナデ

No	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1867	62①SD2	覆土	土師	壺	D	橙	外：横ミガキ、底：輪台 ナデ、内：ナデ？
1868	63①SD2	覆土	土師	壺	D	に赤い擦	横ナデ
1869	63①SD2	覆土	土師	壺	D	に赤い擦	横ナデ
1870	63①SD2	覆土	土師	壺	D	に赤い擦	横ナデ
1871	63①SD2	覆土	土師	壺	D	明赤褐色	外：ナデ？、内：ナデ
1872	63①SD2	覆土	土師	高杯	C	に赤い擦	脚外：輪ハケ→縦ミガキ、脚内：ナデ
1873	63①SD2	覆土	土師	壺	B	橙	外：輪上横ハケ→横ナデ 脚下ケズリ→一部ナデ、底：ケズリ、内：横ハケ→ナデ
1874	63①SD6	覆土	土師	壺	C	橙	外：ミガキ(口縁横幅・口縁縦・脚部右傾)。内：口縁横ハケ 脚部工具ナデ 総合板
1875	63①SD6	覆土	土師	小形丸底壺	A	に赤い擦	外：ハケ→脚下ケズリ→脚部ナデ、内：口縁横ミガキ 脚部ナデ 接合板
1876	63①SD6	覆土	土師	高杯	C	に赤い擦	脚外：ケズリ(脚上縦・脚下横) →ミガキ(脚上縦・脚下横) 円孔3ヶ残、脚内：横工具ナデ
1877	63①SD6	覆土	土師	有孔甌	D	に赤い擦	外：ハケ→一部ナデ、底：ケズリ 脚孔1ヶ、内：ハケ
1878	63①SD2	覆土	土師	壺	D	黒褐色	外：ハケ、内：ハケ→ナデ？、備考：器面剥離
1879	63①SD12	覆土	土師	壺	D	黒褐色	外：輪ハケ、内：横ケズリ 接合板、備考：器面剥離
1880	63①SD12	覆土	土師	壺	D	に赤い擦	横ナデ
1881	63①SD12	覆土	土師	更	D	褐灰	外：調整不明、内：口縁横ハケ 脚部ナデ？、備考：器面剥離
1882	63①SD12	覆土	土師	高杯	B	に赤い擦	脚外：輪ハケ→縦ミガキ、杯内：縦ミガキ
1883	63①SD12	覆土	土師	壺	D	に赤い擦	外：調整不明、内：調整不明
1884	46①SX1	覆土	土師	古台付甌	D	に赤い擦	横ナデ、備考：1885と同一個体
1885	46①SX1	覆土	土師	古台付甌	D	に赤い擦	脚外：ミガキ？、右外：ハケ？、壺内：調整不明、台内右傾工具ナデ。備考：1884と同一個体
1886	46①SX1	覆土	土師	壺	B	に赤い擦	横ケズリ、内：ナデ
1887	75①SX1	周溝	土師	壺	A	橙	外：右輪ハケ→側上横工具ナデ 剥下ケズリ、底：ケズリ、内：右輪ハケ
1888	75①SX1	周溝	土師	壺	B	に赤い擦	外：ミガキ、底：ケズリ、内：横工具ナデ 接合板、備考：1887に蓋状に被さる。外器面剥離
1889	75①SX1	土坑	土師	壺	A	に赤い擦	外：ミガキ、底：ケズリ、内：横工具ナデ 接合板、備考：外器面剥離
1890	75①SX1	土坑	土師	壺	B	浅黃橙	外：ハケ(脚上縦・脚中縦)→脚上一部ミガキ 脚下横工具ナデ 接合板、底：ケズリ、内：右輪ハケ→脚部ナデ 備考：1880に蓋状に被さる。
1891	C ① SX1	覆土	土師	壺	D	に赤い擦	外：輪ハケ、内：横ハケ
1892	C ① SX1	覆土	土師	壺	D	浅橙	外：右輪ハケ→横ミガキ、内：調整不明
1893	C ① SX1	覆土	土師	壺	C	橙	外：ケズリ、底：ケズリ、内：ケズリ→ナデ
1894	C ① SX1	覆土	土師	高杯	D	橙	杯外：右輪ハケ、杯内：縦ミガキ
1895	C ① SX1	覆土	土師	高杯	C	に赤い擦	杯外：右輪ミガキ、杯内：左輪ミガキ
1896	C ① SX1	覆土	土師	高杯	C	に赤い擦	脚外：縦ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1897	C ① SX1	覆土	土師	高杯	C	に赤い擦	脚外：縦ミガキ 前サエ→ナデ、脚内：くり抜き 指押さえ→ナデ
1898	C ① SX1	覆土	土師	高杯	C	に赤い擦	脚外：縦ミガキ、脚内：くり抜き ナデ
1899	C ① SX1	覆土	小形丸底壺	壺	B	に赤い擦	外：口縁横ナデ 脚部ミガキ？、内：口縁横ナデ→横ミガキ 脚部ナデ
1900	C ① SX1	覆土	土師	鉢	C	橙	外：ケズリ、内：工具ナデ
1901	C ① SX1	覆土	土師	器台	B	に赤い擦	受外：ケズリ→ナデ→横ミガキ、脚外：縦ミガキ 円孔3ヶ、受内：縦ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1902	C ① SX1	覆土	土師	器台	A	に赤い擦	受外：ケズリ→ナデ→右輪ミガキ、脚外：縦ミガキ 円孔3ヶ、受内：縦ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1903	C ① SX1	覆土	土師	器台	B	に赤い擦	受外：ケズリ→ナデ→縦ミガキ、脚外：縦ミガキ 円孔3ヶ、受内：縦ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
1904	C ① SX1	床面	弦生	壺	A	明褐色	外：脚部右前3段止状文→脚波状文(口縁↑・脚部↑) 脚下縦ミガキ、内：横ミガキ
1905	遺構外	C ①	土師	器台	B	灰白	脚外：ミガキ、脚内：ミガキ 円孔3ヶ、杯内：ミガキ、脚内：調整不明
1906	遺構外	76①	土師	器台	B	に赤い擦	外：ミガキ、受内：ミガキ、脚内：ナデ。備考：器面剥離
1907	遺構外	C ①	土師	器台	A	橙	外：縦ミガキ、杯内：縦ミガキ、脚内：横ケズリ
1908	遺構外	C ①	土師	器台	B	橙	外：右輪ケズリ、内：工具ナデ
1909	遺構外	72①	土師	壺	D	淡黃橙	外：棒状浮文↑残、内：貝殻痕または脚部状工具またはハケ状工具による羽状刺突。備考：パレス壹
1910	遺構外	43①	土師	壺	D	に赤い擦	外：ハケ状工具による直線文・貝殻痕による山形文、内：ナデ。備考：パレス壹
1912	23①SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い擦	外：調整不明、内：縦ミガキ？
1933	23①SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い擦	外：横ミガキ、内：横ミガキ
1934	23①SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い擦	外：ミガキ、内：ミガキ
1935	23①SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い擦	外：調整不明、内：横ミガキ、備考：2次被熱
1936	23①SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い擦	外：ミガキ、内：横ミガキ→黑色
1937	23①SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い擦	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黑色

No	出土遺構	解説	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1938	23①SA1	覆土 須恵	杯身	B	に赤い黄褐色	回転ナデ→底：回転ケズリ、備考：施成不良、器面無	
1939	23①SA1	覆土 須恵	杯身	B	灰	回転ナデ→底：回転ケズリ	
1940	23①SA1	覆土 須恵	杯身	B	灰黃	回転ナデ→胴口・底：回転ケズリ 脚付高台	
1941	23①SA1	覆土 須恵	蓋	A	灰	回転ナデ→底周静止ケズリ→ナデ?	
1942	23①SA1	覆土 土師	高杯	B	に赤い黄褐色	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ	
1943	23①SA1	覆土 土師	高杯	C	に赤い橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ、脚内：横ミガキ→ケズリ	
1944	23①SA1	覆土 土師	高杯	D	に赤い黄褐色	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ	
1945	23①SA1	覆土 須恵	平板	A	灰	頭部：横ナデ 接合板(巻き上げ)、胸部：回転ナデ 波状文／刺突文／ボタン状突起、底部：ケズリリナデ	
1946	33①SA1	カマド	土師	杯	B	赤褐色	外：ナデ、内：ナデ
1947	33①SA1	カマド周辺	土師	高杯	A	明黄色	杯外：ミガキ→黒色、脚外：、脚内：接合板(巻き上げ)
1948	33①SA1	カマド周辺	土師	蓋	C	に赤い橙	外：縦ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
1949	33①SA1	K1	土師	蓋	A	明黄色	外：縦ミガキ。底：ケズリ。内：ハケ→横工具ナデ
1950	33①SA5	床面	土師	蓋	B	に赤い黄褐色	外：ハケ→ミガキ、内：ナデ
1951	33①SA5	床面	土師	蓋	A	に赤い橙	外：縦ミガキ。底：ケズリ、内：横工具ナデ
1952	33①SA4	覆土	須恵	蓋	D	白灰	横ナデ
1953	33①SA4	覆土	土師	蓋	C	に赤い黄褐色	外：縦ケズリ、内：指ナデ
1954	34①SA1	床面	土師	杯	B	に赤い黄褐色	外：ケズリ。内：ナデ
1955	34①SA1	床面	土師	鉢	A	に赤い黄褐色	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ
1956	34①SA1	K2	土師	杯	A	に赤い黄褐色	外：ミガキ。内：ミガキ→黒色
1957	34①SA1	K2	土師	高杯	C	に赤い黄褐色	杯外：ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、備考：1958と同一個体？
1958	34①SA1	覆土	土師	高杯	C	に赤い黄褐色	杯外：ミガキ。杯内：ミガキ→黒色。備考：1957と同一個体？
1959	34①SA1	K1	土師	高杯	C	に赤い黄褐色	杯外：ケズリ→ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、備考：1960と同一個体？
1960	34①SA1	床面	土師	高杯	C	に赤い黄褐色	杯外：ケズリ→ミガキ。杯内：ミガキ→黒色、備考：1959と同一個体？
1961	34①SA1	床面	土師	高杯	B	に赤い橙	外：調整不明、杯内：ミガキ、脚内：指ナデ、備考：2次被熱
1962	34①SA1	床直	土師	高杯	C	に赤い黄褐色	脚外：ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
1963	34①SA1	カマド	土師	高杯	D	に赤い黄褐色	脚外：ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
1964	34①SA1	床面	土師	鉢	A	に赤い黄褐色	外：ミガキ、内：ミガキ→黒色、備考：被熱痕
1965	34①SA1	床面	土師	鉢	B	暗褐色	外：ケズリ→ナデ、底：ケズリ、内：工具ナデ
1966	50①SA1	床面	土師	鉢	B	黃灰	杯外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ→黒色
1967	50①SA1	床面	土師	蓋	B	に赤い橙	外：縦ケズリ、底：ナデ、内：ナデ
1968	50①SA1	床面	土師	蓋	A	に赤い黄褐色	外：縦ケズリ、底：ナデ、内：ナデ
1969	50①SA4	覆土	土師	杯	D	黃灰	外：ナデ、内：横ミガキ→黒色
1970	50①SA4	覆土	土師	蓋	C	暗褐色	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：ハケ
1971	48①SA4	カマド	須恵	杯蓋	A	灰	回転ナデ。脚外：縦ケズリ
1972	48①SA4	覆土	土師	片口鉢	D	に赤い黄褐色	外：調整不明 口片、底：ケズリ、内：工具ナデ、備考：外唇側擦傷
1973	48①SA4	カマド	土師	蓋	A	に赤い橙	外：ケズリ、内：輪台 木本板紋、内：横工具ナデ 接合板
1974	48①SA4	カマド	土師	蓋	B	に赤い橙	外：ケズリ、内：横工具ナデ 接合板
1975	48①SA4	カマド	土師	蓋	B	に赤い橙	外：縦ケズリ、底：木本板紋、内：横工具ナデ 接合板
1976	48①SA4	カマド	土師	蓋	C	に赤い橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ 接合板、備考：図上復元
1977	48①SA4	カマド	土師	蓋	B	に赤い橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ 接合板
1978	50①SA2	床面	土師	杯	C	黃灰	外：ケズリ、内：黒色→横ミガキ
1979	50①SA2	床面	土師	鉢	A	暗褐色	外：ナデ、内：ナデ
1980	50①SA2	床面	土師	蓋	C	橙	外：縦ケズリ、内：ハケ→ナデ?
1981	50①SA2	床面	土師	蓋	B	橙	外：縦ハケ、内：ナデ 接合板
1982	50①SA2	床面	土師	蓋	D	暗褐色	外：縦ケズリ、内：ナデ
1983	50①SA2	床面	土師	蓋	B	赤褐色	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
1984	50①SA3	覆土	土師	杯	C	黃灰	外：縦ケズリ、内：横ミガキ→黒色
1985	50①SA3	カマド	土師	鉢	B	黃灰	外：調整不明、内：横ミガキ、備考：2次被熱
1986	50①SA3	覆土	土師	蓋	B	暗褐色	外：ハケ、内：調整不明
1987	50①SA3	カマド	土師	蓋	A	黃灰	外：ハケ 固定土付着、底：ケズリ、内：ハケ
1988	50①SA3	カマド	土師	蓋	B	赤褐色	外：縦ケズリ、底：ナデ?、内：横工具ナデ
1989	50①SA6	カマド	土師	蓋	B	橙	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：ナデ 底部に粘土を付加して平底化
1990	50①SA6	カマド	土師	蓋	B	に赤い黄褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ
1991	50①SA6	カマド	土師	蓋	A	に赤い橙	外：縦ケズリ、底：輪台 ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
1992	50①SA6	カマド	土師	蓋	A	に赤い黄褐色	外：縦ケズリ、底：輪台 ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ

№	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
1993	50①SA6	カマド	土師	壺	A	橙	外：調整不明、内：横工具ナデ。備考：団上復元
1994	52①SA6	床面	土師	杯	C	に赤い黄澄	外：ケズリ。内：横ミガキ
1995	52①SA6	床面	土師	壺	D	淡黃澄	外：ミガキ？。内：ナデ
1996	52①SA6	床面	土師	壺	D	灰白	外：ケズリ？。内：横工具ナデ
1997	52②SA2	カマド	土師	壺	D	橙	外：ナデ？。内：ナデ？
1998	52②SA2	カマド	土師	壺	D	に赤い黄澄	外：縦ハケ。内：横工具ナデ
1999	52②SA2	カマド	土師	壺	D	橙	外：縦ハケ。内：横工具ナデ
2000	52②SA2	カマド	土師	壺	D	橙	外：縦ハケ。内：横工具ナデ
2001	52②SA2	カマド	土師	壺	D	橙	外：ハケ→縦ミガキ。内：工具ナデ
2002	52①SA4	床直	土師	壺	A	暗青灰	回転ナデ。天井：圓筒ケズリ
2003	52①SA4	床直	土師	壺	C	に赤い黄澄	外：縦ハケ。内：横ハケ
2004	52①SA4	カマド	土師	壺	C	に赤い黄澄	外：縦ハケ。底：ケズリ。内：ナデ
2005	52①SA4	カマド	土師	壺	D	に赤い黄澄	外：縦ハケ→ナデ。内：横ハケ
2006	52②SA4	床面	土師	壺	B	に赤い黄澄	外：縦ハケ→側ドケズリ。内：ハケ→横工具ナデ 接合板
2007	52②SA4	カマド	土師	壺	D	に赤い橙	外：縦ハケ。内：横工具ナデ
2008	52②SA4	床直	土師	壺	C	橙	外：縦ハケ→ナデ？。内：横工具ナデ
2009	52①SA4	カマド	土師	瓶	A	に赤い黄澄	外：縦ハケ。側ドケズリ。底：穿孔1ヶ。内：横ハケ
2010	52①SA4	カマド	土師	瓶	A	に赤い黄澄	外：ケズリ→ナデ。底：穿孔1ヶ。内：横ハケ
2011	52②SA4	床面	土師	瓶	C	に赤い黄澄	外：ハケ→縦ミガキ。把手。内：縦ミガキ
2012	53①SA1	覆土	土師	壺	C	橙	外：ハケ→ナデ？。内：工具ナデ？。備考：団上復元 器脚孝光
2013	53①SA1	床面	土師	壺	A	明黃白	外：調整不明。内：横ミガキ。備考：外器面摩耗
2014	53①SA3	カマド周辺	土師	鉢	A	に赤い橙	外：縦ハケ。底：ケズリ。内：横ミガキ
2015	53①SA3	床面	土師	鉢	B	に赤い橙	外：調整不明。内：調整不明
2016	53①SA3	床直	土師	鉢	B	に赤い橙	外：調整不明。底：調整不明。内：調整不明。備考：火にかけて使用した取跡
2017	53①SA3	床面	土師	鉢	A	に赤い橙	外：調整不明。底：ケズリ。穿孔1ヶ。内：工具ナデ
2018	53①SA3	覆土	土師	壺	C	に赤い橙	外：縦ハケ。内：横ハケ 接合板
2019	53①SA3	床直	土師	壺	B	に赤い橙	外：縦ハケ。底：輪台 ケズリ。内：縦ハケ
2020	53①SA3	床直	土師	壺	A	橙	外：縦ハケ。底：ケズリ。内：横ハケ 接合板
2021	53①SA5	覆土	土師	高杯	C	淡黃澄	脚外：縦ミガキ。柄内：黒色→ミガキ。脚内：ケズリ 接合板
2022	53①SA5	覆土	土師	頃忠	D	暗青灰	外：口縁横ナデ。沈縄2条 痛部格子タタキ／自然輪。内：同心円当て具痕
2023	53①SA5	カマド周辺	土師	壺	B	橙	外：縦ケズリ。底：木葉模 葉子を付加して平成化。内：横工具ナデ
2024	53①SA5	床直	土師	壺	D	に赤い橙	外：縦ケズリ。内：ナデ。備考：2023と同一個体。
2025	53①SA5	土師	土師	壺	D	に赤い橙	外：縦ケズリ。底：ケズリ。内：ナデ。備考：2024と同一個体。
2026	53①SA4	床面	土師	高杯	C	淡黃	脚外：縦ミガキ。脚内：ケズリ ハケ
2027	53①SA4	覆土	土師	壺	D	に赤い黄澄	外：ナデ？。内：ナデ？
2028	53①SA4	床直	土師	壺	A	に赤い橙	外：ケズリ。底：調整不明。内：横工具ナデ
2029	53①SA9	覆土	土師	壺	D	に赤い橙	外：ケズリ？。内：外：調整不明
2030	53①SA9	覆土	土師	壺	D	灰白	外：調整不明。底：指サエ 穿孔1ヶ 残。内：ナデ？
2031	53①SA11	覆土	土師	杯	B	に赤い黄澄	外：横ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2032	53②SA6	床面	土師	頃忠	C	灰	回転ナデ。天井：圓筒ケズリ
2033	53②SA6	覆土	土師	頃忠	D	灰	回転ナデ→外；沈縄1条 カキメ
2034	53②SA6	カマド周辺	土師	壺	B	灰白	外：縦ハケ。内：横ミガキ→側ド工具ナデ
2035	53②SA6	床面	土師	壺	B	暗褐	外：調整不明。内：横工具ナデ
2036	53①SA10	カマド	土師	高杯	C	に赤い黄澄	杯外：ケズリ。柄内：横ミガキ→黒色
2037	53①SA10	カマド	土師	杯	C	に赤い黄澄	外：ケズリ。内：横ミガキ
2038	53①SA10	カマド	土師	壺	D	に赤い橙	外：縦ハケ。内：横ハケ→工具ナデ
2039	53①SA10	カマド	土師	壺	C	に赤い黄澄	外：縦ハケ。内：横ハケ→一部ケズリ
2040	53①SA10	カマド	土師	壺	B	に赤い橙	外：縦ハケ。内：横工具ナデ
2041	53①SA10	カマド	土師	壺	D	に赤い橙	外：縦ハケ→縦ケズリ。内：調整不明
2042	53①SA10	カマド	土師	壺	C	灰	外：ミガキ。内：調整不明
2043	54①SA2	覆土	土師	杯	B	灰	回転ナデ。天井：圓筒ケズリ
2044	54①SA2	覆土	土師	杯	C	灰	回転ナデ。底：回転ケズリ 脳付高台
2045	54①SA2	覆土	土師	壺	D	に赤い橙	外：縦ケズリ。底：ケズリ。内：ハケ
2046	54①SA2	覆土	土師	鉢	D	灰	外：ケズリ？。把手が張り。内：ナデ？。備考：2次被熱
2047	54①SA2	覆土	土師	壺	D	に赤い黄澄	外：縦ハケ。内：横ハケ
2048	54①SA2	覆土	土師	頃忠	A	灰白	回転ナデ。外：底周辺回転ケズリ。備考：器面摩耗

No	出土遺構	層位	種別	基準	遺存	色調	技法・文様・特徴
2049	55①SA1	土師	杯	A	に古い黄褐色	外：ケズリ、内：横ミガキ→黒色	
2050	55①SA1	覆土	土師	高杯	D	に古い黄褐色	杯外：横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2051	55①SA1	土師	甌	C	に古い褐色	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ？	
2052	55①SA1	土師	甌	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ 空孔1ヶ、内：横ミガキ→黒色、備考：55②SA1取り上げ	
2053	55①SA5	カマド周辺	土師	甌	B	に古い褐色	外：縦ハケ、内：ナデ
2054	55①SA5	カマド周辺	土師	甌	B	に古い褐色	外：ハケ→ケズリ、内：横工具ナデ
2055	55①SA5	カマド周辺	土師	鉢	B	黒褐色	外：ハケ→ケズリ、内：工具ナデ→ミガキ
2056	56①SA1	カマド	土師	甌	C	浅黃褐色	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2057	56①SA1	カマド	土師	甌	C	橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ→削下ケズリ？
2058	56①SA4	床直	須恵	杯蓋	B	灰	同上ナデ、天井：削下ケズリ
2059	56①SA4	K1	土師	甌	C	黄褐色	外：ケズリ、底：空孔1ヶ、内：横ハケ→底削ケズリ
2060	56①SA4	床直	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ→底削ケズリ、底：ケズリ、内：横ハケ
2061	56①SA4	床直	土師	甌	A	橙	外：縦ケズリ→ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2062	57①SA1	床面	土師	杯	A	に古い褐色	外：調整不明、内：横ハケ ミガキ？
2063	57①SA1	カマド	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、内：横ハケ 横ミガキ→黒色
2064	57①SA1	K1	土師	高杯	C	に古い黄褐色	外：横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2065	57①SA1	K1	土師	高杯	D	に古い黄褐色	脚外：縦ミガキ、三角孔2ヶ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ
2066	57①SA1	K1	土師	甌	A	に古い褐色	外：縦ハケ→ナデ、底：ナデ、内：横ハケ→工具ナデ
2067	57①SA1	土師	甌	C	に古い褐色	外：縦ハケ→削下ケズリ、内：調整不明	
2068	57①SA1	覆土	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ→ナデ
2069	57①SA1	K1	土師	甌	D	に古い褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ→工具ナデ
2070	57①SA1	床面	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ケズリ、内：外：調整不明、内：調整不明
2071	57①SA1	K1	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2072	57①SA1	K1	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ 把手、内：横ハケ→削下工具ナデ
2073	57①SA1	床直	土師	甌	D	淡褐色	外：横ハケ→横ミガキ、底：ナデ、内：横工具ナデ
2074	57①SA2	カマド周辺	土師	甌	A	に古い黄褐色	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：ハケ→横工具ナデ
2075	57①SA2	カマド1	土師	甌	D	に古い褐色	外：縦ハケ 固定土付着、内：調整不明
2076	57①SA2	床直	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：ハケ→横工具ナデ
2077	57①SA2	覆土	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ？、底：木葉瓶、内：横工具ナデ
2078	57①SA2	カマド周辺	土師	甌	B	に古い黄褐色	外：縦ハケ、内：ハケ→横工具ナデ
2079	60①SA1	土師	甌	B	に古い黄褐色	外：縦ハケ→削下ナデ、底：輪台→ケズリ、内：横工具ナデ	
2080	60①SA1	覆土	土師	甌	C	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2081	60①SA1	覆土	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：縦ハケ→ナデ、内：横工具ナデ、備考：2082と同一個体？
2082	60①SA1	覆土	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：ナデ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、備考：2081と同一個体？
2083	60①SA1	覆土	土師	甌	C	に古い黄褐色	外：工具ナデ、底：輪台 木葉瓶、内：横工具ナデ
2084	61①SA1	カマド	土師	甌	B	に古い黄褐色	外：ケズリ→ミガキ、内：ナデ
2085	61①SA1	カマド	土師	甌	D	に古い黄褐色	外：右端ハケ、内：横工具ナデ
2086	61①SA1	カマド	土師	甌	D	に古い褐色	外：工具ナデ、内：横工具ナデ、備考：61①SA3-7と接合
2087	61①SA1	カマド	土師	甌	A	に古い褐色	外：縦ハケ 底削ケズリ、底：輪台→ケズリ、内：横工具ナデと接合
2088	61①SA1	カマド	土師	甌	C	暗褐色	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ、内：横工具ナデ
2089	61①SA2	カマド	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：調整不明、内：調整不明
2090	61①SA2	カマド周辺	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：ミガキ 内：ミガキ、備考：器側摩耗
2091	61①SA2	カマド周辺	土師	鉢	A	に古い褐色	外：縦ミガキ、内：横ミガキ、備考：器面摩耗
2092	61①SA2	カマド周辺	土師	鉢	B	に古い黄褐色	外：縦ハケ、底：空孔1ヶ、内：ハケ→工具ナデ、備考：61①SA3と接合
2093	61①SA2	カマド	土師	甌	D	に古い褐色	外：縦ハケ、内：調整不明
2094	61①SA2	カマド	土師	甌	C	に古い黄褐色	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
2095	61①SA2	カマド	土師	甌	C	に古い黄褐色	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2096	61①SA2	カマド	土師	甌	C	に古い黄褐色	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ、内：横工具ナデ
2097	61①SA3	覆土	土師	杯	C	橙	外：調整不明、内：調整不明、備考：器側摩耗 2098と同一個体？
2098	61①SA3	覆土	土師	杯	C	橙	外：調整不明、内：調整不明、備考：器面摩耗 2097と同一個体？
2099	61①SA3	床直	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2100	61①SA3	床直	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2101	61①SA3	床直	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2102	61①SA3	床直	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2103	61①SA3	床直	土師	杯	B	に古い黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色

No	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2104	6①SA3	床直	土師	杯	B	明黄褐	外：ハケ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2105	6①SA3	床直	土師	鉢	C	明黄褐	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2106	6①SA3	覆土	土師	甕	D	黒	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2107	6①SA3	覆土	土師	甕	D	黒	外：縦ハケ、内：横ハケ
2108	6①SA3	覆土	土師	甕	D	黒	外：ハケ→横ミガキ、内：ナデ
2109	6①SA3	覆土	土師	甕	C	に赤い青帯	外：ケズリ→ナデ、底：穿孔口レ、内：ケズリ→ナデ、備考：きわめて粗い作り
2110	6①SA5	床直	土師	杯	C	に赤い青帯	外：横ミガキ、底：ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2111	6①SA5	床直	土師	甕	C	に赤い青帯	外：縦ケズリ、内：ナデ
2112	7②SA1	覆土	土師	杯	A	に赤い青帯	外：ケズリ→ナデ、内：調整不明
2113	7②SA1	覆土	土師	鉢	C	黒	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2114	7②SA3	覆土	土師	杯	C	に赤い青帯	外：横ケズリ、横ミガキ、内：横ミガキ
2115	7②SA3	覆土	土師	杯	B	に赤い青帯	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色、備考：瓶片により色調が異なる
2116	7②SA3	カマド周辺	土師	甕	D	に赤い青帯	外：調整不明、内：調整不明
2117	7②SA3	覆土	土師	甕	D	に赤い青帯	外：縦ハケナデ、内：横工具ナデ
2118	7②SA3	カマド	土師	甕	C	黒	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：横ハケ
2119	7②SA4	覆土	土師	杯	C	に赤い青帯	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2120	7②SA4	土師	甕	甕	D	に赤い青帯	外：縦ハケ、内：横ハケ
2121	7②SA4	覆土	土師	甕	D	黒	外：縦ハケ、内：横ハケ
2122	7②SA4	土師	甕	甕	D	に赤い青帯	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2123	7②SA4	カマド	土師	甕	D	に赤い青帯	外：縦ハケ→工具ナデ、内：横工具ナデ
2124	7②SA9	覆土	土師	高杯	D	に赤い青帯	外：調整不明、杯内：横ミガキ→黒色
2125	7②SA9	覆土	筋忠	杯身	D	灰白	回転ナデ、底：回転ケズリ
2126	7②SA9	カマド周辺	土師	杯	C	に赤い青帯	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2127	7②SA6	覆土	土師	杯	C	に赤い青帯	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2128	7②SA6	カマド	土師	杯	B	に赤い青帯	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2129	7②SA6	床直	土師	甕	B	に赤い青帯	外：工具ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2130	7②SA6	カマド	土師	鉢	C	に赤い青帯	外：横ミガキ、内：横ミガキ。備考：火にかけて使用した痕跡
2131	7②SA6	覆土	土師	甕	C	淡黄褐	外：縦ハケ、内：横ケズリ
2132	7②SA6	床直	土師	甕	C	に赤い青帯	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2133	7②SA6	覆土	土師	甕	D	黒	外：ケズリ→ナデ、底：ケズリ、内：ナデ
2134	7②SA6	カマド	土師	壺	D	暗褐色	外：ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2135	7②SA6	カマド	土師	甕	A	に赤い青帯	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：縦ハケ
2136	7②SA6	床直	土師	甕	B	に赤い青帯	外：縦ハケ→工具ナデ、底：穿孔口レ、内：横ハケ
2137	7②SA6	覆土	筋忠	甕	B	底	回転ナデ、外：刺突文 沈線2条、底：回転ケズリ 罫記号？
2138	B①SA2	柱穴	埴燒	甕	D	青灰	横ナデ、内：畫點
2139	B①SA4	カマド周辺	土師	甕	C	淡黄褐	外：ミガキ、内：工具ナデ
2140	B①SA3	K1	土師	杯	C	に赤い青帯	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2141	B①SA3	K1	土師	杯	C	に赤い青帯	外：横ミガキ、内：ミガキ？→黒色
2142	B①SA3	覆土	土師	杯	C	に赤い青帯	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色処理
2143	B①SA3	覆土	高杯	C	に赤い青帯	脚外：ミガキ？、脚内：横ケズリ	
2144	B①SA3	K1	土師	甕	D	赤褐	外：調整不明、内：ミガキ？
2145	B①SA3	カマド周辺	土師	甕	C	に赤い青帯	外：縦ハケ、内：ハケーナデ
2146	B①SA3	覆土	土師	甕	D	黒	外：ケズリ、内：調整不明
2147	B①SA3	カマド周辺	土師	甕	D	に赤い青帯	外：調整不明、底：ケズリ、内：調整不明
2148	B①SA3	カマド周辺	土師	甕	B	黒	外：ナデ、底：ナデ、内：ナデ
2149	B①SA3	K1	土師	甕	C	黒	外：調整不明、内：調整不明
2150	B①SA3	カマド周辺	土師	甕	B	に赤い青帯	外：ナデ、底：ケズリ、内：ナデ 接合痕
2151	B①SA5	カマド周辺	土師	杯	B	黒	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2152	B①SA5	カマド周辺	土師	高杯	C	黒	脚外：調整不明、杯内：横ミガキ→黒色
2153	B①SA5	カマド周辺	土師	鉢	B	淡黄褐	外：調整不明、内：ミガキ→黒色
2154	B①SA5	カマド周辺	土師	鉢	B	黒	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2155	B①SA5	カマド周辺	土師	鉢	B	暗赤褐	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2156	B①SA5	カマド周辺	土師	甕	D	に赤い青帯	外：縦ハケ、内：ナデ
2157	B①SA5	カマド周辺	土師	甕	A	に赤い青帯	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：工具ナデ
2158	B①SA5	カマド周辺	土師	甕	C	に赤い青帯	外：縦ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ、内：調整不明
2159	B①SA5	カマド周辺	土師	甕	B	赤橙	外：縦ハケ、内：ハケーナデ

No	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2160	B①SA5	カマド周辺	土師	甕	B	橙	外：縦ハケ。底：木葉痕。内：横ミガキ
2161	カマド周辺	土師	甕	A	橙	外：右傾ハケ、底：輪台→ケズリ→ナデ。内：横工具ナデ	
2162	B①SA6	床直	土師	甕	D	褐黃褐色	外：横ミガキ。内：横ハケ→横ミガキ
2163	B①SA6	カマド	土師	甕	D	褐黃褐色	外：右傾ミガキ。底：ケズリ。内：ナデ？ミガキ？
2164	B①SA6	カマド周辺	土師	甕	D	褐黃褐色	外：調整不明。内：調整不明
2165	B①SA6	カマド周辺	土師	甕	C	に赤い橙	外：縦ハケ。内：横ミガキ→ナデ
2166	B①SA6	カマド	土師	甕	D	に赤い橙	外：右傾ハケ。内：調整不明
2167	B①SA6	カマド	土師	甕	D	に赤い橙	外：縦ハケ。内：横ミガキ→黒色
2168	B①SA6	カマド周辺	土師	甕	B	に赤い橙	外：調整不明。底陶ケズリ。底：凹底。内：ミガキ
2169	B①SA6	カマド周辺	土師	甕	C	橙	外：縦ハケ。底：木葉痕。内：横工具ナデ
2170	B①SA7	カマド	土師	杯	C	橙	外：ミガキ？。内：横ミガキ
2171	B①SA7	カマド	土師	鉢	B	橙	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2172	B①SA7	カマド	土師	甕	D	橙	外：調整不明。内：調整不明
2173	B①SA7	覆土	粗粘	直口壺	D	灰	横ナデ
2174	B①SA7	覆土	土師	甕	D	橙	外：調整不明。内：調整不明
2175	B①SA7	カマド	土師	甕	B	橙	外：縦ハケ。底：ケズリ。内：ハケ→横工具ナデ
2176	B①SA8	覆土	土師	鉢	B	浅黃褐色	外：ミガキ？。内：横ミガキ。備考：外器面摩耗
2177	B①SA8	覆土	土師	甕	D	暗褐色	外：縦ハケ。内：横ハケ
2178	B①SA8	カマド	土師	甕	D	橙	外：ミガキ。内：ミガキ
2179	B①SA8	カマド	粗粘	甕	D	青黒	横ナデ。内：自然釉
2180	B①SA9	覆土	土師	杯	D	に赤い橙	外：ミガキ。内：ミガキ
2181	B①SA11	カマド周辺	土師	古鉢	A	橙	外：ミガキ（杯體・脚部・縫隙）。杯内：黑色。脚内：横ケズリ
2182	B①SA11	カマド周辺	土師	甕	C	橙	外：調整不明。内：ナデ
2183	B①SA12	覆土	土師	鉢	D	橙	外：ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2184	B①SA12	覆土	土師	甕	C	橙	外：ケズリ→一部ミガキ。内：工具ナデ
2185	B①SA12	覆土	土師	甕	C	橙	外：ケズリ→一部ミガキ。内：工具ナデ
2186	B①SA13	床直	土師	杯	A	橙	外：刷毛横ケズリ→ミガキ？。内：横ミガキ→黒色
2187	B①SA13	覆土	土師	杯	B	橙	外：ケズリ？→ミガキ？。内：横ミガキ→黒色
2188	B①SA13	カマド周辺	土師	鉢	A	に赤い橙	外：ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2189	B①SA13	カマド周辺	土師	甕	D	橙	外：ミガキ（杯縫・脚部）。内：横ミガキ
2190	B①SA13	覆土	土師	甕	D	に赤い橙	外：縦ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2191	B①SA13	床直	土師	瓶	D	明褐色	外：縦ミガキ。底：ミガキ。穿孔？。内：横ミガキ→黒色
2192	B①SA13	カマド	土師	甕	A	橙	外：縦ケズリ。内：横ハケ？→横工具ナデ
2193	B①SA16	床直	土師	杯	A	褐黃褐色	外：ケズリ→ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2194	B①SA16	P2	土師	杯	A	淡橙	外：ケズリ→ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2195	B①SA16	床面	土師	杯	A	に赤い橙	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2196	B①SA16	床面	土師	杯	A	に赤い橙	外：横ケズリ。内：横ミガキ→黒色
2197	B①SA16	貼目	土師	杯	C	に赤い橙	外：ケズリ→横ミガキ。底：ケズリ→ミガキ。施記号「×」。内：横ミガキ→黒色
2198	B①SA16	床直	土師	杯	D	橙	外：調整不明。内：調整不明。備考：牛焼けの痕跡？
2199	B①SA16	貼目	土師	高杯	C	に赤い橙	外：横ミガキ。杯内：横ミガキ→黒色
2200	B①SA16	カマド周辺	土師	高杯	C	に赤い橙	脚外：縦ミガキ。脚内：指ナデ
2201	B①SA16	覆土	土師	鉢	B	橙	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色
2202	B①SA16	カマド周辺	土師	鉢	C	浅黃褐色	外：ケズリ→ミガキ。内：ミガキ→黒色
2203	B①SA16	床面	土師	甕	C	橙	外：縦ミガキ。内：縦ミガキ
2204	B①SA16	カマド周辺	土師	甕	B	橙	外：ケズリ→ナデ。内：ナデ
2205	B①SA16	カマド周辺	土師	甕	C	浅黃褐色	外：縦ハケ→ミガキ。内：ナデ
2206	B①SA16	カマド周辺	土師	甕	A	橙	外：縦ハケ。底：輪台 ケズリ。内：ナデ
2207	B①SA16	床面	土師	甕	A	明赤褐色	外：縦ハケ。底：輪台 ケズリ。内：ナデ 接合痕
2208	B①SA16	床面	土師	甕	A	橙	外：縦ハケ。底：輪台 ケズリ。内：横ハケ→横工具ナデ 接合痕
2209	B①SA16	カマド周辺	土師	甕	A	褐黃褐色	外：縦ハケ。底：輪台。内：横工具ナデ 接合痕
2210	B①SA16	P2	土師	甕	C	明褐色	外：縦ハケ→脚下縫隙。内：横ハケ→横工具ナデ
2211	B①SA16	床面	土師	甕	C	橙	外：縦ケズリ。内：ナデ
2212	B①SA16	床直	土師	甕	B	橙	外：ミガキ 把手の痕跡。内：調整不明
2213	C①SA2	カマド	上師	鉢	C	赤褐色	外：調整不明 底陶指ササエ 固定土台着 黏付高台。底：内：ミガキ？。備考：被熱・器面剥離
2214	C①SA2	覆土	土師	鉢	D	赤褐色	外：ケズリ→ミガキ。内：ミガキ→黒色

No	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2215	C①SA2	覆土	土師	高杯	D	に赤い痕	杯外：調整不明。杯内：調整不明 黒色
2216	C①SA2	覆土	土師	高杯	B	に赤い痕	脚外：縦ミガキ、脚内：ミガキ→黒色、脚内：ナデ 接合痕(巻上げ)
2217	C①SA2	カマド周辺	土師	壺	A	に赤い痕	外：右頸ハケ→ナデ、底：ケズリ、内：工具ナデ
2218	C①SA2	カマド周辺	土師	壺	D	に赤い痕	外：縦ハケ→ナデ、内：ケズリ
2219	C①SA2	カマド	土師	壺	A	橙	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横ハケ 刷上工具ナデ
2220	C①SA2	床直	土師	壺	B	被	外：縦ハケ 固定土付着、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横ハケ→ナデ、備考：C①SA2取り上げの破片多い
2221	C①SA2	カマド周辺	土師	壺	A	に赤い痕	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2222	C①SA2	カマド周辺	土師	壺	A	橙	外：縦ハケ、内：横ハケケズリ→横工具ナデ
2223	C①SA2	カマド	土師	壺	C	橙	外：縦ハケ、内：横ハケナデ
2224	C①SA2	覆土	土師	瓶	C	に赤い痕	外：ケズリ→ミガキ？、底：穿孔1ヶ 割取り、内：工具ナデ
2225	C①SA2	P2	土師	瓶	A	に赤い痕	外：ナデ、底：穿孔1ヶ、内：ナデ→一部ミガキ
2226	C①SA2	覆土	土師	瓶	D	に赤い痕	外：縦ハケ→縦ミガキ、底：穿孔1ヶ、内：ナデ→縦ミガキ
2227	C①SA2	覆土	土師	瓶	A	橙	外：ミガキ 底則穿孔2ヶ 把手、或：穿孔1ヶ、内：調整不明、備考：器山鈍
2228	C①SA3	床直	土師	杯	A	浅黄橙	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2229	C①SA3	覆土	土師	杯	A	明褐色	外：横ケズリ、内：横ミガキ
2230	C①SA3	覆土	土師	杯	A	に赤い痕	外：刷下横ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2231	C①SA3	床直	土師	杯	C	に赤い痕	外：ミガキ(刷上痕・刷下痕)、内：ナデ
2232	C①SA3	床直	土師	壺	D	被	外：右頸ケズリ、内：横工具ナデ
2233	C①SA3	床直	土師	壺	C	に赤い痕	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2234	C①SA3	覆土	埴忠	壺	D	暗青灰	横ナデ、外：難透状文？、内：自然釉
2235	C①SA4	覆土	土師	高杯	B	浅黄橙	脚外：ケズリ→ミガキ？ナデ？、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2236	C①SA4	覆土	土師	杯	D	浅黄橙	外：ケズリ→縦ミガキ、内：横ミガキ
2237	C①SA6	カマド	土師	壺	C	に赤い痕	外：縦ハケ→削下ナデ→底剥離ケズリ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横ハケ→削下ナデ
2238	C①SA6	カマド	土師	壺	B	赤橙	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横工具ナデ 接合痕
2239	C①SA6	カマド	土師	壺	B	浅黄橙	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2240	C①SA6	覆土	土師	壺	B	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ 接合痕
2241	C①SA5	カマドI	土師	高杯	B	黄橙	杯外：縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2242	C①SA5	カマドI	土師	高杯	A	橙	外：ミガキ(杯横・脚縫)、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ 剥離ハケ 接合痕(巻上げ)
2243	C①SA5	カマドI	土師	壺	C	橙	外：縦ハケ、内：ナデ
2244	C①SA5	カマドI	土師	壺	D	黄橙	外：縦ハケ、内：横・縦ハケ
2245	C①SA5	覆土	土師	壺	B	明褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2246	C①SA5	カマドI	土師	壺	B	黄橙	外：縦ハケ、内：調整不明、備考：器面摩耗
2247	C①SA5	カマドI	土師	壺	C	橙	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2248	C①SA5	カマド周辺	土師	壺	A	橙	外：ナデ→削下ミガキ 固定土付着、底：木葉瓶、内：横工具ナデ
2249	C①SA5	カマド	土師	壺	C	明褐色	外：右頸ミガキ、内：横ミガキ、備考：カマドI発掘出土
2250	C①SA5	貼床	土師	壺	D	黄橙	外：縦ケズリ 固定土付着、内：縦工具ナデ→横工具ナデ
2251	C①SA5	貼床	土師	杯	D	黄橙	外：ハケ→横ミガキ、内：横ミガキ
2252	C①SA5	床直	土師	壺	D	黄橙	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：ナデ
2253	C①SA5	覆土	埴忠	壺	D	青灰	横ナデ、外：難透文
2254	C①SA7	カマド周辺	土師	杯	A	に赤い痕	外：ケズリ→ミガキ？、内：調整不明
2255	C①SA7	床直	土師	杯	B	に赤い痕	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2256	C①SA7	床直	土師	杯	C	浅黄橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2257	C①SA7	床直	土師	壺	D	浅黄橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2258	C①SA7	床直	土師	壺	A	明褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ→ナデ
2259	C①SA7	床直	土師	壺	A	明褐色	外：ナデ、内：ナデ
2260	C①SA7	床直	土師	壺	B	浅黄橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2261	C①SA7	床直	土師	壺	B	に赤い痕	外：縦ミガキ、内：横工具ナデ
2262	C①SA8	柱穴	土師	杯	B	に赤い痕	外：横ケズリ、内：工具ナデ
2263	C①SA8	床直	土師	杯	B	に赤い痕	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ、備考：器面摩耗
2264	C①SA8	K1	土師	杯	B	に赤い痕	外：縦ハケナデ、内：横工具ナデ
2265	C①SA8	カマド周辺	土師	杯	A	明褐色	外：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
2266	C①SA8	床直	土師	壺	A	橙	外：縦ハケ→一部ナデ 把手、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ→一部ナデ
2267	C①SA8	覆土	土師	高杯	B	灰白	脚外：ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内→横ケズリ
2268	C①SA8	床直	土師	壺	A	橙	外：縦ハケ→一部ナデ、底：ナデ、内：横工具ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2269	C①SA8	床面	土師	甕	A	に赤・黄褐色	外：縦ハケ、底：ナデ、内：横ハケ→一部横工具ナデ
2270	C①SA8	カマド	土師	甕	C	に赤・橙	外：縦ハケ→一部ナデ、内：横ハケ→脚下ナデ 接合痕
2271	C①SA8	床面	土師	甕	D	灰黄褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2272	C①SA8	床面	土師	甕	C	に赤・橙	外：縦ハケ、内：横ハケ
2273	C①SA8	カマド	土師	甕	C	に赤・橙	外：縦ハケ→一部ナデ、内：横ハケ
2274	C①SA8	床直	土師	甕	D	に赤・黄褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ
2275	C①SA8	カマド周辺	土師	甕	A	に赤・黄褐色	外：縦ハケ、底：ナデ、内：横ハケ→一部工具ナデ
2276	C①SA8	床面	土師	甕	B	に赤・橙	外：縦ハケ 固定支柱着底：ケズリ→ナデ、内：ハケ
2277	C①SA8	床面	土師	甕	B	灰褐色	外：縦ハケ 固定支柱着底：ケズリ→ナデ、内：脚上工具ナデ 脚下横ハケ 切づくり
2278	C①SA9	カマド	土師	杯	A	に赤・黄褐色	外：ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：ハケ、参考：壺底部転用か？
2279	C①SA9	覆土	土師	杯	A	灰黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2280	C①SA9	床直	土師	杯	B	橙	外：調整不明 黑底：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2281	C①SA9	床直	土師	杯	A	灰黄褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2282	C①SA9	覆土	土師	杯	C	に赤・橙	外：ミガキ？、底：ミガキ？、内：黒色→ミガキ
2283	C①SA9	覆土	埴輪	杯蓋	A	灰白	回転ナデ、尖舟：ケズリ
2284	C①SA9	床直	土師	甕	C	に赤・黄褐色	外：ミガキ、内：ナデ
2285	C①SA9	床直	土師	鉢	B	暗黃褐色	外：口縁横ミガキ ナデ、内：横ミガキ→黒色
2286	C①SA9	カマド	土師	甕	D	灰黄褐色	回転ナデ、外：沈線2条 横斜突文
2287	C①SA9	カマド周辺	土師	鉢	C	に赤・黄褐色	外：ミガキ、内：ミガキ、参考：器面摩耗
2288	C①SA9	カマド	土師	甕	C	に赤・橙	外：ミガキ？、内：ナデ
2289	C①SA9	覆土	土師	甕	D	に赤・橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2290	C①SA9	カマド	土師	甕	C	に赤・橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2291	C①SA9	カマド周辺	土師	甕	B	に赤・橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ 接合痕
2292	C①SA9	覆土	土師	甕	D	に赤・橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2293	C①SA9	覆土	土師	甕	D	暗褐色	外：縦ケズリ 成：ナデ、内：縦ケズリ
2294	C①SA9	カマド	土師	瓶	D	に赤・橙	外：ケズリ、底：穿孔1ヶ、内：指サエ
2295	C①SA9	床直	土師	瓶	D	灰	横ナデ 外：範疇文
2296	C①SA10	覆土	土師	杯	C	黑褐色	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色、参考：新しいカマドに伴う覆土
2297	C①SA10	カマド	土師	高杯	B	橙	脚外：縦ミガキ、内：ミガキ、脚内：横ケズリ
2298	C①SA10	覆土	土師	甕	C	橙	外：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2299	C①SA10	カマド周辺	土師	甕	A	黑褐色	外：ケズリ→横ミガキ、内：ナデ→横ミガキ、参考：新しいカマド
2300	C①SA10	カマド周辺	土師	甕	C	暗褐色	外：縦ケズリ 内：ナデ、参考：新しいカマド
2301	C①SA10	覆土	土師	甕	A	橙	外：縦ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：ナデ、参考：新しいカマドに伴う覆土
2302	C①SA10	覆土	土師	甕	B	灰黄褐色	外：縦ハケ、底：輪台：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、参考：古いカマドに伴う。CISA14と接合
2303	C①SA11	床面	土師	杯	A	に赤・橙	外：ミガキ？、内：横工具ナデ
2304	C①SA11	K1	土師	杯	B	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2305	C①SA11	床直	埴輪	高杯	C	暗青灰	杯外：回転ナデ→回転ケズリ 沈線1条、杯内：回転ナデ 自然軸、脚外：透かし（形状不明）
2306	C①SA11	K1	埴輪	高杯	C	暗青灰	脚外：自然軸 通かし3ヶ（形状不明）
2307	C①SA11	K1	土師	杯	C	橙	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2308	C①SA11	K1	土師	杯	C	に赤・黄褐色	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2309	C①SA11	床面	土師	杯	C	橙	外：ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2310	C①SA11	K1	土師	杯	C	橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2311	C①SA11	覆土	土師	高杯	B	赤褐色	杯外：調整不明、杯内：調整不明 黒色
2312	C①SA11	覆土	土師	高杯	C	暗赤褐色	杯外：調整不明、脚外：縦ミガキ 三角孔3ヶ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ
2313	C①SA11	K1	土師	高杯	C	に赤・橙	脚外：縦ミガキ、脚内：шибり目
2314	C①SA11	床直	土師	鉢	A	に赤・橙	外：縦ハケ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
2315	C①SA11	覆土	土師	甕	D	に赤・黄褐色	外：縦ミガキ 内：ナデ
2316	C①SA11	K1	土師	甕	D	に赤・橙	外：縦ハケ→脚下ナデ、内：横ハケ→縦上横工具ナデ、参考：2217と同一個体
2317	C①SA11	K1	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ→ナデ、底：輪台：ハケ、内：ハケ→縦ケズリ、参考：2216と同一個体
2318	C①SA11	床直	土師	甕	A	明赤褐色	外：縦ハケ→工具ナデ、内：横ハケ→横工具ナデ
2319	C①SA11	床直	土師	甕	D	に赤・橙	外：横ミガキ、内：口縁横ミガキ 脚部ナデ
2320	C①SA11	床直	土師	甕	D	に赤・黄褐色	外：右輪ハケ→右輪ミガキ、内：口縁横ミガキ 脚部右輪工具ナデ
2321	C①SA11	K1	土師	甕	B	浅黄褐色	外：縦ハケ、内：横ハケ→脚部横工具ナデ
2322	C①SA11	カマド周辺	土師	甕	B	に赤・橙	外：縦ハケ、内：ハケ→工具ナデ（脚上工具・脚下柄）
2323	C①SA11	K1	土師	甕	A	に赤・黄褐色	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横工具ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2324	C①SA11	カマド	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→ナデ
2325	C①SA11	カマド	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2326	C①SA11	K1	土師	甕	B	橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→工具ナデ(刷上縦・刷下横)
2327	C①SA11	カマド	土師	甕	D	橙	外：ナデ、底：輪台 ナデ、内：縦・横ハケ
2328	C①SA11	床直	土師	甕	D	にぶい黄澄	外：縦工具ナデ、内：ナデ
2329	C①SA11	K1	土師	甕	A	橙	外：縦工具ナデ、底：ケズリ、内：右頸工具ナデ
2330	C①SA11	覆土	土師	甕	C	橙	外：ハケ(側縦・底周横)→削下ナデ、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ→ケズリ→ナデ
2331	C①SA11	床直	土師	甕	A	橙	外：縦工具ナデ 把手、底：穿孔1ヶ 面取り、内：横工具ナデ
2332	C①SA13	床直	土師	杯	C	浅黄	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2333	C①SA13	カマド2	土師	杯	D	にぶい黄澄	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2334	C①SA13	柱穴	土師	杯	D	にぶい橙	外：縦ハケ→一部ナデ、内：横ミガキ→黒色
2335	C①SA13	柱穴	土師	高杯	C	にぶい橙	外：横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2336	C①SA13	覆土	土師	杯	C	にぶい橙	外：ケズリ→側ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2337	C①SA13	覆土	須恵	杯身	D	灰	回転ナデ
2338	C①SA13	覆土	須恵	杯身	D	黄灰	回転ナデ
2339	C①SA13	カマド周辺	土師	高杯	A	にぶい黄澄	外：調整不鮮、脚外：縦ハケ→縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ナデ 接合痕(巻き上げ)
2340	C①SA13	カマド	土師	甕	C	にぶい橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2341	C①SA13	カマド	土師	甕	B	暗褐	外：ナデ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2342	C①SA13	覆土	土師	甕	D	明褐色	外：ナデ 底周ケズリ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：ナデ
2343	C①SA13	覆土	土師	甕	D	灰黄褐	外：縦ハケ→横ミガキ、内：縦・左傾ミガキ
2344	C①SA13	カマド	土師	甕	D	にぶい橙	外：ハケ→ナデ、底：ケズリ→ナデ、内：横ハケ
2345	C①SA13	覆土	土師	甕	D	灰黄褐	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2346	C①SA13	カマド	土師	甕	A	にぶい黄澄	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2347	C①SA13	カマド	土師	甕	A	にぶい黄澄	外：縦ケズリ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2348	C①SA12	覆土	土師	甕	C	にぶい橙	脚外：四縞文 赤彩ミガキ、脚内：ハケ→ナデ、備考：北陸系 1117-1796と同一個体？
2349	C①SA14	覆土	先生	脚部	D	にぶい黄澄	外：調整不鮮、内：横ミガキ→黒色
2350	C①SA15	覆土	土師	杯	C	浅黄褐	外：調整不鮮、内：横ミガキ→黒色
2351	C①SA15	床直	土師	杯	A	明褐色	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2352	C①SA15	カマド	土師	台付盆	B	明褐色	外：調整不鮮、底：ケズリ 台脚貼り付け、内：工具ナデ。備考：2次焼成、旧カラマ下膳
2353	C①SA15	床直	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、内：ナデ
2354	C①SA15	床直	土師	甕	B	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2355	C①SA16	覆土	土師	杯	A	明褐色	外：ケズリ→ミガキ、内：ミガキ
2356	C①SA16	覆土	土師	杯	C	にぶい黄澄	外：ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2357	C①SA16	覆土	土師	杯	B	明褐色	外：ケズリ→側ミガキ？、底：ケズリ→ナデ、内：ミガキ→黒色(不良)
2358	C①SA16	床直	土師	杯	B	明褐色	外：ケズリ→ミガキ？、内：ミガキ→黒色
2359	C①SA16	床直	須恵	杯身	A	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ→ナデ
2360	C①SA16	床直	土師	高杯	C	浅黄褐	脚外：縦ミガキ。杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ。備考：新しいカマドに作る覆土
2361	C①SA16	覆土	土師	高杯	C	浅黄褐	脚外：ケズリ→横ミガキ、脚内：ケズリ→縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ
2362	C①SA16	床直	土師	高杯	A	にぶい橙	脚外：ケズリ→横ミガキ、脚内：ケズリ→縦ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ
2363	C①SA16	覆土	土師	杯	A	暗赤	外：ケズリ→石頬ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2364	C①SA16	覆土	土師	杯	A	赤褐	外：縦ミガキ、内：横ミガキ→黒色、備考：2次焼成
2365	C①SA16	床直	土師	杯	A	橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ
2366	C①SA16	床直	須恵	甕	B	灰	外：沈継文3条→たたき工具による斜突文3段、底：龍口こし 脚付高台瓶
2367	C①SA16	カマド	土師	支脚	A	にぶい黄澄	外：縦ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、天井：本葉瓶。備考：新しいカマドに作る覆土
2368	C①SA16	床直	土師	支脚	B	灰黄褐	外：縦ケズリ→ナデ、内：押印えき、天井：本葉瓶、備考：古いカマドに作るか
2369	C①SA16	床直	土師	甕	A	にぶい黄澄	外：縦ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：口縁横ミガキ 刷工具ナデ
2370	C①SA16	床直	土師	甕	B	黄褐	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2371	C①SA16	覆土	土師	甕	D	にぶい黄澄	外：ナデ、底：穿孔12ヶ残、内：ナデ
2372	C①SA17	覆土	土師	杯	D	暗赤黄	外：ケズリ→ナデ、内：ナデ
2373	C①SA17	覆土	土師	杯	B	灰黄褐	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ
2374	C①SA17	覆土	土師	杯	B	浅黄褐	外：ハケ ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2375	C①SA17	床直	土師	杯	B	灰黄	外：ケズリ→ミガキ？、内：縦ミガキ→黒色

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	枝法・文様・特徴
2376	C ① SA17	覆土	土師	高杯	C	橙	脚外：縦・横ミガキ。脚内：指ナデ→ケズリ ナデ 外：右縫ハケ→ナデ、内：ナデ
2377	C ① SA17	床面	土師	鉢	B	に赤い縫	外：右縫ハケ→ナデ、内：ナデ
2378	C ① SA17	床底	土師	甕	C	明赤褐	外：縦ハケ、内：右縫ハケ→一部右縫工具ナデ、備考：内外面ハケ原体が異なる
2379	C ① SA17	床面	土師	甕	D	に赤い縫	外：縦ハケ→ナデ、内：横ハケ→縦工具ナデ
2380	C ① SA17	床面	土師	甕	B	に赤い縫	外：縦ハケ、内：横ハケ→縦工具ナデ
2381	C ① SA18	覆土	土師	杯	B	褐灰	外：ケズリ→ミガキ?、内：縦ミガキ→黒色
2382	C ① SA18	覆土	土師	高杯	B	黄橙	脚外：調整不明、杯内：横ミガキ→黒色
2383	C ① SA18	覆土	土師	高杯	C	に赤い縫	脚外：ミガキ(脚外・縦・横)、脚内：ナデ→横ミガキ
2384	C ① SA18	覆土	土師	高杯	B	橙	杯外：ケズリ→ミガキ?、脚外：縦ミガキ、杯内：縦ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ接合痕(巻き上げ)
2385	C ① SA18	覆土	土師	高杯	B	淡橙	脚外：縦ミガキ、脚内：横ケズリ
2386	C ① SA18	覆土	土師	鉢	B	に赤い縫	外：ケズリ→横ミガキ?、内：横ミガキ→黒色
2387	C ① SA18	覆土	土師	鉢	B	橙	外：ケズリ→ミガキ?、内：横ミガキ→黒色、備考：外面部被熱
2388	C ① SA18	覆土	土師	甕	B	橙	外：調整不明、内：横工具ナデ、備考：外器面摩耗
2389	C ① SA18	覆土	土師	鉢	C	浅黃褐	外：ケズリ→横ミガキ?、内：横ミガキ→黒色
2390	C ① SA18	床底	土師	甕	A	に赤い縫	外：縦ケズリ、内：横工具ナデ
2391	C ① SA18	覆土	土師	瓶	B	に赤い縫	外：ケズリ→縦ミガキ、底：穿孔1ヶ、内：ミガキ(脚上・縦・脚下横)
2392	C ① SA18	覆土	土師	瓶	D	に赤い縫	外：調整不明、底：穿孔1ヶ残、内：調整不明
2393	C ① SA19	覆土	土師	杯	A	稻	外：脚下ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ
2394	C ① SA19	カマド	土師	杯	B	に赤い縫	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ
2395	C ① SA19	カマド	土師	杯	A	に赤い縫	外：ケズリ→横ミガキ 赤彩?、内：横ミガキ
2396	C ① SA19	床底	土師	鉢	D	明褐色	外：調整不明、内：調整不明
2397	C ① SA19	カマド	土師	甕	A	に赤い縫	外：縦ハケ→ナデ 固定土付着、内：横工具ナデ
2398	C ① SA19	覆土	土師	甕	C	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2399	C ① SA19	覆土	土師	甕	C	橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2400	C ① SA19	カマド	土師	甕	C	稻	外：縦ハケ、内：右縫工具ナデ
2401	C ① SA19	カマド周辺	土師	甕	B	に赤い縫	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、備考：外器面摩耗
2402	C ① SA19	カマド周辺	土師	甕	B	稻	外：縦ハケ 固定土付着、内：右縫工具ナデ
2403	C ① SA19	覆土	須恵	高杯	D	灰	回転ナデ、外：波状文
2404	C ① SA19	覆土	須恵	高杯	D	褐灰	回転ナデ
2405	C ① SA21	床底	土師	杯	A	に赤い縫	外：ケズリ→ミガキ?、内：横ミガキ→黒色、備考：2次焼成
2406	C ① SA21	カマド周辺	土師	杯	A	浅黄	外：ケズリ→ミガキ?、内：横ミガキ→黒色
2407	C ① SA21	カマド	土師	高杯	D	灰黄	脚外：横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2408	C ① SA21	カマド周辺	土師	鉢	A	浅黄	外：ケズリ→ナデ→脚下横ミガキ、内：横ミガキ
2409	C ① SA21	カマド周辺	土師	鉢	A	浅黄	外：ナデ→脚下ケズリ、底：ケズリ、内：工具ナデ
2410	C ① SA21	カマド周辺	土師	鉢	A	浅黄	外：ナデ→脚下ケズリ、底：ケズリ、内：ハケ→横工具ナデ
2411	C ① SA21	カマド周辺	土師	甕	A	浅黄	外：ケズリ→ナデ→一部ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：工具ナデ
2412	C ① SA21	カマド	土師	甕	C	明青褐	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2413	C ① SA21	カマド	土師	甕	A	に赤い縫	外：縦ハケ、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2414	C ① SA21	カマド	土師	甕	A	に赤い縫	外：縦ハケ、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2415	C ① SA21	カマド周辺	土師	甕	A	稻	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ、内：横ハケ
2416	C ① SA21	カマド周辺	土師	甕	C	に赤い縫	外：縦ハケ、底：輪台 ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2417	C ① SA21	床面	土師	甕	A	浅黄	外：調整不明、底：穿孔1ヶ、内：横ミガキ→黒色(不良)
2418	C ① SA21	床底	土師	甕	A	浅黄	外：縦ハケ→脚下ナデ 成型穿孔2ヶ 把手、底：穿孔1ヶ、内：横ハケ
2419	C ① SA21	カマド周辺	須恵	甕	D	浅黄	横ナデ、外：ハケ工具剥文
2420	C ① SA20	覆土	土師	杯	B	黑褐	外：ケズリ→ミガキ?、底：荒記号?×、内：縦ミガキ→黒色
2421	C ① SA20	床面	土師	杯	A	灰白	外：調整不明、内：ミガキ→黒色、備考：外器面摩耗
2422	C ① SA20	覆土	土師	鉢	C	に赤い縫	外：ケズリ、底：ケズリ→ナデ、内：調整不明 黒色
2423	C ① SA20	覆土	土師	鉢	B	に赤い縫	外：ケズリ→横ミガキ、内：横・縦ミガキ→黒色
2424	C ① SA20	助床	須恵	暗青灰	C	暗青灰	回転ナデ、天井：回転ケズリ
2425	C ① SA20	覆土	土師	高杯	C	浅黃褐	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2426	C ① SA20	床面	土師	高杯	C	に赤い縫	脚外：縦・横ミガキ、脚内：ケズリ→ナデ
2427	C ① SA20	床面	土師	鉢	D	灰青褐	外：調整不明、内：ナデ、端部：折り返し後ユビオサエ
2428	C ① SA20	カマド周辺	土師	甕	C	に赤い縫	外：横工具ナデ、内：横工具ナデ
2429	C ① SA20	助床	土師	甕	D	に赤い縫	外：ナデ、内：横工具ナデ
2430	C ① SA20	覆土	土師	甕	D	に赤い縫	外：縦ハケ、内：ナデ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2431	C ① SA22	覆土	土師	杯	B	に赤い橙	外：ケズリ、内：横ミガキ
2432	C ① SA22	床面	土師	鉢	C	に赤い橙	外：ケズリ→横ミガキ、底：ケズリ。内：ミガキ→黒色
2433	C ① SA22	覆土	土師	鉢	D	に赤い橙	外：右頬ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2434	C ① SA22	覆土	土師	鉢	C	に赤い橙	外：縦ミガキ、内：横ミガキ→黒色(不良)
2435	C ① SA22	床面	土師	鉢	A	浅黄橙	外：右頬ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2436	C ① SA22	覆土	土師	甕	C	に赤い橙	外：縦ハケ 固定土付着、内：横工具ナデ
2437	C ① SA23	覆土	土師	杯	D	橙	外：横ミガキ、内：ミガキ
2438	C ① SA24	床面	土師	杯	B	に赤い橙	外：縦ドケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2439	C ① SA24	床面	土師	杯	B	に赤い橙	外：横ミガキ、内：ミガキ→黒色
2440	C ① SA24	覆土	土師	高杯	B	に赤い橙	外：調整不明、外：内：調整不明 黒色、備考：器面摩耗
2441	C ① SA24	カマド	土師	甕	D	橙	外：縦ハケ、底：輪台 ナデ、内：ナデ
2442	C ① SA24	カマド	土師	甕	D	に赤い橙	外：縦ハケ、内：横ハケ→横工具ナデ
2443	C ① SA24	覆土	土師	甕	C	に赤い橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2444	C ① SA24	カマド	土師	甕	B	灰	外：縦ハケ、底：本胎痕?、内：ハケ→横工具ナデ
2445	C ① SA25	カマド周辺	土師	杯	C	に赤い橙	外：調整不明、内：縦ミガキ→黒色
2446	C ① SA25	カマド周辺	土師	杯	A	明褐色	外：横ミガキ、底：ケズリ→ナデ、内：横ミガキ→黒色
2447	C ① SA25	カマド	須恵	杯蓋	A	暗青灰	回転ナデ、底：静止立ちこし→回転ケズリ
2448	C ① SA25	カマド周辺	土師	甕	C	橙	外：調整不明
2449	C ① SA25	カマド周辺	土師	甕	A	に赤い橙	外：ケズリ→ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ
2450	C ① SA25	床面	土師	鉢	A	に赤い橙	外：ケズリ→ミガキ、底：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ
2451	C ① SA25	カマド	土師	高杯	B	橙	外：調整不明 黒色
2452	C ① SA25	カマド	土師	高杯	C	明褐色	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2453	C ① SA25	床面	土師	甕	A	明褐色	外：ハケ→ミガキ(口縁部右傾)、底：ケズリ→ナデ→ミガキ、内：横ハケ→脚上横ミガキ 剥離ナデ 脱密板なし
2454	C ① SA25	カマド	土師	甕	A	橙	外：調整不明 埋立着、底：ケズリ、内：横工具ナデ
2455	C ① SA25	カマド	土師	甕	A	明褐色	外：縦ハケ→脚上粘土塊→ミキ 固定土付着、内：右頬ハケ、底：ナデ
2456	C ① SA25	カマド周辺	土師	甕	A	橙	外：縦ハケ 固定土付着、底：輪台、ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2457	C ① SA26	覆土	土師	杯	C	浅黄橙	外：調整不明 黑色
2458	C ① SA26	覆土	土師	甕	C	暗褐色	外：ケズリ→ナデ 内：横工具ナデ
2459	C ① SA28	床直	土師	甕	B	灰黄	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2460	C ① SA28	覆土	土師	甕	C	灰	外：ミガキ?、底：ケズリ→ミガキ?、内：ミガキ→黒色
2461	C ① SA28	覆土	須生	甕	D	に赤い橙	外：ハケ(強部報-脚部右傾)、内：横ハケ→ミガキ
2462	C ① SA28	カマド	土師	甕	A	赤褐色	外：縦ハケ→剥離ナデ、内：横ハケ
2463	C ① SA28	覆土	土師	甕	D	灰黄橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2464	C ① SA28	カマド	土師	甕	C	灰	外：縦ハケ、底：輪台、ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ
2465	C ① SA29	覆土	土師	鉢	B	に赤い橙	外：横ミガキ、底：ケズリ、内：横ミガキ
2466	C ① SA29	覆土	土師	鉢	C	に赤い橙	外：ミガキ?、内：ミガキ?、備考：火にかけて使用した痕跡
2467	C ① SA29	覆土	土師	甕	D	に赤い橙	外：縦ハケ、内：横工具ナデ
2468	C ① SA29	覆土	土師	鉢	B	に赤い橙	外：ケズリ、内：工具ナデ
2469	C ① SA29	覆土	土師	甕	A	に赤い橙	外：ミガキ、内：横ミガキ
2470	55① SH1	覆土	土師	鉢	D	浅黄橙	外：縦ハケ→ミガキ?、内：右頬ハケ 剥離工具ナデ
2471	56① SK5	覆土	土師	甕	D	に赤い橙	外：ケズリ、底：ケズリ 穿孔ヶ内：横工具ナデ
2472	56① SK5	須恵	はそう	C	灰	回転ナデ、外：剥離ケズリ?	自然船、備考：56② SA28(上り)
2473	C ① SK76	覆土	土師	甕	D	橙	横ナデ
2474	C ① SK76	覆土	土師	甕	C	橙	外：右頬ケズリ、内：横工具ナデ
2475	C ① SK76	覆土	土師	甕	B	橙	外：右頬ハケ→ミガキ(口縁横・脚部縦・底周横) 把手、内：ミガキ(口縁右傾・脚部縦)
2476	C ① SK76	覆土	須恵	甕	D	灰	横ナデ、外：脚後突形/沈没状況
2477	23① SD1	覆土	土師	甕	D	に赤い橙	脚後ナデ?
2478	23① SD1	覆土	土師	甕	D	に赤い橙	回転ナデ?、外：工具ナデ
2479	23① SD2	覆土	須恵	杯身	D	に赤い橙	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付荷台、備考：焼成や不良
2480	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	灰白	回転ナデ、底：回転立ちこし、備考：焼成や不良
2481	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	に赤い橙	外：ミガキ、内：ナデ
2482	23① SD2	覆土	須恵	共頭蓋	C	灰	回転ナデ、複合板
2483	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	灰	回転ナデ、外：肩部沈縮3条(螺旋?)、内：カキメ
2484	23① SD2	覆土	須恵	甕	D	灰	回転ナデ、外：平行タキ
2485	34① SD1	覆土	土師	杯	A	に赤い橙	外：ケズリ→縦ミガキ、内：横ミガキ

No	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2486	34① SD1	覆土	土師	杯	C	灰	外：調整不明。内：ミガキ→黒色
2487	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台、外：自然釉
2488	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台、備考：焼成不良
2489	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2490	34① SD1	覆土	須恵	杯蓋	A	灰	回転ナデ、外：調整不明 自然釉、内：荒記号「×」
2491	34① SD1	覆土	土師	鉢	B	にふい黄	杯形：ナデ、脚外：ナデ？、杯内ナデ、脚内：工具ナデ
2492	34① SD1	覆土	土師	鉢	D	にふい橙	外：調整不明。内：ミガキ→黒色
2493	34① SD1	覆土	土師	甕	D	にふい黄	外：右傾ハケ、内：横工具ナデ
2494	34① SD1	覆土	土師	甕	D	にふい橙	横ナデ
2495	34① SD1	覆土	土師	甕	D	灰黄	外：左傾ハケ、内：調整不明
2496	34① SD1	覆土	弥生	甕	D	褐灰黄	内：口縁横ハケ、脚部ケズリ、備考：北陸系
2497	34① SD1	覆土	土師	鉢	A	にふい褐	外：ナデ、内：口縁横ハケ 制工具ナデ
2498	34① SD1	覆土	土師	小型丸底甕	B	にふい黄	外：ハケ→一部ナデ、内：ナデ 接合板
2499	34① SD1	覆土	須恵	杯身	C	にふい橙	回転ナデ、底：ケズリ、備考：焼成不良
2500	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	灰黄	回転ナデ、底：回転ケズリ
2501	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	橙	回転ナデ、備考：焼成不良、外器面摩耗
2502	34① SD2	覆土	須恵	杯身	C	黄	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2503	34① SD2	覆土	須恵	甕	D	黄灰	回転ナデ、外：自然釉
2504	34① SD2	覆土	須恵	甕	D	黄	回転ナデ、外：崩壊回転ケズリ、底：ナデ 貼付高台、内：自然釉
2505	34① SD2	覆土	須恵	甕	D	黄	回転ナデ、底：ナデ 貼付高台
2506	34① SD2	覆土	土師	？	D	にふい黄	外：ケズリ？、把手痕？、内：ハケ？
2507	34① SD2	覆土	須恵	甕	A	燈	外：口縁横ナデ 制缸平行タタキ 尚部焼成穿孔、底：焼成後穿孔？、内：同心円当て具板→ナデ
2508	49① SD1	覆土	土師	甕	D	赤褐	外：調整不明。内：ナデ
2509	49① SD1	覆土	土師	甕	D	にふい黄	外：調整不明。内：横工具ナデ
2510	49① SD1	覆土	土師	甕	D	にふい黄	外：紙ハケ、底：ナデ 内：ナデ
2511	49① SD1	覆土	須恵	はそう	D	灰	回転ナデ、外：側回転ケズリ
2512	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にふい黄	脚外：調整不明、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ 接合板
2513	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にふい黄	脚外：工具ナデ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ しばり目
2514	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にふい黄	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ 接合板(巻き上げ)
2515	49① SD1	覆土	土師	高杯	C	にふい黄	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ
2516	49① SD1	覆土	須恵	甕	D	灰	横ナデ
2517	49① SD1	覆土	須恵	甕	D	灰黄	横ナデ、外：脚部状文
2518	52② SD1	覆土	土師	杯	B	褐灰	外：横ケズリ、内：ミガキ
2519	52② SD1	覆土	土師	高杯	B	浅黄	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ→横ミガキ
2520	52② SD1	覆土	土師	高杯	B	にふい黄	外：ミガキ(杯横・脚縫)、杯内：横ミガキ→黒色、脚内：ナデ
2521	55① SD2	覆土	須恵	甕	D	にふい黄	回転ナデ、備考：焼成不良
2522	55① SD2	覆土	須恵	杯身	B	灰白	回転ナデ、底：静止旋毛起こし、備考：焼成不良
2523	55① SD2	覆土	須恵	杯身	C	橙	回転ナデ、底：回転ケズリ
2524	55① SD3	覆土	須恵	フラスコ瓶	B	灰	回転ナデ、外：回転ケズリ 自然釉
2525	55① SD3	覆土	須恵	すり鉢	C	灰	回転ナデ
2526	55① SD3	覆土	須恵	長颈瓶	C	灰	回転ナデ
2527	71① SD3	覆土	土師	高杯	C	にふい黄	脚外：横ミガキ、脚内：しばり目
2528	71① SD3	覆土	七輪	鉢	C	にふい黄	外：縦ケズリ、底：ケズリ 内：横ミガキ
2529	71① SD3	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2530	C ① SD3	覆土	土師	甕	D	燈	例：ハケ→ミガキ？、内：口縁横ミガキ？ 制工具ナデ
2531	D ① SD1	覆土	土師	杯	A	浅黄	外：横ミガキ。内：横ミガキ→黒色 「×」状の暗文
2532	D ① SD1	覆土	土師	杯	C	浅黄	外：調整不明。内：横ミガキ→黒色
2533	D ① SD1	覆土	土師	杯	C	にふい黄	外：調整不明。内：横ミガキ
2534	D ① SD1	覆土	土師	杯	A	にふい橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2535	D ① SD1	覆土	土師	杯	B	にふい黄	外：調整不明。内：横ミガキ→黒色？
2536	D ① SD1	覆土	須恵	杯身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ
2537	D ① SD1	覆土	須恵	杯身	C	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2538	D ① SD1	覆土	土師	高杯	A	にふい橙	脚外：調整不明。脚外：縦ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、杯内：工具ナデ
2539	D ① SD1	覆土	土師	高杯	B	灰黄	外：ミガキ(杯横・脚縫)、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横ケズリ→ナデ
2540	D ① SD1	覆土	土師	高杯	B	褐灰	脚外：縦ケズリ、杯内：黑色→ミガキ、脚内：工具ナデ

Na	出土遺構	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2541	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	に低い黄青	脚外：縦ケズリ→縦ミガキ、杯内：黒色→ミガキ、脚内：工具ナデ
2542	D①SD1	覆土	土師	高杯	D	に低い黄青	脚外：調整不明、脚内：調整不明
2543	D①SD1	覆土	土師	高杯	B	に低い黄青	外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ
2544	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	に低い黄青	外：ケズリ→横ミガキ、杯内：横ミガキ→黒色
2545	D①SD1	覆土	土師	高杯	D	に低い黄青	脚外：縦ミガキ、脚内：ケズリ
2546	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	に低い黄青	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ
2547	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	に低い黄青	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→ナデ
2548	D①SD1	覆土	土師	高杯	C	に低い橙	脚外：縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：ケズリ→工具ナデ
2549	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	に低い黄青	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2550	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	に低い橙	外：ケズリ→横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2551	D①SD1	覆土	土師	鉢	C	に低い黄青	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2552	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	橙	外：ミガキ（口縁横・脚部右端）、内：横ミガキ
2553	D①SD1	覆土	土師	鉢	C	に低い黄青	外：調整不明、内：横工具ナデ、把手の痕跡2ヶ
2554	D①SD1	覆土	土師	鉢	A	に低い橙	外：縦ケズリ、内：縦ケズリ
2555	D①SD1	覆土	土師	鉢	D	に低い黄青	外：縦ハケ？、内：横ミガキ？、備考：古墳南端丸跡？
2556	D①SD1	覆土	土師	鉢	C	に低い橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ
2557	D①SD1	覆土	埴造	盤	C	灰黄	回転ナデ、外：底周ケズリ、底：回転ケズリ 貼付高台
2558	D①SD1	覆土	埴造	盤	D	暗灰	横ナデ、内：自然釉
2559	D①SD1	覆土	埴造	盤	B	灰	回転ナデ、外：底周ケズリ
2560	E①SD17	覆土	土師	杯	C	浅黄褐	外：調整不明 施記引×J、内：ミガキ？
2561	E①SD17	覆土	埴造	盤	C	灰	回転ナデ、瓦片：静止状態こし
2562	E①SD17	覆土	埴造	埴造	D	灰	回転ナデ、瓦片：回転ケズリ
2563	E①SD17	覆土	埴造	埴身	B	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ→ケズリ、内：自然釉、備考：焼け歪み
2564	E①SD17	覆土	埴造	埴身	C	灰黄	回転ナデ、底：回転ケズリ 貼付高台
2565	E①SD17	覆土	埴造	埴身	D	灰	回転ナデ
2566	E①SD17	覆土	土師	鉢	D	に低い黄青	外：ケズリ、内：工具ナデ
2567	E①SD17	覆土	土師	鉢	D	に低い橙	外：口縁横ミガキ 制限ケズリ、内：横ミガキ？、備考：被熱痕
2568	E①SD17	覆土	埴造	長颈瓶	C	灰	回転ナデ
2569	E①SD17	覆土	埴造	高杯	D	灰	外：回転ナデ 沈線2条 四角孔2ヶ×2段
2570	E①SD17	覆土	土師	鉢	A	に低い橙	外：縦ケズリ、内：ナデ
2571	E①SD17	覆土	土師	鉢	D	橙	横ナデ、内：横ハケ
2572	E①SD17	覆土	土師	蓋	D	に低い橙	外：調整不明、内：調整不明
2573	E①SD17	覆土	土師	蓋	C	浅黄褐	外：ケズリ→ミガキ、内：工具ナデ
2574	E①SD17	覆土	土師	要	D	褐灰	外：調整不明、内：調整不明
2575	E①SD17	覆土	埴造	要	D	灰	回転ナデ
2576	E①SD17	覆土	埴造	要	C	灰	回転ナデ、外：底周回転ケズリ
2577	E①SD17	覆土	土師	器台	C	に低い橙	外：縦ミガキ、受内：ミガキ、脚内：横ハケ
2578	E①SD17	覆土	土師	器台	C	に低い橙	外：受外：ミガキ？、脚外：工具ナデ、受内：ミガキ？、脚内：工具ナデ
2579	E①SD17	覆土	土師	器台	B	に低い橙	外：ハケーミガキ(受横・脚縫)、受内：横ミガキ、脚内：ナデ
2580	E①SD17	覆土	埴造	要	C	灰	外：口縁横ナデ 平行タキ 自然釉、内：同心円当て具痕
2581	E①SD17	覆土	埴造	要	D	褐灰	外：口縁横ナデ 平行タキ、内：同心円当て具痕→ナデ
2582	E①SD17	覆土	埴造	要	D	に低い黄青	横ナデ、外：平行タキ
62②SU2	覆土	土師	杯	C	に低い黄青	外：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色	
2584	62②SU2	覆土	土師	杯	D	浅黄褐	外：ケズリ→ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2585	62②SU2	覆土	土師	杯	D	褐灰	外：ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2586	62②SU2	覆土	土師	杯	C	に低い橙	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2587	62②SU2	覆土	土師	杯	B	に低い黄青	外：横ミガキ、内：横ミガキ→黒色
2588	62②SU2	覆土	埴造	杯	B	に低い黄青	回転ナデ、底：回転ケズリ
2589	62②SU2	覆土	埴造	杯	C	に低い黄青	回転ナデ、底：回転ケズリ
2590	62②SU2	覆土	土師	高杯	B	に低い橙	外：横ケズリ、脚外：縦ケズリ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：工具ナデ
2591	62②SU2	覆土	土師	高杯	B	灰黄褐	脚外：縦ケズリ→縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横工具ナデ
2592	62②SU2	覆土	土師	高杯	B	に低い黄青	外：横ケズリ→横ミガキ、脚外：縦ケズリ→縦ミガキ、杯内：ミガキ→黒色、脚内：横工具ナデ
2593	62②SU2	覆土	土師	鉢	C	に低い黄青	外：横ケズリ、内：横ミガキ→黒色
2594	62②SU2	覆土	土師	鉢	C	灰黄褐	外：横ミガキ 貼付着、内：横ミガキ→黒色
2595	62②SU2	覆土	土師	鉢	D	に低い橙	外：縦ミガキ、内：ミガキ 接合痕

No.	出土遺物	層位	種別	器種	遺存	色調	技法・文様・特徴
2596	62③ SU2	覆土	埴造	ラスク集	C	灰	頭部：回転ナデ 沈輪3条、胴部：回転ナデ→回転ケズリ
2597	62③ SU2	覆土	土師	壺	D	灰	外：縦ミガキ、内：横ミガキ
2598	62③ SU2	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：調整不明、内：横ミガキ
2599	62③ SU2	覆土	土師	壺	D	にぶい橙	外：ケズリ？、内：工具ナデ？
2600	62③ SU2	覆土	土師	壺	D	にぶい黄青	外：右斜ミガキ、内：横工具ナデ
2601	62③ SU2	覆土	土師	？	D	にぶい黄青	外：調整不明、内：ミガキ→黒色
2602	62③ SU2	覆土	土師	？	D	にぶい黄青	外：ミガキ、内：ミガキ→黒色
2603	62③ SX3	覆土	土師	杯	A	淡黄褐	外：ミガキ？、内：横ミガキ
2604	62③ SX3	覆土	土師	杯	C	にぶい黄青	外：調整不明、内：横ミガキ→黒色
2605	62③ SX3	覆土	土師	杯	B	にぶい橙	外：横ケズリ→ミガキ？、内：横ミガキ→黒色
2606	62③ SX3	覆土	埴造	身	A	灰	回転ナデ、底：回転ケズリ→ナデ
2635	53① SK1	覆土	土師	皿	B	灰白	回転ナデ、底：糸切り痕、板状压痕
2636	C ① SD1	覆土	埴造	身	C	灰黃褐	回転ナデ、底：回転糸切り、備考：焼成不良
2637	C ① SD1	覆土	埴造	身	D	にぶい褐	回転ナデ
2638	C ① SD2	覆土	土師	皿	C	にぶい橙	外：ケズリ→ナデ、内：ナデ、備考：灯明皿
2639	16① SD1	覆土	埴造	身	B	灰	回転ナデ、外：回転ケズリ
2640	16① SD1	覆土	埴造	身	C	灰白	回転ナデ、底：回転糸切り、備考：焼成不良
2641	16① SD1	覆土	埴造	身	C	灰	回転ナデ、外：墨書き？×
2642	16① SD1	覆土	埴造	身	A	灰	回転ナデ、底：回転糸切り、泡記号、外：墨書き(判読不明)
2643	16① SD1	覆土	埴造	身	D	灰	回転ナデ、外：墨書き？×
2644	16① SD1	覆土	土師	鉢	B	淡黄褐	外：縦ハサード下ナデ？、底：ケズリ→ナデ、内：横工具ナデ、備考：蓋人
2645	16① SD1	覆土	土師	壺	D	にぶい黄青	外：カキメ？、内：カキメ？
2646	C ① SU3	覆土	土師	皿	D	灰白	回転ナデ、底：回転泡こし
2647	C ① SU3	覆土	土師	皿	C	にぶい黄青	手捏ね？、外：ケズリ→ナデ
2648	C ① SU3	覆土	埴造	直口壺	C	褐灰	回転ナデ、外：沈輪3条
2649	C ① SU3	覆土	埴造	壺？	D	灰白	回転ナデ、底：回転糸切り、内：光沢を帯びる
2650	C ① SU3	覆土	埴造	すり鉢	D	灰	回転ナデ、内：綱目状剥み
2651	C ① SU3	覆土	埴造	すり鉢	D	灰	回転ナデ、内：波状剥み
2652	C ① SU3	覆土	埴造	すり鉢	D	灰白	回転ナデ、内：直線刻み

表5 石製品観察表

・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』の色名を表記した。

No.	遺構名	層位	器種	石材	重(g)	備考
447	63② SA1	K 2	打製石器	黒曜石	0.8	
448	62③ SA1	K 3	打製石器	黒曜石	1.6	
449	E ② SA 3	覆土	打製石器	チャート	0.4	暗赤色
450	62③ SK 1	打製石器	黒曜石	0.8		
451	62③ SK 2	覆土	打製石器	黒曜石	2.3	
452	E ② SA 2	覆土	打製石器	黒曜石	1.3	
453	E ② SA 5	床面	打製石器	チャート	3.0	暗赤色
454	E ② SA 5	床面	打製石器	黒曜石	2.5	
455	E ② SA 5	床面	打製石器	黒曜石	2.2	
456	E ② SA 5	床面	打製石器	チャート	3.7	暗赤色
457	E ② SA 5	床面	打製石器	黒曜石	0.6	
458	E ② SA 5	床面	打製石器	チャート	0.8	暗赤色
459	E ② SA 5	床面	打製石器	黒曜石	0.3	
460	E ② SA 5	P 5	打製石器	黒曜石	1.6	
461	E ② SA 6	床面	打製石器	黒曜石	0.7	
462	E ② SA 6	覆土	打製石器	黒曜石	1.2	
463	E ② SA 6	覆土	打製石器	黒曜石	0.4	

No.	遺構名	層位	器種	石材	重(g)	備考
464	E ② SA 6	腹上	打製石器	チャート	1.8	暗赤色
465	E ② SA 6	覆土	打製石器	黒曜石	1.0	
466	E ② SA 6	腹上	打製石器	黒曜石	2.5	
467	E ② SA 6	腹上	打製石器	チャート	0.4	黒褐色
468	E ② SA 6	腹土	打製石器	黒曜石	0.4	
469	E ② SA 8	P 6	打製石器	頁岩	1.8	
470	E ② SK 39	覆土	打製石器	黒曜石	1.3	
471	遺構外	E ②	打製石器	チャート	1.3	E ② SN 1 の近く、暗赤色
472	遺構外	E ②	打製石器	チャート	0.8	暗赤色
473	遺構外	E ②	打製石器	黒曜石	0.9	
474	遺構外	E ②	打製石器	黒曜石	0.6	
475	遺構外	E ①	打製石器	黒曜石	1.1	
476	E ② SA 6	腹土	石器	黒曜石	0.5	
477	45② SA 7	床直	打製石斧	頁岩	67.3	
478	63② SA 3	腹土	打製石斧	頁岩	115.3	

No	遺構名	層位	器種	石材	重(g)	備考
479	E②S A2	覆上	打製石斧	頁岩	54.2	
480	E②S A2	覆上	打製石斧	頁岩	116.0	
481	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	100.8	
482	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	145.4	
483	E②S A3	覆土	打製石斧	安山岩	131.2	No. 4付近
484	E②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	73.1	No. 4付近
485	E②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	70.3	
486	E②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	44.5	
487	E②S A3	覆土	打製石斧	ガラス質安山岩	85.5	
488	E②S A3	覆上	打製石斧	頁岩	53.2	No. 12付近
489	E②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	78.1	
490	E②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	71.9	
491	E②S A3	覆土	打製石斧	頁岩	58.0	
492	E②S A3	床底	打製石斧	頁岩	194.0	
493	E②S A3	床底	打製石斧	頁岩	109.5	
494	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	26.7	
495	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	76.5	
496	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	69.5	
497	E②S A4	覆上	打製石斧	頁岩	94.5	
498	E②S A4	覆土	打製石斧	頁岩	82.2	
499	E②S A4	床底	打製石斧	頁岩	133.5	
500	E②S A5	床底	打製石斧	頁岩	140.2	
501	E②S A5	床底	打製石斧	頁岩	85.6	
502	E②S A5	P4	打製石斧	頁岩	71.8	
503	E②S A5	P20	打製石斧	頁岩	67.4	
504	E②S A6	覆土	打製石斧	頁岩	37.7	
505	E②S A6	覆土	打製石斧	頁岩	58.0	
506	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	69.2	
507	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	166.8	
508	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	139.2	
509	E②S A6	床底	打製石斧	頁岩	131.5	
510	E②S A6	覆土	打製石斧	頁岩	49.6	
511	E②S K8	覆下	打製石斧	頁岩	55.3	
512	E②S K8	覆上	打製石斧	頁岩	88.8	
513	E②S J4	覆土	打製石斧	頁岩	87.0	
514	遺構外	45②	打製石斧	頁岩	79.5	
515	遺構外	45②	打製石斧	ガラス質安山岩	143.8	
516	遺構外	65②	打製石斧	頁岩	146.2	
517	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	47.8	
518	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	56.5	
519	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	494.6	
520	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	146.5	
521	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	49.4	
522	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	57.1	
523	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	187.7	
524	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	71.9	E ② S A2 近く
525	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	63.2	
526	遺構外	E②	打製石斧	頁岩	86.3	
527	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	194.1	
528	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	101.3	
529	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	87.1	
530	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	137.4	
531	遺構外	E①	打製石斧	頁岩	372.7	
532	45②S A5	覆土	刃器	頁岩	78.1	
533	遺構外	45②	刃器	頁岩	93.9	
534	遺構外	63①	刃器	頁岩	53.9	
535	E④S A3	覆土	刃器	頁岩	47.1	
536	E④S A3	覆土	石匙	流紋岩	15.0	
537	E④S A3	覆上	石匙	チャート	11.0	
538	E④S A5	床底	石匙	流紋岩	11.3	
539	E④S A5	床面	石匙	頁岩	14.4	
540	遺構外	14①	石匙	ガラス質安山岩	33.3	未製品
541	遺構外	48①	石匙	頁岩	12.2	
542	遺構外	53③	石匙	頁岩	13.5	
543	遺構外	53③	石匙	頁岩	29.2	
544	遺構外	73①	石匙	頁岩	87.6	
545	E②S A6	覆下	異形	チャート	5.0	異形石器 にぶい黄褐色
546	E②S A5	P41	石核	黒曜石	39.1	
547	E②S A5	P41	石核	黒曜石	34.7	
548	E②S A5	P41	石核	黒曜石	49.6	
549	E②S A5	P4	原石	黒曜石	38.1	
550	63②S A2	床底	磨製石斧	緑色凝灰岩	289.4	
551	E②S A4	覆上	磨製石斧	緑色凝灰岩	201.8	
552	E②S A4	床底	磨製石斧	蛇紋岩	138.8	
553	E②S A5	P49	磨製石斧	蛇紋岩	109.8	
554	E②S A6	覆上	磨製石斧	蛇紋岩	19.9	
555	遺構外	45②	磨製石斧	緑色凝灰岩	240.4	
556	遺構外	63①	磨製石斧	流紋岩	343.5	
557	遺構外	E②	磨製石斧	粘板岩	315.1	
558	遺構外	E①	磨製石斧	斑岩	332.8	
559	E②S K47	覆土	磨石	安山岩	1131	
560	遺構外	E②	磨石	斑岩	582.9	
561	遺構外	E②	磨石	安山岩	1422	
562	遺構外	E②	多孔石	安山岩	1629	
563	遺構外	E②	多孔石	安山岩	2635	
564	E②S A6	覆土	石皿	安山岩	2410	
565	遺構外	E②	石皿	安山岩	4310	
566	遺構外	45②	石皿	安山岩	6400	
567	45②S A7	覆土	石皿	安山岩	10550	
568	遺構外	53②	石皿	安山岩	5901	側面に始剝 あり
569	E②S A5	P23	石皿	安山岩	2397	
570	E②S K47	覆土	石皿	安山岩	3685	
571	遺構外	E②	石皿	安山岩	2037	
572	遺構外	E②	石皿	安山岩	533.6	
573	E②S A4	覆中	異形	安山岩	1038	異形石皿
574	E②S A4	覆中	石棒	安山岩	2091	
575	4①S A1	覆土	打製石錐	黒曜石	3.2	
576	4①S A1	床底	打製石錐	流紋岩	1.2	
577	10①S A1	床底	打製石錐	頁岩	1.3	
578	32①S A1	覆中	打製石錐	流紋岩	1.0	
579	32①S A1	床底	打製石錐	黒曜石	0.7	
580	32①S A1	床底	打製石錐	流紋岩	1.2	
581	32①S A1	床底	打製石錐	流紋岩	0.8	
582	32①S A1	周溝	打製石錐	流紋岩	6.1	
583	52②S A1	炉	打製石錐	チャート	1.3	
584	52②S A3	覆下	打製石錐	ガラス質安山岩	1.5	
585	52②S A3	打製石錐	頁岩	1.2		
586	53②S A11	覆土	打製石錐	珪質砂岩	1.7	
587	53②S A11	溝	打製石錐	安山岩	2.4	

No	造構名	層位	器種	石材	重(g)	備考
877	53②SA11	周溝	打製石錐	頁岩	1.4	
878	53②SA11	周溝	打製石錐	頁岩	1.5	
879	53②SA11	覆土	打製石錐	流紋岩	1.7	
880	64①SA2	床底	打製石錐	流紋岩	1.8	
881	65①SA1	床底	打製石錐	黑曜石	1.4	
882	B②SA5	床面	打製石錐	硅質砂岩	1.2	
883	B②SA5	床底	打製石錐	流紋岩	0.7	
884	B②SA5	床底	打製石錐	黑曜石	1.4	
885	C②SA19	覆土	打製石錐	流紋岩	2.6	
886	32①SA1	覆中	石錐	頁岩	4.2	
887	32①SA1	覆土	石錐	流紋岩	2.7	
888	52②SA3	卯	石錐	頁岩	50.4	
889	27①SD1	覆土	石錐	流紋岩	2.3	
890	32①SA1	覆土	刃器	頁岩	108.1	
891	32①SA1	覆土	刃器	頁岩	58.8	
892	32①SA1	覆下	刃器	ガラス質安山岩	62.5	
893	32①SA1	覆土	刃器	頁岩	280.6	
894	53②SA11	床面	刃器	頁岩	169.3	
895	64①SA1	床底	刃器	頁岩	118.8	
896	64①SA1	床底	刃器	頁岩	16.3	
897	69①SA1	床面	刃器	頁岩	40.9	
898	69①SA2	周溝	刃器	頁岩	65.2	
899	30①SA1	周溝	磨製石錐	綠色凝灰岩	1.1	
900	32①SA1	覆中	磨製石錐	硅質砂岩	17.0	
901	31①SA2	床底	磨片刮削器	凝灰岩	51.3	
902	32①SA1	床底	磨片刮削器	斑鰐岩	297.6	
903	C②SA13	貼底	磨片刮削器	凝灰岩	208.0	
904	C②SA19	床底	磨片刮削器	斑鰐岩	487.0	検出面に上ものと 合
905	4①SA1	覆土	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	187.9	研平片刮削器か?
906	4①SA1	床底	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	345.6	
907	32①SA1	周溝	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	643.9	
908	50①SA10	床底	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	502.1	
909	52②SA3	床底	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	680.4	
910	53②SA11	周溝	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	946.5	
911	53②SA11	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	557.3		
912	74①SA1	周溝	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	198.1	
913	60①SK3	太型鈎刃石斧	斑鰐岩	233.7		
914	30①SA1	床面	石錐	斑鰐岩	455.7	

No	造構名	層位	器種	石材	重(g)	備考
915	64①SA1	床底	石錐	斑鰐岩	841.9	
916	B②SA4	卯	石錐	斑鰐岩	542.3	大型始新石 斧の軸用
917	C②SA2	床底	石錐	斑鰐岩	889.8	
918	64①SK9	復土	石錐	斑鰐岩	487.7	
919	27①SD1	覆土	石錐	斑鰐岩	791.6	
920	32①SA1	復土	砾石	凝灰岩	70.0	
921	32①SA1	復土	結晶片	凝灰岩	4.9	
956	52②SA2	床底	打製石錐	頁岩	2.2	
957	62②SA1	覆土	打製石錐	頁岩	0.7	
958	62②SA1	床底	打製石錐	流紋岩	1.9	
959	B②SA3	覆土	打製石錐	流紋岩	8.7	
960	B②SA7	覆土	打製石錐	粘板岩	1.1	
961	C②SA2	中層	打製石錐	流紋岩	1.6	
962	B②SA14	床面	扁平片刮削器	斑鰐岩	274.3	縄文時代磨 製石斧の軸 用
1563	C②SA23	床面	扁平片刮削器	蛇紋岩	141.8	
1564	C②SA6	覆土	大型刮削器	斑鰐岩	554.0	
1565	C②SA4	覆土	大型刮削器	頁岩	318.2	
1566	B②SA3	床中	帶狀石盾	頁岩	21.2	
1567	64①SJ1	石錐	斑鰐岩	905.4	極に近接し て出土	
1568	79①SA2	覆土	石錐	斑鰐岩	218.8	
1569	C②SA4	覆中	砾石	砂岩	764.9	
1570	B②SA10	床底	結晶車	頁岩	34.2	
2607	61①SA5	床底	結晶車	ホルンフェルス	61.1	
2608	C②SA11	床底	結晶車	滑石	25.4	
2609	C②SA16	床底	結晶車	滑石	48.1	
2610	C②SA17	床面	結晶車	滑石	35.7	
2611	C②SA25	P1	結晶車	滑石	81.0	
2612	53②SD5	覆土	結晶車	砂岩	207.4	
2613	61①SA5	床底	砾石	凝灰岩	798.3	
2614	C①SA24	復土	砾石	石鹽片岩	23.9	伴ち砾石
2615	C②SA11	覆土	圓石	安山岩	6250	
2616	B①SA6	床底	圓石	安山岩	5050	
2653	56②SA5	覆土	打製石錐	安山岩	22.2	
2654	C①SA4	貼底	磨製石錐	綠泥片岩	1.2	
2655	遺構外	B①	磨製石盾	頁岩	72.1	
2656	遺構外	60③	砾石	砂岩	148.0	
2657	6①SE1	覆土	砾石	安山岩	643.9	

表6 土製品觀察表

・「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色誌」の色名を表記した。

No	出土遺構	層位	器種	重(g)	色調	備考
576	63②SA1	土壌	302.3	にぶい黄緑		
577	E②SA4	覆中	土偶	101.4	にぶい黄緑	
578	E②SA3	覆中	土偶	23.2	にぶい黄緑	
579	遺構外	E②	土偶	64.3	にぶい黄緑	
580	E②SA6	覆土	土偶	20.3	灰黃褐	
581	遺構外	E②	土偶	34.0	にぶい黄緑	
582	E②SA3	床底	土製円板	30.4	にぶい黄緑	
583	E②SA4	覆中	土製円板	8.7	灰褐	
584	E②SA6	床面	土製円板	10.3	灰黃褐	
585	遺構外	E②	土製円板	14.8	淡黃褐	

No	出土遺構	層位	器種	重(g)	色調	備考
922	29①SA1	覆土	ミニチュア土器	42.2	にぶい黄緑 鉛直線文	
923	32①SA1	覆土	土製円板	11.3	にぶい黄緑	土器片を加工 有孔
924	32①SA1	床底	土製円板	5.8	にぶい黄 緑	土器片を加工 有孔
925	32①SA1	床底	土製円板	7.9	にぶい黄 緑	土器片を加工 有孔
926	32①SA1	覆土	土製円板	14.1	にぶい黄 緑	土器片を加工 有孔

No	出土遺構	部位	器種	重(g)	色調	備考	No	出土遺構	部位	器種	重(g)	色調	備考
927	32①SA1	覆土	土製円板	2.5	にぶい橙	土器片を加工有孔	961	E ①SA1	床直	土製円板	6.5	にぶい黄橙	土器片を加工有孔
928	32①SA1	覆土	土製円板	13.0	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1571	51②SA2	床直	ミニチュ ア土器	36.2	にぶい橙	
929	32①SA1	覆土	土製円板	9.9	にぶい橙	土器片を加工有孔	1572	55①SA3	覆土	ミニチュ ア土器	18.1	にぶい黄橙	外面赤彩
930	32①SA1	覆土	土製円板	11.5	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1573	55②SA1		ミニチュ ア土器	8.4	にぶい黄橙	外面赤彩
931	32①SA1	覆土	土製円板	8.1	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1574	55②SA1		ミニチュ ア土器	16.2	にぶい黄橙	
932	32①SA1	覆土	土製円板	2.8	にぶい橙	土器片を加工有孔	1575	57②SA5	覆土	ミニチュ ア土器	16.0	にぶい橙	
933	32①SA1	覆土	土製円板	2.1	にぶい橙	土器片を加工有孔	1576	C ②SA21	床直	ミニチュ ア土器	30.5	にぶい赤褐	
934	32①SA1	床直	土製円板	3.7	にぶい橙	土器片を加工有孔	1577	50②SA7		紛錘車	16.9	にぶい黄橙	
935	32①SA1	覆土	土製円板	13.1	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1578	56②SA3	覆土	紛錘車	13.0	にぶい黄橙	
936	32①SA1	床直	土製円板	6.5	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1579	52②SA2		土製円板	6.9	浅灰	土器片を加工 両側穿孔は貫通 しない
937	32①SA1	覆土	土製円板	3.7	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1580	55②SA1		土製円板	2.8	にぶい黄橙	土器片を加工有孔
938	32①SA1		土製円板	4.1	にぶい橙	土器片を加工有孔	1581	56②SA3	覆土	土製円板	36.1	にぶい黄橙	土器片を加工有孔
939	32①SA1		土製円板	1.6	にぶい橙	土器片を加工有孔	1582	B ②SA2	覆土	土製円板	17.1	浅黄褐	土器片を加工有孔
940	32①SA1	覆土	土製円板	4.2	にぶい橙	土器片を加工有孔	1583	51①SA1	覆土	底	7.8	浅黄	土器片を加工
941	32①SA1		土製円板	3.2	にぶい橙	土器片を加工有孔	1911	48①SA1	覆土	ミニチュ ア土器	4.8	にぶい褐	
942	32①SA1	覆土	土製円板	12.3	橙	土器片を加工 片側穿孔は貫通 しない	1912	57①SA3	床面	ミニチュ ア土器	3.8	にぶい黄橙	
943	32①SA1	覆土	土製円板	13.8	にぶい橙	土器片を加工 片側穿孔は貫通 しない	1913	57①SA3	覆土	ミニチュ ア土器	14.3	浅黄	外面赤彩
944	32①SA1		土製円板	1.5	にぶい橙	土器片を加工有孔	1914	57①SA3	床面	ミニチュ ア土器	26.9	にぶい黄橙	外面赤彩ミガキ
945	32①SA1	覆土	土製円板	21.0	にぶい橙	土器片を加工	1915	60②SA3	覆土	ミニチュ ア土器	9.4	にぶい黄橙	
946	32①SA1	覆土	土製円板	9.4	にぶい橙	土器片を加工	1916	79①SA5	床面	ミニチュ ア土器	6.8	にぶい黄	
947	32①SA1	覆土	土製円板	7.5	にぶい橙	土器片を加工	1917	C ②SA16	覆土	ミニチュ ア土器	21.9	にぶい褐	
948	32①SA1	覆土	土製円板	8.2	にぶい橙	土器片を加工	1918	C ②SA16	覆土	ミニチュ ア土器	26.6	にぶい橙	
949	32①SA1	床面	土製円板	4.9	にぶい橙	土器片を加工	1919	50①SD2		ミニチュ ア土器	12.0	橙	
950	34①SA4	覆土	土製円板	11.6	黄灰褐	土器片を加工	1920	50①SD2	覆土	ミニチュ ア土器	39.8	にぶい黄	
951	37①SA1	床面	土製円板	7.5	黑褐	土器片を加工有孔	1921	50①SD3	覆土	ミニチュ ア土器	40.5	にぶい黄橙	
952	37①SA1	床直	土製円板	13.3	にぶい橙	土器片を加工有孔	1922	C ①SX1	床直	ミニチュ ア土器	16.0	にぶい黄橙	弥生後輪か?
953	74①SA1	覆土	土製円板	8.3	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	1923	57①SA3	覆土	紛錘車?	21.9	にぶい黄橙	球形
954	75①SA1	床直	土製円板	5.5	にぶい橙	土器片を加工有孔	2617	33①SA1	床面	ミニチュ ア土器	18.0	にぶい黄橙	
955	B ②SA5	覆土	土製円板	5.2	灰黄褐	土器片を加工有孔	2618	50①SA2	床面	ミニチュ ア土器	63.1	浅黄	
956	C ②SA20	床直	土製円板	12.5	にぶい黄橙	土器片を加工 両側穿孔は貫通 しない	2619	57①SA2	覆土	ミニチュ ア土器	13.4	にぶい橙	
957	C ②SA20	床直	土製円板	10.9	にぶい黄橙	土器片を加工	2620	C ①SA24	覆下	ミニチュ ア土器	18.7	にぶい橙	内面黒色処理
958	C ②SA27	覆土	土製円板	14.4	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	2621	23①SD1	床直	ミニチュ ア土器	4.5	にぶい黄橙	
959	E ①SA1	床直	土製円板	28.3	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	2622	71①SD2	覆土	ミニチュ ア土器	9.5	にぶい黄橙	
960	E ①SA1	床直	土製円板	10.1	にぶい黄橙	土器片を加工有孔	2623	C ①SA26	覆土	ミニチュ ア土器	23.5	にぶい褐	

No	出土遺構	層位	器種	重(g)	色調	備考
2624	62②SU2		羽口I	33.9	にぶい橙 高杯脚部の転用 か?	
2625	C ①SA3		甕	33.4	にぶい黄緑 内外面赤茶 住居に伴わなか か?	

No	出土遺構	層位	器種	重(g)	色調	備考
2658	遺構外	C ①	紡錘形	17.3	黄灰	有孔
2659	遺構外	43①	土製円板	18.8	浅黄	穿孔 2ヶ所残る

表7 装身具類表

No	出土遺構	層位	器種	材質	重(g)	備考
	63②SK4	覆土	玉	琥珀		繩片に埋植してお り、計量不能。
575	E ②SA6	覆土	管玉	チャート	2.5	
962	32①SA1	床面	?	縞雲青岩	3.7	横丸の二等辺三角 形を呈する。製造の 両端に凹孔を有し、 他の辺には細かな 刻みが施される。
963	64①SA1	床直	管玉	碧玉	1.3	
964	C ②SA20	覆土	管玉	碧玉	0.2	
965	61①SJ7		管玉	碧玉	0.3	
966	61①SJ7		管玉	碧玉	0.2	
967	61①SJ7		管玉	碧玉	0.3	61①SJ7の南側よ り出土する。
968	61①SJ5		管玉	碧玉	2.0	
969	61①SJ5		管玉	碧玉	2.4	
970	61①SJ5	覆土	管玉	碧玉	3.8	
971	61①SJ5		管玉	碧玉	3.8	
972	61①SJ5		管玉	碧玉	3.7	
1584	61②SA6	覆土	管玉	碧玉	2.7	
1585	79②SA2	覆土	管玉	碧玉	0.2	
1586	C ②SA17	床	管玉	碧玉	0.4	
1587	55②SD6	覆土	管玉	緑石英	0.3	
1588	61①SA8		勾玉	翡翠	0.4	半規状勾玉
1589	64①SJ1	遺構内	勾玉	翡翠	0.6	半規状勾玉
1590	B ②SA2	床直	勾玉	瑪瑙	1.4	
1591	C ②SA4	覆土	勾玉	玉	11.2	赤彩
1592	48①SDZ1	主体部 床直	勾玉	翡翠	21.7	海に近接して出土
1593	48①SDZ1	主体部 覆土	小玉	ガラス	0.4	
1594	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1595	48①SDZ1	主体部 床面	小玉	ガラス	0.2	
1596	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1597	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1598	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.4	
1599	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1600	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1601	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1602	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1603	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1604	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1605	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	

No	出土遺構	層位	器種	材質	重(g)	備考
1606	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1607	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1608	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1609	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1610	48①SDZ1	主体部 覆土	小玉	ガラス	0.5	
1611	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1612	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1613	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1614	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1615	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1616	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.4	
1617	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1618	48①SDZ1	主体部 床面	小玉	ガラス	0.2	
1619	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1620	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1621	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1622	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1623	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1624	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.3	
1625	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.4	
1626	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.3	
1627	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.5	
1628	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.3	
1629	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1630	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1631	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1632	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.3	
1633	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1634	48①SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	

No	出土遺物	層位	器種	材質	目(g)	備考
1635	48① SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1636	48② SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1637	48③ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1638	48④ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1639	48⑤ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1640	48⑥ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1641	48⑦ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1642	48⑧ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1643	48⑨ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1644	48⑩ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1645	48⑪ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1646	48⑫ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1647	48⑬ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1648	48⑭ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1649	48⑮ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1650	48⑯ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1651	48⑰ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1652	48⑱ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1653	48⑲ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1654	48⑳ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1655	48㉑ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1656	48㉒ SDZ1	上体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1657	48㉓ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1658	48㉔ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1659	48㉕ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1660	48㉖ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1661	48㉗ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1662	48㉘ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1663	48㉙ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1664	48㉚ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1665	48㉛ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1666	48㉜ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1667	48㉝ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.2	
1668	48㉞ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	

No	出土遺物	層位	器種	材質	目(g)	備考
1669	48㉟ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1670	48㉟ SDZ1	主体部 床直	小玉	ガラス	0.1	
1671	48㉟ SDZ2	主体部 覆土	小玉	ガラス	0.2	
1672	48㉟ SDZ2	主体部 覆土	小玉	ガラス	0.3	
1673	48㉟ SDZ1	主体部 床直	銅鏡	青銅	2.0	
1674	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	1.2	
1675	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	1.7	
1676	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.9	
1677	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	1.7	
1678	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	2.5	
1679	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	3.8	
1680	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	1.0	
1681	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.3	
1682	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.1	
1683	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.8	
1684	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.1	
1685	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.3	
1686	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.7	
1687	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.6	
1688	48㉟ SDZ1	主体部 床直	鉄鏡	鉄	0.1	
1924	63㉑ SDZ2	覆土	石劍	砲頭石	9.7	
1925	61㉑ SA9	覆土	小玉	滑石	0.1	
1926	61㉑ SA9	覆土	管玉	碧玉	2.5	
1927	C ① SA30	床直上	白玉	滑石	2.7	
1928	63㉑ SDZ1	覆土	管玉	碧玉	3.8	
1929	65㉑ SDZ1	床直	管玉	碧玉	1.1	
1930	50㉑ SDZ2	覆土	管玉	碧玉	0.2	
1931	69㉑ SA3	床直上	勾玉	翡翠	1.0	未製品
2026	C ① SA11	床直上	白玉	滑石	0.1	
2027	C ① SA13	床直上	白玉	滑石	2.7	
2028	55㉑ SA1	覆土	管玉	滑石	0.6	
2029	C ① SA9	覆土	管玉	碧玉	5.5	
2030	C ① SA10	覆土	管玉	碧玉	0.7	
2031	C ① SA10	火床直	管玉	碧玉	0.2	
2032	56㉑ SA1	覆土	勾玉	土	37.5	
2033	57㉑ SA2	床直上	勾玉	碧玉	0.6	
2034	C ① SA16	覆土	耳環	青銅	10.2	金錯が一部残存する。
2069	50㉑ SP50	覆土	白玉	頁岩	0.2	
2061	32㉑ SP1	覆土	管玉	碧玉	6.2	
2062	遺物外	61㉑	管玉	碧玉	4.9	61㉑ S J 5に伴う可能性が高い。
2063	遺物外	C ①	管玉	碧玉	0.6	
2064	遺物外	32㉑	管玉	碧玉	0.2	
2065	遺物外	C ①	垂飾品	頁岩	16.9	

表 8 石製品

遺構	時期	器種												備考	
		打制石器	打制石器	打制石器	刀器	石器	石核	原石	敲石	磨石	磨石	多孔石	磨石	石器	
45②S A1	绳中														1
45②S A2	绳中		1	1			1								1
45②S A5	绳中			1	1				1						1 2
45②S A7	绳中		1							1			1		
63②S A1	绳中	2													
63②S A2	绳中		1							1	1				
63②S A3	绳中	2	1												
E②S A2	绳中	1	3			2									3
E②S A3	绳中	3	20	6	2	4	1								9
E②S A4	绳中	1	8			6	5				2				5 石棒1、異形四石1
E②S A5	绳中	8	4	1	2	7	1			1	1				6
E②S A6	绳中	9	1	7		2				1	1				2 異形石器1
E②S A8	绳中	1	1												P6内
63②S K1	绳中	1													
63②S K2	绳中	1													
E②S K8	绳中		2												石錐？1
E②S K47	绳中						1	1							
45②S D1	绳中		2												5
3①S A1	弥中			1		1									
3①S A2	弥中		1									1			
4①S A1	弥中	2		3	1	1					2				6
10①S A1	弥中	1													
25①S A1	弥中			2											
29①S A1	弥中		1												
29①S A2	弥中											1			
30①S A1	弥中									1		1			
32①S A1	弥中	10	4	10	39	3	1			1	1	1	2	5	薄片類が多数出土
50①S A10	弥中			1								1			
52②S A1	弥中	1		1	1										
52②S A3	弥中	1		1								1			
53②S A3	弥中	2													2
53②S A7	弥中										1				
53②S A11	弥中	4		1							1				1
61①S J2	弥中											1			
64①S A1	弥中	1		5	4							1			5
64①S A2	弥中	1		1											3
65①S A1	弥中	3		1	1	1									4
69①S A1	弥中	1		4	1										6
69①S A2	弥中			1											
74①S A1	弥中	1		1	2						1				5
74①S A2	弥中						1								1
75①S A1	弥中						1								3
B②S A4	弥中											1			
B②S A5	弥中	1													2
B②S A6	弥中	4		2	9										4
C②S A14	弥中			1											1
C②S A19	弥中	1		2							1				3
C②S A20	弥中											1			
E①S A1	弥中														1

遺構	時期	器種												備考					
		石斧 石錐 石錐 石錐	打製石器	打製石器	刀	石器	石核	原石	磨石	磨石	凹石	石皿	多孔石	穿孔石	磨石	石鑿	石鑿	石鑿	
69①S K3	新中														1				
64①S K9	新中															1			
27①S D1	新中	1	2	4					1							1	3		
43①S X1	新中			2															
50①S A7	新後				1														
50②S A4	新後				1														
52①S A7	新後					1													
52②S A2	新後	1	1																
53②S A1	新後														1				
53②S A4	新後														1				
62①S A1	新後	2																	
79①S A2	新後														1				
B②S A3	新後	1												1					
B②S A7	新後	1																	
B②S A14	新後																		
C③S A2	新後	1													1				
C③S A3	新後	2	1																
C③S A4	新後														1	抉入柱狀片刃石斧 1			
C③S A5	新後															1			
C③S A6	新後														1	1	1		
C③S A12	新後								1										1
C③S A13	新後														1				
C③S A23	新後														1				
4①S D2	新後		1															台石 1	
48①S D1	新後																1		
64①S J1	新後														1				
50②S D3	古前中														1				
50①S A1	古後								1										
53①S A11	古後								2										
C①S A24	古後															1			
C①S A11	古後								3										
49①S D1	古後								2										
C①S U3	平·中					1													
1①遺構外					1											1			
2①遺構外					1	1											1		
3①遺構外					2										1	1	1		
4①遺構外		2													1	1	1		
6①遺構外		1	1			1										1			
7①遺構外																	台石 1		
8①遺構外					1												1		
10①遺構外					1														
12①遺構外		1																	
13①遺構外																1			
14①遺構外					1	1													
18①遺構外					1	1			1								2		
20①遺構外																	1		
23①遺構外						1												石板 1	
25①遺構外															1				
26①遺構外						1											1		
27①遺構外							1												

造構	時期	器種												備考			
		打製石器	打製石器	打製石器	刀器	石器	石核	砾石	磨石	凹石	石鑿	多孔石	海螺殼	磨製石器	磨光石器	石劍	砥石
30②造構外																	
32①造構外																	1
33①造構外																	
34①造構外				1						1				1			
35①造構外																	1
36①造構外																	
43①造構外										1							
45①造構外		1	10	3		1				2	1			2			3
45②造構外			2	1	1						1						1
46①造構外											1						
48①造構外		1	1	1						1	1					1	× 狩獵石器 1
50①造構外														1	1		
50②造構外		2			1	1											1
51①造構外																	
52①造構外										1							
52②造構外		1		1	1								1				
53①造構外		4				1	1			1	1					2	輕石製品
53②造構外						2	1					1	1				台石 1
54①造構外																	1
55①造構外		2															
56①造構外		2			1												1
57①造構外										1							
59①造構外		1															1
60②造構外																	
61①造構外		3		2	2									1	1	1	
62①造構外					1									1		1	
62②造構外					2												9
63①造構外		3	1	1	4	1			2	1	1	1					
63②造構外				2								1					
64①造構外		1															1
65①造構外		2		2	2												
66①造構外									2								
67②造構外									1								
69①造構外									1								
70①造構外									1								
71①造構外									1								
72①造構外		1															
73①造構外									1								
74①造構外									1								
76①造構外														1			
78①造構外																	石板
79①造構外		1		1													
B②造構外														1			
C①-E②造構外		10	1	3	3	1	1				1	2	1	2	8		
D①造構外		1	2		1	2	1						1		3		
E①造構外		1	6		3												環狀石斧 1
E②造構外		4	8	2	13	4	1	2	3	1					24	異形凹石 1 石棒 1	

第V章　まとめ

第1節　集落の変遷

これまで報告してきたように、調査では縄文時代中期から中世に至るまでの多くの遺構が検出され、柵田遺跡が長期間にわたって断続的に営まれた集落遺跡であることが明らかとなった。遺跡の範囲は現在の柵田地籍の範囲とほぼ重なっており、調査区は遺跡の東側 $2/3$ に対して大規模なトレンチを入れたような状況を呈している。調査では多くの遺構と共にかつての河道の痕跡が検出されたが、集落が存続していた時期の大半は窪地の状態であったと思われ、遺構は河道を避けた 2 カ所の微高地上に構築されている様子が看取された。本節ではこれらの成果をふまえて、各時期における集落の様相をまとめてみたい。

1 縄文時代中期

堅穴住居 18 舛、土坑 6 基、小穴 2 基、墓 4 基、溝 1 条、埋甕 4 基、環状列石 1 基を報告した。北東微高地からは遺構にともなわないながらも前期に遡る土器が出土しており、集落の形成は近隣の松ノ木田遺跡や浅川端遺跡と同じ前期段階より開始している可能性もあるが、集落として認識されるのは縄文時代中期になってからで、遺構は南西微高地の 45 区・63 区・E 区付近を中心に分布している。

堅穴住居の平面形は円形～小判形を呈する円形基調のものと、隅丸方形を呈するものがあるが規格的な形態は認められない。検出状況が良好なものについてその内部構造をみてみると、45② SA5、E ② SA3・4・5・7・8 では中央付近にわずか

な掘り込みをともなうが
が数設され、主柱は炉を
開むように壁沿いに配置
されている。これに対し
63② SA1 は 6 本の主柱
穴が住居の主軸に平行し
て配列され、間仕切り溝
状の掘り込みがそれらを
繋ぐように掘り込まれて
おり特徴的である。この
住居からの出土土器量は
少ないものの、北西辺付
近から市内出土の中でも
最大規模の土偶が出土
し、また K7 からは琥珀
玉 1 個体が出土してい
る。土偶は右手、左手先
端、両足先端部と頭部を
欠くもので、体部全面に



図 20 縄文時代中期の主要遺構配置

凹線により文様が施される。乳房および腹部はふくらんでいるものの、臀部の表現は凹線のみである。頭部は欠損しているが、おそらくは河童型土偶に分類できる資料であろう。長野県中野市姥ヶ沢遺跡（中野市教委1983）出土の資料に近似する。琥珀玉は検出時から脆弱な状態であり、取り上げ後に完全に瓦解したために実測不能となってしまった。これら住居出土遺物に加え、近くに特殊な土器を埋納した埋葬遺構（63② SR1）があることからこの住居が権田ムラの祭祀を司るシャーマン的な人物に関係する建物である可能性が考えられる。

E区2次面北西で見つかったE②SN1は、環状列石として市内で初の検出例である。人腰丈の石が環状に巡り、それらの石を支えるように外側には一回り小型の石が基部に据えられている箇所もある。さらに小型の拳大から人頭大の河原石が内側に敷き詰められている。立石のほとんどが倒れた状態で検出されているが、中央部の数個が立ったままの状態で検出されており、これらはほぼ原位置を保っているものと推測される。土層断面を検討すると、砂質土層がいくらくか遺構を覆うように堆積した後、遺構を抉んで西側は小礫や砂質の層が幾重にも重複しており、その東側は調査区の他の地点同様に粘質土がほぼ水平に堆積する。このことから、この遺構の西側には当時河川が存在しており、その氾濫原に構築された遺構であると考えられる。さらに当遺構を境に土層の堆積状況に大きな違いが見られるのは、河川が氾濫した際に土砂が立石に遮られ、それを越えることができずに立石の西側でよどみのように堆積したものと解釈できる。本遺構付近では砂層と礫層が厚く堆積していることからも、当時河川の氾濫があったことを推測できる。石に張り付くような状態で検出した土器片は遺構にともなうものなのか、あるいは他の場所から流されてここに移動してきたものなのかは明言できないが、この土器が意識的に打ち欠いたようにきれいに底部付近のみが欠損すること、さらに同じように遺構上面に堆積した砂質土層除去の段階で出土した別個体の土器が、器形は先述の土器と同様の唐草文形土器のものであるにもかかわらず、文様が全く施されていない特異な

土器であることを鑑みると、意識的に土器を選択し、粉碎した後遺構上に散布したとも捉えられる。

2 弥生時代中期

弥生時代中期後半のいわゆる栗林式段階の竪穴住居41軒、土坑8基、墓10基、溝2条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構4ヶ所を報告した。出土した土器には胴部に櫛描の横羽状文が多用された壺や、頸部から胴部を竪・横によって横位多段に施した壺が多くあり、総的には寺島孝典編年（註1）の栗林式古

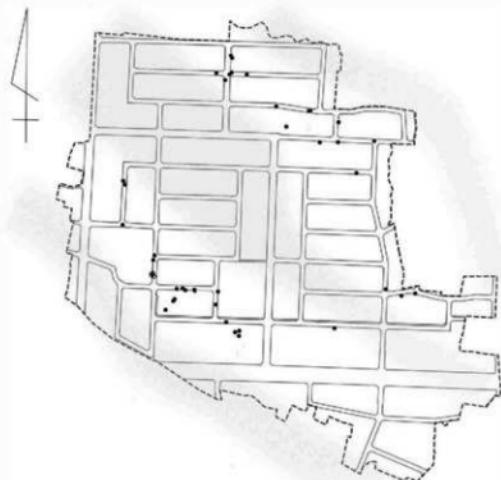


図21 弥生時代中期の主要遺構配置

段階に集落の盛期があったことが窺われるが、南西微高地のC②SA13・19・20から出土した壺に施された口縁部外面への繩文（788・812）や頸部～胴部への指頭円文（773・815）・結紐文（815）文などの中期前半に特徴的な文様を古い要素と見るならば栗林式の初現期には集落の形成が始まっていることとなる。集落は中段階新相を前後する時期に比定される10①SA1・32①SA1を最後にいったん途絶えるようである。

竪穴住居は両微高地上からほぼ半数ずつが検出され、微高地ごとに居住域が形成されていた状況が看取される。複数の居住域が同時併存していたのは該期だけであるが、先述した比較的の新しい住居が検出されたのは北東微高地上であり、両者の継続期間には若干の差違があったかもしれない。浅川扇状地上で同時期に営まれていたと考えられる集落は、車札バイパスD地点遺跡（長野市教委1986）や浅川端遺跡（長野市教委1988）で検出されているが、いずれも検出住居数は10軒に満たない小規模集落である。本遺跡では2ヶ所の微高地にまたがっているとはいえ40軒を越える住居がまとまっており、その規模からこれらの集落に対する拠点的集落であった可能性が高い。出土土器中に中期後半段階としては珍しい北陸系土器（686・769・770）を含んでいることも、このような集落の性格を反映したものと言えよう。

南西微高地の61区2次面では、砾床木棺墓を主体とする9基の木棺墓が集中して構築された墓域を検出した。各木棺墓は近接して構築されており、分布域はさらに西方に広がって総数は10基を超えると予想される。木棺墓の規模は墓坑長2m前後、棺長1.4～1.5mとほぼ均一であるが、主軸の方向は北西～南東を示すSJ1～4・8・9と、これに直交する北東～南西のSJ5～7の2つに分かれる。木棺構造はすべて両短辺に小口穴が残る福永伸哉分類（福永1985）のIa類を採用するが、棺床については砾敷のSJ1～3・6～9と、非砾敷のSJ4・5の2種が認められる。副葬品は砾敷のSJ7から細形の管玉3点、非砾敷のSJ5から太形の管玉5点が出土した（註2）。各木棺墓間には規模や配置に均一性が認められ、この墓域が集團墓地的な性格であったことが看取される。構造や副葬品に認められる差違は、身分・地位の誇示というよりも集落内における被葬者の立場が表現されたものと考えられよう。時期を示す土器の出土はなかったが、該期集落の墓域が居住域に近接する位置に設けられる（青木1991）ことからすれば、これらの木棺墓群は南西微高地の居住域に対応する墓域と考えられる。墓が検出されなかつた北東微高地でも同様の墓域が造営されている可能性が高い。

出土遺物で注目されるのは、53②SA11・75①SA1・C①SA20で検出された器形が大きく並んだり器面が変色した土器である。53②SA11出土のT24はその中でも特に変形・変色が著しく、そのさまはあたかも土器内部で爆発が起きたかのようである。これらの変化は被熱により生じたものと思われ、これを裏付けるかのように出土住居では炭や炭化材が検出されている。住居の焼失もしくは内部での火焚き行為の際の被熱が原因の一つとして考えられるが、変形・変色が生じた土器は出土土器の一部であること、他の時期の焼失住居および炉やカマドにおける煮炊きに用いられた土器には同様の変化が起きていないことなどを考慮すると、その火熱は特殊な状況下で加えられた相当に強いものであったと思われる。なお同じ特徴を示す土器は松原遺跡（長野県埋文1997）や差出遺跡（長野市教委2003）でも報告されている。両遺跡とも時期的に後出しており、差出遺跡例が井戸に投棄されたものであったのに対して、松原遺跡例では出土遺構のSB129内部で火焚き行為が認められる本遺跡と同様の検出事例となっている。

3 弥生時代後期

竪穴住居70軒、土坑1基、環状溝1条、墓14基、溝6条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所を報告した。後期後半の箱清水式期中頃を盛期とする集落を検出しているが、それ以前では箱清水式初期の25①SJ1や遺構外からの出土ながら後期初頭吉田式期の様相を示す1547が認められ、弥生中期後半に統く集落の再形成は後期前半にまで遡る可能性もある。



図 22 弥生時代後期の主要遺構配置

居住域は南西微高地西半に展開しており、全長8mを越す大型堅穴住居が集中するC区付近にその中心があったと推測される。炭・炭化材が多量に出土して焼失住居と考えられた住居は7軒検出され、このうちのB②SA9・C②SA2では奥壁中央付近の炭直上でベンガラが直径約10cmの円形にまとまって検出されている。検出状況から、ベンガラは焼失直後の炭上に人為的に撒かれたと推察される。住居焼失にともなう一種の祭祀行為であったと思われるが、類例も少ないとからこれが行われない焼失住居との差違は見いだせていない。

墓には土坑墓、土器棺墓、円形周溝墓が認められたが、最も多く検出されたのは円形周溝墓で、10基が見つかっている。墓の分布には偏在性があり、南西微高地東側の48区では土坑墓1基、土器棺墓1基、円形周溝墓7基が重複しながら密集するのに対してその他は北東微高地に散在する。いずれも地形的に旧河道を挟んで居住域と隔離された場所に選地されており、構築場所が墓域として認識されていたものと推測される。構築時期は居住域と同じ後期中頃に盛期があったと思われるが、出土土器の様相や遺構検出状況から居住域の年代よりも後出的な要素が指摘される48①SDZ5や19①SDZ1などは、次項に含めた堅穴住居との関連性も考慮する必要があると思われる。

出土遺物の特徴としては、外来要素を含む遺物が多く出土したことが挙げられる。土器では北陸系および東海系のものが認められた。量的に主体を占めているのは圧倒的に前者であり、後者は同一個体の破片である1234・1336のみと客観的な存在である。北陸系土器は北陸編年の法仏式段階におおむね相当する。千野浩編年(千野1989)の3段階・青木一男編年(青木1999)の4段階に相当する遺構で確実な共伴関係が認められ、同じく北陸系土器が多く出土した本村東沖遺跡(長野市教委1993b)と同様な併行関係が確認された。細部の作りや胎土から大部分は北陸地方の土器を模して在地で製作されたと思われる点も本村東沖遺跡例と同様である。東海系の1234・1336は胎土が在地の土器とは明らかに異質であることから搬入品の可能性が高いが、いずれも覆土からの出土で住居との共伴性には検討の余地がある。石器ではC②SA4から安山岩製の抉入柱状片刃石斧(I565)が出土している。刃部は刃こぼれを起こし、両端が縱方向に剥離したように欠損しているが、遺存状況は良好である。下条信行の

形態分類（下条1997）に従えばD型式（註3）にあたり、弥生時代前中期～中期初頭に瀬戸内・山陰・関西・東海そして日本海側の山陰・北陸まで広く分布するという。長野県下では原則的に石器組成に入らない器種（町田勝則・百瀬長秀1997、福宜田2002）（註4）であることからも搬入品と判断されるが、先の年代に相当する時期の遺構は柵田遺跡のみならず周辺遺跡にも存在しておらず、石斧と出土遺構の年代差が大きな問題となる。出土位置が床面から30cm上位の覆土中であることを積極的に評価し、混入品として前段階の弥生時代中期後半に使用時期を求めて、なおその開きは大きい。いつどのように柵田遺跡にもたらされ使用されたのか現状から判断することは困難であり、類例の増加を待ってさらなる検討が必要となろう。

48区円形周溝基の副葬品である銅鏡・鉄鏡や翡翠製勾玉は、周辺遺跡のそれと比較しても高度な内容を有しており、被葬者の地位の高さを窺わせるものである。これらは柵田遺跡の集落だけでなくより広い範囲に向けて自らの地位を誇示していたものと思われ、その背景には居住域における北陸系土器の大量保有に見られるような北陸地方との強い結びつきがあったことも推測されよう。

4 古墳時代前期～中期

古墳時代前期初頭から中期前半に属する竪穴住居20軒、掘立柱建物1棟、土坑1基、墓3基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構3ヶ所を報告した。この時期の浅川扇状地上では、集落の出現が単発的になる傾向があるが、柵田遺跡では調査範囲の大きさもあって居住域を移動させつつ継続的に集落が営まれる状況が認められた。

まず前期初頭～中葉では弥生時代後期と同じく南西微高地西側に居住域、北東微高地に墓域をおいている。墓域としたのは65・74・75区において検出された3基の周溝墓群であるが、前項で当期の竪穴住居との関連性を考慮した周溝墓の48①

SDZ5・19① SDZ1を含め

ても同様の選地傾向がある。3基の周溝墓は墳丘が完全に削平されて主体部は明らかにされていないが、平面形態は65②

SDZ1が前方後方形、75①

SDZ1・4が方形を呈する。いずれの周溝覆土も壁面～底面上に10cm程度堆積する黒色粘質土上に大量の黄色砂質土がのつており、3者がほぼ同時に埋没したと推測される。遺物は黒色粘質土中に少量含まれており、65

② DSZ1では土師器甕（1800）と管玉（1929）、

75① SDZ4では土師器甕



図23 古墳時代前期～中期の主要遺構配置

(1801・1802) を図示した。土器の様相からおおむね前期中葉の所産と判断される。地山に接する上層から出土していることを考慮すれば遺物の示す年代が構築年代に近似すると思われるが、出土状況が明瞭でないために理葬時の葬送儀礼に用いられたものかどうかは判然としない。善光寺平における前期の周溝墓は千曲川自然堤防上に立地するものが多く知られており、篠ノ井遺跡群聖川堤防地点（長野市教委1992）では開口部を有する方形周溝墓から前方後方形周溝墓への変遷過程が捉えられている。65② SDZ1は聖川堤防地点で最も新しいSDZ3と類似した墳丘形態で、構築時期もほぼ同時期の所産と推定される。浅川扇状地上では扇端に近い吉田地区で可能性があるものも含めて4基の周溝墓が報告されている（長野市教委1996・1997・1999）が、これらの出土土器および平面形態をみると本遺跡検出例よりも古相を示すものが多く、浅川扇状地上においても聖川堤防地点と同様の変遷を辿っていた可能性が高い。

前期後葉になると弥生時代後期以来の選地意識に変化が生じ、それまで墓域であった南西微高地東半に居住域が展開する。墓は検出されていないが、南西微高地の北東側縁辺部に位置する63① SD2からは通常古墳の副葬品として用いられる緑色凝灰岩製石鏡が出土した。63① SD2は幅60cm前後、検出面からの掘り込みが10cm未満と小規模であるが検出長は約56mと長い。石鏡は東端から約9m 西の底面から出土した。全体の1/12程度が残存しており、破断面の研磨など二次加工された痕跡は認められない。斜面に施された放射状幅細沈線中には幅広沈線が挿入され、側面には2段の匙面を有することから蒲原宏行分類（蒲原1991）のⅢ a' 類に相当するが、その形状からより後出的なものと判断される。北條芳隆によれば、「腕輪形石製品をもちいた祭祀には、古墳の場合と、集落ないしは溝での場合の2形態が併存し」、後者の場合「例外なく破碎埋納されるという取り扱い上の共通性が認められ」、「こうした現象は4世紀の第4四半期に限定され」るという（北條1994）。本遺跡の場合、出土遺構の年代や石鏡の出土状況に北條の指摘との共通点があり、本遺跡における祭祀行為の存在を窺わせるが、調査所見ではその痕跡は見いただせない。ただし、同じ溝内の石鏡出土地点より20m 西方では損壊した菅玉（1928）が出土していることは長野市石川条里遺跡（長野県埋文1997）に通じて示唆的であり注意を要する。

中期になると再び選地意識は変化し、堅穴住居は北東微高地上にまで構



図24 古墳時代後期の主要遺構配置

築されている。ただし検出されたのは6①SA1のみであることから居住城と呼べるほどの展開は見せていない。6①SA1より新しい57①SA3は再び南西微高地に構築されている。57①SA3は中期段階で唯一カマドを有する竪穴住居であり、浅川扇状地でも早い段階のカマド導入事例として評価される。

5 古墳時代後期

古墳時代後期中葉から奈良時代初頭までの竪穴住居90軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所を報告した。該期にはそれまで継続的な土地利用が認められた北東微高地に明確な遺構が検出されなくなる一方、遺構は南西微高地に集中して構築されるようになる。それまで地形上の制約から遺構空白域となっていた中央河道に溝などの小規模遺構が検出され、窪地への土砂の堆積が進行していた様子が看取されることから、選地場所の集中した背景には自然的な要因があったのかもしれない。南西微高地は住居を中心とする居住城として利用されており、その規模は本遺跡でも最大のものとなっている。特に微高地西半は他の時期にそれ程多くない住居相互の切り合い関係が頻繁に認められるほど集中しており、活発な住居の構築が行われたものと推察される。集落の盛期は後期後葉にあり、この時期の検出住居数は全体のおよそ7割を占めている。

竪穴住居は規模により一辺の長さが7mを超える大型、3.5mに満たない小型、この中間の中型に分類される。中～大型の住居は北～北西に主軸をとる隅丸方形を呈し、4本主柱で主軸方向の辺上にカマドを敷設するという該期に一般的な形態を呈する。本遺跡では同一住居内でカマドを移転させている事例が他の遺跡と比較して多く観察され、57①SA2、C①SA5・7では実に3基のカマドが検出された。また、火床に平石を敷き詰めたC①SA9や、支脚に土製品を用いたC①SA16など検出例の少ないカマド形態も認められ、本遺跡におけるカマドの多様性を示している。53①SA3、C①SA4・6・12に代表される小型の住居では柱穴が不明瞭な横長方形を呈し、カマドが隅に敷設される傾向がある。

カマドは住居廃絶時に破壊を受けて本来の姿は残されていないが、燃焼部を開む袖の構築方法によって①粘土あるいは地山削り出しによるもの、②石を芯材にしたものに大きく二分される(註5)。カマドが検出された70軒のうち、①が12軒、②が44軒を数え、残りの14軒については痕跡の検出のみにとどまった。時期の判別が可能な住居について①と②の比率を見ると、中葉ではおよそ4:6となるのに対して後葉ではおよそ2:8となる。周辺遺跡におけるカマド袖部の構築方法をみると、まず古墳時代中期後半の牟礼バイパスB地点遺跡(長野市教委1986)・本村東沖遺跡ではすべての住居が①を採用している。次段階の後期前葉のカマド検出事例は少ないが三輪遺跡(長野市教委1980)・牟礼バイパスB地点遺跡・吉田古屋敷遺跡(長野市教委1996)では①と②が共に検出されている。これらのことから浅川扇状地におけるカマド構築は①に始まり、②が後期前葉頃を境として登場して後期中葉～後葉に徐々に②の比率を増していく過程を読みとることが可能である。ただし、②が①に取って変わることはなかったようで、吉田古屋敷遺跡では奈良時代初頭に天井石の支柱に倒立させた甕を用いた広い意味で①に類するカマドが検出されている。なお、千曲川自然堤防上に立地する拠点集落の櫻田遺跡(長野県埋文1999)では、古墳時代を通じて①が採用され続け、②が出現するのは奈良時代以降のことである。浅川扇状地とは対照的なあり方であり、カマドの構築方法が遺跡立地により大きく異なっている点が興味深い。

該期の集落はこれまでに知られている浅川扇状地上の集落と比較すると規模も大きく、周辺地域の拠点集落としての性格を窺わせる。古墳時代中期後半から後期前葉の集落断絶期間には、同時期に最盛期を迎える本村東沖遺跡へ人々の営みが移動していたと推察される。

6 平安時代～中世

掘立柱建物10棟、土坑1基、土坑墓1基、溝4条、井戸11基、包含層落ち込み1ヶ所を報告した。当間に充てた遺



図25 平安時代～中世の主要遺構配置

1である。16①SD1の出土遺物には墨書き器が2点含まれ、このうちの2643は破片資料のため全体に記された文字数は明らかでないが、遺存範囲内では「有」の1文字が判読される。これが現在の権田地盤に残る字名の「有無」の一部だとすれば、須恵器が示す9世紀代までその存在をさかのばらせることになり注意を要する。

中世ではC区1次面において弥生時代後期・古墳時代後期の遺構を削平するC①SU3を検出した。遺構名称は包含層落ち込みとして扱っているが、古墳時代後期のC①SA12が検出された付近は島状の高まりを残しており、人為的な掘り込みの可能性が高い。覆土からは須恵器・土師器・青磁といった平安時代～中世の遺物と共に、石が多く認められた。特に遺構北側では人頭大から一抱えもありかという大ぶりの石が集中し、斜面に人為的に積み上げたかのような状況を呈している。その意圖するところは判然としないが、C①SU3を池状の掘り込みと考えれば縁を護岸するための石垣状施設を考えることも可能である。

註

- 1 寺島は1999論文において栗林期を古段階古相、古段階新相、中段階古相、中段階新相、新段階の5段階に区分したが、2001論文で本人が指摘しているように古段階の2区分は曖昧さを残すものであった。よって本書では古段階を一括して4段階区分としている松原道勝編年（長野市教委1993a）を参考にしている。
- 2 挿出面出土の菅玉（2662）は出土位置からSJ5にともなう可能性が高く、これを含めればSJ5には6点の菅玉が頃見されていたことになる。また6①SA8から出土した半球状勾玉1点はこれが破壊する確度のSJ3・4・9のいずれかにともなうと予想される。
- 3 D型式の主要な形態的特徴として、漏斗型～トンネル型の横断面形や、幅の狭い基部などを挙げている。
- 4 長野県史刊行会1988には柏原道路の北方に隣接する神楽橋道路出土の抉入柱状片刃石斧が紹介されている。横断面形が横方向に

構はおしなべて出土遺物が少量であったため、周辺遺構との切り合い関係や覆土の色調が時期判断の大きな要素となった。このため、「少なくとも古墳時代後期よりは新しい」という消極的な時期判断が下される遺構も多く、時期を細分しての集落構造の把握には至っていない。

平安時代に帰属する居住域は、第1次調査区（長野市教委1991）や隣接跡で見つかっているものの、調査地での有無は判然としない。確實に平安時代に所属すると判断されたのは、中央の旧河道上に開削された16①SD

- 長い胸張型となる下条分類のF型式で、本遺跡出土のD型式よりも後出する形態である。正式報告はなく詳細は不明であるため、本書では註で振るにとどめている。
- 5 ①は袖先端に天井石を支える石材の有無による細分が可能であるが、遺存状況によってはその判別が難しいことから一分類として扱っている。また②についてはカマドに使用されたと思われる石が住居内に散乱していた場合も含んでいる。

引用・参考文献

- 青木一男 1991 「千曲川流域の周溝墓発見」『長野県考古学会誌』63 長野県考古学会
- 青木一男 1999 「長野盆地南部の後期土器編年」(発表メモ)『長野県の弥生土器編年』 長野県考古学会
- 蒲原宏行 1991 「輪輪形石製品」『古墳時代の研究 8 古墳Ⅱ 副葬品』 雄山閣出版
- 下条信行 1997 「柱状片刃石斧について」『伊達先生古希記念古文化論叢』 伊達先生古希記念論集刊行会
- 千野 浩 1989 「千曲川系における後期弥生土器の変遷」『信濃』41-4 信濃史学会
- 寺島孝典 1999 「長野盆地南部の様相」『長野県の弥生土器編年』 長野県考古学会
- 寺島孝典 2001 「成立期の栗林式土器」『長野県考古学会誌』93-94 長野県考古学会
- 長野県史資料会 1988 「長野県史考古資料編 全一巻(4) 遺構・遺物」
- 長野県埋蔵文化財センター 1997 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15-長野市内その3- 石川条里遺跡」 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書26
- 長野県埋蔵文化財センター 1998 「上信越自動車道埋蔵文化財報告書5-長野市内 その3- 松原遺跡 弥生・縄文6 弥生後期・古墳前期」長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書36
- 長野県埋蔵文化財センター 1999 「上信越自動車道埋蔵文化財報告書12-長野市内 その10- 榎田遺跡」(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書37
- 中野市教育委員会 1983 「姥ヶ沢」
- 長野市教育委員会 1980 「三輪道路・三輪小学校地点遺跡第1~3次調査報告」付 水内坐一元神社(柳原小学校)遺跡調査報告 長野市の埋蔵文化財第6集
- 長野市教育委員会 1986 「浅川扇状地遺跡群-平札バイパスB・C・D地点遺跡」長野市の埋蔵文化財第17集
- 長野市教育委員会 1988 「浅川扇状地遺跡群 浅川端遺跡」長野市の埋蔵文化財第29集
- 長野市教育委員会 1991 「小島・柳原遺跡群 中俣遺跡・浅川扇状地遺跡群 押鍬遺跡・樺田遺跡」長野市の埋蔵文化財第41集
- 長野市教育委員会 1993a 「松原遺跡Ⅲ」長野市の埋蔵文化財第58集
- 長野市教育委員会 1993b 「浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡」長野市の埋蔵文化財第50集
- 長野市教育委員会 1996 「浅川扇状地遺跡群 吉田四ヶ屋遺跡/浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡(6)/森河原遺跡」長野市の埋蔵文化財第75集
- 長野市教育委員会 1997 「浅川扇状地遺跡群 吉田古屋敷遺跡」長野市の埋蔵文化財第84集
- 長野市教育委員会 1999 「平成10年度の調査 4 浅川扇状地遺跡群 吉田古屋敷遺跡」『長野市埋蔵文化財センター所報』No10
- 長野市教育委員会 2003 「浅川扇状地遺跡群 浅川端遺跡(2)/安茂里遺跡群 差出遺跡・三合塚西古墳/石川条里遺跡(10)」長野市の埋蔵文化財第102集
- 福宜田佳男 2002 「石器相成」『考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器』 小学館
- 東日本埋蔵文化財研究会 2000 「第9回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生後期の土器編年」
- 福永伴哉 1985 「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』32-1 考古学研究会
- 北條芳隆 1994 「石川条里遺跡と輪輪形石製品」『中部高地の考古学』 長野県考古学会30周年記念論文集』 長野県考古学会
- 町田勝則・百瀬長秀 1997 「20 長野県の石器」『農耕開始期の石器相成4 中部・近畿(三重・滋賀・京都・奈良・和歌山)』 国立歴史民俗博物館資料調査報告書7

第2節 縄文時代中期前葉の土器について

樺田遺跡においては、区画45、63区およびアクロスプラザ地点で遺構内および包含層から比較的多くの縄文時代中期に属する土器が出土している。ここではこれらの地区から出土した資料を中心に、樺田遺跡出土の縄文時代中期土器について主に文様の施文方法および文様構成に基づき分類し、各類型の出自・編年の位置づけに関し

て考察してゆきたい（註1）。なお、これに前後する前期及び中期中葉～後葉の土器についてはその出土量が希薄な上にほとんどが包含層など遺構外の出土であるため、今回の分類対象から除外した。

まず、第1類の土器から順に見てゆきたい。当上器群は、長野市松原遺跡・新潟県中郷村泉A遺跡で良好な資料を得られているものである。半截竹管により平行沈線や半隆起線を施し、口唇部の裏面にも縄文が施される。また、口縁部の突起には貫通孔が穿たれる。檀田遺跡においては、その出土量は少なく、数片を数えるのみである。45②SA7の覆上から2点が確認されている以外は、検出面で得られた資料のみである。中期初頭（檀田中期前葉①期）（註2）の土器群である。

次に、第2類として分類した土器は、所謂“深沢系”と呼称される土器あるいはそれに類似する土器群である。深沢系土器は、未だ型式設定するまでの資料は揃っていないものの、高橋保氏、寺内隆夫氏らによりその編年的位置づけが確定されつつある（高橋1989、寺内1997・2003）。檀田遺跡でも第2類aおよびb種とした土器は、深沢遺跡第2類として分類されてきたものである（西沢1982）。隆線や半隆起線による縦手文が主装飾となり、多くは地文に縄文をもつ。檀田遺跡で器形全体のわかる資料は、E区2次面で検出されたSR2（埋甕2）のみである。

表9 縄文時代中期前半の土器分類

第1類	口縁部に貫通する円孔をもち、格子目文、平行沈線、半隆起線、縄文などで装飾するもの	6, 10, 48
	隆線および半隆起線により縦手文を装飾する土器群で、縦手文や渦巻文を多用するもの。胎土は概してにぶい黄褐色を呈する。	
第2類	a種 地文に縄文をもち、口縁部文様帯にのみ縦手文を施すもの。	303
	b種 地文に縄文をもち、口縁部および体部文様帯に縦手文や渦巻文を施すもの。	22
	c種 体部文様帯に縦手文を施すもので、胎土が赤褐色を呈するもの。	102
	d種 隆線のみにより縦手文状のモチーフを描き、その他の文様を施さないもの。	171～180
	e種 隆線により縦手文およびY字懸垂文を施すもの。	319
	f種 縄文を地文とし、沈線により横手状のモチーフを施すもの。	104
第3類	第1類同様に半截竹管による半隆起線や平行沈線を多用し、陰刻手法による蓮華文など北陸地方の土器の特徴を有するもの。	276
	地文に結節を有す縄文をもち、胴部には隆線によりY字状の懸垂文を施すもの。胎土はにぶい黄褐色を呈するものがほとんどであるが、赤褐色を呈し、胎土に金雲母を含む土器もある。在地で模倣されたものも含めた五箇ヶ台系の土器群を指す。	
第4類	a種 表面全体に縦方向の有節縄文を施し、頭部に横位の隆線と体部に垂下するY字懸垂文を施すもの。胎土は黄褐色を呈するものが多い。	254
	b種 口縁部文様帶には沈線や刺突文を施し、体部には縄文地にY字懸垂文を施すもの。胎土は黄褐色を呈するものが多い。	100
	c種 口縁部文様帶には、重三角区画文により区画され、その内部を充填するように渦巻三叉文が施される。体部は隆線あるいは沈線によりY字懸垂文状のモチーフが描出されると考えられるもの。胎土には金雲母を含み、赤褐色を呈する	150
第5類	口縁部文様帶には沈線や刺突が施され、胴部には指顎圧痕がめぐるもの	12, 13, 258, 259
第6類	押引文（角押文）を施すもの	183
第7類	口縁部文様帶に施された横位の梅円区画文内部に、波状沈線や平行沈線を施すもの	181
第8類	四線・陰刻手法により区画された内部に矢羽状文を施し、さらに隆線を多用し交互刺突文や半隆起線上に連続刺突文を施すもの。	
第9類	口縁部に如意状突起をもち、半截竹管による平行沈線を施すもの。	
第10類	沈線により渦巻三叉文、格子目文を施すもの。	
第11類	口縁部に円孔があぐり、器面上には隆線により文様が描かれるもの。いわゆる有孔調付土器	26
第12類	文様が施されず無文で、口唇部に刺目をもつもの	301
第13類	縱方向の縄文のみが施され、口縁部内外面いずれかに字状突起をもつもの	237, 238, 288 ～295
第14類	太い隆線および沈線により文様が描かれ、それに沿うように連続刺突がみられるもの。隆線の結節部には環状あるいは環理状の突起がつく（焼町系）	
第15類	彩文浅鉢形土器。内外面ともに赤彩が施される。特に内面には赤彩により文様が描かれるもの。	

この深沢遺跡第2類に関して、更埴条里遺跡・屋代遺跡群において検出された住居跡の切り合い関係から、さらなる変遷過程が把握されている（寺内他2000）。遺構の切り合い、層位的例証からではないが、榎田遺跡においてもやはり2類a種→2類b種への変遷が想定される。

2類c種は継手文を採用している点で、深沢系土器との関連性が認められる。しかしながら、胎土の様子が他の深沢系土器とは異なるため別途分類した。上述の2類a・b種の土器は、胎土に大粒の白色砂粒を含み、概して黄褐色を呈すのに対し、c種の土器は褐色を呈する。このような胎土の違いは先述の更埴条里・屋代遺跡群においても把握されており、胎土の差異からも明確に地域性が看取でき、異系統土器内の文様構成の共有がみられることが指摘されている（寺内ほか2000）。2類a・b種とc種の時間軸上の関係については、102（c種）と103（b種）が同一住居内の覆土より拳大の円窪とともに投棄されたような状態で出土していることから、2類a種→2類b・c種という時間軸上の流れを想定できる。他地域の土器との併行関係に関しては、中期前葉五領ヶ台Ⅱ式の範囲内に収まると考えられる。

2類d種であるが、171～180の資料は同一個体で、口縁部および体部に隆線により継手文状のモチーフを描出するものである。摩滅が著しく、器面も荒れているため調整などは判然としないが、縄文は施されていない。器形は胴部が強く張り、頸部から口縁にかけてく字に外反するもので全体的に棒型を呈するものと考えられる。当資料はE②SA4覆土上層から出土している。隆線で描出された継手・渦巻き状の文様は、深沢系土器との関連性を連想させるものの、モチーフ自体がだいぶ崩れしており、深沢系土器の範疇に含めてよいものは断定できない。いずれにせよ出土層位から2類a～c種に後出する可能性が高いといえる。

2類e種は、同一個体の中に継手文とY字懸垂文が同居するものである。当種は検出面より1点のみが出土しているため、その内容は判然としない。口縁部には隆線により継手文が施され、それが頸部から体部にかけてY字懸垂文に結続してゆく。体部の大半の文様構成は窓い知ることはできないが、継手文が施されている可能性もある。胎土は灰黄褐色を呈し、深沢系土器としたものと近似する。先に述べたように、当該期の土器においては異系統の土器間で文様モチーフの共有が顕著にみられ、当遺跡でも破片資料だけでは識別が困難な資料が少なくない。胎土が深沢系に類似し、継手文を採用していることを重要視すれば、深沢系の土器が五領ヶ台の文様モチーフを模倣して取り入れた土器であると捉えたい。なお、口縁部および体部文様帶に継手文を採用していることから2類b種として分類した土器の中に、口縁部が外反し、胴部がほぼ筒状を呈する土器（22）がある。胎土

表10 繩年表

時期		地域	関東	中部高地	北陸	新潟
中期	① 前葉	五領ヶ台Ⅰ・Ⅱ 五領ヶ台直後 勝坂Ⅰ・Ⅱ 阿玉台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	梨久保（深沢2類） 勝坂Ⅰ・Ⅱ 阿玉台Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	新保	剣野E	
		勝坂Ⅲ・阿玉台Ⅳ	新崎	清水上前葉①～③		
	中葉	加曾利E I	藤内 井戸尻Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 曾利I 曾利II	上山田	馬高	
		加曾利E II	古府			
	後葉	加曾利E III	曾利III	串田新	沖ノ原	
		加曾利E IV	曾利IV・V			

も他の深沢系の土器とは異なり、橙色を呈する。体部に施された縦手文がY字懸垂文に置き換われば、むしろ五領ヶ台系の土器と捉えられる土器である。これもやはり異系統の要素を取り入れた、深沢系と五領ヶ台系の折衷土器である可能性が指摘できる。

第2類^a種であるが、縱方向のLR縞文を地文とし、雑な沈線により蕨手状のモチーフを施したものである。器形は図面上で復元すると、底部からやや外反しながらほぼ直線的に立ち上がる筒状を呈すものと考えられる。口縁部と体部文様帯を持ち、口縁部文様帯には横向の沈線を、体部文様帯は縱方向を意識した蕨手文が施される。同様の文様構成および器形をもつものは当遺跡においてはみられない。体部に施された蕨手状の沈線は、縦手文の変容形ともとれる。深沢系同様に北信地域の在地の土器であろう。

第3類として分類した土器群であるが、半隆起線を多用する土器で、北陸の土器と考えられるものである。第2類とした深沢系の土器群とは施文方法・文様構成において多くを共有しているため、破片資料では識別が困難なものが多い。そのため、蓮華文や半隆起線で区画された内部に格子目文を持つものなど、特徴的なものを取り上げた。純粹に北陸地方の該期の土器、つまり新保式や新崎式であると考えられる土器は多くない。しかしながら、深沢系との文様施文手法の共有から推測できるように、深沢系土器の成立に北陸の土器が大きな影響を与えたことは疑う余地がなかろう。

次に第4類として分類した土器群を見てゆきたい。これらは広義の五領ヶ台式の範疇で捉えられる土器群である。a~c種まで分類したように、土器の胎土・器形・施文方法などにヴァリエーションが認められ、やはり地域性が看取できる。

第5類の土器は、指頭圧痕文を特徴とする阿王台直前（五領ヶ台直後）期の土器である（寺内2003）。45区2次面SA1の床面より出土した12と13は、共に口縁部から頸部にかけて連続刺突や凹線により装飾し、体部以下には鱗状の指頭圧痕文を施文する。文様構成上は同じ手法を用いているにも関わらず、12の胎土はにぶい黄橙色を呈しよく焼きしまるのに対し、13の胎土は明赤褐色を呈し、比較的脆いという差異が認められるることは興味深い。同じ住居に居住する人々が、時期も出自も同じくしながら制作者が異なる土器を使用していたのであろうか。一方が関東から搬入されたオリジナルの土器で、他方が在地で模倣した土器であると考えることもできる。しかしながら、胎土分析を実施したわけではなく、あくまで肉眼観察によってのみのため推論の域はでない。胎土分析などにより製作地が特定できれば、土器の移動・オリジナルと模倣土器の関係を考える上でも重要な資料といえよう。

第6類の土器は2点のみ出土している。183は勝坂I式期の土器で、口縁部および胴部に横位の隆線が巡る。それに沿うように押し引き文が施される。胎土には金雲母が含まれ、褐色を呈す。195は浅鉢片であり、やはりその内面には角押文が施される。胎土も183と同様に金雲母を多く含み、にぶい褐色を呈す。これら2点はE②SA4覆土上層より出土しており、勝坂I期の所産であると考えられる。

第7類の土器は所謂「後沖式土器」と呼ばれ、寺内氏による一連の研究によりその型式としての内容が明確になりつつある土器である（寺内1986・1987・1996・2001・2002）。出土数は少なく確認できたものは1点のみである。E②SA4の覆土中層より出土している。寺内氏によれば、後沖式古段階は勝坂I式に併行するものとして捉えられている（寺内2003）。しかしながらSA4覆土中層は五領ヶ台II式期の土器が大半を占めていることから、本資料は混入の可能性が高い。

第10類の土器はE②SA5の床面直上より1個体のみ出土している。体部がやや内湾しながら立ち上がり、わずかにくの字に外反する短小な口縁部をもつ器形を呈す。矮小化された口縁部文様帯には連続コ字状を呈す刺突文が施される。体部は縱方向の浅い沈線により渦巻三叉文や格子目文、波状懸垂文などが施される。矮小化された

口縁部文様帯と体部文様帯での縦方向の施文意識は、五領ヶ台II式に特徴的である。やはり五領ヶ台II式併行期の土器であろう。

第11類に分類した土器は、中部高地系の上器であり、井戸尻編年でいう新道式期のものである。榎田遺跡で出土した資料は、口縁端部を欠くものであるが、口縁部直下に巡らされた鶴状の隆帯に沿うように円孔が施されているのが確認できる。文様構成に関しては、隆線により四角形の区画文が施され、その中に逆の字状や逆さ C 字状のモチーフがやはり隆線により描出される。

第12類として分類した土器も1個体のみの出土である。E ② SA3内より検出された SJ4から出土している。底部を欠く体部以上のうち約 1/2 が残存しており、口唇部に棒状工具による刻み目を施す以外は体部にも文様は施されていない。器形は体部が大きく張り、短い口縁部がくの字に屈曲する。SA3の床面において掘り込みが確認されたため、SA3よりは時期的に先行するものと考える。しかしながら、その系統や他系統の土器との併行関係は明確でなく、中期前葉の上器として分類はしたもの、明確な根拠に欠けるものである。今後他遺跡出土の資料との比較検討が必要であり、それまでその位置づけは保留としたい。

第13類に分類した土器は、E ② SA8の炉内より出土している。土器は掌大に破碎され、上坑状の炉内に敷き詰められていた。炉の壁の一部は熱を受け焼土化していたが、土器自体は明確な被熱など二次焼成は確認できない。波状口縁の波頂部の口縁部内側にの字状の装飾が見られ、口縁部直下から体部にかけて、縦方向の繩文が施される。それ以外の文様は施されない。また、E ② SA5の床面直上より出土している上器も口縁部外面に、隆線および沈線によりの字状の突起を描出している。この口縁部直下が一つの文様帯となり、先の突起および横方向の繩文が施される。頸部以下はもう一つの文様帯となり、結節のある縦方向の繩文のみが施される。SA8の炉内の資料との共通点として、装飾がの字状のモチーフが口縁部内外に施されるのと、体部には縦方向の繩文のみが施されることが挙げられる。

第14類の土器は、所謂「プレ焼町」あるいは「荒巻類型」と呼ばれる土器群であり、同じ中期前葉とした土器群の中でも後半にあたる。破片資料のみのため器形全体を窺い知ることはできないが、残存する口縁部から考えれば、波状口縁を呈す深鉢であるといえる。

第15類には浅鉢形土器の中でも内外面に赤色顔料を塗布し、特に内面には文様を描き出すものをまとめた。本遺跡においては、いずれも土壤墓と考えられる遺構から出土しており、他の土器群とはその土器自体が持つ意味合いにおいて大きな違いが容易に推測できる。中でも SJ1から出土した298の上器は、内面の彩文の遺存状況が他の上器に比べ良好で、彩文の全景も推測することができた。この彩文は、大の字や蕨手、花弁状のモチーフが描かれていると考えられる。299の上器には十文字あるいは環状のモチーフが描かれていたと考えられるが、遺存状態が悪く全体像は復元できない。器形は底部から外反しながら立ち上がり、その後口縁部に向かい強く内屈するものと、底部から口縁部に向かい外反しながらまっすぐ立ち上がるものの二種類がみられる。

冒頭述べたように、分類の基準は器面に施された文様および施文方法によるが、これは土器のほとんどが破片資料で器形のわかるまで復元し得た土器は少ないことに起因する。また破片資料の多くは器面の摩耗が著しく、いずれかの類型に含めるべきか判断が困難であった。そのため、榎田遺跡における上器の変遷過程ならびに各類型の土器組成における比率なども明確にすることはかなわなかったが、各土器群の類型の数、ならびにその出土量を鑑みれば中期前葉に遺跡の隆盛期があったことは推測に難くない。

出土土器の分類および各類型の出自に関しては、長野市立博物館山口明氏、長野県埋蔵文化財センター寺内隆夫氏、黒岩隆氏の三者にご教示・ご指導を頂いた。しかしながら、筆者の力量不足からご助言・ご指導を十分に咀嚼できず、土器の検討には曖昧な点・不明確な点を多々残すことになった。事実認識の甘さは全て筆者に帰す

るところであり、貴重なご指導を頂いた方々には深くお礼申し上げるとともにお詫びする次第である。

註

- 表7にも示した通り、中期を前葉・中葉・後葉の三時期に区分して検討してゆく。しかしながら、この三時期区分の使い方およびそれそれに含まれるであろう土器型式の内容については、地域・研究者により若干の違いが認められるものである。また、各地域の土器の併行関係も、表で示したように素直に線引きできるものではない。そのため、表の作成には繩文文化研究会により作成された各地域の編年表（繩文文化研究会2000）を参考にし、地域間の土器の併行関係については主に長野県・新潟県での研究成果を基に加筆・修正した。事実誤認があればすべて著者の責である。
- 稲田遺跡で出土した繩文時代中期の土器の大部分が中期前葉に比定可能なものである。実際には前葉の範囲でも数段階の細分が可能であろうが、今回は五領ヶ台式期を中期前葉①、五領ヶ台直後（阿玉台直前）型式から勝坂Ⅰ・Ⅱ式までを中期前葉②として話を進めてゆきたい。

引用・参考文献

- 今村啓嗣 1985 「五領ヶ台式土器の編年—その細分および東北地方との関係を中心にして」『東京大学文学部考古学研究室紀要』4
高橋 保 1989 「島内における繩文中期前半の間東・信州系土器について」『新潟県考古学談話会会報』4
寺内隆夫 1986 「繩文時代中期中葉時の分類と検討－異系統時との関係を中心として－」『梨久保遺跡』
寺内隆夫 1987 「五領ヶ台式土器から勝坂式土器へ－型式変遷における一視点－」『長野県埋蔵文化財センター紀要』1
寺内隆夫 1991 「長野県上水内部三水村・上赤塙遺跡出土の繩文中期土器について」『長野県考古学会誌』61・62
寺内隆夫 1996 「斜行沈線文を多用する土器群の研究」『長野県の考古学』長野県埋蔵文化財センター
寺内隆夫 1997 「御代田町滝沢遺跡出土の繩文中期前葉（滝沢Ⅱ期）の土器について『滝沢遺跡』御代田町教育委員会
寺内隆夫 2002 「後沖式土器への系譜－千曲川流域における中期前葉（初頭）、斜行沈線文系土器について－」『長野県の考古学Ⅱ』
長野県埋蔵文化財センター
寺内隆夫 2003 「山屋敷Ⅰ遺跡出土時に見る中部高地地域・関東地方との交流関係」『上越市史』資料編2 考古
寺内隆夫ほか 2000 「更埴桑里遺跡・星代遺跡群（含む大堀遺跡・窟河原遺跡）」長野県埋蔵文化財センター
西沢隆治 1982 「滝沢遺跡」『長野県史』考古資料編 全1巻（2）

報告書抄録

ふりがな	あさかわせんじょうちいせきぐんまゆみだいせき（2）							
書名	浅川扇状地遺跡群櫻田遺跡（2）							
副書名	長野市櫻田土地区画整理事業・（仮称）西友櫻田店舗建設工事・アクロスプラザ長野北建設工事とともに長野市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第105集							
編著者名	清水竜太 山下大輔							
編集機関	長野市埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL026-284-0004 FAX026-284-0106							
発行年月日	2005年3月22日							
印刷所	信毎書籍印刷株式会社（長野市西和田470 TEL 026-243-2105）							
所収遺跡	所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經			
櫻田遺跡	長野県長野市 大字 櫻田字越後田・有 無・櫻町・鍛冶田	20201	A-035	36°	138°	19980302 ～ 20020808	39500m ²	区画整理
				40'	12'	20030204 ～ 20020905		
				26"	49"	20020421 ～ 20020704	4800m ²	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
櫻田遺跡	集落跡	縄文時代中期	竪穴住居18軒、土坑6基、小穴2基、墓葬4基、溝1条、埋壙4基、環状列石1基	土器 縄文土器 石製品 石蹴、石匙、石斧、刃器 石核、石皿、石棒 土製品 土偶、土製円板 装身具 琥珀玉	市内初の環状列石の検出			
		弥生時代中期	竪穴住居41軒、土坑8基、墓10基、溝2条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構	土器 弥生土器 石製品 石蹴、石斧、刃器、砥石 土製品 ミニチュア土器、土製円板 装身具 管玉				
		弥生時代後期	竪穴住居70軒、土坑1基、環状溝1条、墓14基、溝6条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所	土器 弥生土器 石製品 石蹴、石斧、石槌、鍛錬車 土製品 ミニチュア土器、土製円板、匙 装身具 管玉、勾玉、小玉、鉄剣、鋼劍	48① SDZ1から鉄鏡・銅鏡が同時装着された状態で出土			
		古墳時代前期～中期	竪穴住居20軒、掘立柱建物1棟、土坑1基、墓3基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構3ヶ所	土器 土師器 土製品 ミニチュア土器、土製円板 装身具 管玉、勾玉、石鏡				
		古墳時代後期	竪穴住居90軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、溝15条、包含層落ち込み1ヶ所、性格不明遺構1ヶ所	土器 土師器、須恵器 土製品 ミニチュア土器、匙 石製品 純鍊車、砾石、四石 装身具 管玉、勾玉				
		平安時代～中世	掘立柱建物10棟、土坑1基、土坑墓1基、溝4条、井戸1基、包含層落ち込み1ヶ所	土器 土師器、須恵器				

長野市の埋蔵文化財第105集

浅川層状地遺跡群
檀田遺跡（2）

長野市檀田上地区画整理事業
(仮称) 西友檀田店店舗建設工事
アクロスプラザ長野北建設工事
にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊（本文編）

平成16年3月18日 印刷
平成16年3月22日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 文化財課埋蔵文化財センター
印刷 信毎書籍印刷株式会社